



ユーザーガイド

Version 3.0.1

TotalFlow Optimizerの概要	1
設定	2
オブジェクトを管理する	3
ジョブを管理する	4
セキュリティ	5
データをバックアップ/リストアする	6
トラブルシューティング	7
参照情報	8

本書に記載されていない情報については、製品のヘルプ・システムを参照してください。



はじめに

おことわり

- 本製品の作動不良による損害、文書やデータの消失による損害、その他本製品および使用説明書の使用または使用不能により生じた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。
- 大切な文書やデータは、コピー（複製）をとってください。お客様が操作をミスした場合は、あるいは本製品に異常が生じた場合は、文書やデータが消失することがあります。また、コンピューターウイルス、ワーム、その他の有害なソフトウェア等に対する予防措置は、お客様の責任で講じてください。
- お客様が本製品を使用して作成した文書やデータを運用した結果について、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

本書についてのご注意

- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- ソフトウェアの改良変更等により、本書のイラストや記載事項が一部異なる場合がありますのでご了承ください。
- 画面の表示内容やイラストは製品バージョンや選択したオプションによって異なります。
- 本書は、例とイラストで使用方法を説明しています。
- 本書の一部または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。

使用説明書とヘルプの紹介

TotalFlow Optimizerには以下のガイドが用意されています。

使用説明書

以下の種類の使用説明書があります。

- 「セットアップガイド」（PDF）
本製品のセットアップ方法、起動方法を説明しています。
- 「ユーザーガイド」（HTML/PDF）
本製品の機能概要、基本的な操作方法を説明しています。
HTML形式の「ユーザーガイド」はWebブラウザ操作画面からアクセスでき、クイックナビゲーションと検索機能を提供します。

PDF形式の使用説明書をご覧になるには、Adobe Acrobat Reader/Adobe Readerが必要です。

フィールドヘルプ

多くの操作画面にあるヘルプには、特定のタスク設定に関する情報があります。本書では、このヘルプを「フィールドヘルプ」と読んでいます。また、操作画面の[ヘルプ]メニューからHTML形式の「ユーザーガイド」に直接アクセスできます。

使用説明書とヘルプの読みかた

正しくお使いいただくために

使用説明書には、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載しています。ご使用前に、使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、使用説明書は、すぐに利用できるように保管してください。

使用説明書とヘルプの利用方法

本製品のインストールと起動方法を知りたいとき

「セットアップガイド」をご覧ください。

本製品の機能と基本操作について知りたいとき

「ユーザーガイド」をご覧ください。

画面上の設定方法、正しい入力などについて知りたいとき

『フィールドヘルプ』をご覧ください。

PDF形式のRICOH TotalFlow Optimizerセットアップガイドとユーザーガイドを表示する

使用説明書はインストールパッケージに含まれており、アプリケーションをインストールする前でも利用できます。

アプリケーションをインストールした後は、WindowsのスタートメニューからTotalFlow Optimizerのドキュメントにアクセスできます。

↓ 補足

PDF形式の使用説明書をご覧になるには、Adobe ReaderなどのPDFビューアが必要です。

- 「セットアップガイド」(PDF)を表示するには、[スタート] → [すべてのアプリ] → [<プログラムグループ>] に移動し、[セットアップガイド] を選択します。
- 「ユーザーガイド」(PDF)を表示するには、[スタート] → [すべてのアプリ] → [<プログラムグループ>] に移動し、[ユーザーガイド] を選択します。

↓ 補足

TotalFlow Optimizerアプリケーションのデフォルトプログラムグループは[RICOH TotalFlow Optimizer]です。インストール処理中に別のプログラムグループを設定できません。

HTML形式のユーザーガイドの表示方法

HTML形式の「ユーザーガイド」はWebブラウザーベースのユーザーインターフェースからアクセスできます。

HTML形式の「ユーザーガイド」を表示するには、以下のいずれかを行います。

- TotalFlow Optimizerメニューバーの上にあるヘルプメニューボタン (?) をクリックし、[ヘルプ] を選択します。
- TotalFlow Optimizerにログインしていない場合は、ブラウザーのアドレスバーに次のURLを入力してください。

`http://server.address:port.number/Optimizer`

`server.address`は、TotalFlow Optimizerがインストールされているコンピューターのホスト名またはIPアドレスで、`port.number`は、Webサービスポートです。Webサービスポートはインストール中に設定され、デフォルト値は 19080 です。

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

★ 重要

機能をご利用になるときに留意していただきたい項目を記載しています。必ずお読みください。

↓ 補足

補足情報を記載していますが、タスクを実行するにあたって本質的な情報ではありません。

[]

[角括弧] は、キー、メニュー、メニュー項目、フィールドラベル、設定、ボタンの名称を示します。

イタリック

イタリック体は、ユーザー独自の情報に置き換える必要がある変数を示します。

モノスペース

モノスペース体は、コンピューターの出入力を示します。

...

省略記号は続きがあることを示します。

略語

GUI

グラフィカルユーザーインターフェース

PDF

ポータブルドキュメントフォーマット

IP

インターネットプロトコル

HTTP

ハイパーテキスト転送プロトコル

XML

拡張マークアップ言語

XSLT

XSL変換

商標

RICOH TotalFlow OptimizerおよびRICOH ProcessDirectorは、Ricoh Company, Ltd.の米国および他の国における商標です。

Adobe、Adobeロゴ、Acrobat、Adobe PDFロゴ、Distiller、Reader、PostScriptは、Adobe Systems, Inc（アドビシステムズ社）の米国および他の国における登録商標または商標です。その他すべての商標は、該当する所有者の財産です。本製品では、次のように著作権を表示しています。©Copyright 1984–2025 Adobe Systems Incorporated and its licensors. All rights reserved.

Enfocus PitStop ServerはEnfocus BVBAの商標です。EnfocusはEskoの子会社です。

Firefoxは、Mozilla Foundationの登録商標です。

Google Chromeは、Google, Inc.の商標ですInc.

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows 10、Windows 11、Microsoft Edgeは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windowsオペレーティングシステムの正式名称は、以下のとおりです。

- Windows 10
 - Microsoft Windows 10 Pro
 - Microsoft Windows 10 Enterprise
- Windows 11 :
 - Microsoft Windows 11 Pro
 - Microsoft Windows 11 Enterprise
- Windows Server 2016（デスクトップエクスペリエンス搭載サーバー）
 - Microsoft Windows Server 2016 Standard
- Windows Server 2019（デスクトップエクスペリエンス搭載サーバー）
 - Microsoft Windows Server 2019 Standard
 - Microsoft Windows Server 2019 Essentials
- Windows Server 2022（デスクトップエクスペリエンス搭載サーバー）

Microsoft Windows Server 2022 Standard

- Windows Server 2025（デスクトップエクスペリエンス搭載サーバー）

Microsoft Windows Server 2025 Standard

OpenJDKは、Oracle America, Inc.の商標です。Java and OpenJDK、Oracle Corporationおよび/またはその関連会社の商標または登録商標です。Copyright Oracle America, Inc.

OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

Sentinel®は、Thales DIS CPL USA, Inc.の登録商標です。

この製品には、ULTIMATEが所有し、著作権を持つ技術が含まれます。関連する商標、特許および著作権は、ULTIMATEの財産です。Copyright © Ultimate TechnoGraphics Inc. 1992–2025. All rights reserved.

その他の会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。当社では、このような商標に関する一切の権利を否認します。

目次

はじめに

おことわり	1
本書についてのご注意	1
使用説明書とヘルプの紹介	1
使用説明書とヘルプの読みかた	2
正しくお使いいただくために	2
使用説明書とヘルプの利用方法	2
マークについて	3
略語	3
商標	4

1 TotalFlow Optimizerの概要

TotalFlow Optimizerコンポーネント	11
システムオブジェクト	13
操作画面	15
ツールバーおよびメニューバー	15
[ジョブ] セクション	16
[バッチ] セクション	32
[注文] セクション	35
[フィルター] セクション	40
[アラート] セクション	43
[ログ] セクション	46
[管理] セクション	47
[診断] タブ	81
ダッシュボードフッター	82
ダッシュボードウィンドウ	83
[出力/印刷待ち] チャート	88

2 設定

ライセンス管理	95
TotalFlow Optimizerライセンス	95
ライセンスをインストールする	96
ライセンスを取り消す	100
ライセンスを削除する	101
クライアントコンピューターを設定する	102
Microsoft Edgeを設定する	102
Mozilla Firefoxを設定する	103

Google Chromeを設定する	103
TotalFlow Optimizerと接続するUltimate Impostrip®®を設定する	104
ネットワークドライバでUltimate Impostrip®®を使用する	104
コロケーションにUltimate Impostrip®®を使用する	105
TotalFlow Optimizer API	105
APIキーを作成して管理する	106
TotalFlow Optimizer APIを使用する	107

3 オブジェクトを管理する

新しい簡易フィルターを作成する	111
[ジョブ属性] タブ	113
[自動化] タブ	115
[スケジュール] タブ	117
[ジョブシーケンス] タブ	118
[面付け] タブ	119
[ボリューム見積もり] タブ	120
新しい複合フィルターを作成する	122
新しい試し印刷フィルターを作成する	129
簡易フィルターを編集する	135
複合フィルターを編集する	140
複合フィルターを使用する	147
フィルターを削除する	148
新しいバッチを作成する	149
バッチを編集する	157
バッチを再送信する	165
注文を送信する	166
注文納期日を変更する	168
注文を複製して新規作成する	169
バーコードをスキャンする	169
再印刷する	171
注文詳細ダイアログ	171
新しいアラートトリガーを作成する	175
デフォルトアラートトリガー	177
ジョブアラートトリガー	183
注文アラートトリガー	185
バッチアラートトリガー	186
入力ホットフォルダーを作成する	187

入力ホットフォルダーのホットフォルダープロパティーとデフォルトジョブプロパティーを編集する	197
入力ホットフォルダーを削除する	203
デフォルトホットフォルダーのプロパティーファイル	203
出力を作成する	204
出力フォルダープロパティーを編集する	217
出力フォルダーを削除する方法	229
RICOH ProcessDirectorのリストファイルを作成する	229

4 ジョブを管理する

ジョブのリストを表示する	231
ジョブプレビュー	232
ファイルビューア	232
ジョブ詳細を表示/編集する	234
[全般] タブ	236
[ジョブ] タブ	239
[用紙] タブ	242
[プリフライト] タブ	243
[面付け] タブ	246
[仕上げ] タブ	247
[カスタム] タブ	248
Ultimate Impostrip®を使用してジョブを面付けする	249
手動でジョブの面付け	251
ジョブを注文に追加する	253
保持されたジョブを再印刷する	253
有効なジョブのバッチを解除する	257
ジョブファイルをアップロードする	258
ジョブを検索する	258
ジョブを削除する	260
ジョブ列を管理する	261
バッチチケットを印刷する	263
印刷ファイルがあるバッチチケットを送信する	263
ジョブをクイック印刷する	264
1つ以上のジョブの試し印刷を作成する	266
印刷ファイルを表示する	268
面付けファイルを表示する	269
面付け済みファイルの保持を設定する	270

ジョブを保留またはリリースする	270
ジョブをリリースする	271
5 セキュリティー	
新しいユーザーを作成する	273
ユーザープロパティを編集する	274
ユーザーを削除する	275
ユーザー役割	275
パスワードを変更する	277
HTTPSプロトコルを使用するためにTotalFlow Optimizerを設定する	277
6 データをバックアップ/リストアする	
データをバックアップする	281
データをリストアする	282
7 トラブルシューティング	
8 参照情報	
アイコンとボタン	289
Optimizerスキーマ	290
XSLマッピングファイルを使用する	291
TotalFlow Optimizerホットフォルダースキーマ	292
索引	

1. TotalFlow Optimizerの概要

- TotalFlow Optimizerコンポーネント
- システムオブジェクト
- 操作画面

この使用説明書には、管理者やオペレーターがTotalFlow Optimizerを使用するときに役立つトピックが記載されています。

TotalFlow Optimizer は、印刷前の最適化を提供するWebアプリケーションです。オペレーターはジョブ/パーツを印刷可能なジョブバッチにグループ化して印刷効率を高めることができます。TotalFlow Optimizerは、ミドルからハイエンドな商業印刷の効率的なジョブ管理です。異なる特性とさまざまな形式で注文がTotalFlow Optimizerシステムに到達します。TotalFlow Optimizerは、注文特性をジョブ属性に変換できます。

TotalFlow Optimizerでは、入力ホットフォルダー経由で受信したジョブを管理し、ジョブを編集し、特性に基づいてジョブをフィルター処理をしてバッチでグループ化し、印刷用の出力先に送信することができます。

TotalFlow Optimizerがサーバーにインストールされた後は、コンピューターの対応Webブラウザからアクセスできます。操作画面へのアクセスに使用するワークステーションには、TotalFlow Optimizerをインストールする必要はありません。

オンラインのヘルプシステムを表示するには、をクリックし、メニューから [ヘルプ] を選択します。

TotalFlow Optimizerコンポーネント

TotalFlow Optimizer基本製品と機能コンポーネントについて説明します。

TotalFlow Optimizer製品は、以下のコンポーネントで構成されています。

TotalFlow Optimizerサーバー

TotalFlow Optimizerサーバーは全てのジョブ、注文、バッチアクティビティを管理します。TotalFlow Optimizerシステムサーバーは対応するWindowsオペレーティングシステムのコンピューターにインストールされます。

TotalFlow Optimizer操作画面

TotalFlow Optimizer操作画面は、システムと全てのジョブオプションを管理できるWebブラウザベースのインターフェースです。ユーザーは、対応ブラウザがインストールされているシステムから操作画面にアクセスできます。対応するブラウザは、以下のとおりです。

- Mozilla Firefox (<http://www.mozilla.org/ja/firefox/all.html>)
- Google Chrome (<https://www.google.com/intl/ja/chrome/browser/>)
- Microsoft Edge (<https://www.microsoft.com/ja-jp/windows/microsoft-edge>)

HTML形式のTotalFlow Optimizerユーザーガイド

HTML形式の「ユーザーガイド」はWebブラウザベースのユーザーインターフェースからアクセスできます。「ユーザーガイド」には、TotalFlow Optimizerの使用に関するヘルプトピックが記載されています。

HTML版の「ユーザーガイド」を表示するには、をクリックし、メニューから [ヘルプ] を選択します。

TotalFlow Optimizer製品には複数のオプション機能もあります。

TotalFlow Optimizer自動化機能

TotalFlow Optimizer自動化機能では、フィルターに自動化を使用できます。フィルタープロパティダイアログの「自動化」タブから、使用可能な自動化オプションのいずれかを設定できます。

- 「自動バッチ」：設定した対象に達すると、フィルターで自動的にバッチが作成されます。
- 「自動バッチと送信」：設定した対象に達すると、フィルターで自動的にバッチが作成され、出力先に送信されます。

自動化が有効になるタイミングや、バッチの最大数を制御するスケジュールを構成することもできます。

自動化機能のライセンスが期限切れになると、以前に構成された自動化設定が適用されなくなり、バッチが自動的に作成されなくなります。

TotalFlow Optimizer無制限出力機能

TotalFlow Optimizer基本製品では最大5つまでの出力を指定できます。TotalFlow Optimizer無制限出力機能では、無制限に出力を作成できます。

無制限出力機能は、製品の体験版では使用できません。

TotalFlow Optimizer XML出力機能

TotalFlow OptimizerXML出力機能には、出力種類が追加されています。

[PDF/PostScriptおよびXML]

この出力種類では、TotalFlow Optimizerがバッチの各ジョブの出力ホットフォルダーにPDF/PostscriptファイルとXMLファイルを配置します。カスタムXSLマッピングファイルが設定されていない場合、XML出力ファイルにはTotalFlow Optimizerスキーマのジョブ設定が含まれます。カスタムXSLマッピングファイルが設定されている場合、XML出力ファイルには、提供されたカスタムXSLマッピングを適用した結果のカスタムスキーマのジョブ設定が含まれます。

[PDF/PostScriptおよびCSV]

この出力種類では、TotalFlow Optimizerがバッチの各ジョブの出力ホットフォルダーにPDF/Postscriptファイルと生成されたCSVファイルを配置します。サンプルXMLファイルは、デフォルトのXSLマッピングファイルまたは指定したカスタムマッピングファイルを使用してCSVファイルに変換される、TotalFlow Optimizer内部で生成されたXMLファイルです。

[TotalFlow MIME]

この出力種類では、TotalFlow Optimizerはバッチのそれぞれのジョブを出力ホットフォルダーにMultipurpose Internet Mail Extensions (MIME) 形式で配置します。MIMEパッケージには、ジョブメッセージングフォーマット (JMF) ファイル、JDFファイル、ジョブファイルが含まれています。TotalFlow Optimizerは、デフォルトのXSLマッピングファイルまたは指定したカスタムマッピングファイルを使用してジョブ設定をJDFファイルに変換します。

[PDF/PostScriptおよびRPDリストファイル]

この出力種類では、TotalFlow Optimizerはバッチに含まれているジョブのPDF/PostScriptファイルの他に、RICOH ProcessDirectorリストファイルを作成しま

す。Ricoh ProcessDirectorリストファイルはバッチからファイル名の注文されたリストを含むテキストファイルです。

[HTTP経由JMF]

この出力種類では、TotalFlow OptimizerはMIMEパッケージを仮想プリンターに送信します。MIMEパッケージが出力フォルダーの各ジョブにHTTPプロトコル経由で送信されます。MIMEパッケージには、JMFメッセージ、JDFファイル、PDFジョブファイルが含まれています。TotalFlow Optimizerは、デフォルトのXSLマッピングファイルまたは指定したカスタムマッピングファイルを使用してジョブ設定をJDFファイルに変換します。

[TotalFlow HTTP経由JMF]

この出力種類では、TotalFlow OptimizerはMIMEパッケージを仮想プリンターに送信します。MIMEパッケージが出力フォルダーの各ジョブにHTTPプロトコル経由で送信されます。MIMEパッケージには、JMFメッセージ、JDFファイル、PDFジョブファイルが含まれています。TotalFlow Optimizerは、Ricoh JTAPIライブラリーを介してジョブ設定をJDFファイルに変換します。

TotalFlow Optimizerプリフライト機能

TotalFlow Optimizerプリフライト機能では、TotalFlow Optimizerワークフローにプリフライト情報を統合できます。プリフライト機能を使用すると、受信ジョブにプリフライトプロファイルを簡単に適用できます。



補足

無制限出力機能を除く、これらのオプション機能はすべて、製品の体験版で提供されています。体験版期間終了後にオプション機能を使用するには、各機能の有効なライセンスが必要です。

体験版ライセンスの有効期限は、インストールから60日間です。

システムオブジェクト

TotalFlow Optimizerシステムは、バッチ、注文、フィルター、ユーザー、アラート、ジョブなどの複数のシステムオブジェクトから構成されています。各システムオブジェクトには、属性（プロパティ）の詳細を定義できます。

[注文]

注文は、TotalFlow Optimizerシステムにジョブを投入するために使用します。注文は入力ホットフォルダー経由で受信でき、複数のジョブを含めることができます。また、注文はTotalFlow Optimizer操作画面の「注文を送信」から送信することもできます。

システム内の全ての注文の表示、注文プロパティの編集、注文に含まれるジョブのプロパティの編集、注文へのジョブの追加などができます。

[ジョブ]

ジョブには、TotalFlow Optimizerで受信および処理するコンテンツファイルが含まれています。ジョブは入力ホットフォルダー経由または注文送信によってTotalFlow Optimizerシステムに導入されます。ジョブはフィルター処理され、バッチにグループ化された後、出力先に送信されます。ジョブのプロパティの表示または編集、ジョブ状態の変更、システムからジョブの削除などができます。

[バッチ]

1

バッチは、類似するプロパティーを持つジョブファイルをグループ化するために使用されるシステムオブジェクトです。バッチは手動で作成するか、定義済みフィルターに基づいて自動的に作成されます。バッチを自動的に作成するには、TotalFlow Optimizer自動化機能の有効なライセンスが必要です。

バッチが作成されると、処理する出力デバイスに自動的に割り当てられます。バッチには、受信した注文に含まれているジョブファイルが含まれています。バッチプロパティーの編集、バッチに含まれているジョブの並べ替え、削除、追加などができます。

[フィルター]

フィルターは、特定のジョブ属性に基づいてシステム内の全てのバッチされていないジョブを選択します。TotalFlow Optimizerシステムには5つの定義済みフィルターがあります。また、カスタムフィルターを作成して、特定のジョブプロパティーの条件を設定してバッチするジョブを選択することもできます。フィルターからバッチを手動で作成することも、TotalFlow Optimizer自動化機能の有効なライセンスがある場合は、バッチを自動的に作成するようにルールを設定することもできます。

フィルターには、簡易、複合、試し印刷の3種類があります。

[ユーザー]

全てのTotalFlow Optimizerユーザーには、固有のユーザー名とパスワードが必要です。デフォルトユーザーのアカウント種類は、管理者です。管理者は、ユーザーの作成、編集、削除ができます。自分のアカウントは削除できません。

[アラート]

TotalFlow Optimizerシステムでは、重要なイベントが発生したときにアラートが表示されるように設定できます。アラートトリガーを作成して使用すると、特定種類のアラートが発行されたときの条件を設定できます。TotalFlow Optimizerシステムにはデフォルトアラートトリガーのセットがあります。

[入力]

TotalFlow Optimizerシステムは入力ソースとしてホットフォルダーを使用します。システムは入力ホットフォルダー経由でジョブを受信します。入力ホットフォルダーには、ファイル形式によって [PDF/PostScript]、[XML/制御ファイル]、[HTTP経由JMF]、[TotalFlow HTTP経由JMF]、[CSV] などがあります。

[出力]

出力は、指定したフォルダー先にバッチを送信するために使用します。出力ホットフォルダーには、ファイル形式によって [PDF/PostScript]、[PDF/PostScriptおよびXML]、[PDF/PostScriptおよびCSV]、[TotalFlow MIME]、[PDF/PostScriptおよびRPDリストファイル]、[HTTP経由JMF]、[TotalFlow HTTP経由JMF] などがあります。バッチを作成して送信するには、少なくとも1つの出力フォルダーを定義する必要があります。



[PDF/PostScriptおよびXML]、[PDF/PostScriptおよびCSV]、[TotalFlow MIME]、[PDF/PostScriptおよびRPDリストファイル]、[HTTP経由JMF]、[TotalFlow HTTP経由JMF] の各オプションは、TotalFlow Optimizer XML出力機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。

操作画面

TotalFlow Optimizerは直感的で使いやすいWebブラウザーによる操作画面を提供します。認証ユーザーは、インターネットが接続され、対応ブラウザーがインストールされているシステムから操作画面にアクセスできます。

対応するブラウザーは、以下のとおりです。

- Mozilla Firefox (<http://www.mozilla.org/ja/firefox/all.html>)
- Google Chrome (<https://www.google.com/intl/ja/chrome/browser/>)
- Microsoft Edge (<https://www.microsoft.com/ja-jp/windows/microsoft-edge>)

TotalFlow Optimizerがインストールされているサーバーから操作画面を開くには、[スタート] → [すべてのアプリ] → [<プログラムグループ>] に移動し、[RICOH TotalFlow Optimizer] を選択します。

↓ 補足

TotalFlow OptimizerアプリケーションのデフォルトプログラムグループはRICOH TotalFlow Optimizerです。インストール処理中に別のプログラムグループを設定できます。

クライアントコンピュータから操作画面を開くには、ブラウザーのアドレスバーに次のURLを入力します。`server.address`はTotalFlow Optimizerがインストールされているコンピュータのホスト名またはIPアドレスです。

`http://server.address:port/Optimizer`

デフォルトポートは19080で、インストール中に変更できます。

ツールバーおよびメニューバー

メニューバーは、TotalFlow Optimizer操作画面の上部にあり、全てのページから使用できます。



上部のツールバータブから、以下のタスクを実行できます。

- [ユーザーメニュー] タブ (👤) をクリックし、以下のアクションを実行します。
 - [ログアウト...]
 - [パスワードを変更...]
 - [ジョブ列を管理...]
 - [ダッシュボードフッターを非表示]
- [ヘルプ] メニューボタン (❓) をクリックし、以下のアクションを実行します。
 - [ヘルプ] をクリックし、ユーザーガイド (TotalFlow Optimizer) をHTML形式で表示します。
 - [バージョン情報] をクリックし、TotalFlow Optimizerのバージョン情報のページを表示します。

メニューバーから、以下のタスクを実行できます。

- セクションを切り替えるには、以下の操作を行います。
 - システム内の全てのジョブを表示するには、[ジョブ] をクリックします。
 - システム内の全ての注文を表示するには、[注文] をクリックします。
 - システム内の全てのバッチを表示するには、[バッチ] をクリックします。
 - システム内の全てのフィルターを表示するには、[フィルター] をクリックします。
 - システム内の現在のアラートとアラートトリガーを表示するには、[アラート] をクリックします。
 - システムオブジェクトとそのアクションをログエントリーに表示するには、[ログ] をクリックします。
 - 管理者セクションを表示するには、[管理] をクリックします。
- システムの特定のジョブを検索します。「ジョブ検索」テキストフィールドをクリックし、検索するジョブの詳細を入力します。
- 注文をシステムに送信します。[アクション] をクリックし、[注文を送信] を選択し、[注文を送信] ページを開きます。
- USBバーコードスキャナーを使用してバーコードをスキャンします。[バーコードをスキャン] を開くには、[アクション] メニューをクリックし、[バーコードをスキャン] を選択します。
- システムからジョブを再印刷します。[アクション] をクリックし、[再印刷] を選択します。

[ジョブ] セクション

[ジョブ] セクションには、選択したフィルターまたはジョブビューに応じてジョブのリストが表示されます。

ジョブは、以下の列で並び替えることができます。

[注文番号]

注文番号は、注文を識別するために使用します。注文を手動で送信するときは、注文番号を指定してください。

↓ 補足

入力ホットフォルダーでPDFファイルを送信する場合は、[注文番号] フィールドの値は特定の番号ではなく、ファイル名になります。

[パーツ番号]

注文に含まれているジョブを識別するコードです。

[お客様]

ジョブを送信したお客様名です。

[ジョブ名]

ジョブ名は、ジョブを識別するために使用します。デフォルトは入力ファイル名です。別の名前を割り当てることができます。最大256文字まで文字列を入力できます。

[状態]

ジョブの現在の処理状態です。システム定義のジョブ状態は、以下のとおりです。

- [バッチ済み] : ジョブはバッチの構成要素です。バッチ済みとはフィルタリングされた同一属性のジョブが、ある一時点で一括りにされた状態をいいます。
- [バッチ待ち] : ジョブはバッチの構成要素ではなく、一括りにする操作が可能な状態になったことを意味します。
- [保留] : ジョブは一時停止され、ユーザーからのアクションを待っています。リリースされるまで、フィルタやバッチは使用できません。
- [面付けが不明] 面付けフィルターが定義され、受信ジョブがどの面付けフィルターにも一致しない場合、ジョブは [面付けが不明] 状態に設定されます。

↓ 補足

ジョブは出力に送られる前に面付けされず、元のジョブファイルは出力場所に生成されたファイルを生成するために使用されます。

- [ファイル待ち] : ジョブのファイル情報が見つかりません。
- [送信済み] : ジョブは出力デバイスに送信されました。
- [印刷済み] : ジョブがデバイスで印刷されました。
- [面付け中] : ジョブは面付け処理中です。
- [面付け済み] : ジョブの面付けに成功しました。
- [面付けエラー] : ジョブの面付け中にエラーが起こったか、指定した時間内に面付けが完了しなかったため、ジョブはエラーとなりました。
- [関連ジョブ待ち] : 別のジョブが同じ注文で受信され、かつそのジョブが [ファイル待ち] 状態にある場合、かつそのジョブを含む注文に対して [注文が揃ったら処理] 設定が有効になっている場合、そのジョブは [関連ジョブ待ち] 状態になります。
- [出力エラー] : ジョブが [バッチ済み] 状態でバッチが無効な出力先に送信されたときや出力先に到達できないときは、ジョブ状態が [出力エラー] に変更されます。
- [プリフライト中] : ジョブがプリフライト処理中で、フィルターまたはバッチができない状態です。
- [プリフライト待ち] : ジョブはプリフライトのために送信され、処理の順番を待っています。
- [プリフライトエラー] : プリフライト中にエラーが発生したか、ジョブがプリフライトフィルターと一致しません。

↓ 補足

この状態は、プリフライト機能が有効になっている場合にのみ有効です。

- [試し印刷送信済み] : ジョブの試し印刷サンプルが印刷用に送信され、承認または拒否を待っている状態です。
- [試し印刷却下済み] : ジョブの試し印刷が却下されました。

- ・ [ファイル待ち] : ジョブファイルが指定された場所に見つからないか、ジョブファイルが指定されていません。
- ・ [承認待ち] : 面付けレビューが有効な場合、すべての面付けジョブファイルが承認されるまでバッチは送信されません。出力に送信する前に、面付けされたファイルを表示して承認することができます。
- ・ [プリンターでの処理] : ジョブは現在印刷準備中です。
- ・ [プリンターで保留済み] : ジョブはプリンターで保持され、手動リリースまたは条件が満たされるのを待っています。
- ・ [プリンターで一時停止] : ジョブがエラーまたは介入により印刷を一時停止し、手動で再開する必要があります。
- ・ [プリンターでキャンセル] : ジョブはプリンターで中断または削除されたため、印刷は続行されません。
- ・ [印刷中] : ジョブがプリンターで印刷されています。

↓ 補足

利用可能な場合、この値には完了率も含まれます。

↓ 補足

[管理] → [カスタム状態] ページでジョブ状態を作成できます。

[場所]

ジョブが印刷用に送信された後に配置される場所を指定します。

↓ 補足

[管理] → [カスタム場所] ページでカスタム場所を作成できます。

[状況タイムスタンプ]

ジョブ状況の最終更新日時を指定します。

[バッチ番号]

ジョブが割り当てられているバッチの番号です。

[ジョブファイル]

入力ファイルの元のファイル名です。

[ファイルサイズ]

GB、MB、またはKBのジョブのファイルサイズです。

[作成日時]

ジョブの作成日時です。

[納期日]

ジョブが処理される日時です。

[ページ]

ジョブのページ数です。

[面当たりのページ数]

用紙の片面のページ数です。片面当たりのページ数を指定してください。このフィールドは必須です。

[お客様の数量]

お客様によって注文された、納品する数量です。

[部数]

印刷する部数です。このフィールドは必須です。

↓ 補足

InfoPrint 5000プリンターモデルで印刷するジョブが送信されたときは、印刷部数が最大32767部までに制限されます。

[シート数]

システムによって判断されるシート数です。

[再印刷の数量]

試し印刷部数を除く、ジョブに送信された累積印刷部数を示します。

[用紙サイズ]

設定されている測定単位（メートルまたはインペリアル）に応じて、フィートまたはメートルで表示される用紙のサイズです。

[ロール紙の長さ]

設定された測定単位（メートルまたはインペリアル）に応じて、システムによって決定された物理的な用紙の長さがフィートまたはメートルで表示されます。

[実行]

ジョブの印刷に必要な推定時間です。

[ドキュメントページサイズ]

ページの幅と高さです。

[面付け]

プリンターの用紙のページ配列の概要です。[面当たりのページ数] フィールドで指定された値の説明を入力できます。値の例は、以下のとおりです。

- 1ページ
- 2ページ
- 3ページ
- 4ページ
- 8ページ
- Z折りで6ページ

[用紙名]

使用する用紙の用紙名です。

[製品ID]

製品のIDです。

[用紙種類]

使用する用紙の種類は、以下のとおりです。

- [なし]
- [ボンド紙]
- [オフセット用紙]
- [表紙]
- [タグ]
- [インデックス紙]

[用紙坪量]

用紙坪量はメートル法のグラム/平方メートル(g/m²)またはヤードポンド法のポンド (lb) で表記されます。用紙坪量の値は用紙種類と用紙サイズによって異なります。

[用紙カラー]

用紙カラーを入力またはリストから選択できます。

[用紙仕上げ]

用紙仕上げの対応種類は、以下のとおりです。

- [コートなし]
- [コート]
- [グロス仕上げ]
- [インクジェット仕上げ]
- [ハイグロス仕上げ]
- [マット仕上げ]
- [ポリマー仕上げ]
- [サテン仕上げ]
- [セミグロス仕上げ]
- [シルバー仕上げ]

[片面/両面]

- [片面]
- [両面]

[両面印刷モード]

- [左とじ]
- [上とじ]
- [右とじ]
- [下とじ]

[製本]

対応する製本スタイルは、以下のとおりです。

- [製本なし]
- [断裁のみ]
- [断裁/折り]
- [無線とじ/くるみ製本]
- [上製本]
- [コイル]
- [スパイラル]
- [3穴]
- [中とじ]

[背表紙サイズ]

inchまたはmmで指定した背表紙サイズの値です。

[カラー]

異なるカラー印刷方法があります。

- [なし]
- [フルプロセス(4色)]
- [白黒]
- [フルプロセスとスポットカラー]

[商品種類]

商品の種類です。

[ミシン目]

ジョブがミシン目入りかどうかを指定します。

[穿孔]

ジョブが穴あけされるかどうかを指定します。

[コーティング]

ラミネート、紫外線 (UV) 、または他のコーティングをジョブで使用するか、コーティングを使用しないかどうかを指定します。

[コーティング種類]

ジョブに使用するコーティングの種類です。

[コーティング面]

ジョブに使用するコーティング面です。

[丁合い]

ジョブが丁合いされるかどうかを指定します。

[試し印刷]

印刷サンプルが必要かどうかを指定します。

[試し印刷承認]

試し印刷が必要なときに試し印刷サンプルの状態を指定します。

[フィニッシャー]

ジョブのフィニッシャー名です。

[出力デバイス]

ジョブに使用するデジタル印刷機です。

[面付け承認]

面付けの状態を指定します。状態には「面付けが承認されました」、「面付けが却下されました」、「[-] (ダッシュ)」が指定できます。

[排紙トレイ]

出力トレイのサポート値を指定します。

[排紙方法]

おもて面を下またはおもて面を上にして排紙トレイに出力するかを指定します。

[ISBN]

ISBNコードを指定します。

[SKU]

製造元、商品、概要、サイズなどの製品属性を含む番号です。

[場所]

ジョブが送信された後の場所を指定します。

[Ultimate Impostrip® フォルダー]

TotalFlow Optimizerが面付されるジョブを送信するUltimate Impostrip®ホットフォルダー名を指定します。

[印刷済みインプレッション]

印刷部数の合計を指定します。この値は累積されません。

[印刷済み部数]

印刷ジョブの総部数を指定します。この値は累積されません。

カスタムのジョブ並び替えを作成するには、複数の並び替え条件を選択します。

カスタムジョブの並び替えを作成または管理するには、以下の操作を行います。

1. 作成/編集ボタン () をクリックします。[ソート:] ダイアログが表示されます。
2. リストから条件を最大3つまで追加または追加した条件を削除できます。新しい条件を追加するには、[条件を追加] ボタン () をクリックします。条件を削除するには、[条件を削除] () をクリックします。行の位置を変更するには、移動ボタン () をクリックし、選択項目をドラッグします。
3. 条件項目を設定するには、[列] リストから値を選択し、並び替える順を指定します。

4. 新しいカスタムジョブの並び替えの名前を入力します。

5. [OK] をクリックします。

ジョブリストの上部の条件項目を並べ替えるには、手動でドラッグ&ドロップできます。選択したカスタムの並び替えから項目を削除するには、[削除] ボタン (✕) をクリックします。

リストからジョブを削除するには、ジョブを選択し、右クリックして [ジョブを削除...] または [ジョブを削除...] を選択します。確認ウィンドウが表示されます。[はい] をクリックし、ジョブを削除するか、[いいえ] をクリックし、アクションをキャンセルします。

フィルターパネル

全てのフィルターのリストと各フィルターのボリューム見積もりが表示されます。

[フィルター] パネルを開くには、[ジョブ] セクションの左側の [展開/折りたたむ] ボタン (▶) をクリックします。

[フィルター]



「フィルター」パネルを開くと、デフォルトで「フィルター」タブが表示されます。

「ソート:」メニューを使用してフィルターのリストを並べ替えることができます。デフォルトは「作成時刻 (昇順)」です。

また、「手動ソート」を選択すると、フィルターを別の場所にドラッグ&ドロップできます。

フィルター情報には、「フィルター名」とボリューム見積もりが最大3つまで表示されます。

↓ 補足

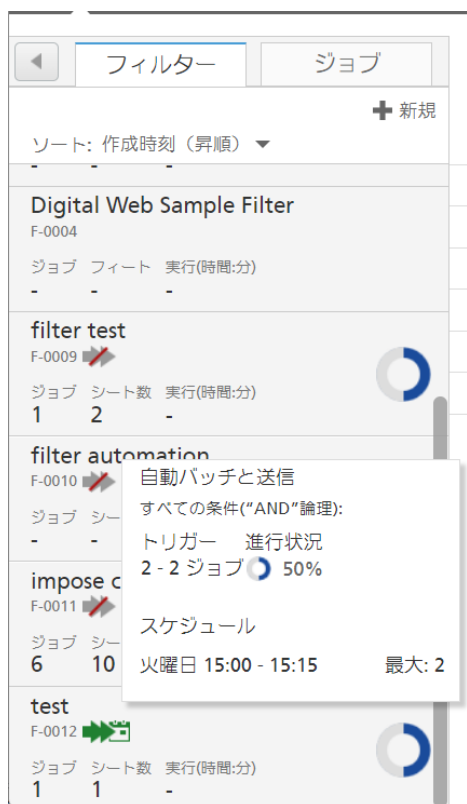
- 選択した「自動化レベル」に応じて、フィルターIDの横に該当するアイコンが表示されます。

- 「自動バッチ」 (➡)
- ➡📅 「自動バッチ」 (スケジュールが有効な状態)
- 「自動バッチと送信」 (➡➡)
- ➡➡📅 「自動バッチと送信」 (スケジュールが有効な状態)

自動化アイコンをクリックして「自動化を無効にする」を選択すると、自動化フィルターを一時停止できます。自動化フィルターが一時停止しているときは、自動化を再開するには、フィルターIDの横の該当するアイコンをクリックし、「自動化を有効にする」を選択します。自動化が一時停止したときに表示されるアイコンは、以下のとおりです。

- 「自動バッチ」 (➡🚫)
- ➡🚫📅 「自動バッチ」 (スケジュールが有効な状態)
- 「自動バッチと送信」 (➡🚫➡)
- ➡🚫➡📅 「自動バッチと送信」 (スケジュールが有効な状態)

フィルター名の下にある矢印マークにマウスカースルを合わせると、自動化ステータス、トリガー情報、進行状況が表示されます。



- 「自動化」タブで選択した対象種類に応じて、設定したしきい値に達するために必要な割合のグラフが表示されます。



- 自動化アイコン、ステータス、進行状況が表示されるのは、TotalFlow Optimizer自動化機能の有効なライセンスがあり、フィルターの自動化設定が構成されている場合のみです。

フィルターの自動化アイコンにカーソルを合わせると、[自動バッチ]、[トリガー]、[スケジュール] の情報が表示されます。

フィルターをクリックすると、選択したフィルターの条件と一致するジョブのみ表示されます。

複合フィルターを選択した場合は、フィルターで選択したコンポーネントがジョブリストの上部に表示されます。複合フィルター名の下にあるリストからコンポーネントを選択すると、複合フィルターの特定のコンポーネントのジョブのみが表示されます。

全ての複合フィルターコンポーネントと各コンポーネントに指定したボリューム見積もりを表示するには、コンポーネントの表示ボタン () をクリックします。

新しいフィルターを作成するには、[新しいフィルター] ボタン () をクリックします。

フィルターを右クリックしてコンテキストメニューを表示し、次のアクションから選択します。

- [プロパティ] を選択してフィルター編集ダイアログボックスを開き、フィルタープロパティを修正します。
- [自動化を無効にする] を選択し、自動フィルターを一時停止します。フィルターの自動化を再開するには、[自動化を有効にする] を選択します。
- [バッチを作成...] を選択し、新しいバッチを作成します。

 補足

- フィルタープロパティで出力デバイスが指定されている場合は、新しいバッチが自動的に作成され、全てのフィルタージョブが新しいバッチに追加されます。
- フィルターの出力デバイスが指定されていない場合は、[新しいバッチ] ダイアログボックスが表示されます。リストから出力先を選択し、[OK] をクリックし、新しいバッチを作成します。または、[バッチを送信] をクリックし、バッチを保存して送信します。
- [フィルターを複製...] を選択し、現在のフィルターのコピーを作成します。[新しいフィルター] ダイアログボックスが表示されます。元のフィルターから全てのプロパティが新しいフィルターにコピーされます。[OK] をクリックし、新しいフィルターを作成してフィルターリストに追加します。
- [削除...] を選択し、システムからフィルターを削除します。

 補足

フィルター状況アイコンについては、[P.289 「アイコンとボタン」](#)を参照してください。

[ジョブ]

[ジョブ] タブをクリックすると、全てのジョブが表示されます。

フィルター		ジョブ
表示		
すべてのジョブ		13
試し印刷が必須		0
試し印刷送信済み		0
バッチ可能		12
アクションが必要		0
バッチ可能/一致フィルターなし		0
印刷済み		0

〔表示〕メニューを使用し、ジョブ状態ごとに全てのジョブをフィルターに掛けます。

フィルターに掛けるオプションは、以下のとおりです。

〔すべてのジョブ〕

保持されたジョブを含む、システム内の全ての状態のジョブのリストが表示されます。

〔試し印刷が必須〕

〔試し印刷〕ジョブプロパティ値が〔試し印刷が必須〕、〔試し印刷承認〕が〔承認待ち〕に設定されたジョブのリストが表示されます。

〔試し印刷送信済み〕

〔試し印刷送信済み〕状態の全てのジョブのリストが表示されます。

〔バッチ可能〕

〔バッチ待ち〕状態のジョブのリストが表示されます。

〔アクションが必要〕

〔保留〕状態、〔面付けが不明〕状態、〔ファイル待ち〕状態、〔出力エラー〕状態、〔プリフライトエラー〕状態、〔試し印刷却下済み〕状態、または〔面付けエラー〕状態のジョブのリストが表示されます。

〔バッチ可能/一致フィルターなし〕

フィルターに一致しない〔バッチ待ち〕状態のジョブのリストが表示されます。

〔印刷済み〕

デバイスで印刷され、TotalFlow Optimizerシステムで印刷済みのジョブとカスタム状態のジョブのリストが表示されます。

1. 〔バッチ解除〕アクションを使用すると、バッチからジョブを解除できます。ジョブは一致フィルターリストに表示され、別のバッチに移動できます。〔バッチ解除〕アクションは、ジョブが〔バッチ済み〕状態かつバッチが〔バッチ中〕状態のときにのみ実行できます。〔バッチ解除〕アクションを実行したときにバッチ状態が変更された場合は、エラーが表示されます。
ジョブをバッチ解除するには、リストからジョブを選択し、右クリックして〔バッチ解除〕を選択します。
2. リストからジョブを削除するには、ジョブを選択し、右クリックして〔ジョブを削除...〕を選択します。確認ウィンドウが表示されます。〔はい〕をクリックし、ジョブを削除するか、〔いいえ〕をクリックし、アクションをキャンセルします。
3. ジョブリストからバッチ解除したジョブを新しいバッチにドラッグ&ドロップするか、既存のバッチに追加できます。〔バッチ待ち〕状態以外のジョブを選択した場合は、エラーが表示され、ジョブが解除できません。
4. リストからジョブを選択し、右クリックして〔注文を開く〕を選択し、選択したジョブを含む注文の詳細を表示します。
5. ジョブ状態を変更するには、リストからジョブを選択し、右クリックして〔状態を設定〕にカーソルを合わせます。システム定義の状態リストからジョブの状態を選択します：〔送信済み〕、〔プリンターで処理中〕、〔プリンターで保留済み〕、〔プリンターで一時停止済み〕、〔プリンターでキャンセル済み〕、〔印刷中〕、〔印刷済み〕、またはカスタム状態。カスタム状態は〔管理〕セクションの〔カスタム状態〕タブで作成できます。

↓ 補足

- カスタム状態は、送信されているジョブにのみ選択できます。
 - ジョブの状態と場所は、次のいずれかの状態にあるジョブに対してのみ編集可能です：〔送信済み〕、〔プリンターで処理中〕、〔プリンターで保留済み〕、〔プリンターで一時停止済み〕、〔プリンターでキャンセル済み〕、〔印刷中〕、〔印刷済み〕、またはカスタム状態。
6. ジョブが〔試し印刷送信済み〕状態の場合は、試し印刷が承認されるまでジョブをバッチ、送信、印刷できません。リストからジョブの試し印刷を承認するには、ジョブを右クリックして〔試し印刷する〕→〔試し印刷を承認〕を選択します。各ジョブの状態は〔試し印刷送信済み〕から〔バッチ待ち〕に変更されます。

↓ 補足

ジョブを1つ以上選択して右クリックしてから〔試し印刷する〕→〔試し印刷を承認して送信...〕を選択すると、ジョブを直接出力に送信して〔試し印刷送信済み〕から〔送信済み〕のジョブ状態に変更できます。

7. ジョブが「試し印刷送信済み」状態のときは、ジョブを右クリックして「試し印刷する」→「試し印刷を却下」を選択できます。ジョブ状態は「試し印刷却下済み」に設定され、ジョブは「アクションが必要」タブの「すべてのジョブ」リストに表示されます。
 8. 以下のプリフライトアクションを実行できます。
 - 「プリフライト」→「手動プリフライトを実行...」をクリックし、プリフライトプロファイルとプリフライトアクションリストを選択して適用します。
- ↓ 補足
- 「PitStopサーバー」
- 内部プリフライトから外部プリフライトに切り替えると、ジョブプリフライト設定を再構成できます。
- TotalFlow Optimizerがプリフライト用にジョブを送信するリストから、プリフライトホットフォルダーを選択します。
- ジョブが「プリフライトエラー」状態の場合は、「プリフライト」→「プリフライトエラーを無視」をクリックしてプリフライトエラーをキャンセルし、「手動プリフライト」を有効にできます。「プリフライトエラー」のジョブ状態が削除され、新しいジョブファイルがアップロード可能になります。
 - ジョブが「プリフライト中」状態のときは、ジョブを右クリックして「プリフライト」→「プリフライトをスキップ」を選択できます。プリフライト処理はキャンセルされ、ジョブが前の状態に戻ります。
9. ジョブが「承認待ち」状態のときは、ジョブを右クリックして「面付け」→「面付けを承認」または「面付けを拒否」を選択できます。
 10. ジョブのリストからジョブを選択できます。

ジョブのリストからジョブを選択し、既存のバッチを選択するか、「バッチ」→「新しいバッチ」を選択して新しいバッチを作成します。新しいバッチが正常に作成されたことを確認する確認メッセージが右パネルに表示されます。

↓ 補足

バッチにできないジョブを選択した場合は、右クリックメニューが無効になります。

「フィルター」パネルを閉じるには、「展開/折りたたむ」ボタン () をクリックします。

「バッチ」パネル

全ての有効なバッチのリストと各バッチのボリューム見積もりが表示されます。

「バッチ」パネルを開くには、「ジョブ」セクションの右側の「展開/折りたたむ」ボタン () をクリックします。

バッチのリストが表示されます。



バッチのリストは [ソート:] メニューを使用して並び替えることができます。デフォルトは [作成時刻 (昇順)] です。

また、[手動ソート] を選択すると、バッチを別の場所に手動でドラッグ&ドロップできます。

バッチ状況

各状態のバッチ数が表示されます。バッチ状況は、以下のとおりです。

- 🕒 : バッチを出力待ち
- 🔄 : バッチを送信中
- ⚠️ : エラー状態のバッチ

バッチ情報には、バッチID、バッチ名、最大3つのボリューム見積もりが表示されます。

↓ 補足

選択した「自動化レベル」に応じて、バッチIDの横に該当するアイコンが表示されます。

- 「自動バッチ」 (➡)
-  「自動バッチ」 (スケジュールが有効な状態)
- 「自動バッチと送信」 (➡➡)
-  「自動バッチと送信」 (スケジュールが有効な状態)

自動化アイコンが表示されるのは、TotalFlow Optimizer自動化機能の有効なライセンスがあり、自動バッチ作成が有効になっている場合のみです。

コンテキストメニューを表示してアクションを選択するには、バッチを右クリックします。

- 「プロパティ」を選択してバッチ編集ダイアログボックスを開き、バッチプロパティを修正します。このアクションは、リストから1つのバッチを選択するときのみ有効です。
- 「バッチチケットを印刷...」を選択し、バッチ詳細を印刷します。バッチチケットファイルはバッチの最初のジョブとして配置され、バッチチケットのジョブシーケンスの番号は「0」になります。バッチチケットファイルは、バッチ詳細ダイアログと操作画面上にジョブとして表示されません。このアクションは、リストから1つのバッチを選択するときのみ有効です。
- 「バッチを削除...」または「削除...」を選択し、システムからバッチを削除します。
- 「バッチを送信」または「送信」を選択し、処理するバッチを指定した出力に送信します。

新しい簡易バッチを作成するには、「新しいバッチ」ボタンをクリックします。

「バッチ」パネルを閉じるには、「展開/折りたたむ」ボタン () をクリックします。

「バッチ」セクション

「バッチ」セクションには、全てのバッチのリストが表示されます。



ジョブ

合計

本日納期

明日納期

納期経過

18

0

1

1

使用可能なタブは4つあります。

- [すべて] : バッチの状態に関係なく、システム内の全てのバッチのリストが表示されます。
- [バッチ中] : [バッチ中] 状態の全てのバッチのリストが表示されます。
- [承認待ち] : [承認待ち] 状態の全てのバッチのリストが表示されます。[承認待ち] タブは、[面付け] 機能が[管理] タブから有効になったときのみ表示されます。バッチを右クリックして、[承認して送信] または [送信をキャンセル] を選択します。
- [送信済み] : [送信済み] 状態の全てのバッチのリストが表示されます。
- [印刷済み] : 印刷済みに設定された全てのバッチのリストが表示されます。バッチに含まれている全てのジョブが印刷済みに設定され、バッチ状態が[送信済み] の場合にのみ、バッチを印刷済みにできます。

バッチは、以下の列で並び替えることができます。

[名前]

バッチ名です。

[バッチ番号]

システムで生成されたバッチIDです。

[リンク済みバッチ]

複合フィルターで作成されたバッチグループにバッチがあるときは、その他のリンク済みバッチのバッチ番号が表示されます。

[状況]

バッチの状況です。システム定義のバッチ状態は、以下のとおりです。

- [バッチ中] : バッチ済みジョブの送信が可能です。
- [出力待ち] : 複数のバッチが同じ出力に同時送信されるときに、バッチの1つが[送信中]状態、他のバッチが[出力待ち]状態です。
- [送信中] : バッチ済みジョブを出力フォルダーに送信中です。
- [送信済み] : バッチ済みジョブが出力フォルダーに送信されました。
- [印刷済み] : バッチ済みジョブが送信され、デバイスで印刷されました。
- [面付け中] : バッチに含まれているジョブは面付け中です。
- [面付けエラー] : バッチ済みジョブの面付け中にエラーが起こったか、指定した時間内に面付けが完了しなかったため、ジョブはエラーとなりました。
- [出力エラー] : ジョブが無効な出力先に送信されたときや出力先に到達できないときは、ジョブのいずれかが印刷失敗になります。
- [プリフライト中] : ジョブはプリフライト中です。
- [承認待ち] : 承認が必要なバッチ済みジョブです。

[状況タイムスタンプ]

バッチ状況の最終更新日時を指定します。

[ジョブ]

バッチのジョブ数です。

[シート数]

バッチに含まれている全てのジョブのシート数です。

[フィート]

バッチに含まれている全てのジョブのft数です。



インストール時の選択項目によって、測定単位は異なります。

[総ページ数]

バッチに含まれている全てのジョブの総ページ数（印刷した面数）です。総ページ数は、注文で指定された個々の印刷ジョブの部数指定を反映してカウントした面数です。



ドキュメントが1000ページあり、シートの両面に1部だけ印刷する場合、総ページ数は1000で、シート数は500となります。同じドキュメントを10倍、つまり10部印刷する場合、総ページ数は $1000 \times 10 = 10,000$ で、シート数は $500 \times 10 = 5,000$ となります。

[実行(時間:分)]

バッチに含まれている全てのジョブの印刷に必要な推定時間です。

[出力先]

指定したホットフォルダー先です。

[推定出力速度]

選択した出力先で生成される推定出力速度です。

バッチが出力先に送信され、ジョブがデバイスで印刷された場合は、ジョブとバッチを印刷済みにできます。バッチを右クリックして「バッチを印刷済みにする」を選択します。

バッチを削除するには、リストからバッチを選択し、右クリックして「削除...」を選択します。確認ウィンドウが表示されます。「はい」をクリックし、バッチを削除するか、「いいえ」をクリックし、アクションをキャンセルします。

バッチ詳細ダイアログを開き、バッチプロパティを編集するには、リストからバッチをダブルクリックするか、右クリックして「プロパティ」を選択します。

[注文] セクション

[注文] セクションには、全ての注文のリストが表示されます。

RICOH TotalFlow Optimizer Administrator ?

ジョブ 注文 バッチ フィルター アラート 3 ログ 管理

表示: すべて (18) 処理中 (18) 送信済み (0) 印刷済み (0) 納期経過 (1) + 新しい注文

すべての注文 (18)

注文番号	お客様	概要	ID	状況	状況タイムスタンプ	納期	受信済み
testdoc9.pdf			O-0021	バッチ中	-	-	10月01日, 1
testdoc8.pdf			O-0020	バッチ中	-	-	2025年10月01日, 1
testdoc7.pdf			O-0019	バッチ中	-	-	2025年10月01日, 1
testdoc6.pdf			O-0018	バッチ中	-	-	2025年10月01日, 1
testdoc5.pdf			O-0017	バッチ中	-	-	2025年10月01日, 1
testdoc4.pdf			O-0016	バッチ中	-	-	2025年10月01日, 1
testdoc3.pdf			O-0015	バッチ中	-	-	2025年10月01日, 1
testdoc2.pdf			O-0014	バッチ中	-	-	2025年10月01日, 1
testdoc11.pdf			O-0013	バッチ中	-	-	2025年10月01日, 1
testdoc10.pdf			O-0012	バッチ中	-	-	2025年10月01日, 1
testdoc.pdf			O-0011	バッチ中	-	-	2025年10月01日, 1
S1SPACE.PDF			O-0010	バッチ中	-	-	2025年10月01日, 1
demoPdf.pdf			O-0006	バッチ中	-	-	2025年10月01日, 1
Booklet.pdf			O-0005	バッチ中	-	-	2025年10月01日, 1
Booklet landscape...			O-0004	バッチ中	-	-	2025年10月01日, 1
Booklet landscape ...			O-0003	バッチ中	-	-	2025年10月01日, 1
123 COPY			O-0002	バッチ中	-	2025年10月03日, 17:00	2025年9月18日, 16
123			O-0001	バッチ中	-	2025年9月23日, 19:00	2025年9月18日, 16

ジョブ 18 本日納期 0 明日納期 1 納期経過 1

使用可能なタブは5つあります。

- ・ [すべて] : 注文状態に関係なく、システム内の全ての注文のリストが表示されます。注文は、注文保持期間が終了したときにのみシステムから削除されます。
- ・ [処理中] : [ファイル待ち] 状態と [バッチ中] 状態の全ての注文のリストが表示されます。
- ・ [送信済み] : [送信済み] 状態の全ての注文のリストが表示されます。

- **【印刷済み】**：【印刷済み】状態、カスタム状態、または混合状態の全ての注文のリストを表示します。注文に含まれている全てのジョブが印刷されたときは、注文は【印刷済み】状態になります。
- **【納期経過】**：納期日が経過したシステム内の全ての注文のリストが表示されます。

新しい注文を手動で送信するには、右上にある**【新しい注文】**をクリックします。**【注文を送信】**ダイアログが開きます。詳しくは、[P.166「注文を送信する」](#)を参照してください。

注文は、以下の列で並び替えることができます。

【注文番号】

注文番号は、注文を識別するために使用します。注文を手動で送信するときは、注文番号を指定してください。

 補足

入力ホットフォルダーでPDFファイルを送信する場合は、【注文番号】フィールドの値は特定の番号ではなく、ファイル名になります。

【お客様】

お客様の名前です。

【概要】

注文に関連した追加情報です。

【ID】

システムで生成された注文IDです。

【状況】

ジョブのステータスを優先順位の高い順に以下に示します：

- 【面付けエラー】
- 【出力エラー】
- 【保留】
- 【面付けが不明】
- 【ファイル待ち】
- 【プリフライトエラー】
- 【試し印刷却下済み】
- 【プリフライト中】
- 【試し印刷送信済み】
- 【バッチ待ち】
- 【面付け中】
- 【バッチ済み】
- 【面付け済み】
- 【送信済み】

- [プリンターでキャンセル済み]
- [プリンターで保留済み]
- [印刷中]
- [プリンターで処理中]
- [プリンターで一時停止]
- [印刷済み]
- **カスタム状態**

状況について詳しくは、P.32 「[\[バッチ\] セクション](#)」を参照してください。

↓ 補足

全てのジョブが特定のカスタマイズされた状態になったときは、注文状況もそれと同じカスタム状態に変更されます。ジョブが異なるカスタムの状態にあるときは、注文状況は**混合**になります。

可能な注文ステータスを以下に示します：

- [面付けエラー]
- [出力エラー]
- [保留]
- [面付けが不明]
- [ファイル待ち]
- [プリフライトエラー]
- [試し印刷却下済み]
- [プリフライト中]
- [試し印刷送信済み]
- [バッチ中]
- [送信済み]
- [印刷済み]
- **混合**
- **カスタム状態**

注文状況の説明は以下の通りです：

[面付けエラー]

注文内で最も優先順位の高いジョブは、[面付けエラー] 状態です。

[出力エラー]

注文内で最も優先順位の高いジョブは [出力エラー] 状態です。

[保留]

オーダー内で最も優先順位の高いジョブは [保留] 状態です。

[面付けが不明]

オーダー内で最も優先順位の高いジョブは [面付けが不明] 状態です。

[ファイル待ち]

注文内で最も優先順位の高いジョブは [ファイル待ち] 状態です。

[プリフライトエラー]

注文内で最も優先順位の高いジョブは [プリフライトエラー] 状態です。

[試し印刷却下済み]

オーダー内で最も優先順位の高いジョブは [試し印刷却下済み] 状態です。

[プリフライト中]

注文内で最も優先順位の高いジョブはプリフライトプロセスにあり、フィルターやバッチでは使用できません。

[試し印刷送信済み]

注文内で最も優先順位の高いジョブは [試し印刷送信済み] 状態です。

[バッチ中]

注文内で最も優先順位の高いジョブは、[バッチ中]、[バッチ待ち]、[面付け中]、[バッチ済み]、または[面付け済み] 状態です。

[送信済み]

注文内で最も優先順位の高いジョブが出力デバイスに送信され、以下のいずれかの状態になっています：[送信済み]、[プリンターでの処理]、[プリンターで保留済み]、[プリンターでキャンセル]、[プリンターで一時停止]、または[印刷中] 状態。

[印刷済み]

注文内で最も優先順位の高いジョブが [印刷済み] 状態です。

混合

注文内のジョブはすべてカスタム状態ですが、すべてが同じ状態ではありません。

カスタム状態

注文内のすべてのジョブは同じカスタム状態にあります。

[状況タイムスタンプ]

注文状況の最終更新日時が表示されます。

[納期]

注文期限の日時です。

[受信済み]

注文を受信した日時です。

[ジョブ]

注文のジョブ数です。

[入力ソース]

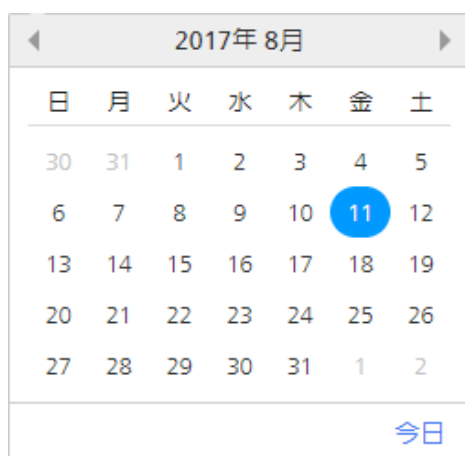
注文の入力ソースです。

↓ 補足

注文を手動で送信するときは、入力ソースの値は**手動**になります。

注文の納期日を変更するには、以下の操作を行います。

1. リストから注文を選択します。
2. [期限の変更...] を右クリックして選択します。
[期限の変更...] ウィンドウが表示されます。
3. 日付を設定するには、月、年を正しい形式で選択または入力します。



現在のページを選択するには、[今日] をクリックします。

時刻を設定するには、時間と分を入力またはドロップダウンリストから選択できます。

4. 変更を保存するには、[OK] をクリックします。変更を破棄するには、[キャンセル] をクリックします。

注文のすべてのジョブが、[送信済み]、[プリンターでの処理]、[プリンターで保留済み]、[プリンターで一時停止]、[プリンターでキャンセル]、[印刷中]、[印刷済み]、または任意のカスタム状態にある場合、注文を右クリックし、[状態を設定] を選択できます。リストから状態を選択し、選択した注文に含まれている全てのジョブの状態を変更します。

注文のすべてのジョブが [送信済み]、[プリンターでの処理]、[プリンターで保留済み]、[プリンターで一時停止]、[プリンターでキャンセル]、[印刷中]、または任意のカスタム状態にある場合、オーダーを右クリックし、[場所を設定] を選択できます。リストからカスタム場所を選択し、選択した注文に含まれている全てのジョブの場所を変更します。

↓ 補足

- カスタム状態またはカスタム場所は、送信されているジョブにのみ選択できます。

[注文を複製] して新規作成するには、リストから注文を選択し、[注文を複製] を右クリックします。新しい注文のダイアログウィンドウが表示されます。変更を保存するには、[OK] をクリックします。変更を破棄するには、[キャンセル] をクリックします。

注文を削除するには、リストから注文を選択し、右クリックして「削除...」を選択します。確認ウィンドウが表示されます。注文を削除するには、「はい」をクリックしてホットフォルダーを注文するか、「いいえ」をクリックします。

1 [フィルター] セクション

[フィルター] セクションには、全ての注文のリストが表示されます。



名前	ID	ジョブ	シート数	Ft	総ページ数	実行(時...	ファイル...	自動化トリガー	出力先
All Jobs Sample Filter	F-0001	18	470	-	926	-	24.8 MB	-	-
Due Date Range Sample Filter	F-0002	2	2	-	2	-	374.2 KB	-	-
Cut Sheet Sample Filter	F-0003	-	-	-	-	-	-	-	-
Digital Web Sample Filter	F-0004	-	-	-	-	-	-	-	-
combo filter	F-0009	-	-	-	-	-	-	-	-
covers		-	-	-	-	-	-	-	out 1
text		-	-	-	-	-	-	-	out 2



ジョブ	合計	本日納期	明日納期	納期経過
18	18	0	1	1

[フィルター] セクションを設定すると、特定の属性と一致するフィルターのみが表示されます。

「絞り込みを編集」ボタン () をクリックして、フィルターリストのフィルター条件として属性を設定します。[フィルターリスト絞り込み] ウィンドウが表示されます。

【フィルターリスト絞り込み】ウィンドウでは、属性を使用したフィルターの一致方法を指定できます。以下のオプションから1つ選択します。

- 【すべての属性("and"論理)】
- 【任意の属性("or"論理)】

【すべての属性("and"論理)】を選択する場合は、【フィルターリスト絞り込み】ウィンドウで設定された全ての属性と一致するフィルターのみが表示されます。【任意の属性("or"論理)】を選択する場合は、指定した属性のいずれかと一致するフィルターが表示されます。

リストから属性を追加または削除できます。新しい属性を追加するには、【条件を追加】ボタン（）をクリックします。属性を削除するには、【条件を削除】ボタン（）をクリックします。

フィルターのリストの条件を設定するには、以下の操作を行います。

1. 1番目のリストから属性種類を選択します。

↓ 補足

2つの異なる属性カテゴリーから値を選択できます。

1. [バッチ中プロパティ] カテゴリーには、[出力先] 属性のみがあります。指定した[出力先]によって、フィルターのリストを並べ替えることができます。
2. [ジョブプロパティ] カテゴリーには、異なるジョブ属性があります。

2. 2番目のリストから演算子を選択します。

3. 指定した属性種類の値を入力または選択して条件を完成させます。

[OK] をクリックし、変更を保存します。

フィルター絞り込みの各リストを保存し、[絞り込み] メニューから全ての保存した絞り込みセットにアクセスできます。

設定した絞り込みセットを保存するには、[絞り込みセットを保存] をクリックし、テキストフィールドに名前を入力し、[OK] をクリックします。また、選択した絞り込み

セットから特定の属性を削除するには、[削除] ボタン (✕) をクリックします。絞り込み設定の修正を保存するには、[変更を保存] をクリックします。

すべての保存した絞り込みを削除する場合は、クリアボタン (⊗) をクリックします。フィルター絞り込み設定を完全に削除するには、右クリックして[保存した絞り込みセットを削除]を選択します。

新しいフィルターを作成するには、[新しいフィルター] をクリックし、[簡易フィルター]、[複合フィルター]、または[試し印刷フィルター]を選択します。詳しくは、[P.111 「新しい簡易フィルターを作成する」](#)、[P.122 「新しい複合フィルターを作成する」](#)、[P.129 「新しい試し印刷フィルターを作成する」](#)を参照してください。

[フィルター] サイドパネルでメインの[ジョブ] タブから並び替えの条件を使用する場合は、[ソート:] メニューから["ジョブ"タブの現在のソート]を選択します。

既存の列を使用してフィルターのリストを手動で並び替える場合は、[ソート:] メニューから[列ソート]を選択することもできます。

[自動化アイコン]

自動レベルが[自動バッチ]または[自動バッチと送信]の場合は異なるアイコンが表示され、[自動化なし]が選択された場合はアイコンが表示されません。

[名前]

フィルター名です。

[ID]

システムで生成されたフィルターIDです。

[ジョブ]

フィルターのジョブ数です。

[シート数]

フィルターに含まれている全てのジョブのシート数です。

[フィート]

フィルターに含まれている全てのジョブのft数です。

↓ 補足

インストール時の選択項目によって、測定単位は異なります。

[総ページ数]

フィルターに含まれている全てのジョブの総ページ数です。総ページ数は、ページ数を部数で乗算した値です。

[実行(時間:分)]

フィルターに含まれている全てのジョブの印刷に必要な推定時間です。

[ファイルサイズ]

フィルターに含まれている全てのファイルのサイズです。

[自動化トリガー]

簡易フィルターのフィルター自動化タブで選択されたトリガーと複合フィルターのトリガー数です。

[出力先]

指定したホットフォルダー先です。

[推定出力速度]

選択した出力先によって設定された推定出力速度です。

フィルターを削除するには、リストからフィルターを選択し、右クリックして [削除...] を選択します。確認ウィンドウが表示されます。[はい] をクリックし、フィルターを削除するか、[いいえ] をクリックし、アクションをキャンセルします。

フィルター編集ダイアログを開き、フィルタープロパティを編集するには、リストからフィルターをダブルクリックするか、右クリックして [プロパティ] を選択します。

フィルターのコピーを作成するには、リストからフィルターを選択し、右クリックして [フィルターを複製...] を選択します。

新しいバッチを作成するには、リストからフィルターを選択し、右クリックして [バッチを作成...] を選択します。

[アラート] セクション

[アラート] セクションで、新しいアラートトリガーの作成、既存のアラートトリガーの編集、現在のアラートの管理ができます。アラートトリガーは、特定の種類のアラートを発行するときの条件を設定するために使用します。

[現在のアラート] タブ

全ての発行されたアラートのリストが表示されます。リストには手動または自動で解除されたアラートは表示されません。

アラート	トリガー	状況	詳細	アラート時刻
Output Disabled	out 2	無効	手動で無効になりました。	2025/09/22
Batch failed at output	B-1002 Quick Print	出力失敗	出力が無効です。	2025/10/01
Output Disabled	out 1	無効	手動で無効になりました。	2025/10/01

アラートは、以下の列で並び替えることができます。

〔アラート〕

対応するトリガーで指定されたアラート名です。

〔トリガー〕

アラートが発行されたオブジェクト名です。

〔状況〕

アラートが発行されたときのオブジェクトの状況です。

〔詳細〕

アラートが発行された理由です。

〔アラート時刻〕

アラートが発行されたときの日時です。

アラートをダブルクリックするか、右クリックして〔プロパティ〕を選択し、アラート詳細を表示します。

↓ 補足

アラートが発行されたオブジェクトの詳細ウィンドウを開くと、オブジェクトのプロパティを表示して編集できます。

アラートを手動で解除するには、〔解除〕をクリックします。

アラートを解除するには、以下の操作を行います。

1. 解除するアラートを選択します。

2. 右クリックして「解除」を選択します。

「アラートトリガー」タブ

アラートトリガーのリストが表示されます。

The screenshot shows the RICOH TotalFlow Optimizer web interface. At the top, there's a navigation bar with tabs: ジョブ, 注文, バッチ, フィルター, アラート (highlighted with a red badge), ログ, 管理. Below the tabs, there's a sub-header with '現在のアラート' and 'アラートトリガー' (selected). The main area displays a table titled 'アラートトリガー (6)' with a '+ 新しいアラートトリガー' button. The table has three columns: 名前, 種類, and トリガー状況. Below the table, there's a summary bar showing: ジョブ, 合計 18, 本日納期 0, 明日納期 1, and 納期超過 1 (highlighted in red).

名前	種類	トリガー状況
Input Disabled	入力	有効
Output Disabled	出力	有効
Mapping error	マッピング	有効
Batch failed at output	バッチ	有効
Mapped network drive unavailable	マップされたネットワークドライブ	有効
Low disk space	ディスク領域	有効

アラートトリガーは、以下の列で並び替えることができます。

「名前」

アラートトリガー名です。

「種類」

アラートトリガーのオブジェクト種類です。

「トリガー状況」

トリガーの状況は「有効」または「無効」です。デフォルトトリガー状況は「有効」です。

新しいアラートトリガーを作成するには、「新しいアラートトリガー」をクリックします。

既存のアラートトリガーをダブルクリックし、アラートトリガープロパティを編集します。

【ログ】 セクション

【ログ】セクションでは、システムオブジェクトとその対象動作に関する【ログエントリー】を表示できます。オブジェクトをログ対象に入れるかどうかは、【ログ】セクションの【ログ対象コンポーネント】ウィンドウで編集できます。

The screenshot shows the RICOH TotalFlow Optimizer web interface. The top navigation bar includes tabs for Job, Note, Batch, Filter, Alert, Log, and Management. The 'Log' tab is selected. On the left, there is a 'Filter' sidebar with a 'Job' section containing checkboxes for 'すべて選択' (Select All), '作成済み' (Completed), '削除済み' (Deleted), '状態変更済み' (Status Changed), 'プロパティ変更済み' (Property Changed), '送信済み' (Sent), '手動面付け済み' (Manually Sorted), and '手動プリフライト済み' (Manually Pre-flighted). The main area displays a table of log entries titled 'ログエントリー (28)'. The table has columns for 'タイムスタンプ' (Time Stamp), 'イベント種類' (Event Type), 'コンポーネント' (Component), and 'メッセージ' (Message). The entries show various actions like '削除済み' (Deleted), '状態変更済み' (Status Changed), and '送信済み' (Sent) for different components like 'ユーザー' (User) and 'ジョブ' (Job). An 'Export' button is located in the top right corner of the log list area.

タブバーにある検索フィールド（）に3文字以上を入力すると、特定の情報を検索できます。

CSV形式で【ログエントリー】に表示されるフィルター処理したデータをエクスポートするには、【エクスポート】ボタンをクリックします。

ログ入力は、以下の列で並び替えることができます。

【タイムスタンプ】

アクションがログ内のオブジェクトで実行された正確な日時です。

【イベント種類】

オブジェクトで実行されたアクションの種類です。【作成済み】、【プロパティ変更済み】、【面付け済み】などがあります。

【コンポーネント】

ログのオブジェクトの種類です。

【メッセージ】

ログ内のオブジェクトの前と現在の状態、およびオブジェクトのプロパティに行われた変更です。

[発行元]

オブジェクトにアクションを実行したユーザーです。ユーザーがアクションを実行しない場合、[システム] という用語が使用されます。

[ログ] セクションでオブジェクトの詳細を表示するには、リストからオブジェクト、[詳細] パネルの展開/折りたたみボタンの順にクリックします。

[ログエントリ] セクションに表示フィルターを作成するには、[ログ] セクションをクリックし、[フィルター] パネルで、[ジョブ]、[注文]、[バッチ]、[フィルター]、[入力]、[出力]、[ユーザー]、[アラートトリガー] にアクションの種類を選択します。

[フィルター] パネルでされた変更を保存するには、[適用] ボタンをクリックします。フィルターの作成後、確認メッセージが表示されます。変更を破棄するには、[消去] ボタンをクリックします。

[管理] セクション

[入力] ウィンドウ

[入力] ウィンドウには、全ての入力ホットフォルダーのリストが表示されます。

RICOH TotalFlow Optimizer Administrator ?

ジョブ 注文 バッチ フィルター アラート 3 ログ 管理

Q ジョブ検索 アクション

入力

出力

機能

プロダクション設定

バックアップ/リストア

カスタム属性

カスタム状態

カスタム場所

その他

ユーザー

デフォルト納期時刻

保持

サーバー

バッチ番号

ファイルネーミング

API Keys

診断

入力ソース (3) + 新しい入力

名前 ▲	状況	入力種類	概要	入力先 (ディレクトリーパス)
in 1	有効	PDF/PostScript		C:\In 1
in 2	有効	PDF/PostScript		C:\In 2
in 3	有効	PDF/PostScript		C:\In 3

ジョブ ▼ 合計 18 本日納期 0 明日納期 1 納期超過 1

[名前]

入力ホットフォルダー名です。

[状況]

[状況] 列にはホットフォルダー状態の [有効] または [無効] が表示されます。ホットフォルダーを右クリックして [有効にする] または [無効にする] を選択し、状況を切り替えることができます。

[入力種類]

入力種類には、[PDF/PostScript]、[XML/制御ファイル]、[HTTP経由JMF]、[TotalFlow HTTP経由JMF]、[CSV] の5つの値があります。

[概要]

入力ホットフォルダーの簡単な概要です。

[入力先 (ディレクトリーパス)]

入力ホットフォルダー先です。

ホットフォルダーを削除するには、リストからホットフォルダーを選択し、右クリックして [削除...] を選択します。確認ウィンドウが表示されます。[はい] をクリックし、ホットフォルダーを削除するか、[いいえ] をクリックし、アクションをキャンセルします。

入力編集ダイアログを開き、入力プロパティを編集するには、リストから入力をクリックするか、右クリックして [プロパティ] を選択します。

入力のコピーを作成するには、リストから入力を選択し、右クリックして [複製...] を選択します。

[出力] ウィンドウ

[出力] ウィンドウには、全ての出力フォルダーのリストが表示されます。バッチを作成して送信するには、少なくとも1つの出力フォルダーを定義する必要があります。

RICOH

TotalFlow Optimizer

Administrator

?

ジョブ

注文

バッチ

フィルター

アラート3

ログ

管理

ジョブ検索

アクション

入力

出力

機能

プロダクション設定

バックアップ/リストア

カスタム属性

カスタム状態

カスタム場所

その他

ユーザー

デフォルト納期時刻

保持

サーバー

バッチ番号

ファイルネーミング

API Keys

診断

出力 (2)

新しい出力

名前	状況	速度 (時)	概要	出力種類	出力先
out 1	有効	--		PDF/PostScript	C:\110
out 2	有効	--		PDF/PostScript	C:\110

ジョブ

合計18

本日納期0

明日納期1

納期経過1

[名前]

出力ホットフォルダー名です。

[状況]

【状況】列には出力ホットフォルダー状態の【有効】または【無効】が表示されます。ホットフォルダーを右クリックして【有効にする】または【無効にする】を選択し、状況を切り替えることができます。

[速度]

指定された場合、このフィールドは出力速度を【フィート/時】または【シート数/時】で表示します。

↓ 補足

インストール時の選択項目によって、測定単位は異なります。

[概要]

出力ホットフォルダーの簡単な概要です。

[出力種類]

【PDF/PostScript】、【PDF/PostScriptおよびCSV】、【PDF/PostScriptおよびXML】、【TotalFlow MIME】、【PDF/PostScriptおよびRPDリストファイル】、【HTTP経由JMF】、【TotalFlow HTTP経由JMF】から出力種類を指定します。

↓ 補足

〔PDF/PostScriptおよびXML〕、〔PDF/PostScriptおよびCSV〕、〔TotalFlow MIME〕、〔PDF/PostScriptおよびRPDリストファイル〕、〔HTTP経由JMF〕、〔TotalFlow HTTP経由JMF〕の各オプションは、TotalFlow Optimizer XML出力機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。

〔出力先（ディレクトリーパス）〕

出力ホットフォルダー先を指定します。

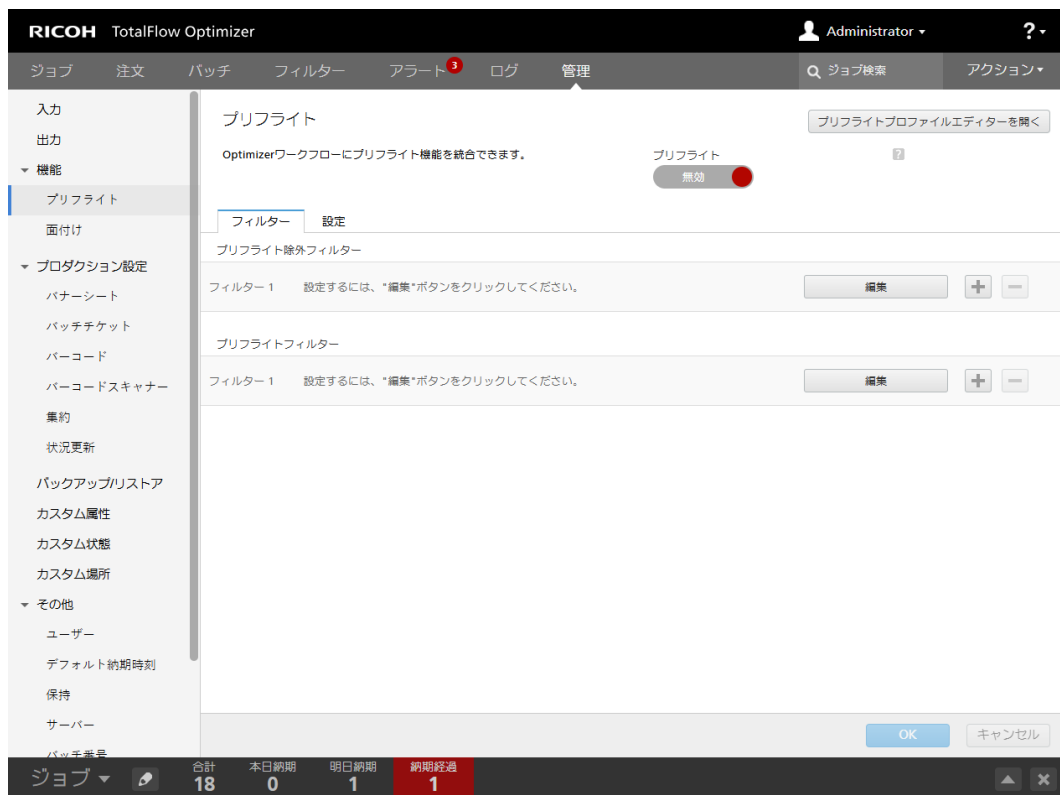
ホットフォルダーを削除するには、リストからホットフォルダーを選択し、右クリックして〔削除...〕を選択します。確認ウィンドウが表示されます。〔はい〕をクリックし、ホットフォルダーを削除するか、〔いいえ〕をクリックし、アクションをキャンセルします。

出力編集ダイアログを開き、出力プロパティを編集するには、リストから出力をクリックするか、右クリックして〔プロパティ〕を選択します。

出力のコピーを作成するには、リストから出力を選択し、右クリックして〔複製...〕を選択します。

〔機能〕 機能タブ

〔プリフライト〕 機能



〔プリフライト〕機能では、TotalFlow Optimizerワークフローにプリフライト情報を統合できます。この機能は、TotalFlow Optimizerプリフライト機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。

〔有効にする〕または〔無効にする〕ボタンをクリックすると、TotalFlow Optimizerシステムでプリフライトを有効または無効にできます。

↓ 補足

TotalFlow Optimizerシステムがコンピューターにインストールされている場合は、〔プリフライトプロファイルエディターを開く〕をクリックし、プリフライトエディターを起動できます。

1

〔フィルター〕 タブ

〔プリフライト除外フィルター〕

最大20個まで〔プリフライト除外フィルター〕を作成できます。新しいジョブが受信される場合は、TotalFlow Optimizerシステム システムは既存の〔プリフライト除外フィルター〕のいずれかとジョブが一致するかを検証します。ジョブが既存の〔プリフライト除外フィルター〕のいずれかと一致する場合は、プリフライト処理をスキップし、ジョブ状態が〔バッチ待ち〕に設定されます。

〔プリフライトフィルター〕

最大20個まで〔プリフライトフィルター〕を作成できます。新しいジョブが受信され、〔プリフライト除外フィルター〕と一致しない場合は、TotalFlow Optimizerシステムは既存の〔プリフライトフィルター〕のいずれかとジョブが一致するかを検証します。

新しいプリフライトフィルターを追加または削除できます。追加ボタン () をクリックし、新しいプリフライトフィルターを追加します。削除ボタン () をクリックし、リストからプリフライトフィルターを削除します。

〔編集〕をクリックし、プリフライトフィルタープロパティを設定します。〔プリフライトフィルター〕 詳細ダイアログが表示されます。

〔フィルター名〕

フィルター名を指定できます。

〔概要〕

フィルター概要を入力できます。

〔ジョブプロパティ〕 タブで、受信ジョブの選択に使用するジョブ属性を指定できます。

〔一致〕

以下のオプションから1つ選択します。

- 〔すべての属性("and"論理)〕
- 〔任意の属性("or"論理)〕

〔すべての属性("and"論理)〕を選択する場合は、〔ジョブプロパティ〕 タブで設定された全ての属性と一致するジョブがフィルターによって選択されます。〔任意の属性("or"論理)〕を選択する場合は、指定した属性のいずれかと一致するジョブが選択されます。

フィルターの条件を設定するには、以下の操作を行います。

1. 1番目のリストから属性種類を選択します。

2. 2番目のリストから演算子を選択します。
3. 選択した属性種類の値を入力して条件を完成させます。

属性を選択すると、フィルターの条件として使用できます。属性を追加するには、[条件を追加] ボタン () をクリックします。コンポーネント条件から属性を削除するには、[条件を削除] ボタン () をクリックします。

特定の日時でジョブをフィルターに掛ける場合は、最初のリストから[納期日] 属性を選択します。2番目のリストから演算子として[次の値と等しい] または[次の値以下] を選択します。

↓ 補足

演算子で[次の値と等しい] を選択した場合は、指定した値の日付のみを設定できます。

特定の日時を設定するには、**カレンダー**ボタン () をクリックします。[納期] ダイアログボックスが表示されます。

1. 使用可能なオプションを1つ選択または入力し、ジョブの期限の日時を設定します。



↓ 補足

指定した値は特定日を表わし、毎週は繰り返されません。

2. [OK] をクリックします。

[プリフライトフォルダー] タブは、外部プリフライトが使用されるときにのみ表示されます。

[PitStopサーバー]

リストからプリフライトホットフォルダーを選択します。フィルター条件と一致する全ての受信ジョブは、外部プリフライト処理用に選択したプリフライトホットフォルダーに送信されます。

[設定] タブ

内部プリフライトには、次の[設定] が用意されています。

[同時プリフライト処理]

複数のプリフライトの処理を同時に実行できます。リストからプリフライトの処理数を選択します。

★ 重要

1. 最大同時プリフライト処理数は、コンピュータで使用可能なCPUコア数に制限されます。複数のプリフライト処理を同時に実行するには、推奨ハードウェアが構成されていることを確認してください。
2. TotalFlow Optimizer用にCPUコアが1つ予約されています。TotalFlow Optimizerと同じコンピュータでUltimate Impostrip®を実行する場合は、CPUコアが1つ必要です。

[プロファイル/アクション] タブで、受信ジョブで使用するプリフライトプロファイルとアクションを指定できます。

[プロファイルを適用]

[参照...] をクリックし、既存のプロファイルのリストからプリフライトプロファイルを選択します。

[アクションリスト]

メニューから、受信ジョブに適用する [アクションリスト] を選択します。[アクションリストを選択] ウィンドウを開くには、 をクリックします。[アクションリストを選択] ウィンドウでは、既存のアクションリストを編集したり、新しいアクションリストを作成したりできます。

[プロファイルとアクションリスト]

[プリフライトプロファイルを更新] をクリックし、プリフライトデータベースからプロファイルとアクションのリストを更新します。

↓ 補足

1. [プロファイル/アクション] タブは [プリフライトフィルター] でのみ使用できます。
2. プリフライト処理を実行するには、[プリフライトプロファイル] または [プリフライトエラーアクションリスト] を指定してください。

外部プリフライトには、次の [設定] が用意されています。

TotalFlow Optimizer内部プリフライトソフトウェアまたは外部プリフライトソフトウェアで切り替えることができます。

外部プリフライトまたは内部プリフライトに切り替える前に、後で参照できるように、[管理] → プリフライトタブから現在の設定の詳細を保存してください。

外部プリフライトソフトウェアに切り替えるには、以下の操作を行います。

1. [プログラムファイル] → [Ricoh] → [TotalFlow Optimizer] → [bin] にアクセスします。
2. switch- preflight.bat ファイルスクリプトを右クリックし、管理者として実行を選択します。警告メッセージが表示されます。

3. 内部プリフライトを使用している場合は、次のメッセージの後にYesと入力します。現在プリフライト機能は、内部プリフライトソフトウェアを使用しています。外部プリフライトソフトウェアを切り替えますか？(yes/no)?

↓ 補足

1

- [管理] → プリフライトタブには、現在の構成に基づいて適切な設定が表示されます。
- プリフライト構成を切り替える場合は、プリフライト機能が無効になります。切り替えた後は、機能を再度有効にしてください。
- プリフライト構成を切り替えると、TotalFlow Optimizerが再起動します。

外部PitStop Serverを使用して、TotalFlow Optimizerワークフローにプリフライト情報を統合できます。ホットフォルダーは、PitStop Serverで定義し、Windows共有システムで共有してから、TotalFlow Optimizerシステムの[管理]セクションで定義してください。

[OptimizerとPitStopマッピング]

PitStop Serverを使用するときは、リモートでフォルダーを探すためにTotalFlow Optimizerをリダイレクトするように、ホットフォルダーのマッピングが必要です。

[プリフライトホットフォルダー]

PitStop Serverで定義された各ホットフォルダーと一致するようにホットフォルダーを設定できます。

プリフライトホットフォルダーを追加または削除できます。 ボタンをクリックし、新しいプリフライトホットフォルダーを追加します。 ボタンをクリックし、リストからプリフライトホットフォルダーを削除します。

プリフライトホットフォルダーを設定するには、[編集] ボタンをクリックします。[新しいプリフライトホットフォルダー] 詳細ダイアログが表示されます。

[ホットフォルダー名]

ホットフォルダー名を指定できます。

[入力フォルダー]

[参照...] をクリックし、TotalFlow Optimizerがこのホットフォルダー構成を使用してプリフライトが必要なファイルをコピーする場所を選択します。

[レポート]

[成功時]

[参照...] をクリックし、プリフライトエラーがなく完了したときのプリフライトレポートの保存先を選択します。

[エラー時]

[参照...] をクリックし、プリフライトエラーがある場合のプリフライトレポートの保存先を選択します。

[処理された文書]

[成功時]

[参照...] をクリックし、プリフライトエラーがない場合に処理された（プリフライト）PDFの保存先を選択します。

[エラー時]

[参照...] をクリックし、プリフライトエラーが識別された場合に処理された（プリフライト）PDFの保存先を選択します。

変更を保存するには、[OK] をクリックします。変更を破棄するには、[キャンセル] をクリックします。

★ 重要

1. プリフライトホットフォルダーを管理するときは、プリフライトフォルダーまたは入力によって参照されるプリフライトホットフォルダーを削除できません。
2. PitStop Server側の変更はTotalFlow Optimizerで繰り返される必要があります。変更が繰り返されない場合は、ソリューションの動作が停止します。
3. 変更が繰り返されない場合は、ソリューションの動作が停止します。ホットフォルダーの設定が変更されると、[管理] 設定にある以前の全てのデータが格納されます。内部プリフライトまたは外部プリフライトに切り替わる場合は、前回の構成にアクセスできます。
4. PitStop Serverホットフォルダーを設定します。
 1. 処理セクションで、デフォルトのファイルネーミング設定を修正しないでください。
 2. ユーザーは処理セクションでPDFとXMLのレポート生成を有効にしてください。
 3. フォルダーセクションで基本設定オプションを使用してホットフォルダーを設定してください。
5. **Enfocus PitStop Server**のバージョン番号を表示するには、以下の操作を行います。
 1. [管理者] セクション、[プリフライト] タブに移動して有効にし、[プリフライト] 機能を適切に設定します。
 2. [ジョブ] タブでジョブをダブルクリックし、ジョブプロパティーを開きます。[プリフライト] タブで、[プリフライトレポート] フィールドの文書を開きます。レポートがない場合は、[手動プリフライトを実行] ボタンをクリックします。
 3. 生成されたプリフライトレポートで、[一般ファイル情報] セクションの各ページのフッターの**Enfocus PitStop Server**バージョンを参照します。

Enfocus PitStop Serverの設定方法については、<https://www.enfocus.com/en/support/manuals/pitstop-pro-manuals>を参照してください。

↓ 補足

1. フィルター条件に基づいて、受信ジョブを異なるPitStop Serverホットフォルダーに転送するフィルターを定義できます。
2. 内部または外部プリフライトの特定のモードで作成されたフィルターは、設定されたモードでのみ表示されます。

〔面付け〕 機能

Ultimate Impostrip®アプリケーションを使用してTotalFlow Optimizerシステムからジョブに面付けを適用できます。

Ultimate Impostrip®をTotalFlow Optimizerと接続する方法は、P.104 「TotalFlow Optimizerと接続するUltimate Impostrip®を設定する」を参照してください。

〔Ultimate Impostrip®〕

〔有効〕 または 〔無効〕 ボタンをクリックすると、TotalFlow Optimizerシステムの面付けを有効または無効にできます。

〔マッピング〕

〔OptimizerからImpostripへのマッピング(Impostrip®がリモートの場合)〕

Ultimate Impostrip®がTotalFlow Optimizerサーバーとは別のコンピューターにインストールされているときは、ファイルのマッピングを設定してください。TotalFlow OptimizerはリモートでUltimate Impostrip®フォルダーを検索できません。

↓ 補足

TotalFlow OptimizerサーバーとUltimate Impostrip®が同じコンピューターにインストールされている場合は、〔コロケーション〕をクリックします。ファイルマッピングルールを自動的に適用します。

性能をより良くするために、Ultimate Impostrip®とTotalFlow Optimizerは異なるサーバーにインストールすることを推奨します。

[Ultimate Impostrip® バージョン]

使用するUltimate Impostrip®のバージョンを選択します。

[2019 1.0以降 (新世代)] を使用するときには、[サーバーアドレス] および [ポート] フィールドが使用できます。ホスト名またはIPアドレス、および Ultimate Impostrip®サーバーのポートを入力します。

[10以前 (レガシーバージョン)] を使用するときには、[Ultimate Impostrip® ルートフォルダー (ディレクトリーパス)] が使用できます。

ファイルパスを入力するか、[参照...] をクリックして、Ultimate Impostrip®がインストールされているフォルダーを選択します。

[Ultimate Impostrip®とOptimizer間でマッピング]

各ファイルにはTotalFlow OptimizerサーバーとUltimate Impostrip®サーバーに対応するローカルとリモートフォルダーを指定してください。

- [XMLチケット] : TotalFlow OptimizerでXMLチケットファイルを生成するファイルパスを指定します。TotalFlow Optimizerシステムで面付け用に送信されたPDFジョブファイルごとにXMLチケットファイルが生成されます。
- [監査ログ] : TotalFlow OptimizerがそれぞれのPDFジョブファイルに対してUltimate Impostrip®が生成した監査ログファイルを確認するファイルパスを指定します。
- [エラーログ] : TotalFlow OptimizerがそれぞれのPDFジョブファイルに対してUltimate Impostrip®が生成したエラーログを確認するファイルパスを指定します。
- [面付けされるPDF] : TotalFlow Optimizerで面付け用に送信されたPDFジョブファイルを配置するファイルパスを指定します。
- [面付け済みPDF] : TotalFlow OptimizerがUltimate Impostrip®が生成した面付け済みのPDFジョブファイルを確認するファイルパスを指定します。

[Optimizer先] フィールドで、[Impostrip®サーバー先] フォルダーがマップされているローカルファイルパスを入力するか、[参照...] をクリックしてリモートのフォルダーに手動でマップします。

[Impostrip®サーバー先] フィールドで、Ultimate Impostrip®がインストールされているコンピューターからそれぞれのフォルダーへのファイルパスを入力します。[XMLチケット] フォルダー、[監査ログ] フォルダー、[エラーログ] フォルダーの [Impostrip®サーバー先] の情報は、Ultimate Impostrip®から自動的に取得されます。

[タイマー]

[面付けタイマー]

時間と分の数字を指定することで面付けに送信されたバッチのタイマーを設定できます。面付けが完了する前にタイマーが切れた場合は、バッチは[面付けエラー] 状態になります。面付けは処理が終了するまで続行されます。タイマーを設定しない場合は、バッチの面付けの時間制限はありません。

[フィルター]

入力または手動注文送信経由で受信ジョブを処理する面付けフィルターを作成できます。[Ultimate Impostrip®フォルダー] ジョブ属性が指定されていないジョブのみが面付けフィルターで処理されます。

[面付け除外フィルター]

最大20個まで[面付け除外フィルター]を作成できます。新しいジョブが受信される場合は、TotalFlow Optimizerシステムシステムは既存の[面付け除外フィルター]のいずれかとジョブが一致するかを検証します。ジョブが[面付け除外フィルター]と一致する場合は、**Impostrip Imposition Folder**設定は[面付けしない]に設定されます。

[面付けフィルター]

最大20個まで[面付けフィルター]を作成できます。新しいジョブが受信され、[面付け除外フィルター]と一致しない場合は、TotalFlow Optimizerシステムは既存の[面付けフィルター]のいずれかとジョブが一致するかを検証します。

新しい面付けフィルターを追加または削除できます。**フィルターの追加ボタン** () をクリックし、新しい面付けフィルターを追加します。**フィルターを削除ボタン** () をクリックし、リストから面付けフィルターを削除します。

[編集] をクリックし、面付けフィルタープロパティを設定します。[面付けフィルター] 詳細ダイアログが表示されます。

[フィルター名]

フィルター名を指定できます。

[概要]

フィルター概要を入力できます。

[ジョブプロパティ] タブで、受信ジョブの選択に使用するジョブ属性を指定できます。

[一致]

以下のオプションから1つ選択します。

- [すべての属性("and"論理)]
- [任意の属性("or"論理)]

[すべての属性("and"論理)] を選択する場合は、[ジョブプロパティ] タブで設定された全ての属性と一致するジョブがフィルターによって選択されます。[任意の属性("or"論理)] を選択する場合は、指定した属性のいずれかと一致するジョブが選択されます。

フィルターの条件を設定するには、以下の操作を行います。

1. 1番目のリストから属性種類を選択します。
2. 2番目のリストから演算子を選択します。
3. 選択した属性種類の値を入力して条件を完成させます。

属性を選択すると、フィルターの条件として使用できます。新しい属性を追加するには、[条件を追加] ボタン () をクリックします。コンポーネント条件から属性を削除するには、[条件を削除] ボタン () をクリックします。

特定の日時でジョブをフィルターに掛ける場合は、最初のリストから [納期日] 属性を選択します。2番目のリストから演算子として [次の値と等しい] または [次の値以下] を選択します。

↓ 補足

演算子で [次の値と等しい] を選択した場合は、指定した値の日付のみを設定できます。

特定の日時を設定するには、以下の操作を行います。

1. カレンダーボタン () をクリックします。この [納期] ダイアログボックスが表示されます。使用可能なオプションを1つ選択または入力し、ジョブの期限の日時を設定します。



↓ 補足

指定した値は特定日を表わし、毎週は繰り返されません。

2. [OK] をクリックします。

[面付け] タブで受信ジョブで使用するジョブ属性を指定します。ジョブが出力先を検索するときに、面付け設定が適用されます。

[Ultimate Impostrip®フォルダー]

TotalFlow Optimizerで面付けされるジョブを送信するフォルダー名を指定できます。このフィルターからバッチを作成するときに全てのジョブに面付けが適用されます。

リストからホットフォルダーを選択するか、ホットフォルダー名を入力します。ホットフォルダーのリストはUltimate Impostrip®アプリケーションだけで編集できます。Ultimate Impostrip®を使用してホットフォルダーを追加または削除できます。

↓ 補足

【Ultimate Impostrip®フォルダー】をローカルで設定する場合は、Program Files にパスを保存しないでください。

[面当たりのページ数]

用紙の片面のページ数です。片面当たりのページ数を指定してください。このフィールドは必須です。

[面付け]

各ジョブに適用する面付け種類を指定します。リストから既存の値を選択するか、カスタム値を入力します。

[カスタムプロパティ] タブ

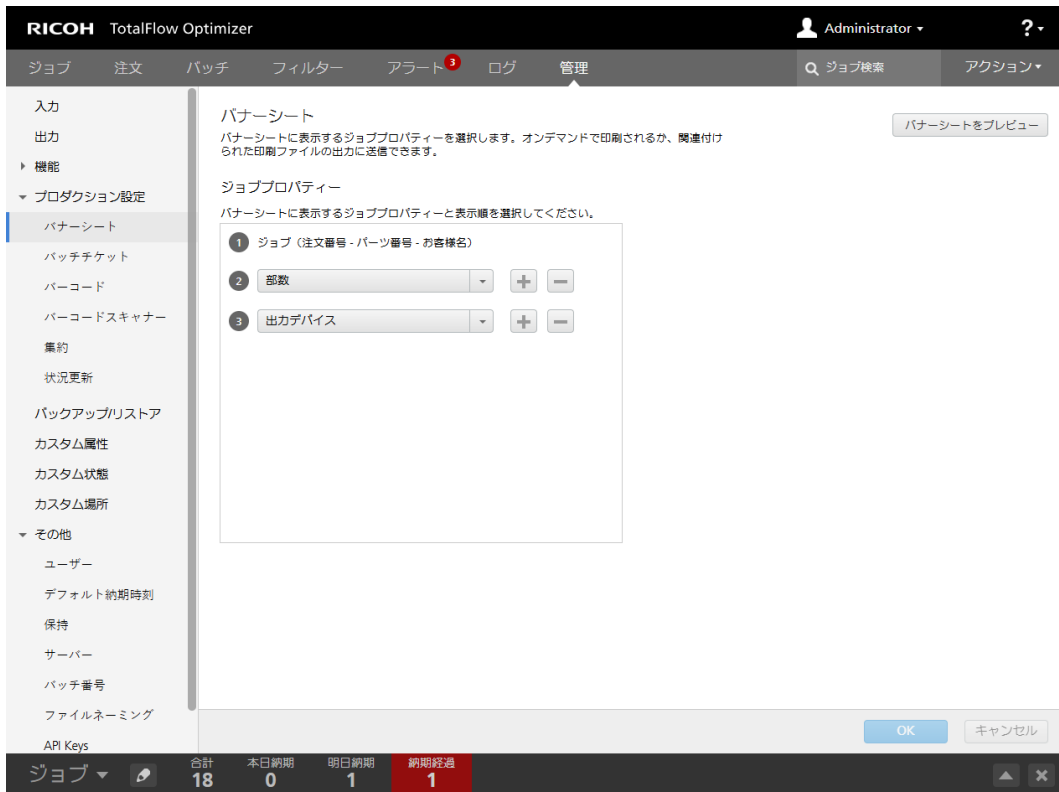
面付け用に送信されたPDFジョブファイルには、対応するXMLチケットファイルにジョブプロパティを追加できます。TotalFlow OptimizerジョブデータはUltimate Impostrip®®にエクスポートされ、カスタムデータフィールドとして使用されます。詳しくは、Ultimate Impostrip®®マニュアルを参照してください。

リストにプロパティを追加するには、プロパティの追加ボタン（）をクリックします。リストからプロパティを削除するには、プロパティの削除ボタン（）をクリックします。

[プロダクション設定] タブ

[バナーシート] ウィンドウ

各ジョブまたは集約ジョブのバナーシートに表示される内容を設定できます。



RICOH TotalFlow Optimizer Administrator ?

ジョブ 注文 バッチ フィルター アラート 3 ログ 管理

ジョブ検索 アクション

バナーシート

バナーシートに表示するジョブプロパティを選択します。オンデマンドで印刷されるか、関連付けられた印刷ファイルの出力に適合できます。

バナーシートをプレビュー

ジョブプロパティ

バナーシートに表示するジョブプロパティと表示順を選択してください。

- 1 ジョブ (注文番号・パーツ番号・お客様名)
- 2 部数
- 3 出力デバイス

OK キャンセル

ジョブ 合計 18 本日納期 0 明日納期 1 納期経過 1

バナーシートに含めるジョブプロパティを選択します。各ジョブファイルの個別のバナーシートPDFファイルを作成し、ジョブファイルに統合できます。バナーシートはオンデマンドで印刷するか、関連付けられた印刷ファイルとともに出力デバイスに送信できます。

リストからジョブプロパティを選択できます。新しいジョブ属性を追加するには、「この下に行を追加」ボタン（）をクリックします。ジョブ属性を削除するには、「この行を削除」ボタン（）をクリックします。

行の位置を変更するには、移動ボタン（）をクリックし、選択項目をドラッグします。

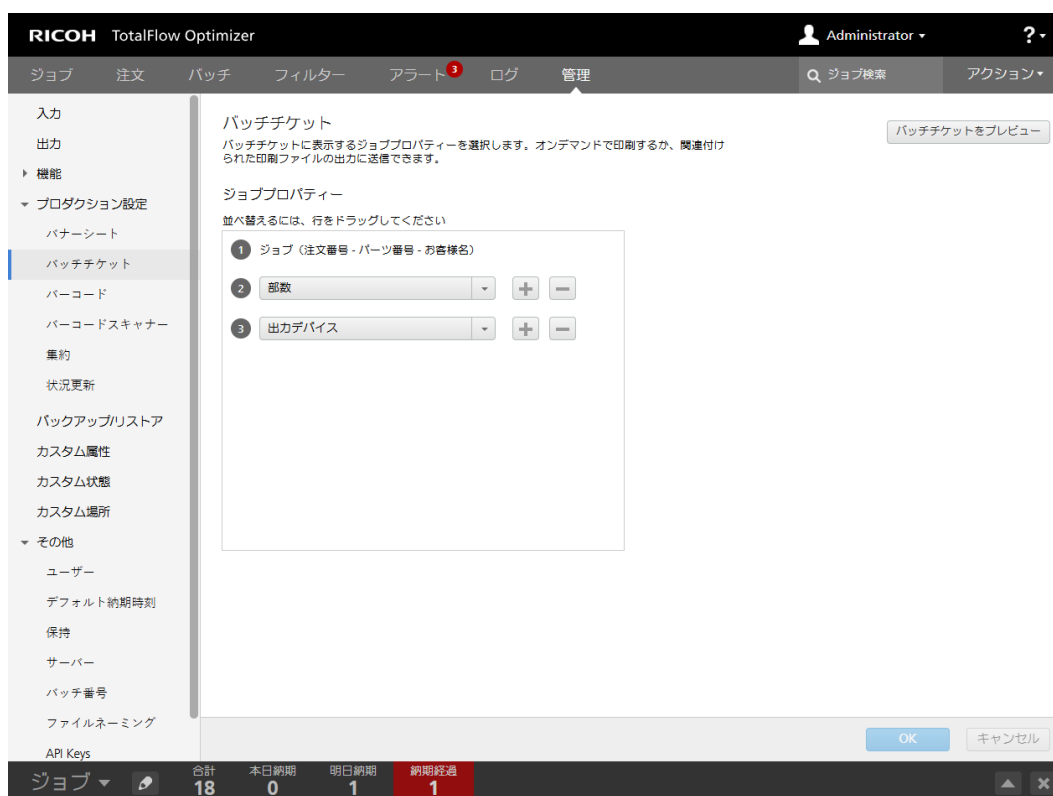
「バナーシートをプレビュー」をクリックすると、選択したジョブプロパティを含むジョブバナーシートのプレビューが表示されます。

「バナーシート」設定を保存するには、「OK」をクリックします。

入力した情報を破棄するには、「キャンセル」をクリックします。

「バッチチケット」ウィンドウ

バッチチケットに表示するジョブプロパティを選択できます。バッチチケットはオンデマンドで印刷するか、関連付けられた印刷ファイルとともに出力デバイスに送信できます。



バッチチケットの内容を設定するには、「ジョブプロパティ」リストからプロパティを追加または削除できます。新しいジョブプロパティを追加するには、「この下に行を追加」ボタン（）をクリックし、メニューから値を選択します。ジョブプロパティを削除するには、「この行を削除」ボタン（）をクリックします。

リストのジョブプロパティのシーケンスを変更できます。行の位置を変更するには、移動ボタン（)をクリックし、選択項目をドラッグします。

Webブラウザウィンドウでバッチチケットのプレビューを表示するには、[バッチチケットをプレビュー] をクリックします。

詳しくは、P.263「[バッチチケットを印刷する](#)」を参照してください。

[バッチチケット] 設定を保存するには、[OK] をクリックします。

入力した情報を破棄するには、[キャンセル] をクリックします。

[バーコード] ウィンドウ

[バーコード]

カスタムバーコードを追加すると、バッチチケットとバナーシートに表示できます。

[バッチ番号バーコード]

バッチチケットとバナーシートにバッチ番号の値をバーコードとして追加するには、[有効にする] にチェックを付けます。

[カスタムジョブバーコード]

バッチチケットとバナーシートにカスタムジョブプロパティをバーコードとして追加するには、[有効にする] にチェックを付けます。

新しいジョブ属性を追加するには、「この下に行を追加」ボタン（)をクリックします。ジョブ属性を削除するには、「この行を削除」ボタン（)をクリックします。行の位置を変更するには、移動ボタン（)をクリックし、選択項目をドラッグします。ジョブプロパティは最大3つまで追加できます。

[プロパティ区切り文字]

リストから文字を選択し、選択したジョブプロパティの値を区切ります。使用可能な区切り文字は、以下のとおりです。

- [-] : ハイフン
- [+] : プラス
- [%] : パーセント
- [\$] : ドル
- [.] : ピリオド

[バーコードタイプ]

以下のタイプから1つ選択します。

- [CODE39]
- [QRコード]
- [データマトリックスコード]

 補足

Code 39を使用して生成されるバーコードは最大20文字あります。拡張文字に対応するには、QRコードまたはデータマトリックスコードを使用します。

〔バーコード〕設定を保存するには、〔OK〕をクリックします。

入力した情報を破棄するには、〔キャンセル〕をクリックします。

〔バーコードスキャナー〕ウィンドウ

TotalFlow Optimizer内部で使用するネットワークバーコードスキャナーを定義し、スキャンされたジョブまたはバッチの状態/場所を変更できます。

〔スキャナー〕タブ

〔スキャナー〕タブには、すべてのバーコードスキャナーのリストが表示されます。バーコードスキャナーのプロパティを表示したり、スキャナーを無効または削除したりするには、リストからバーコードスキャナーを選択して右クリックします。複数を選択する場合は、〔削除...〕オプションのみを使用できます。

The screenshot shows the 'Barcode Scanner' management interface in the RICOH TotalFlow Optimizer. The top navigation bar includes 'ジョブ' (Jobs), '注文' (Orders), 'バッチ' (Batches), 'フィルター' (Filter), 'アラート' (Alerts), 'ログ' (Log), and '管理' (Management). The left sidebar lists various settings, with 'バーコードスキャナー' (Barcode Scanner) selected. The main content area is titled 'バーコードスキャナー' and contains a table with the following columns: '名前' (Name), '状況' (Status), '接続' (Connection), 'IP', and '概要' (Summary). The table currently shows 0 items. A '+ 新規バーコードスキャナー' (New Barcode Scanner) button is located on the right. The bottom status bar displays job statistics: 'ジョブ' (Jobs) 18, '本日納期' (Today's Due) 0, '明日納期' (Tomorrow's Due) 1, and '納期経過' (Due Date Passed) 1.

手動で新しいバーコードスキャナーを追加するには、〔スキャナー〕タブの右側で〔新型バーコードスキャナー〕をクリックします。〔新型バーコードスキャナー〕ダイアログが開きます。

必須情報を入力します。

[名前]

新しいバーコードスキャナーの名前を入力します。

[IP]

バーコードスキャナーのIPアドレスまたはDNS名を指定します。

[ポート]

バーコードスキャナーのポート番号を指定します。

[テスト接続]

[今すぐテスト] をクリックして、使用するバーコードスキャナーが使用可能かどうかを確認します。

[ジョブ状態]

リストからシステムで定義された状態またはカスタムで作成した状態を選択します。

[場所]

使用可能なカスタム場所のリストから値を選択します。

[状況]

[有効] ボタン ( 有効) または [無効] ボタン ( 無効) をクリックし、2つの状態を切り替えます。

[概要]

新しいバーコードスキャナーの簡単な概要を入力します。

新しいバーコードスキャナーを作成するには、[OK] をクリックします。

〔新型バーコードスキャナー〕パネルを閉じて、入力した情報を破棄するには、〔キャンセル〕をクリックします。

バーコードスキャナーを削除するには、〔削除...〕をクリックします。

↓ 補足

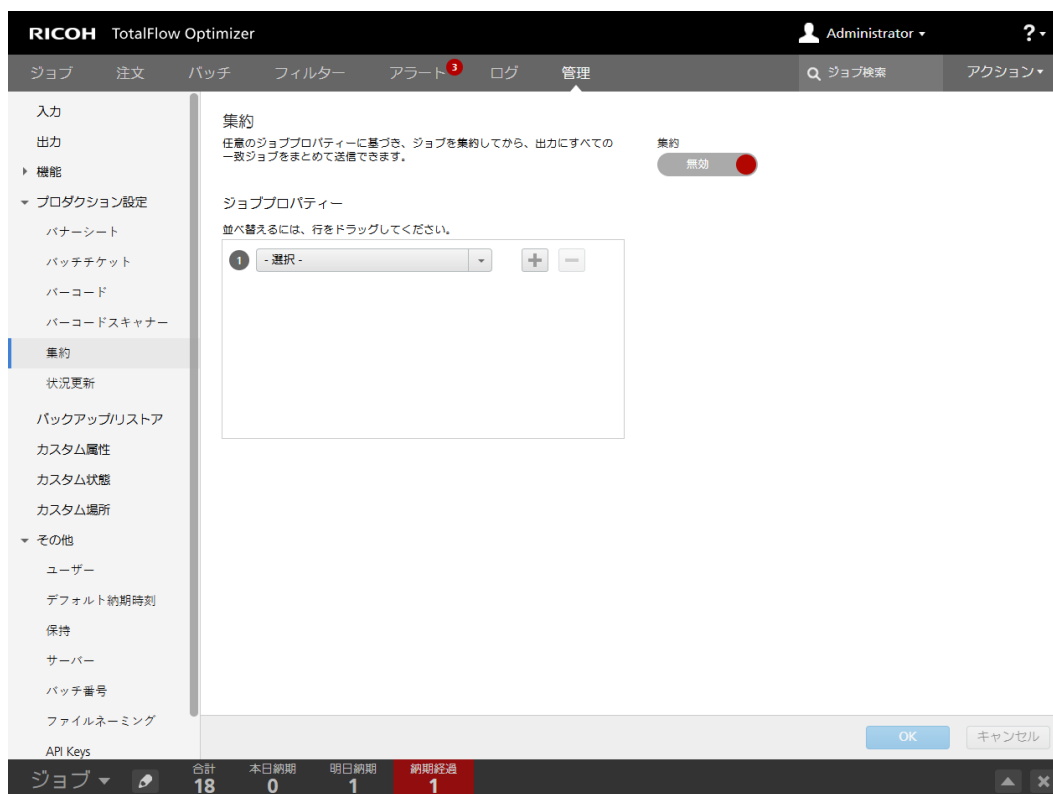
バーコードのスキャンが正しくない場合は、〔新型バーコードスキャナー〕のアラートトリガーを作成できます。アラートを作成または編集するには、P.43「アラートセクション」を参照してください。

TotalFlow Optimizerで使用されるネットワークバーコードスキャナーデバイスの仕様は以下のとおりです。

- 転送プロトコルとしてTCPを使用します。
- 接続されると、テキスト行（CRで終了）ごとに1スキャンした、バーコードスキャナーによるバッファのスキャンが送信されます。
- バーコードスキャナーから受け取ったメッセージには、スキャン内容に関するメッセージが含まれます。プレフィックスやサフィックスはありません。
- TotalFlow Optimizerからの実装形態は、xが16進数字（0..9、A..F）を意味するJxxx..xまたはBxxx..xでメッセージが始まる場合のみ反応します。
- TotalFlow Optimizerは、バーコードスキャナーのIPアドレスまたはDNS名へのTCP/IPを介して、バーコードスキャナーベースに直接接続されます。

集約ウィンドウ

〔集約〕ウィンドウでは、任意のジョブプロパティに基づいてジョブを集約できます。次に、一致する全てのジョブをまとめて出力に送信できます。



1 [有効] ボタン () または [無効] () ボタンをクリックすると、[集約] を有効または無効にすることができます。[集約] 機能のデフォルトの状態は [無効] です。

[集約] ウィンドウで、最大5つまでジョブプロパティーを選択し、同一ジョブを特定します。以下のジョブプロパティーから選択できます。

- [概要]
- [ISBN]
- [ジョブファイル]
- [ジョブ名]
- [商品種類]
- [SKU]
- [カスタム属性]

新しいジョブプロパティーを追加するには、 をクリックします。ジョブプロパティーを削除するには、 をクリックします。並び替えるには、行をドラッグします。

ジョブをまとめて集約するかどうかを判断するときには、[管理] タブで選択されたプロパティーと値を処理するときに、“or”論理に従います。

 補足

新しいカスタムジョブ属性を作成するには、P.72 「[カスタム属性] ウィンドウ」を参照してください。

集約されたジョブを出力に送信するときは、単一ファイルで送信してください。シーケンスで最初のジョブのジョブファイルを送信してください。

集約ジョブのファイル名は次の形式になります。[batch-number]_[sequence-number]_[aggregate property]_[copies].pdf

カスタム変更を保存するには、[OK] ボタンをクリックします。

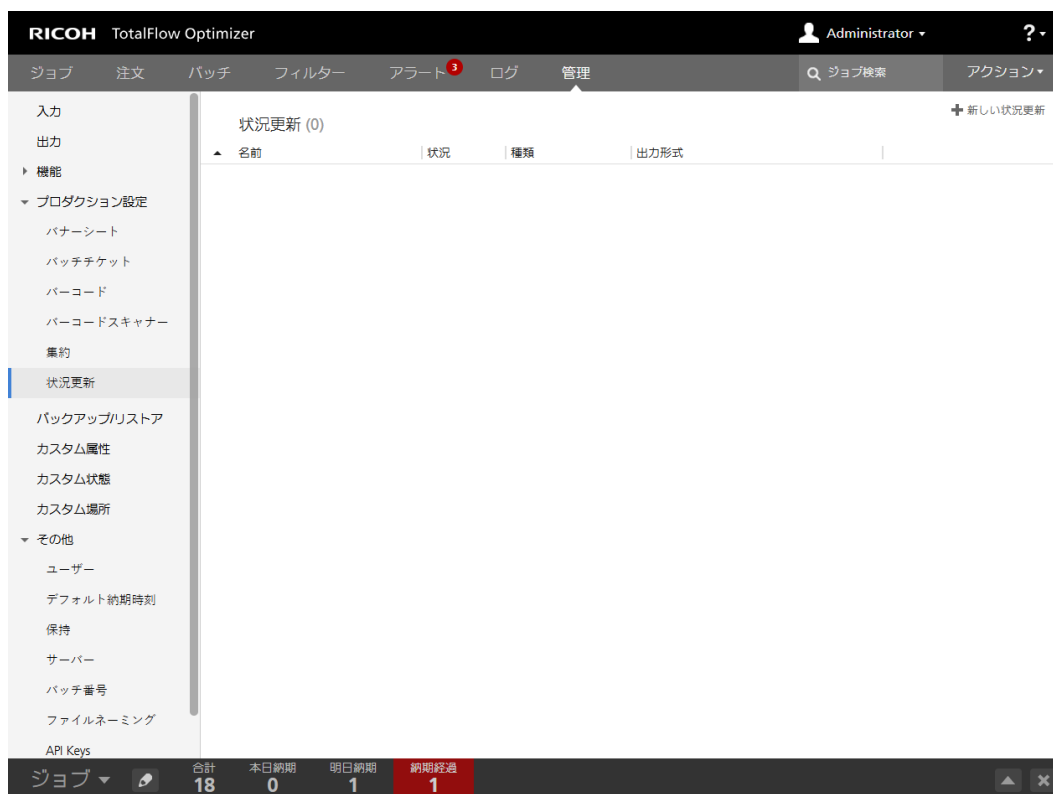
入力した情報を破棄するには、[キャンセル] をクリックします。

↓ 補足

1. [ダッシュボードを展開] ボタン (▲) からダッシュボードを開くと、集約されて出力に送信されたジョブの情報を表示できます。[出力/印刷待ち] → [印刷待ち] を選択します。集約ジョブにカーソルを合わせると表示される情報には、集約ジョブが送信された時点の元のデータが表示されます。ダッシュボードから集約ジョブのジョブリストを開くには、ジョブバーを右クリックし、[ジョブを表示] を選択します。ジョブリストに表示されるデータは、ジョブが送信された後のジョブの修正を含むジョブの現在の状態を表します。
2. バッチプロパティダイアログからジョブの集約を有効または無効にできます。集約ジョブを右クリックし、[ファイルを表示...]、[再印刷]、[状態を設定]、[場所を設定] をします。
3. [クイック印刷] ダイアログと [再印刷] ダイアログからもジョブの集約を有効または無効にできます。
4. フィルターレベルでも同様に集約を設定するために、集約を有効にできます。作成したバッチ内で一致するジョブを自動的に集約するようフィルターを設定できます。

[状況更新] ウィンドウ

[状況更新] ウィンドウは、CSVとXMLの出力形式で、注文、ジョブ、バッチの複数の状況更新を表示します。



[状況更新] ウィンドウを表示するには、[管理] → [プロダクション設定] タブをクリックし、[状況更新] ウィンドウを選択します。各状況更新では、以下の情報が利用できます。

[名前]

状況更新名です。

[状況]

ステータスは [有効] または [無効] です。

[種類]

タイプは [注文] 、 [ジョブ] 、 [バッチ] です。

[出力形式]

出力種類には、CSVまたはXMLがあります。

↓ 補足

- 状況のコンポーネントが無効の場合、警告アイコンが状況更新の横に表示されます。

新しい状況更新を作成するには、[新しい状況更新] ボタンをクリックします。[新しい状況更新] ダイアログが表示されます。

ジョブの状態を使用して、XMLまたはCSV状況更新をトリガーできます。XMLまたはCSVファイルには、ジョブ状態を含む全てのジョブ属性が含まれ、管理情報システムで使用できます。新しい状況更新を作成するには、以下の情報が必要です。

[名前]

新しい状況更新名を入力します。このフィールドは必須です。

[状況]

[状況] を有効にするには [有効] ボタン ( 有効) 、無効にするには [無効] ボタン ( 無効) をクリックします。デフォルト状態は [無効] です。

[種類]

[注文] 、 [ジョブ] 、 [バッチ] から新しい状況更新の種類を選択します。

[出力種類]

注文、ジョブまたはバッチ状況の更新に使用するファイル出力の種類を選択します。

- [XML]
- [CSV]

選択した種類と出力種類によって、必要な条件は異なります。

[注文] 種類および**XML**または**CSV**出力種類を選択する場合：

使用可能な注文の状態のリストから、XMLまたはCSVのプロパティファイルのトリガーとして使用する注文の状態を選択します。注文状態が [印刷済み] または他のカスタム状態に変更されると、TotalFlow Optimizerシステムは注文情報を含むXMLまたはCSVファイルを指定された場所へ送信します。XMLまたはCSVファイル名と含まれるジョブ属性が [ファイルネーミング] ウィンドウで選択した言語で表示されます。

[ジョブ] 種類および**XML**または**CSV**出力種類を選択する場合：

使用可能なジョブ状態のリストから、XMLまたはCSVプロパティファイルのトリガーとして使用されるジョブ状態を選択します。ジョブ状態が [印刷済み] または他のカスタム状態に変更されると、TotalFlow Optimizerシステムはジョブ、注文、またはバツ

チ情報を含むXMLまたはCSVファイルを送信します。XMLまたはCSVファイル名と含まれるジョブ属性が「ファイルネーミング」ウィンドウで選択した言語で表示されます。

[バッチ] 種類および**XML**または**CSV**出力種類を選択する場合：

バッチ状態が「送信済み」に変更されると、TotalFlow Optimizerシステムはジョブ、注文、またはバッチ情報を含むXMLまたはCSVファイルを送信します。XMLまたはCSVファイル名と含まれるバッチ詳細が「ファイルネーミング」ウィンドウで選択した言語で表示されます。

[XMLプロパティと場所] または [CSVプロパティと場所]

[サンプルXML]

指定されたXSLTマッピングファイルを使用してCSVファイルに変換される、TotalFlow Optimizer内部で生成されたXMLファイルです。

[マッピングファイル]

既存のbatchTicketSchema.xsdファイルに基づいてXMLまたはCSVファイルを生成するように出力を構成するXSLマッピングファイルを指定します。

[出力XMLファイル拡張子]

ファイルの拡張子を指定します。デフォルトは[.xml]です。ファイル拡張子を変更できません。

[出力先]

パスを入力するか、「参照...」をクリックし、ジョブ情報を含む生成されたXMLまたはCSVファイルの場所を選択します。

[CSV出力]

指定したCSVファイルにフィールド名がある場合は、「最初の行にフィールド名を含む」にチェックを付けます。

[出力]

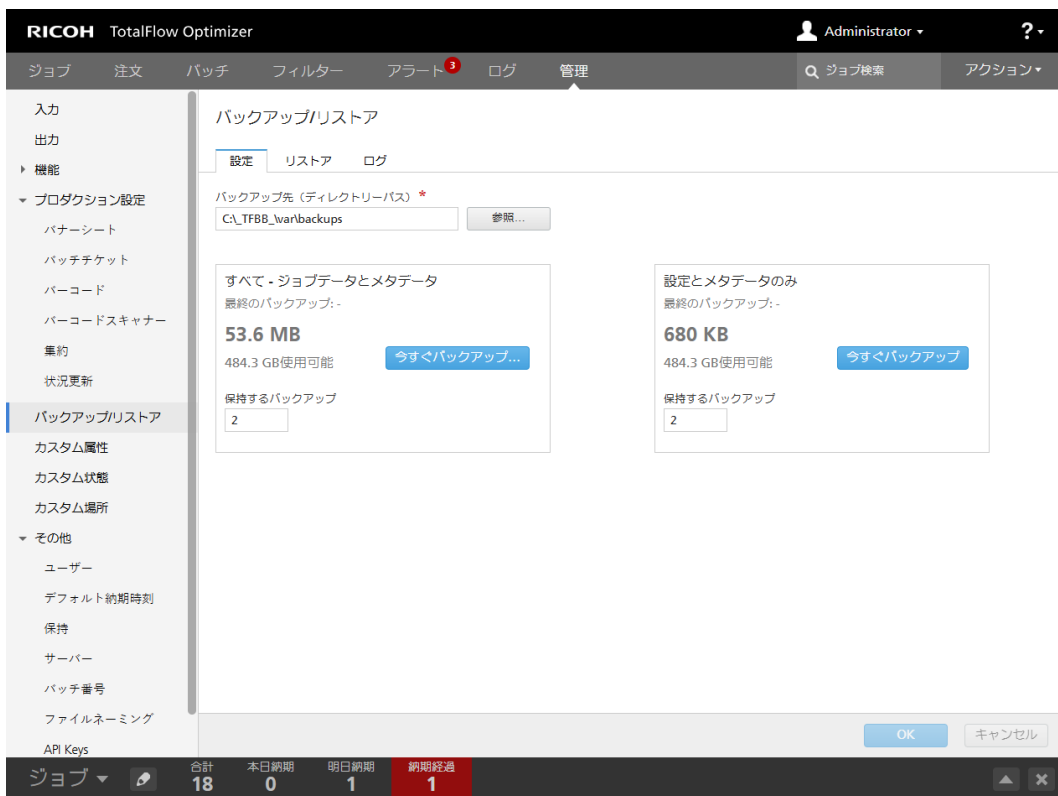
使用可能な出力のリストから、XMLまたはCSVの1プロパティファイルのトリガーとして使用される出力を選択します。バッチ状態が「送信済み」に変更されると、TotalFlow Optimizerシステムはジョブ、注文、またはバッチ情報を含むXMLまたはCSVファイルを送信します。

カスタムの変更を保存するには、「OK」をクリックします。

入力した情報を破棄するには、「キャンセル」をクリックします。

[バックアップ/リストア] ウィンドウ

[バックアップ/リストア] ウィンドウを使用して、TotalFlow Optimizer全てのオブジェクト、ジョブファイル、システム設定をバックアップおよびリストアする方法を説明します。



手動でバックアップし、TotalFlow Optimizerデータをリストアできます。詳しくは、[P. 281「データをバックアップ/リストアする」](#)を参照してください。

〔設定〕 タブ

〔バックアップ先（ディレクトリーパス）〕

TotalFlow Optimizerデータを保存するフォルダーを入力または選択します。

全ての注文、ジョブ、バッチを含む〔すべて - ジョブデータとメタデータ〕または注文、ジョブ、バッチを含まない〔設定とメタデータのみ〕のいずれかで、バックアップの実行を選択できます。各オプションには、最後に実行されたバックアップの日付、選択したデータのサイズ、選択した場所の空きディスク領域、システムで保存されたバックアップ数が表示されます。

〔今すぐバックアップ...〕をクリックし、選択したバックアップを手動で実行します。

↓ 補足

〔すべて - ジョブデータとメタデータ〕のバックアップまたはリストアを選択したときは、システムからログアウトされ、処理が終了するまでログインできません。バックアップまたはリストア処理が完了したときに、進行状況と通知メッセージが表示されます。

〔OK〕をクリックして変更を保存するか、〔キャンセル〕をクリックして変更を破棄し、〔バックアップ/リストア〕ウィンドウを閉じます。

〔リストア〕 タブ

全ての使用可能なバックアップのリストから選択し、TotalFlow Optimizerデータをリストアできます。リストは、以下の列で並び替えることができます。

- [タイムスタンプ] : バックアップの作成日時です。
- [データ] : 保存されたデータの種類です。
- [種類] : 手動またはスケジュール済みのバックアップの種類です。
- [サイズ] : 保存されたデータのサイズです。

リストからバックアップを選択し、[リストア...] をクリックするか、右クリックして [このバックアップからリストア...] を選択します。[手動でバックアップをリストア...] をクリックしてフォルダーを選択すると、手動でもリストアを実行することもできます。

1. [すべて - ジョブデータとメタデータ] のバックアップまたはリストアを選択したときは、システムからログアウトされ、処理が終了するまでログインできません。バックアップまたはリストア処理が完了したときに、進行状況と通知メッセージが表示されます。
2. インストールされているTotalFlow Optimizerシステムと同じ製品バージョンをバックアップする場合にのみ、以前の設定にリストアできます。

[ログ] タブ

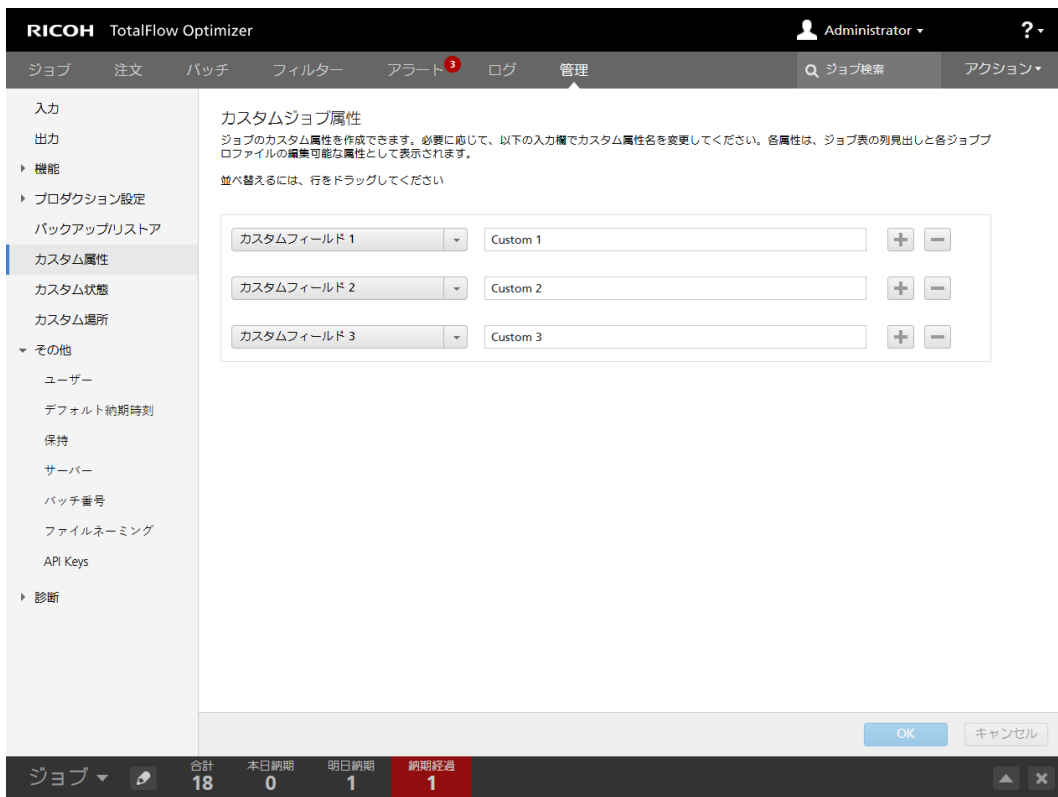
実行された全てのバックアップアクションのリストが表示されます。

- 各アクションの日時
- バックアップ/リストアの種類
- バックアップ/リストアが成功または失敗した場合
- データの種類
- バックアップが失敗した場合は失敗理由

★ 重要

- [設定とメタデータのみ] をリストアするときは、以下の状況でのみ実施するように注意してください。
 - クリーンインストールの後
 - バッチがないとき
 - 選択したメタデータが現在のメタデータの拡張であるとき（例：全ての現在の入力と出力がリストアの必要なバックアップに含まれているとき）
- [設定とメタデータのみ] をリストアした後にシステムエラーが発生しないようにするには、次の要件を満たすことが重要です。
 - 選択されたメタデータで見つかった既存の注文によって要求された入力
 - 選択されたメタデータで見つかった既存のバッチによって要求された出力
 - 選択されたメタデータで見つかった既存のジョブによって要求されたカスタムジョブ属性/状態/場所

[カスタム属性] ウィンドウ



「[カスタム属性] ウィンドウ」で、使用するカスタム属性名を編集できます。システムには最大50個のカスタムジョブ属性があります。各属性は「[ジョブ] ウィンドウ」の列見出し、「[ジョブ] ウィンドウ」、またはジョブ属性を使用する他のダイアログの編集可能属性として表示されます。

新しいカスタム属性を作成するときは、リストから値を選択してから、その新しいカスタム属性名をテキストフィールドに入力します。

↓ 補足

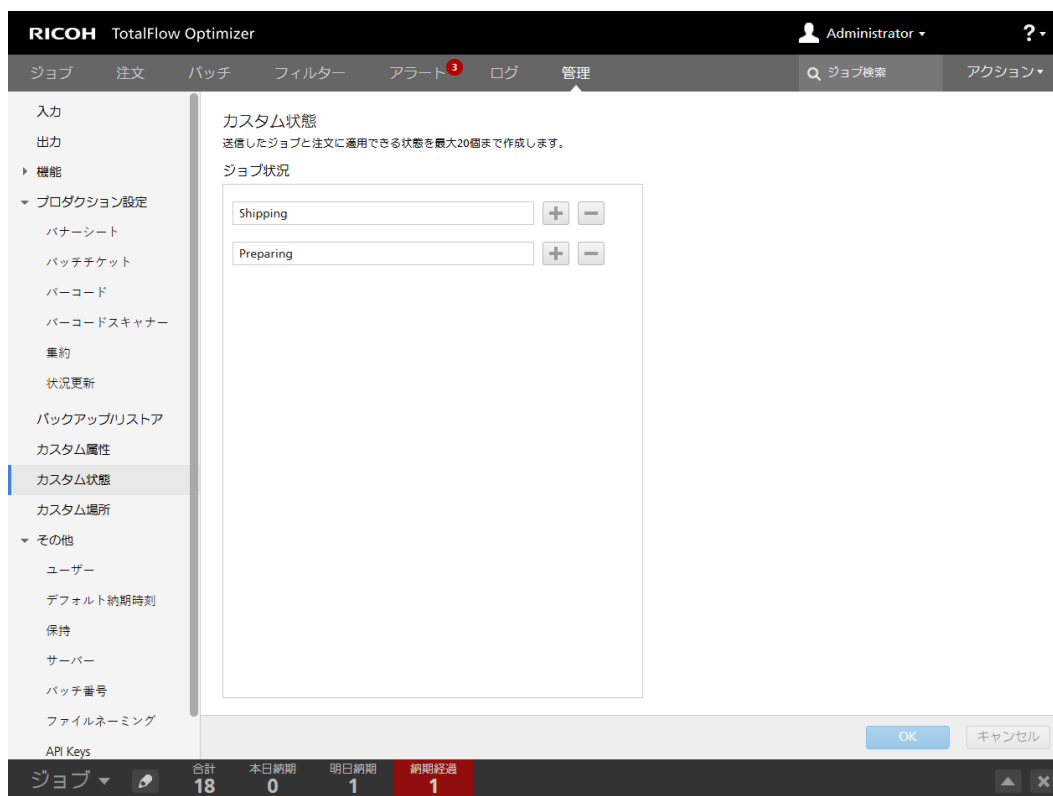
カスタム属性の行をドラッグ&ドロップすると、カスタム属性のリストを並べ変えることができます。

カスタム変更を保存するには、「[OK] ボタン」をクリックします。

入力した情報を破棄するには、「[キャンセル]」をクリックします。

[カスタム状態] ウィンドウ

送信されているジョブにカスタム状態を定義できます。



「カスタム状態」ウィンドウで、システムのジョブにカスタム状態を作成または編集できます。「ジョブ」ウィンドウの列見出し、「ジョブ」ウィンドウの編集可能属性として状態が表示されます。

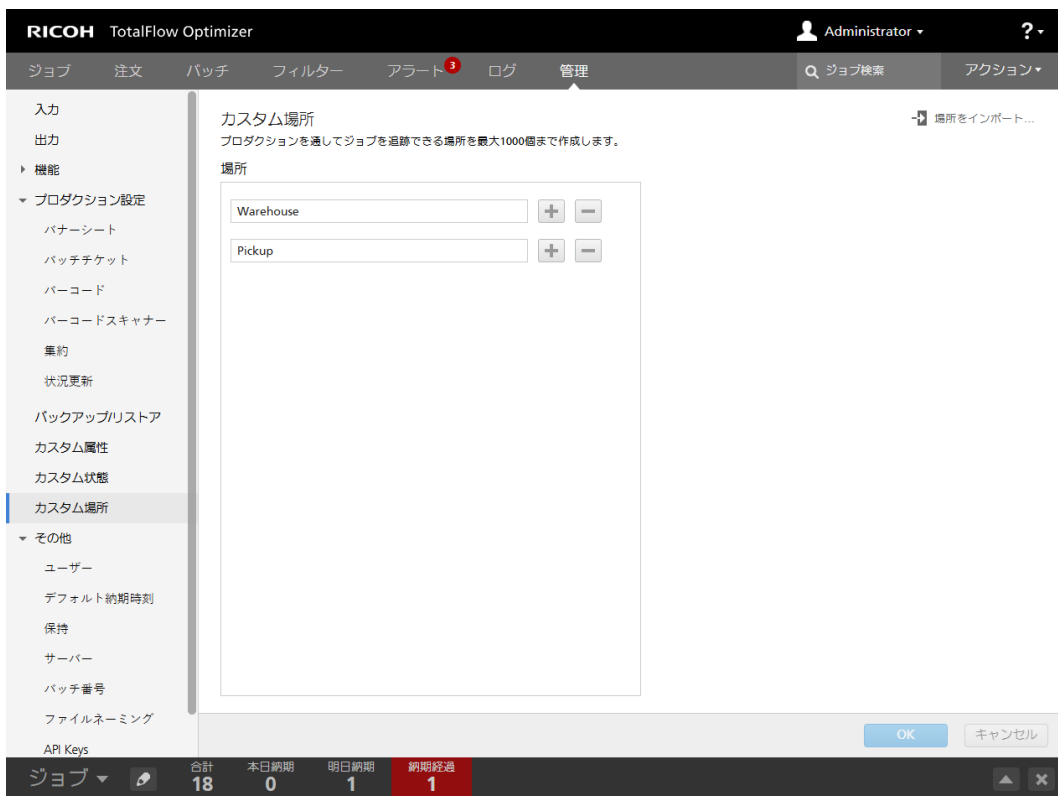
最大20個のカスタム状態を作成できます。新しいカスタム状態を追加するには、追加ボタン（）をクリックします。カスタム状態を削除するには、削除ボタン（）をクリックします。

↓ 補足

- カスタム状態は、送信されているジョブにのみ選択できます。
- カスタム変更を保存するには、「OK」ボタンをクリックします。
- 入力した情報を破棄するには、「キャンセル」をクリックします。

「カスタム場所」ウィンドウ

システムのジョブにカスタム場所を定義できます。



定義場所は、印刷用に送信された後のジョブをプロダクションを通して追跡するために使用します。

〔カスタム場所〕ウィンドウで、システムのジョブにカスタム場所を作成または編集できます。〔ジョブ〕ウィンドウの列見出し、〔ジョブ〕ウィンドウの編集可能属性として場所が表示されます。この属性は、ジョブが以下の状態にある場合にのみ編集可能です：

〔送信済み〕、〔プリンターでの処理〕、〔プリンターで保留済み〕、〔プリンターで一時的停止〕、〔プリンターでキャンセル〕、〔印刷中〕、〔印刷済み〕、またはカスタム状態。

プロダクションを通してジョブを追跡するために最大1000個までプリフライトフィルターを作成できます。

CSVファイルからカスタム場所をインポートするには、以下の操作を行います。

1. 〔場所をインポート〕ボタン（ 場所をインポート...）をクリックします。
2. 〔参照...〕をクリックしてアップロードするCSVファイルを選択します。〔インポート〕ボタンを押すと、CSVファイルからカスタム場所がTotalFlow Optimizerシステムにインポートされます。
3. 指定したCSVファイルにフィールド名がある場合は、〔最初の行にフィールド名を含む〕にチェックを付けます。
4. カスタム変更を保存するには、〔インポート〕ボタンをクリックし、変更を破棄するには、〔キャンセル〕をクリックします。

ジョブリストの右クリックメニューで、システムのジョブにカスタム場所を定義できます。

新しいカスタム場所を手動で追加するには、追加ボタン（）をクリックし、場所名を指定します。カスタム場所を削除するには、削除ボタン（）をクリックします。

↓ 補足

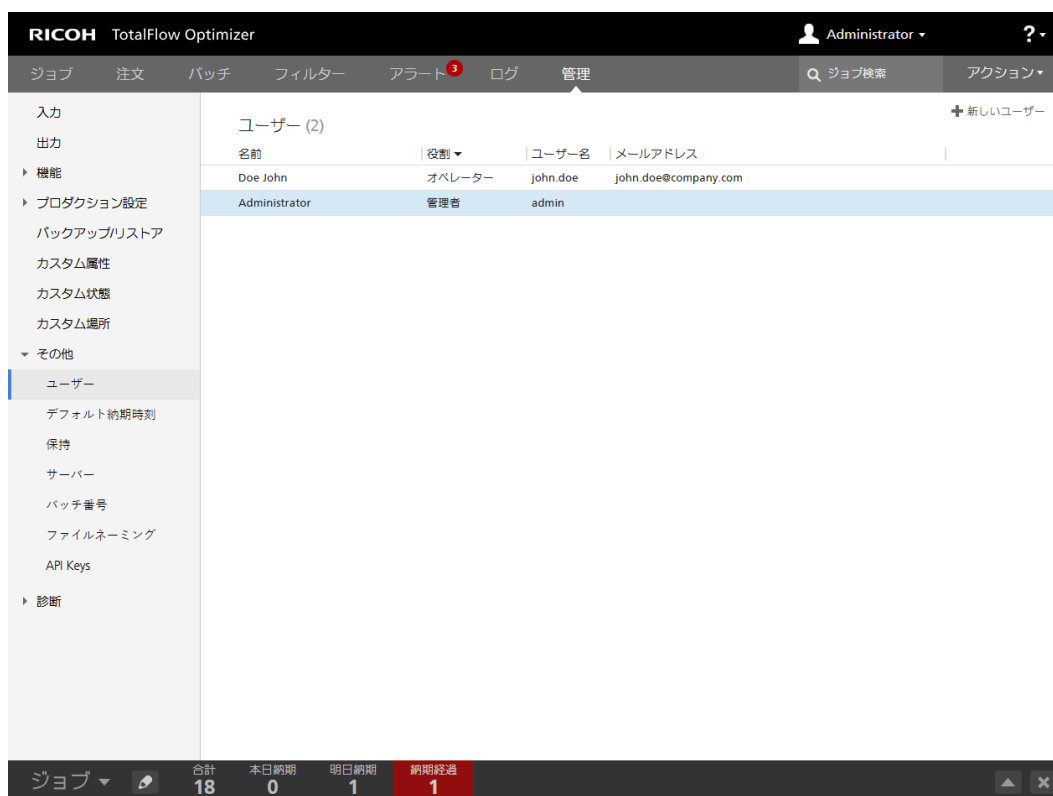
- カスタム場所は、送信されているジョブにのみ選択できます。

カスタム変更を保存するには、[OK] ボタンをクリックします。入力した情報を破棄するには、[キャンセル] をクリックします。

[その他] タブ

[ユーザー] ウィンドウ

[ユーザー] ウィンドウには、すべてのユーザーのリストが表示されます。



ユーザー (2)			
名前	役割	ユーザー名	メールアドレス
Doe John	オペレーター	john.doe	john.doe@company.com
Administrator	管理者	admin	

[名前]

ユーザーの氏名を入力します。

[役割]

ユーザーの種類です。ユーザーの種類は3つあります。

1. [管理者]
2. [オペレーター]
3. [閲覧者]
4. [カスタム]

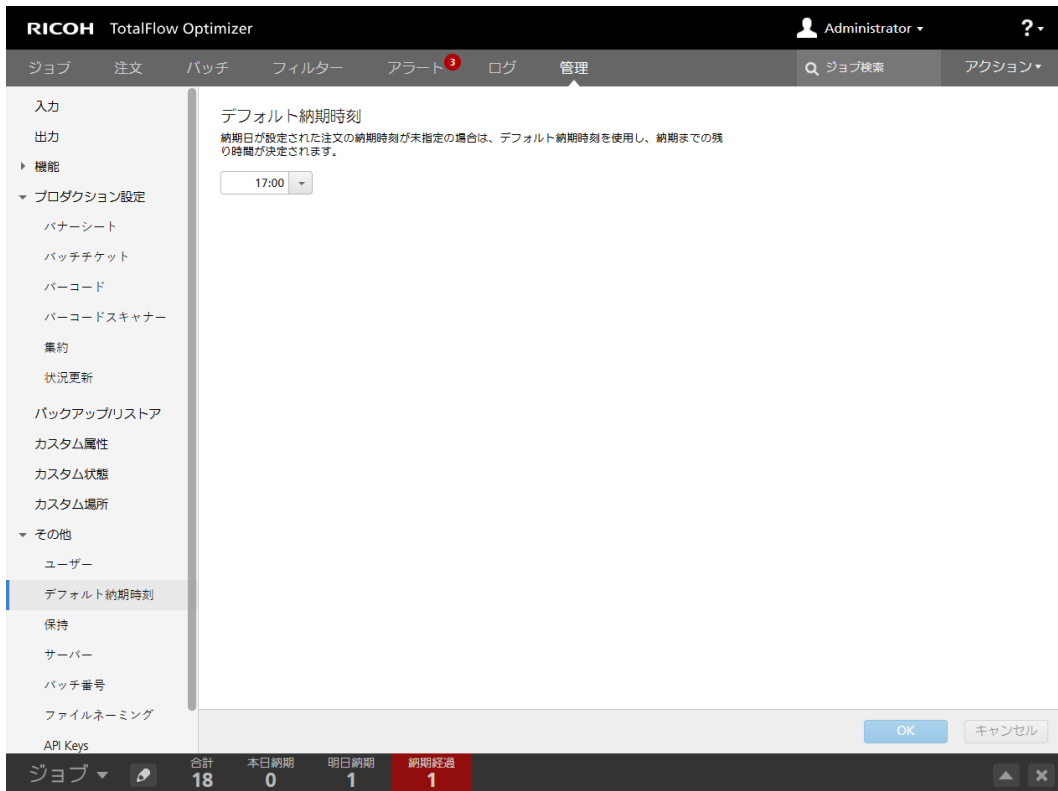
[ユーザー名]

[ユーザー名] は、GUI（グラフィカルユーザーインターフェース）からTotalFlow Optimizerにログインするために使用します。

[メールアドレス]

ユーザーのメール アドレスです。

[デフォルト納期時刻] ウィンドウ



受信した注文に納期日が設定済みで時刻が未指定の場合は、注文納期日までの残り時間を決定するために [デフォルト納期時刻] 設定が使用されます。

[デフォルト納期時刻] を設定するには、以下の操作を行います。

1. テキストフィールドをクリックします。時刻選択メニューが表示されます。
2. リストから時間と分を選択できます。

変更を保存するには、[OK] をクリックします。

入力した情報を破棄するには、[キャンセル] をクリックします。

[保持] ウィンドウ

削除する前にシステムの送信済みまたは印刷済み注文とバッチを保存する日数を設定できます。

保持期間を設定するには、指定されたフィールドに日数を入力します。デフォルト保持期間は、以下のとおりです。

- 注文は7日間
- バッチは7日間

↓ 補足

- 指定した保持期間は、現在の全ての注文とバッチと今後作成される全ての注文とバッチに適用されます。
- バッチの保持期間は、注文の保持期間よりも短くしてください。
- 保持期間が0日間に設定された場合は、全ての送信済みまたは印刷済みの注文とバッチがシステムから削除されます。

ジョブ、注文、バッチの保存された【履歴データ】の保持期間を設定する月数と日数を指定します。【履歴データ】保持期間のデフォルト値は6ヶ月です。ジョブ、注文、バッチプロパティはデータベースに【履歴データ】として保存されます。ジョブファイルは含まれません。情報はTotalFlow Optimizerダッシュボードに表示できます。

【ジョブ】セクションで、【フィルター】パネルを開き、【ジョブ】タブをクリックし、システム内の全てのジョブ（保持された注文とバッチに含まれているジョブを含む）のリストを表示します。

注文またはバッチに含まれている全てのジョブが【送信済み】状態のときに注文またはバッチの保持期間が開始します。保持期間が切れたときは、注文またはバッチと全てのジョブがシステムから削除されます。

注文またはバッチに含まれているジョブの状態が変更されると、保持期間タイマーがリセットされます。注文またはバッチに含まれているジョブが削除されたときは、保持期間タイマーはリセットされません。

1 [サーバー] ウィンドウ

プロキシサーバーを有効にし、プロキシ設定とSMTPサーバー設定を構成する方法を説明します。

The screenshot displays the 'Server' configuration window in the RICOH TotalFlow Optimizer. The interface is divided into a left sidebar with navigation options like '入力', '出力', '機能', 'プロダクション設定', and 'その他'. The main area is titled 'サーバー' and contains two primary sections: 'プロキシ設定' (Proxy Settings) and 'SMTPサーバー' (SMTP Server). The 'プロキシ設定' section includes a checkbox for '外部接続用のHTTPプロキシサーバーを使用する' (Use external HTTP proxy server for connection), which is currently unchecked. Below this are input fields for 'ホストアドレス' (Host Address), 'ポート' (Port), 'ユーザー名' (Username), and 'パスワード' (Password). There is also a section for 'ホストをバイパス/除外' (Hosts to bypass/exclude) with a list box. The 'SMTPサーバー' section shows a status indicator set to '無効' (Disabled) and a message stating that a certificate is required for email delivery. It includes fields for 'サーバーアドレス' (Server Address), 'ポート' (Port), 'ユーザー名' (Username), and 'パスワード' (Password), along with a dropdown for '接続セキュリティ' (Connection security) and a 'テスト接続' (Test connection) button. The bottom of the window features a status bar with job statistics: 'ジョブ' (Jobs) total 18, '本日納期' (Due today) 0, '明日納期' (Due tomorrow) 1, and '納期超過' (Overdue) 1.

[プロキシ設定]

プロキシサーバーを使用すると、外部システムでHTTP通信を有効にできます。

[外部接続用のHTTPプロキシサーバーを使用する] にチェックを付け、プロキシサーバーを有効にしてプロキシサーバーの接続プロパティーを入力します。

[ホストアドレス]

プロキシサーバーのIPアドレスまたはDNS名を指定します。

[ポート]

プロキシサーバーのポート番号を指定します。

[ユーザー名]

プロキシサーバーの有効なユーザー名を入力します。

[パスワード]

指定したユーザー名のパスワードを入力します。

[ホストをバイパス/除外]

プロキシサーバー例外のIPアドレスまたはDNS名を指定します。バイパスリストに例外を追加または削除できます。

[SMTPサーバー]

ユーザーのメールに通知を送信するには、まずSMTPサーバーを設定してください。

[有効] ボタン ( 有効) または [無効] ボタン ( 無効) をクリックし、2つの状態を切り替えます。

[サーバーアドレス]

SMTPサーバーのIPアドレスまたはDNS名を指定します。

[ポート]

SMTPサーバーのポート番号を指定します。

[ユーザー名]

SMTPサーバーの有効なユーザー名を入力します。

[パスワード]

指定したユーザー名のパスワードを入力します。

[接続セキュリティ]

使用する接続セキュリティの種類を指定します。デフォルト値は [なし] です。リストから [SSL/TLS] または [STARTTLS] を選択できます。

[送信者のメールアドレス表示]

メール通知の送信者として表示されるメールアドレスを指定します。

[テスト接続]

SMTP設定が有効でメール通知を送信できるかどうかを検証できます。テストメールアドレスを指定し、[今すぐテスト] をクリックして接続を検証します。

[OK] をクリックし、変更を保存します。

[バッチ番号] ウィンドウ

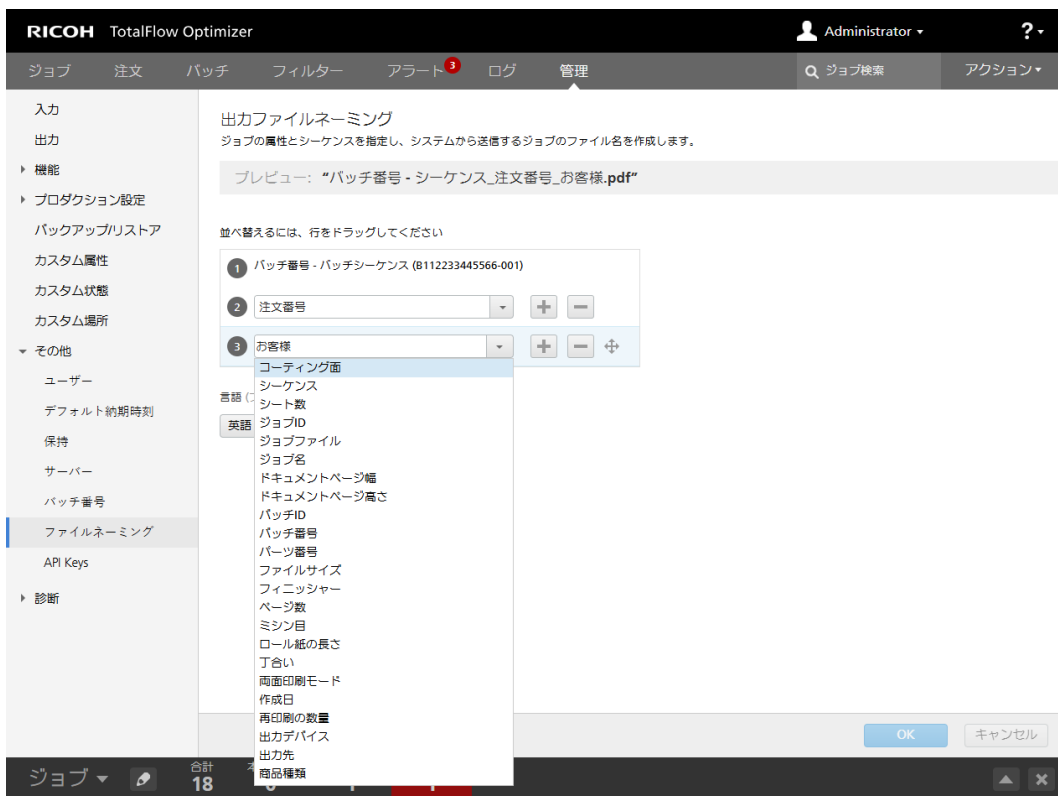
開始バッチ番号を表す値を指定します。システムは次に作成されるバッチに指定された番号を割り当てます。

[バッチ番号:]

開始バッチ番号の再割り当てができます。バッチ番号は最大12桁まで入力できます。

[ファイルネーミング] ウィンドウ

システムから送信されるジョブのファイル名の作成方法を説明します。



「出力ファイルネーミング」を使用すると、出力先に送信するジョブファイル名を生成するための環境設定を指定できます。

「プレビュー:」

ジョブファイル名のプレビューが表示されます。

ジョブファイル名の最初の要素は、バッチ番号とジョブのシーケンスです。これはデフォルト設定なので修正できません。

リストからジョブファイル名シーケンスに含める別の要素としてジョブ属性または注文属性を選択できます。新しい属性を追加するには、「この下に行を追加」ボタン（）をクリックします。ジョブ属性を削除するには、「この行を削除」ボタン（）をクリックします。

行の位置を変更するには、移動ボタン（）をクリックし、選択項目をドラッグします。

「言語」

リストからシステムで使用する言語を選択できます。ジョブファイル名を生成するときは、選択した言語が使用され、指定した属性のローカライゼーションが適用されます。選択した言語は、バッチチケットまたはバナーシートを生成するときにも使用されます。

「出力ファイルネーミング」設定を保存するには、[OK] をクリックします。

入力した情報を破棄するには、[キャンセル] をクリックします。

APIキーウィンドウ

APIキーウィンドウには、作成したAPIキーのリストが表示されます。

[名前]

ユーザーの氏名を入力します。

作成日

APIキーが作成された日付です。

作成元

APIキーを作成するためのログインに使用したユーザー名です。

ステータス

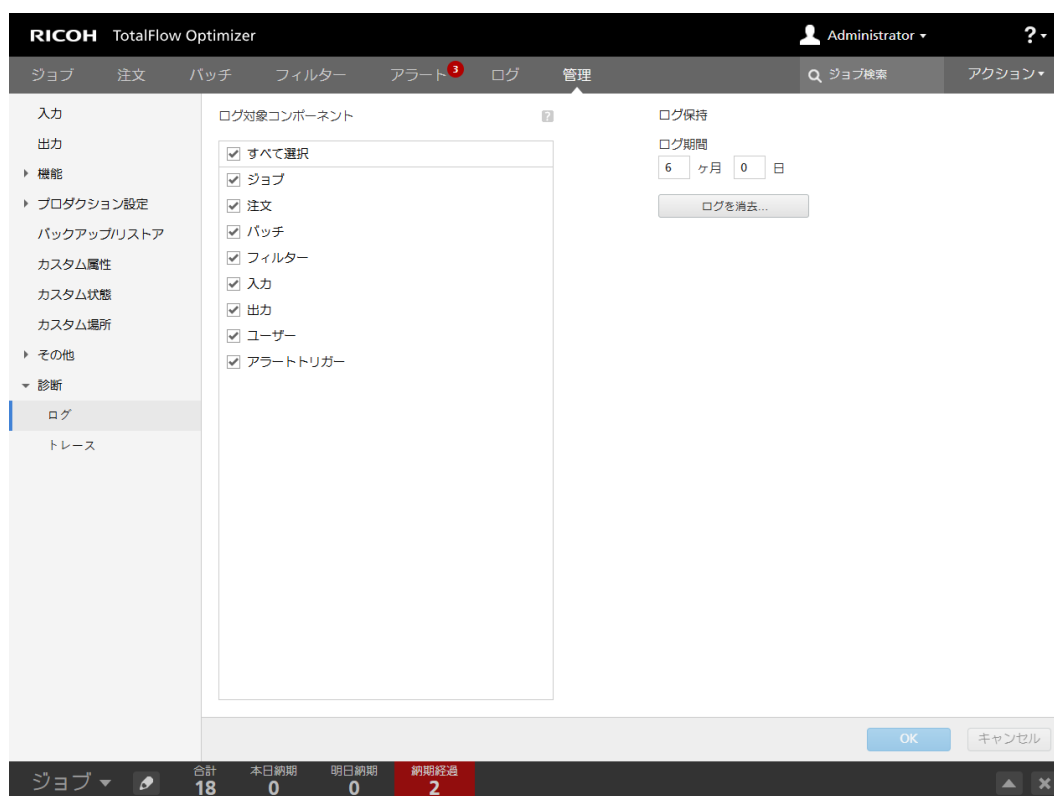
APIキーが有効か無効かを指定します。

1

[診断] タブ

[ログ] ウィンドウ

[ログ] ウィンドウで、[トレース] タブに表示するオブジェクトを選択できます。選択した各オブジェクトのアクションは、[トレース] タブの[ログエントリ] 表に表示されます。列のオブジェクトを選択または選択解除できます。



[ログ対象コンポーネント]

列のオブジェクトを選択または選択解除できます。

[ログ保持]

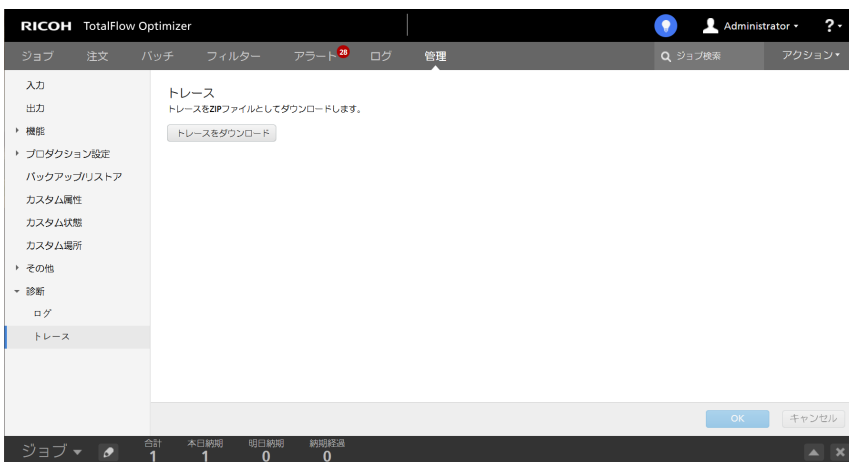
【ログ期間】で、ログの保持期間の月数と日数を選択します。

【ログを消去...】

システムのログ入力を消去するには、【ログを消去...】ボタンをクリックします。本操作を行うと、システムからログ入力が完全に削除されます。

【トレース】ウィンドウ

トレースはzipファイルでダウンロードできます。管理者、オペレーター、またはお客様として操作中にエラーが発生した場合、【トレース】ウィンドウをクリックします。



トレースをzipファイルでダウンロードするには、【トレースをダウンロード】をクリックします。

変更を保存するには、【OK】をクリックします。

入力した情報を破棄するには、【キャンセル】をクリックします。

ダッシュボードフッター

ダッシュボードフッターは、TotalFlow Optimizer操作画面の下部にある情報バーを指し、全てのページで使用できます。



ダッシュボードフッターには、ジョブまたは総ページ数のボリューム情報が表示されます。メニューから、【ジョブ】または【総ページ数】の2つのオプションから1つ選択できます。

以下の情報を含むモジュールがダッシュボードフッターに表示されます。

- 【合計】：全てのバッチ可能なジョブの数です。
- 【本日納期】：納期が本日に設定された全てのバッチ可能なジョブ数です。
- 【明日納期】：納期が翌日に設定された全てのバッチ可能なジョブ数です。
- 【納期経過】：納期日が経過したシステム内の全てのバッチ可能なジョブ数です。

ダッシュボードフッターのモジュールを1つクリックすると、選択した納期日に対応する全てのジョブのリストが表示されます。

フッターレイのモジュール表示をカスタマイズし、オン/オフにできます。モジュールを編集するには、 [ダッシュボードフッターを編集] をクリックします。[ダッシュボードフッターを編集] ダイアログが表示されます。モジュールの順番を変更するには、[移動] ボタン () をクリックし、選択項目をドラッグして行の位置を変更します。変更を保存するには、[OK] をクリックし、ダイアログを閉じるには、[キャンセル] をクリックします。

↓ 補足

ジョブはダッシュボードフィルターによって [送信済み] 状態まで表示されます。ダッシュボードフィルターには、出力に送信されたジョブを除く、全ての状態のジョブが表示されます。[ダッシュボードフッターを編集] で最大20のカスタムフィルターを追加して編集できます。

アラートが送信されると、ダッシュボードフッターに通知が表示されるように、[ダッシュボードフッターにアラート通知を表示します。] にチェックを付けてください。アラートをダブルクリックまたは右クリックして [アラートを表示] を選択し、アラートの詳細ダイアログを開きます。右クリックし、[解除] を選択してシステムからアラートを削除することもできます。

ダッシュボードフッターを閉じるには、[閉じる] ボタン () をクリックするか、[管理者メニュー] ボタン () をクリックし、[ダッシュボードフッターを非表示] を選択します。

ダッシュボードフッターを表示する場合は、管理者メニューボタン () をクリックし、[ダッシュボードフッターを表示] を選択します。

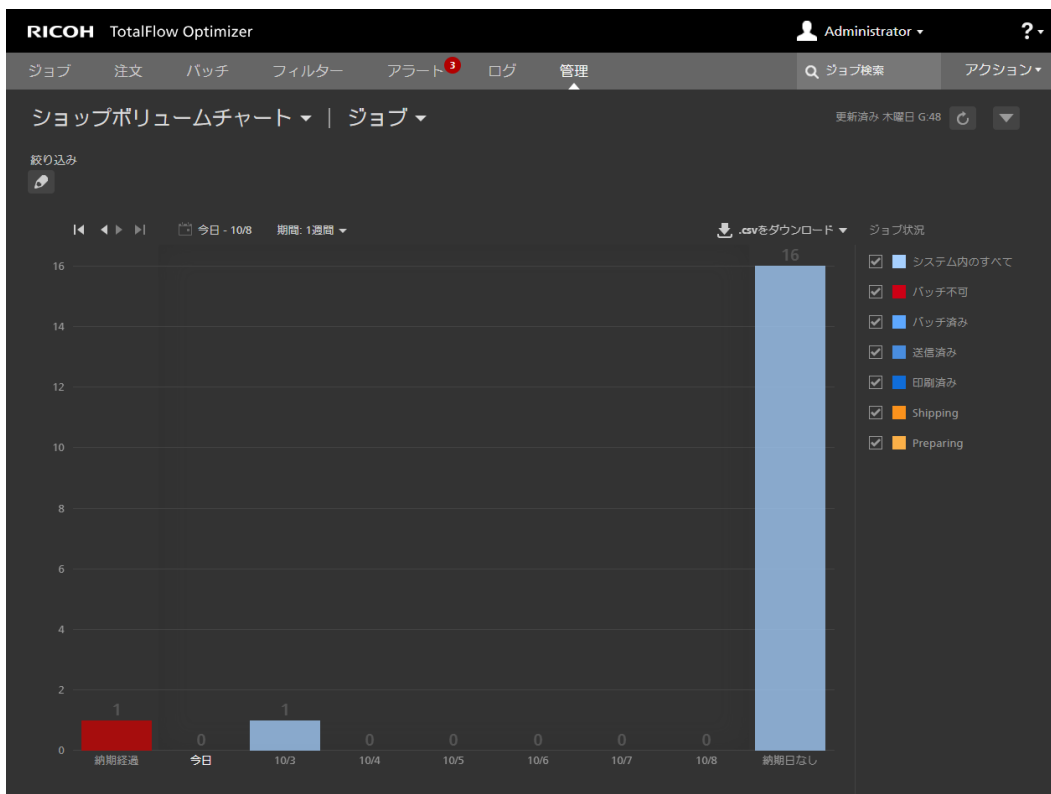
ダッシュボード拡張ウィンドウを開くには、[ダッシュボードを展開] ボタン () をクリックします。

ダッシュボードウィンドウ

ダッシュボード拡張ウィンドウを説明します。

ダッシュボード拡張ウィンドウを開くには、ダッシュボードフッターから、[ダッシュボードを展開] ボタン () をクリックします。

画面の左上で、チャートメニュー () をクリックし、[ショップボリュームチャート] を選択します。



ダッシュボード拡張ウィンドウに「ジョブボリュームチャート」が表示されます。2番目のメニューから、をクリックし、ジョブまたは総ページ数のチャート情報を選択して表示できます。チャートの各バーには特定の週に納期があるジョブの数または総ページ数が表示されます。左側から最初のバーには納期を経過したジョブの数/総ページ数が表示されます。また、右側の個別バーには、納期日の割り当てがないジョブの数/総ページ数が表示されます。

「ジョブボリュームチャート」には、現在の日付で始まる7日間の合計数が表示されます。チャートは一度に一週間ずつ移動できます。次の週の情報を表示するには「次へ」ボタン () をクリックし、前の週に戻るには「戻る」ボタン () をクリックします。現在の日付の前に納期された日付は選択できません。

「日付」ボタン () をクリックし、ダッシュボードチャートの開始日を選択します。カレンダーから本日または任意の日を選択できます。「期間: {0}」をクリックし、リストから1週間または2週間を選択します。チャートは選択した時間設定によってサイズが変更されます。

以下の操作を行うと、自動的に情報が更新されます。

- ダッシュボード拡張ウィンドウを開く
- TotalFlow Optimizerにログインする
- 絞り込みを編集する

「ジョブボリュームチャート」ボタン () をクリックすると、「更新」、タイムスタンプ、フッターチャート情報に表示されたデータを手動で更新できます。

【.csvをダウンロード】をクリックすると、シヨップボリュームチャートに表示された全ての情報を含むファイルをダウンロードできます。

最終チャート情報更新の日時が表示されます。

ダッシュボード拡張ウィンドウの右側にアラートトリガーのリストが表示されます。チェックボックスでグラフのカスタム状態を表示または非表示にします。カラーの四角形はカスタム状態に関連する色を示します。カラーの四角形をクリックすると、カラーピッカーが表示され、グラフのジョブ状態の新しいカラーを選択できます。

【シヨップボリュームチャート】の標準バーにカーソルを合わせた場合は、選択した日付の詳しいボリューム情報、バッチ済みジョブとバッチ待ちジョブの数、【ファイル待ち】、【保留】状態、【カスタム状態】状態のジョブの数が表示されます。

ジョブ: 5/24			
ジョブ	-	ファイル待ち	- Packed -
シート数	-	保留	- Shipped -
フィート	-	バッチ不可	-
総ページ数	-	バッチ済み	-
実行(時間:分)	-	送信済み	-
ファイルサイズ	-	印刷済み	-
ジョブを表示			

【ジョブを表示】をクリックし、【ジョブリスト】ダイアログを開き、選択したデータが納期である全てのジョブを表示します。ジョブ詳細を表示するには、ジョブを右クリックします。ジョブ状態またはプロパティの全ての変更はダッシュボード拡張ウィンドウに表示されます。

チャートデータを絞り込み

一致 ?

☐ すべての属性("and"論理)

☒ 任意の属性("or"論理)

- 選択 - - 選択 - + -

削除 OK キャンセル

以下のオプションから1つ選択します。

- [すべての属性("and"論理)]
- [任意の属性("or"論理)]

[すべての属性("and"論理)]を選択する場合は、[絞り込み] ウィンドウで設定された全ての属性と一致するジョブのみが表示されます。[任意の属性("or"論理)]を選択する場合は、指定した属性のいずれかと一致するジョブが表示されます。

リストから属性を追加または削除できます。新しい属性を追加するには、[条件を追加] ボタン () をクリックします。属性を削除するには、[条件を削除] ボタン () をクリックします。

フィルターのリストの条件を設定するには、以下の操作を行います。

1. 1番目のリストから属性種類を選択します。

補足

2つの異なる属性カテゴリーから値を選択できます。

1. [一般プロパティ] カテゴリーには [出力先] と [注文状況] 属性があります。
2. [ジョブプロパティ] カテゴリーには、異なるジョブ属性があります。

2. 2番目のリストから演算子を選択します。

3. 選択した属性種類の値を入力して条件を完成させます。

[OK] をクリックし、変更を保存します。

設定した絞り込みセットを保存するには、[セットとして絞り込みを保存] をクリックし、テキストフィールドに名前を入力し、[OK] をクリックします。また、選択した絞り込

みセットから特定の属性を削除するには、[削除] ボタン () をクリックします。絞り込み設定の修正を保存するには、[変更を保存] をクリックします。

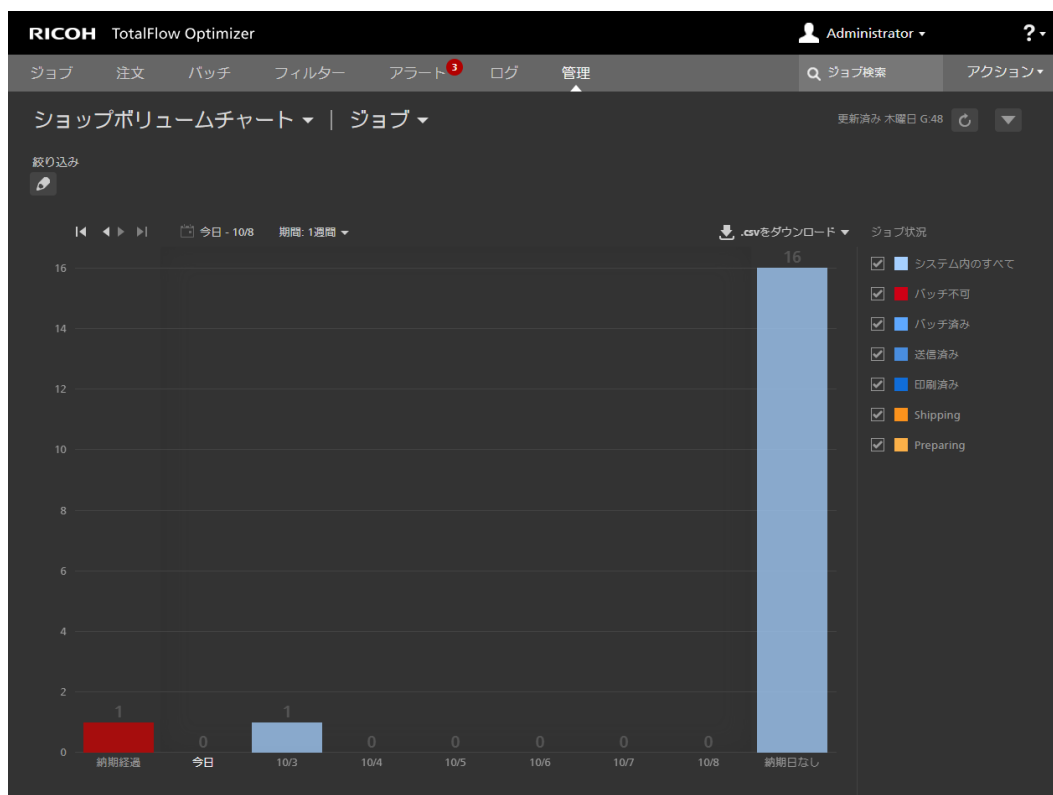
絞り込みを削除し、ショップボリュームチャートの全ての情報を表示する場合は、[すべての絞り込みをクリア] ボタン () をクリックします。絞り込み設定を完全に削除するには、右クリックして [保存した絞り込みセットを削除] を選択します。

[出力/印刷待ち] チャート

ダッシュボード拡張ウィンドウの出力/印刷待ちチャートを説明します。

ダッシュボード拡張ウィンドウを開くには、[ダッシュボードを展開] から展開ボタン () をクリックします。

画面の左上で、チャートのメニュー () をクリックし、[出力/印刷待ち] を選択し、2番目のメニューで [印刷待ち] を選択します。



ダッシュボード拡張ウィンドウに [出力/印刷待ち] が表示されます。チャートには、全ての出力のリスト、印刷済みに設定されていない各出力に送信されるジョブ、既存の集約

ジョブが表示されます。出力に送信されたギャングアップジョブがある場合は、ギャングアップバッチが表示されます。

ジョブリスト列

ジョブリストの左から右に表示する列を選択してください。

先頭/最終に移動

☐ 列を表示/非表示

1			✓ 注文番号
2			✓ パーツ番号
3			✓ お客様
4			✓ シート数
5			✓ ジョブ名
6			✓ 状態
7			✓ 状況タイムスタンプ
8			✓ バッチ番号
9			✓ ジョブファイル
10			✓ ファイルサイズ
11			✓ 納期日
12			✓ 概要
13			✓ ページ
14			✓ 面当たりのページ数
15			✓ 作成日時

OK

キャンセル

「出力を表示/隠す」ウィンドウで、以下の操作を行います。

- リストの出力のシーケンスを変更できます。行の位置を変更するには、移動ボタン（）をクリックし、選択項目をドラッグします。行を再配置したときは、順番が更新されます。
- 「先頭に移動」ボタン（）をクリックし、リストの上に選択した出力名を移動します。
- 「最終に移動」ボタン（）をクリックし、リストの下に選択した出力名を移動します。

- [すべて表示/隠す] にチェックを付け、全ての出力を表示または非表示にします。各出力名にチェックを付けると、個別に出力を表示または非表示にできます。
- [名前] フィールドのビュー名を入力し、[OK] をクリックします。

チャートのジョブは、各ジョブの推定 [実行(時間:分)] に基づいて表示され、ジョブの納期が切れるまでの時間が色で表されます。

以下の操作を行うと、自動的に情報が更新されます。

- ダッシュボード拡張ウィンドウを開く
- TotalFlow Optimizerにログインする
- ジョブ状態の [送信済み] 状態が変更される

[出力/印刷待ち]  [更新] 手動で更新できます。最終チャート情報更新の日時が表示されます。

[出力/印刷待ち] に表示されるジョブ情報のみを含むファイルをダウンロードするには、[.csvをダウンロード] をクリックし、[表示データ] を選択します。[出力/印刷待ち] で全てのジョブ情報を含むファイルをダウンロードするには、[.csvをダウンロード] をクリックし、[すべてのデータ] を選択します。

標準ジョブバーまたは [出力/印刷待ち] のギャングされたバッチにカーソルを置くと、選択したジョブ、ギャングされたバッチ、集約ジョブの詳細が表示されます。

ジョブ: 5/24			
ジョブ	-	ファイル待ち	- Packed -
シート数	-	保留	- Shipped -
フィート	-	バッチ不可	-
総ページ数	-	バッチ済み	-
実行(時間:分)	-	送信済み	-
ファイルサイズ	-	印刷済み	-
ジョブを表示			

ジョブで異なるアクションを実行できます。ジョブバーを右クリックし、以下のアクションから1つを選択します。

- [ファイルを表示...]
- [面付けファイルを表示...] : ファイルが面付けされる場合
- [プロパティ]
- [注文を開く]
- [バッチ解除]
- [クイック印刷...]
- [再印刷...]

- [ジョブを保留]
- [状態を設定]
- [場所を設定]
- [ジョブを削除...]

↓ 補足

これらのアクションは、[再印刷...] アクションを除く集約ジョブに実行できます。

「**バッチをハイライト**」をクリックし、同一バッチのパーツであるチャートに含まれている全てのジョブを表示します。

ジョブ詳細を表示するには、ジョブを右クリックして [プロパティー] を選択します。

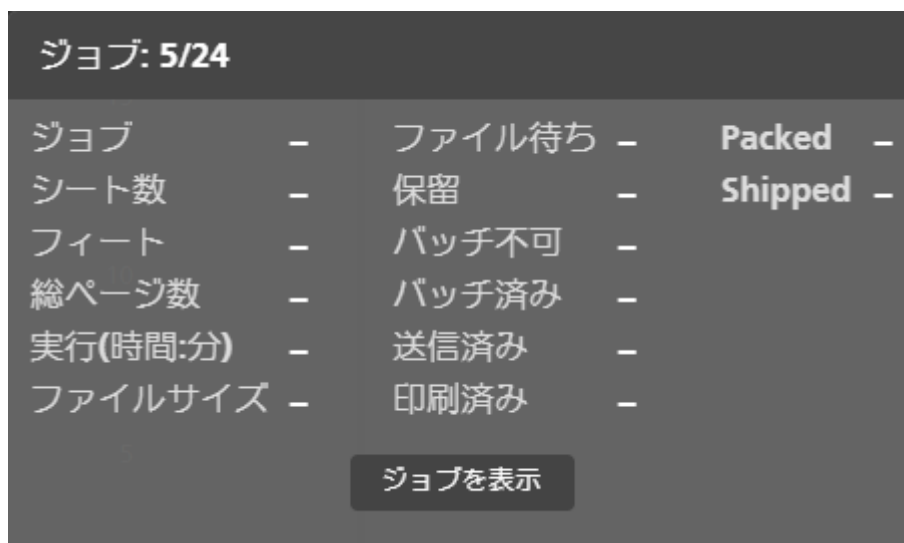
[illegible]

集約ジョブセットの全てのジョブを表示するには、[ジョブを表示] を右クリックして選択します。

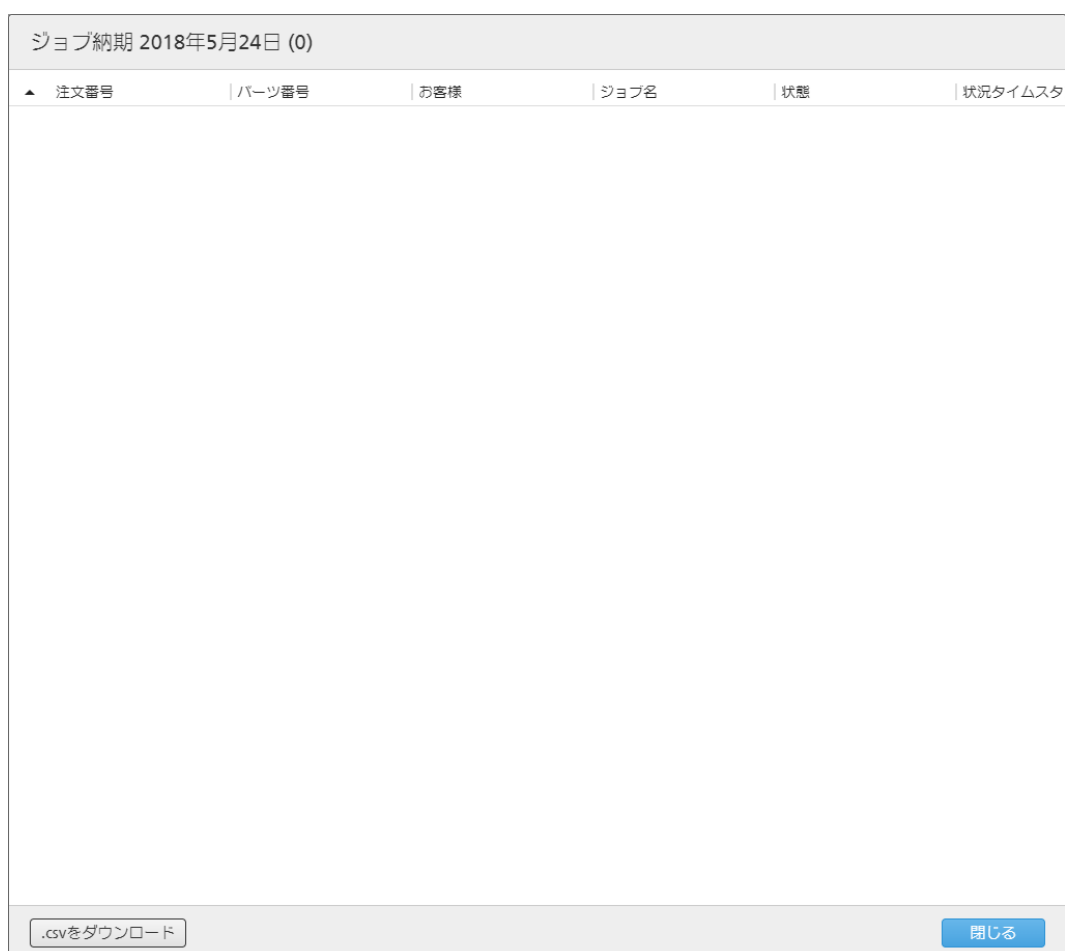
ギャングされたバッチで異なるアクションを実行できます。ギャングされたバッチを選択して右クリックし、以下のアクションから1つ選択します。

- 各出力の全てのジョブの合計実行時間を正確に表示するには、左上にある2番目のメニューで「実行時間のみ」を選択します。各出力に送信される全てのジョブの実行時間があるチャートが表示されます。一部のジョブの実行時間が見つからない場合は、警告が表示されます。

92



「ジョブリスト」をクリックすると、選択した出力に送信された全てのジョブのリストが表示されます。



「[.csvをダウンロード]」をクリックすると、出力に送信されたジョブのリストを含むファイルをダウンロードできます。「[ジョブリスト]」ダイアログを閉じるには、「[閉じる]」をクリックします。

ダッシュボード拡張ウィンドウを閉じるには、右上から [ダッシュボードフッターを非表示] ボタン () をクリックします。

2. 設定

- ライセンス管理
- クライアントコンピューターを設定する
- TotalFlow Optimizerと接続するUltimate Impostrip®を設定する
- TotalFlow Optimizer API
- TotalFlow Optimizer APIを使用する

ライセンス管理

2

TotalFlow Optimizerライセンス

異なるライセンス種類があります。

体験版

体験版ライセンスの期限はTotalFlow Optimizerをインストールしてから60日後です。

保守

TotalFlow Optimizerをインストールしたときに指定したEIDに応じて、保守ライセンスは1、3、5年後に期限切れになります。

恒久

恒久ライセンスには使用期限がありません。

★重要

ホスト名が変更するときは、TotalFlow Optimizerが**保守**モードから**体験期間**モードに切り替わります。体験期間が終了し、**保守**モードに戻す場合は、<https://dl.ricohsoftware.com/>に移動してアカウントにログインし、新しいライセンスファイルを取得します。新しいライセンスファイルをダウンロードした後に、[ソフトウェアキーを管理]アプリケーションを使用し、ライセンスを追加します。

TotalFlow Optimizerを同じインストールキットから、複数のコンピューターに体験版でインストールできます。体験期間が終了すると、同じコンピューターにTotalFlow Optimizer体験版を再インストールすることはできません。

TotalFlow Optimizer基本サーバーと次の機能は評価用で使用できます。

- TotalFlow Optimizer自動化機能
- TotalFlow Optimizer XML出力機能
- TotalFlow Optimizerプリフライト機能

体験版ライセンスの期限はTotalFlow Optimizerをインストールしてから60日後です。

TotalFlow Optimizer製品を登録する場合は、基本サーバーに有効なライセンスキーを購入してください。基本サーバーと機能の恒久ライセンスと保守ライセンスキーは、単一ライセンスキーファイルに同梱されます。

ライセンスをインストールする

TotalFlow Optimizerをインストールするときは、体験版または恒久ライセンスを選択できます。体験版ライセンスではTotalFlow Optimizerを60日間体験できます。

体験版ライセンスの期限が切れてもTotalFlow Optimizerを継続して使用するには、TotalFlow Optimizerをインストールしたコンピューターに恒久ライセンスをインストールしてください。恒久ライセンスは製品がインストールされているコンピューターだけに使用できます。

★ 重要

ライセンスをインストールする前に、サービス担当者から事前に電子メールで資格ID (EID) を受け取っているか確認してください。

セルフサービスWebサイトから手動でライセンスファイルを取得できます。

ライセンスキー管理アプリケーション (LKMA) はTotalFlow Optimizerの基本インストールに含まれ、TotalFlow Optimizerソフトウェアのライセンス種類を処理します。ライセンスキー管理アプリケーションを使用すると、ライセンスを追加または削除できます。

↓ 補足

本書で指定されているインストールパスはデフォルトのものです。カスタム場所にTotalFlow Optimizerがインストールされている場合は、デフォルト先ではなく、カスタム先を参照してください。

恒久ライセンスをインストールするには、以下の操作を行います。

1. [スタート] → [すべてのアプリ] → [<プログラムグループ>] の順にクリックします。

↓ 補足

TotalFlow OptimizerアプリケーションのデフォルトプログラムグループはRICOH TotalFlow Optimizerです。インストール処理中に別のプログラムグループを設定できます。

2. [ソフトウェアキーを管理] を右クリックし、[管理者として実行] を選択してアプリケーションを開きます。
3. TotalFlow Optimizerライセンスのメインウィンドウで、[追加...] をクリックし、新しいライセンスを追加します。
「ソフトウェアキーを配置」ウィンドウが表示されます。
4. 「ソフトウェアキーを配置」ダイアログで、[参照...] をクリックし、ライセンスキーファイルに移動し、[開く] をクリックします。
5. [次へ] をクリックします。
情報メッセージが表示されます。
 - 登録処理が成功した場合は、[登録に成功しました。] と表示されます。
 - 登録処理が失敗した場合は、登録に失敗しました。と表示されます。
登録処理が失敗した場合は、登録が失敗した理由を示すポップアップメッセージが表示されます。
6. インストールが成功した場合は、アプリケーションサービスを再起動します。

1. [スタート] → [すべてのアプリ] → [<プログラムグループ>] の順にクリックします。

↓ 補足

TotalFlow OptimizerアプリケーションのデフォルトプログラムグループはRICOH TotalFlow Optimizerです。インストール処理中に別のプログラムグループを設定できます。

2. [サービスの再起動] を右クリックして [管理者として実行] を選択し、アプリケーションサービスを再起動します。

↓ 補足

ライセンスキーを生成するためのシステム認証文字列が変更された場合は、TotalFlow Optimizerソフトウェアは7日間の猶予モードで動作を続行します。この期間が終了する前に、サービス担当者に連絡し、新しいライセンスキーを受け取ってください。受け取らなかった場合は、システム体験期間が終了したときにTotalFlow Optimizerソフトウェアが実行されなくなります。

恒久ライセンスファイルを取得する

恒久ライセンスをインストールするには、ライセンスファイルが必要です。セルフサービスWebサイトからライセンスファイルを取得できます。

セルフサービスWebサイトからライセンスファイルを取得するには、次の手順を実行します。

1. リコーから受け取ったメールに資格ID (EID) が含まれていることを確認してください。
2. TotalFlow Optimizerがインストールされているコンピューターがインターネットに接続されていない場合：
 1. TotalFlow Optimizerがインストールされているコンピューターのライセンスアプリケーションを閉じないでください。
 2. インターネットに接続しているコンピューターでログインします。
 3. TotalFlow Optimizerがインストールされているコンピューターに接続するには、リモートデスクトップ接続を使用します。
 4. ライセンスアプリケーションの開始に使用したユーザー名とパスワードでログインします。
3. インターネットに接続しているコンピューターで、次のサイトに移動します。
<https://dl.ricohsoftware.com>

どのようなアクションを取りますか？

2



ソフトウェアのダウンロード

エンタイトルメントIDを入力して、
をダウンロードします 購入したソフト
ウェア
(および関連するソフトウェアアップ
デート)。



ソフトウェアアクティベーション

購入したソフトウェアをアクティベ
ートするには、エンタイトルメントIDを
入力してください

4. 画面右側の [ソフトウェアアクティベーション] をクリックします。
5. [ソフトウェアアクティベーションダイアログ] で、EIDと認証文字列を入力しま
す。

ソフトウェアアクティベーション

下記のフォームを使ってソフトウェアをアクティベートしてください。エンタイトルメントIDとソフトウェアによ
って生成されたシステム指紋を入力してください。

<

あなたのEIDを入力してください：

?

システムの指紋を入力してください。

?

内容を確認する

1. 受信したリコーのメールからEIDをコピーして貼り付けます。
2. TotalFlow Optimizerライセンス管理アプリケーションで、TotalFlow Optimizerがイ
ンストールされているコンピューターを一意に識別する 16 文字の [システム
フィンガープリント] を選択し、コピーします。
3. ソフトウェアアクティベーションのWebページに戻ります。 [認証文字列を入
力] フィールドにシステムフィンガープリントを貼り付けます。
4. [内容の確認] をクリックします。

6. [アクティベーション内容の確認] ダイアログで次の手順を実行します。

1. 確認情報を確認します。
2. [アクティベート] をクリックします。

ソフトウェアがアクティベーションされたことを確認するメールが届きます。クライアントコンピューターの認証IDとともに、ライセンスキーが生成され、画面に表示されます。

2

 有効化が確認されました

あなたのソフトウェアはアクティベートされました。

プロダクトキー	製品	AID	量	残数量
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	TotalFlow BatchBuilder	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	50	27

ライセンスキーのダウンロード

電子メールライセンスキー

ライセンスキーをクリップボードにコピーする

セルフサービスアクティベーションID (SSAID) は次のとおりです。XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

やり直す

↓ 補足

このライセンスのアクティベーション数は[数量]に表示されます。このライセンスで使用可能な残りの回数は[残り回数]の下に表示されます。

7. ライセンスキーをダウンロードするには、[ライセンスキーのダウンロード] をクリックします。保存方法とファイルの種類はブラウザによって異なります。ライセンスファイルを保存したフォルダーを記録します。
8. ライセンスキーファイルを別の人にメールする場合には、[ライセンスキーをメールで送信] をクリックします。

メールアドレスを入力してください

×

ライセンスキーを送信するメールアドレスを入力してください。

Eメール

キャンセル

送る

1. メールアドレスを入力します。
2. [送信] をクリックします。
9. 終了したら、ブラウザのタブを閉じます。プロセスを再開するには、[やり直し] をクリックします。
10. TotalFlow Optimizerがインストールされているコンピューターからインターネットに接続した場合は、TotalFlow Optimizerがインストールされているコンピューターにライセンスファイルをコピーします。

ライセンスを取り消す

セルフサービス ライセンス キー失効システム (SSR) は、システム間でライセンス キーを移動し、システム障害から回復する方法を提供します。

ライセンスを取り消すには、以下の操作を行います。

1. ブラウザーウィンドウを開きます。
2. <https://dl.ricohsoftware.com/>に移動します。
3. [セルフサービス失効] ボタンをクリックします。
4. [失効方法] で、利用可能な3つの失効方法から1つを選択します。

資格ID (EID)

ライセンス違反の状態を報告するソフトウェアに対して、取り消す必要のあるEIDです。

アクティベーションID (AID)

AIDは、1つのEIDについて1セットのキーのみを失効させる場合に必要です。例えば、誤って間違ったシステムフィンガープリントを使ってアクティベーションし、AID文字列が利用可能な場合です。

ライセンスキーファイルのアップロード

これは、特定のサーバー上の特定の製品にインストールされているすべてのEIDをリセットするための、最も一般的なオプションです。license.keyファイルまたはlservrcを選択できます。

5. [失効方法] リストから選択した内容に応じて、[EIDを入力]、[AIDを入力]、または[ライセンスファイルをアップロード (最大ファイルサイズ、2 MB)] フィールドに EID、AIDを入力するか、キーファイルをアップロードします。
6. [会社名] フィールドに会社名を入力します。元のEIDメールで使った会社名と同じものを使用してください。
7. 詳細情報を受け取るには、有効なビジネスEメールアドレスを[ビジネスEメールアドレス] フィールドに入力してください。
8. ソフトウェアの侵害コピーを削除し、製品のライセンス条項に準拠していることに同意します。
9. [送信] をクリックします。

2

ライセンス失効の申請が承認されると、2分以内にWebサイト上で通知が届きます。リクエストが自動的に承認されず、審査が必要な場合は、数営業日以内に審査担当者からEメールが届きます。失効リクエストに対する回答で、ステータスが保留または拒否となっている場合は、リクエストを再送信しないでください。重複したリクエストの提出は、承認プロセスを遅らせ、ライセンスステータスの解決に要する時間を増加させる可能性があります。

ライセンスを削除する

コンピューターにライセンスがインストールされている場合は、ライセンスを削除できません。

ライセンスを削除するには、以下の操作を行います。

1. [開始] → [すべてのアプリ] → [<プログラムグループ>] に移動します。

↓ 補足

TotalFlow Optimizerアプリケーションのデフォルトプログラムグループは[RICOH TotalFlow Optimizer] です。インストール処理中に別のプログラムグループを設定できます。

2. [ソフトウェアキーを管理] を右クリックし、[管理者として実行] を選択してアプリケーションを開きます。
3. TotalFlow Optimizerライセンスメインウィンドウで、[削除] をクリックし、ライセンスを削除します。
[確認] ウィンドウが表示されます。
4. [はい] をクリックし、選択したライセンスを削除します。

クライアントコンピューターを設定する

ネットワーク接続と動作環境を満たしたWindowsシステムから、TotalFlow Optimizer操作画面にアクセスできます。

TotalFlow Optimizerにアクセスする全てのコンピューターに、以下の操作を実行してください。

Webブラウザ設定

操作画面にアクセスするには、TotalFlow Optimizerをインストールするシステムなどの各システムにWebブラウザをインストールして設定してください。対応するブラウザは、以下のとおりです。

- Mozilla Firefox (<http://www.mozilla.org/ja/firefox/all.html>)
- Google Chrome (<https://www.google.com/intl/ja/chrome/browser/>)
- Microsoft Edge (<https://www.microsoft.com/ja-jp/windows/microsoft-edge>)

↓ 補足

- TotalFlow OptimizerアプリケーションのCookieとポップアップを有効にする必要があります。
- TotalFlow Optimizerジョブファイルを表示するにはPDFリーダーが必要です。

★ 重要

英語（英国）[en-GB] や英語（米国）[en-US] のように、同じ言語で複数のロケールが使用できる場合は、どのロケールを選択しても問題ありません。

操作画面にアクセスするURL

クライアントコンピューターから操作画面を開くには、ブラウザのアドレスバーに次のURLを入力します。

```
http://hostname:port.number/Optimizer
```

：hostnameはTotalFlow Optimizerがインストールされているコンピューターのホスト名またはIPアドレスで、port.numberはwebサービスポートです。Webサービスポートはインストール中に設定され、デフォルト値は 19080 です。

ユーザーログイン名とパスワード

作成したログイン名とパスワードをユーザーに通知します。ユーザーが初めてログインするときには、パスワードの変更が推奨されます。

権限

管理者はユーザーに役割を設定し、TotalFlow Optimizer操作画面で実行可能な操作をユーザーに通知してください。

Microsoft Edgeを設定する

Microsoft EdgeでTotalFlow Optimizerにアクセスするには、ブラウザを設定してください。

↓ 補足

この手順では、Windows11でMicrosoft Edgeを設定する方法を説明します。Microsoft EdgeとWindowsのバージョンによって内容は多少異なります。

Microsoft Edgeを設定するには、以下の操作を行います。

1. 設定とその他アイコン（...）、[設定]の順にクリックします。
2. [Cookieとサイトのアクセス許可]を選択します。
3. サイトのアクセス許可 → すべてのアクセス許可で、[JavaScript]が[許可]になっていることを確認します。

Mozilla Firefoxを設定する

Mozilla FirefoxでTotalFlow Optimizerにアクセスするには、ブラウザーを設定してください。

↓ 補足

ここでは、Windows 11でFirefoxを設定する方法を説明します。FirefoxやWindowsの他のバージョンによって内容は多少異なります。

Mozilla Firefoxを設定するには、以下の操作を行います。

1. Mozilla Firefoxページを開きます。
2. アドレスバーで、「about:config」と入力して「[Enter]」を押します。
3. [リスクを承認して続行]をクリックします。
4. ページ上部の検索バーで、「javascript」と入力してjavascript.enabledがtrueになっていることを確認します。

Google Chromeを設定する

Google ChromeでTotalFlow Optimizerにアクセスするには、ブラウザーを設定してください。

↓ 補足

ここでは、Windows 11でGoogle Chromeを設定する方法を説明します。Windowsのバージョンによって内容は多少異なります。

Google Chromeを設定するには、以下の操作を行います。

1. ⋮ 設定アイコンをクリックし、[設定]をクリックします。
[設定] ページが表示されます。
2. [プライバシーとセキュリティ] タブを開きます。
3. [サイトの設定] をクリックします。

4. [JavaScript] をクリックし、[サイトはJavaScriptを使用できます] を選択します。

TotalFlow Optimizerと接続するUltimate Impostrip®®を設定する

Ultimate Impostrip®®アプリケーションを使用してTotalFlow Optimizerシステムからジョブに面付けを適用できます。

Ultimate Impostrip®®でTotalFlow Optimizerを使用する前に、Ultimate Impostrip®®で以下の設定を有効にしてください。

- XMLチケット入力を有効にする
- ホットフォルダージョブごとに監査XMLファイルを生成する

設定を有効にするには、以下の操作を行います。

1. Ultimate Impostrip®®で、[環境設定] を選択します。
2. [XML設定] をクリックします。
3. [XMLチケット入力を有効にする] および [ホットフォルダージョブごとに監査XMLファイルを生成する] を選択します。

ネットワークドライバでUltimate Impostrip®®を使用する

ネットワークドライバでUltimate Impostrip®®を使用するには、以下の操作を行います。

1. Ultimate Impostrip®®がインストールされている場所に以下の4つのサブフォルダーを含むネットワーク共有を作成します。
 - XMLチケット用フォルダー×1。
 - Impostripによって生成された監査ファイル保存用フォルダー×1。
 - 面付けされるジョブ用フォルダー×1。
 - 面付け済みPDFファイル用フォルダー×1。

フォルダー名は重要ではありませんが、用途を覚えておいてください。

↓ 補足

Ultimate Impostrip®®2019を使用する場合、必ずシステムのプログラムファイルディレクトリーとは別の場所にXMLチケット用フォルダーを作成してください。作成していないと、Ultimate Impostrip®®はXMLチケットを処理できない可能性があります。

2. Ultimate Impostrip®®設定 → **XML**設定で、[XMLチケット入力を有効にする] と [ホットフォルダージョブ用監査XMLファイルを生成する] の設定を上記の手順1で作成したネットワーク共有からXMLチケットフォルダーおよび監査ファイルサブフォルダーに指定します。
3. TotalFlow Optimizerで、上記の手順1で作成した共有を示すネットワークドライブを作成します。

4. TotalFlow Optimizer [面付け] ページで、次の操作を行います。
 - Ultimate Impostrip®2019またはそれ以降 (新バージョン) を使用している場合は、Ultimate Impostrip®ポートを入力します。
 - Ultimate Impostrip®10またはそれ以前 (Legacyバージョン) を使用している場合は、Ultimate Impostrip®Rootフォルダー (ディレクトリーパス) を入力します。Ultimate Impostrip®がTotalFlow Optimizerと同じマシンにインストールされていない場合は、ネットワークパスを入力してください。
5. [Ultimate Impostrip®とOptimizer間でマッピング] の [マッピング] タブで、上記の手順3で作成したネットワークドライブですべての設定を定義します。[Optimizer先] フィールドのネットワークパスと [Impostrip®サーバー先] フィールドのローカルパスを使用します。

コロケーションにUltimate Impostrip®®を使用する

Ultimate Impostrip®®をTotalFlow Optimizerと同じサーバーにインストールできます。複数のアプリケーションを同じマシンにインストールする場合は、合計のリソース要件がホストサーバー/コンピュータの利用可能なリソースを超えないようにしてください。

Ultimate Impostrip®®をTotalFlow Optimizerと同じサーバーにインストールして使用するには、以下の操作を行います。

1. TotalFlow Optimizerで、以下のフォルダーを作成します：
 - XMLチケット用フォルダー×1。
 - Impostrip®®によって生成された監査ファイル保存用フォルダー×1。
 フォルダー名は重要ではありませんが、用途を覚えておいてください。

↓ 補足

Ultimate Impostrip®®2019を使用する場合、必ずシステムのプログラムファイルディレクトリーとは別の場所にXMLチケット用フォルダーを作成してください。作成していないと、Ultimate Impostrip®®はXMLチケットを処理できない可能性があります。

2. TotalFlow Optimizer [面付け] ページで、Ultimate Impostrip®ポートを入力します。
3. [接続] をクリックします。

TotalFlow Optimizer API

提供される一連のREST APIを使用して、TotalFlow Optimizerを他のアプリケーションと統合できます。

APIを使用するには、アプリケーションはユーザー名とパスワード、またはAPIキーのいずれかで認証する必要があります。

ユーザー名とパスワードを使用する場合、アプリケーションは最初に**POST /authWeb** サービスを使用してトークンを生成し、そのトークンを追加のリクエストに含める必要があります。

APIキーを使用する場合は、TotalFlow Optimizerでキーを生成し、リクエストに含めます。セキュリティポリシーに従って鍵を管理する必要があります。

APIキーに対してこれらの操作を行うことができます：

作成

APIキーを生成し、名前を付けます。キーは作成時に自動的に生成されます。他のアプリケーションで使用するためにキーの値をコピーします。

コピー

外部アプリケーションで使用するために、TotalFlow Optimizer によって生成されたキーをコピーします。

有効化

アプリケーションをTotalFlow Optimizerに接続するためのキーを有効にします。

無効化

キーを一時的または永続的に無効にして、他のアプリケーションがTotalFlow Optimizerにアクセスできないようにします。



- キーを無効にしても削除されません。

更新

現在のAPIキーを新しいキーに置き換えて、既存のAPIキーを更新します。現在のAPIキーは削除される予定ですが、今後24時間は有効ですので、その間は使用できます。

削除

キーを永久に削除します。キーを削除すると、そのキーを使用してAPIリクエストを行うことはできません。

APIキーを作成して管理する

API キーを作成して、TotalFlow Optimizerを認証し、外部アプリケーションと統合できます。一度作成されたAPIキーは、有効化、無効化、または期限切れに備えて一定期間更新することができます。

APIキーを作成して監理するには、以下の操作を行います。

1. APIキーの作成：

1. [管理] → [その他] → [APIキー] に移動します。
2.  [APIキーの作成] をクリックして、APIキーを作成するダイアログを開きます。
3. 新しいAPIキーの名前を入力します。
キーは自動的に生成され、有効になります。
4. APIキーの有効期間を設定するには、[有効期限] で日数を設定します。

↓ 補足

- デフォルトでは、APIキーの有効期限は作成日から90日間です。APIキーの更新は、有効期限前でも期限後でも可能です。
5. [キー] フィールドで生成されたAPIキーを使用するには、[コピー] をクリックします。コピーした後、使用する外部アプリケーションに貼り付けることができます。
2. APIキーの有効化：
 1. [管理] → [APIキー] に移動します。
 2. リストから無効になっているAPIキーを右クリックし、[有効にする] を選択します。
 3. APIキーの無効化：
 1. [管理] → [APIキー] に移動します。
 2. すでに有効になっているAPIキーをリストから右クリックし、[無効にする] を選択します。
 4. APIキーの更新：
 1. [管理] → [APIキー] に移動します。
 2. リストからAPIキーを右クリックし、[APIキーの更新] を選択します。
 3. 確認ダイアログで [はい] をクリックします。
 4. 新しいAPIキーを使用するには、[コピー] をクリックします。
必要に応じて、有効期限を調整することもできます。
 5. ダイアログを閉じて新しいAPIキー設定を保存するには、[OK] をクリックします。

↓ 補足

- 削除予定のAPIキーを更新することはできません。
 - APIキーがグレイアウトしている場合は、更新できません。APIキーの有効期限が切れており、削除が予定されています。
5. APIキーの削除：
 1. [管理] → [APIキー] に移動します。
 2. リストから削除したいAPIキーを右クリックし、[APIキーの削除] を選択します。
 3. 確認ダイアログで [はい] をクリックすると、キーが削除されます。

TotalFlow Optimizer APIを使用する

TotalFlow Optimizerは、ウェブサービスを統合するためのREST APIを提供します。これらのAPIにはインタラクティブなドキュメントが付属しており、利用可能な各APIのライブテストや情報を提供しています。

REST APIドキュメントには、アプリケーションがTotalFlow Optimizerと統合するために使用できる多くのAPIが含まれています。REST APIドキュメントとテストインターフェース

を使用して、パラメーター設定をテストできます。一般的なHTTPメソッドとJSONペイロードを使用して、印刷ジョブの送信、バッチ情報の取得、プリンターステータスの照会、デバイス構成のリモート管理を行います。

これらの手順は、REST APIを使用して注文に関する情報を取得する方法を示しています。

1. [管理] → [その他] → [APIキー] に移動します。
2. 新しいAPIキーを作成するか、有効で有効期限が切れていない既存のAPIキーを使用します。
3. APIキーをコピーします。
4. [APIドキュメント] をクリックしてAPIドキュメントにアクセスします。
5. 画面右上の[承認する] をクリックします。
6. [利用可能な認証] ダイアログで、[価値] フィールドにキーを貼り付けます。
7. [承認する] をクリックしてAPIキーを保存します。
8. [利用可能な認証] ダイアログを閉じて設定を保存するには、[閉じる] をクリックします。
9. [注文] セクションに行き、[取得/注文] を見つけます。
10. [試してみる] をクリックします。
11. [実行] をクリックします。
REST APIドキュメントでは、この値を使用してCurlコマンドとリクエストURLを作成します。そして、リクエストURLにリクエストを送信し、注文のリストを取得します。
12. [応答本文] ボックスに、取得した情報が表示されます。
出力に正しい情報と構造が含まれていることを必ず確認してください。
テキストをコピーするか、JSONファイルをダウンロードします。

```
{
  "items": [
    {
      "sequenceIndex": 0,
      "identifier": "m1 Print2Sheet",
      "orderNo": "m1",
      "inputSourceId": 0,
      "dueDate": 1762959600000,
      "receiveDate": 1762503014519,
      "keepJobsTogether": false,
      "commandId": "",
      "inputSourceName": "Manual",
      "returnJmf": "",
      "statusTimestamp": 253370764800000,
      "name": "",
      "id": 1,
      "state": "Batching",
      "returnUrl": "",
      "jobCount": 1,
      "stateKey": "OS_BATCHING",
      "customer": "Print2Sheet"
    },
    {
      "sequenceIndex": 0,
      "identifier": "01 PrintingShop",
      "orderNo": "01",
      "inputSourceId": 0,
      "dueDate": 1763577900000,
```

必要な結果を生成するために必要な設定を決定したら、アプリケーションで使用するCurlコマンドとリクエストURLをコピーします。

3. オブジェクトを管理する

- 新しい簡易フィルターを作成する
- 新しい複合フィルターを作成する
- 新しい試し印刷フィルターを作成する
- 簡易フィルターを編集する
- 複合フィルターを編集する
- 複合フィルターを使用する
- フィルターを削除する
- 新しいバッチを作成する
- バッチを編集する
- バッチを再送信する
- 注文を送信する
- 注文納期日を変更する
- 注文を複製して新規作成する
- バーコードをスキャンする
- 再印刷する
- 注文詳細ダイアログ
- 新しいアラートトリガーを作成する
- デフォルトアラートトリガー
- ジョブアラートトリガー
- 注文アラートトリガー
- バッチアラートトリガー
- 入力ホットフォルダーを作成する
- 入力ホットフォルダーのホットフォルダープロパティーとデフォルトジョブプロパティーを編集する
- 入力ホットフォルダーを削除する
- デフォルトホットフォルダーのプロパティーファイル
- 出力を作成する
- 出力フォルダープロパティーを編集する
- 出力フォルダーを削除する方法
- RICOH ProcessDirectorのリストファイルを作成する

TotalFlow Optimizerシステムで使用できるさまざまなシステムオブジェクトが含まれています。

新しい簡易フィルターを作成する

新しい簡易フィルターを作成し、このフィルターのプロパティーと属性を定義できます。

新しい簡易フィルターを作成するには、[フィルター] タブから [フィルターを追加] ボタン ( **新規**) をクリックし、[簡易フィルター] を選択します。

新しい簡易フィルターは、[フィルター] セクションからでも作成できます。[新しいフィルター] をクリックし、[簡易フィルター] オプションを選択します。[新しいフィルター] ダイアログが表示されます。

フィルターのプロパティは、以下のとおりです。

[フィルター名]

フィルター名を入力します。

[概要]

フィルターの簡単な概要を入力します。

[試し印刷ジョブ]

〔試し印刷〕ジョブプロパティが〔試し印刷が必須〕に設定されたジョブをフィルター選択に含める場合は、チェックを付けます。デフォルトでは〔試し印刷が必須のジョブを含める〕のチェックが外れています。

↓ 補足

チェックを外したときは、フィルター選択は、〔試し印刷〕ジョブプロパティが〔試し印刷が必須〕に設定されたジョブを無視します。

[集約]

ジョブ集約を有効にする場合は、〔ジョブ集約を有効にする〕にチェックを付けます。チェックボックスは、〔集約〕ウィンドウの〔管理〕タブから集約が有効になっている場合のみ表示されます。フィルター集約が有効なとき、手動または自動で作成されるこのフィルターの全てのバッチの集約は有効になります。集約は試し印刷フィルターでは利用できません。

[出力先]

リストからホットフォルダーを選択できます。

[推定出力速度]

選択した出力先で生成される推定出力速度です。出力速度を編集し、リストから測定単位を選択します。

[バナーシート]

このフィルターのジョブのバナーシートを印刷しない場合は、チェックを付けます。このオプションはバナーシートが選択した出力先に設定されている場合にのみ有効になります。

新しい簡易フィルターを作成するには、[OK] をクリックします。

[新しいフィルター] ウィンドウダイアログを閉じ、入力した情報を破棄するには、[キャンセル] をクリックします。

3

[ジョブ属性] タブ

The screenshot shows the '新しいフィルター' (New Filter) dialog box with the 'ジョブ属性' (Job Properties) tab selected. The dialog has a title bar '新しいフィルター' and a close button. The main area is divided into several sections:

- フィルター名 ***: A text input field containing 'Test filter'.
- 出力先**: A dropdown menu showing '- なし -'.
- 概要**: A text input field containing 'A description for the current filter'.
- 推定出力速度**: A text input field and a dropdown menu showing 'シート数/時'.
- 試し印刷ジョブ**: A checkbox labeled '試し印刷が必須のジョブを含める'.
- バナーシート**: A checkbox labeled 'バナーシートを印刷しない' which is checked.
- 集約**: A checkbox labeled 'ジョブ集約を有効にする'.

Below these sections are tabs: 'ジョブ属性' (selected), '自動化', 'スケジュール', 'ジョブ シーケンス', and 'ボリューム見直し'.

The 'ジョブ属性' tab contains:

- 一致**: A section with two radio buttons: 'すべての属性(*and*論理)' (selected) and '任意の属性(*or*論理)'.
- 属性リスト**: A list of attributes with dropdown menus and a '+' button to add more.

At the bottom, there are buttons: 'フィルターを削除', 'OK', and 'キャンセル'.

[一致]

以下のオプションから1つ選択します。

- [すべての属性("and"論理)]
- [任意の属性("or"論理)]

[すべての属性("and"論理)] を選択する場合は、[ジョブ属性] タブで設定された全ての属性と一致するジョブがフィルターに表示されます。[任意の属性("or"論理)] を選択した場合は、指定した属性のいずれかに一致するジョブがフィルターに表示されます。

新しいフィルターの条件を設定するには、以下の操作を行います。

1. 1番目のリストから属性種類を選択します。
2. 2番目のリストから演算子を1つ選択します。

- [次の値と等しい]
- [次の値と等しくない]
- [間]
- [次の値より大きい]
- [次の値より小さい]
- [次の値以上]
- [次の値以下]

3. 指定した属性種類の値を入力または選択して条件を完成させます。

↓ 補足

[間] 演算子が選択されると、ジョブ属性の開始値と終了値を指定できます。

属性を選択すると、フィルターの条件として使用できます。新しい属性を追加するには、

[条件を追加] ボタン () をクリックします。フィルター条件から属性を削除するには、[条件を削除] ボタン () をクリックします。

特定の日時にジョブをフィルターに掛ける場合は、最初のリストから[納期日] 属性を選択します。2番目のリストから演算子として[次の値と等しい] または[次の値以下] を選択します。

↓ 補足

演算子で[次の値と等しい] を選択した場合は、指定した値の日付のみを設定できます。

特定の日時を設定するには、以下の操作を行います。

1. カレンダーボタン () をクリックします。[納期] ダイアログボックスが表示されます。使用可能なオプションを1つ選択または入力し、ジョブの期限の日時を設定します。

納期

☐ 今日

☐ 月曜日

☐ 2018/05/24

☒ 残り期間:

OK キャンセル

3

2. [OK] をクリックします。

[自動化] タブ

新しいフィルター

フィルター名*

出力先

概要

推定出力速度

試し印刷ジョブ ☐ 試し印刷が必須のジョブを含める

パンナシート ☒ パンナシートを印刷しない

集約 ☐ ジョブ集約を有効にする

ジョブ属性 自動化 スケジュール ジョブ シーケンス ポリウム見積もり

自動化レベル

☐ 自動化なし

☒ 自動バッチ

自動バッチと送信

自動化トリガー

☒ すべての条件("and"論理)

☐ 任意の条件("or"論理)

トリガー*

単一ジョブがポリウムのしきい値を超えた場合

☒ 通知し、バッチしない

☐ ジョブを分離してバッチする

自動バッチ
対象または対象範囲に到達したときに、自動的にジョブがバッチされます。

フィルターを削除

OK キャンセル

↓ 補足

〔自動化〕タブは、TotalFlow Optimizer自動化機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。

〔自動化レベル〕

自動化レベルを選択できます。以下のオプションから1つ選択します。

- 〔自動化なし〕：ジョブは自動的にバッチングされません。
- 〔自動バッチ〕：対象範囲に達したときは、ジョブのバッチが自動的に作成されます。
- 〔自動バッチと送信〕：対象範囲に達したときは、一致する全てのジョブのバッチが自動的に作成され、関連付けられている出力先に送信されます。

〔自動化トリガー〕

2つのオプションから1つ選択します。

- 〔すべての条件(“and”論理)〕
- 〔任意の条件(“or”論理)〕

〔すべての条件(“and”論理)〕を選択した場合は、〔自動化〕タブで設定された全ての対象に達したときにのみバッチが作成されます。〔任意の条件(“or”論理)〕を選択した場合は、指定した対象のいずれかに達したときにバッチが作成されます。

リストから条件を追加または削除できます。条件を追加するには、条件の追加ボタン () をクリックします。条件を削除するには、条件の削除ボタン () をクリックします。

条件を設定するには、以下の操作を行います。

1. リストからトリガーの種類を選択します。
2. 最初のテキストフィールドに値を入力し、対象を設定します。
3. 2番目のフィールドでしきい値を指定します。

選択したトリガー種類のしきい値範囲がシステムで計算され、表示されます。

↓ 補足

対象種類として〔曜日/時刻〕を選択する場合は、バッチが作成されるとき特定の曜日（日曜日から土曜日）と時刻を設定できます。

〔曜日〕 リストから値を選択します。

〔時刻〕 リストから値を選択します。

〔曜日/時刻〕 自動化にフィルターが設定され、TotalFlow Optimizerサーバーが指定した日時に停止したときは、サーバーが開始したときにフィルターはトリガーされません。

〔単一ジョブがボリュームのしきい値を超えた場合〕

自動化レベルを選択できます。以下のオプションから1つ選択します。

- 〔通知し、バッチしない〕
- 〔ジョブを分離してバッチする〕

自動化（シート数、フィート、メートル、総ページ数、実行時）のボリューム制限を超えるジョブには、[ジョブを分離してバッチする]を選択できます。[ジョブを分離してバッチする]を選択すると、ジョブが1つのジョブバッチとしてバッチに追加されます。[通知し、バッチしない]を選択すると、フィルターで警告とアラートを発行し続けます。

[スケジュール] タブ

フィルターの自動化に適用されるスケジュールを作成し、フィルターを実行できる期間を制限する方法を説明します。

3

新しいフィルター

フィルター名 *

出力先

概要

推定出力速度

シート数/時

試し印刷ジョブ

☐ 試し印刷が必須のジョブを含める

パナーシート

☒ パナーシートを印刷しない

ジョブ属性 自動化 **スケジュール** ジョブシーケンス 面付け ボリューム見積もり

自動スケジュール

● 有効 表示された期間のみ自動化

曜日 *

開始 *

停止 *

最大バッチ数

- 選択 - hh:mm hh:mm 制限がありません + -

フィルターを削除 OK キャンセル

↓ 補足

- [スケジュール] タブは、TotalFlow Optimizer自動化機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。
- [自動化] タブで[自動化レベル]を[自動化なし]に設定したときは、[スケジュール] タブが使用できません。

[有効にする] または [無効にする] ボタンをクリックすると、[自動スケジュール] を有効または無効にできます。

[曜日] メニューから曜日を選択します。[開始] リストから自動化を開始する対象の時間と分を選択します。[停止] リストから自動化を停止する時間と分を選択できます。送信する[最大バッチ数]を指定します。

と ボタンを使用して複数のスケジュールを追加または削除します。

[ジョブ シーケンス] タブ

新しいフィルター

フィルター名*
Test filter

出力先
- なし -

概要
A description for the current filter

推定出力速度
シート数/時

試し印刷ジョブ
☐ 試し印刷が必須のジョブを含める

パンナシート
☒ パンナシートを印刷しない

集約
☐ ジョブ集約を有効にする

ジョブ属性 自動化 スケジュール **ジョブ シーケンス** ポリウム見積もり

ジョブ シーケンス
このフィルターから作成されたバッチのジョブシーケンスを設定してください。2次属性は1次シート内で並び替えられます。

自動化を有効にした場合に、ジョブシーケンスが有効になります。

1 注文番号 昇順 + -

2 - 選択 - 昇順 + -

フィルターを削除 OK キャンセル

このフィルターとバッチに含まれているジョブのシーケンスを設定できます。2次属性で1次並び替え内のジョブのリストを並び替えます。

+ と **-** ボタンを使用し、並び替えの属性を追加または削除します。手動で属性を並び替えると、フィルターが実行しません。

↓ 補足

- [ジョブ シーケンス] タブは、TotalFlow Optimizer自動化機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。
- [自動化] タブで [自動化レベル] を [自動化なし] に設定したときは、[ジョブ シーケンス] タブは無効です。

[面付け] タブ

新しいフィルター

フィルター名*
Test filter

出力先
- なし -

概要
A description for the current filter

推定出力速度
シート数/時

試し印刷ジョブ
☐ 試し印刷が必須のジョブを含める

バナーシート
☒ バナーシートを印刷しない

ジョブ属性 自動化 スケジュール ジョブ シーケンス **面付け** ポリウレタン見積もり

このフィルターからパッチするときにすべてのジョブに適用する面付けを選択してください。注：定義済みの面付けは上書きされます。

ギャングアップ
☐ ジョブをまとめてギャング

部数を含める
☐ 出力に部数を含める

Ultimate Impostrip®フォルダー
- 選択 -

面付けレビュー
出力に送信する前に面付けファイルを確認します。 無効

フィルターを削除 OK キャンセル

[ギャングアップ]

面付けする全てのジョブをまとめて送信するには、[ジョブをまとめてギャング] をクリックします。このオプションを有効にすると、[部数を含める] オプションが自動的に有効になります。その結果、フィルターのすべてのジョブに対して1つの面付けファイルが作成されます。面付けファイルには各ジョブの指定された部数が含まれ、[部数] 属性値 [1] で出力に送信されます。

[部数を含める]

すべてのコピーに面付けを適用するには、[出力に部数を含める] を選択します。

このオプションが有効な場合、各ジョブに作成された面付けファイルには各ジョブの指定された部数が含まれ、[部数] 属性値 [1] で出力に送信されます。

[出力に部数を含める] オプションが無効のときは、面付けファイルには各ジョブの1部が含まれ、[部数] 属性の実際の値が出力に送信されます。

↓ 補足

[出力に部数を含める] オプションを有効にする場合は、Ultimate Impostrip®のホットホルダーで[出力設定] の[繰り返しを考慮] オプションがオンになっていることも確認してください。

〔Ultimate Impostrip®フォルダー〕

TotalFlow Optimizerで面付けされるジョブを送信するフォルダー名を指定できます。このフィルターからバッチを作成するときに全てのジョブに面付けが適用されます。個別のジョブには事前定義された面付けが上書きされます。

リストからホットフォルダーを選択するか、ホットフォルダー名を入力します。最大256文字まで文字列を入力できます。ホットフォルダーのリストは、Ultimate Impostrip®アプリケーションだけで編集できます。Ultimate Impostrip®を使用してホットフォルダーを追加または削除できます。

〔更新〕 ボタン () をクリックし、ホットフォルダーのリストを更新します。

↓ 補足

- 〔面付け〕 タブは〔Ultimate Impostrip®〕が〔管理〕→〔機能〕→〔面付け〕ウィンドウで有効な場合にのみ使用できます。
- 上記のオプション〔出力に部数を含める〕を選択した場合、〔Ultimate Impostrip®〕の値が〔面付けしない〕以外になる必要があります。

〔面付けレビュー〕

面付けジョブファイルを出力に送信する前に、面付けファイルを表示して承認できます。このオプションをオンにするには、〔無効〕 ボタンをクリックします。

〔ボリューム見積もり〕 タブ

フィルターに表示するボリューム見積もりを選択する方法を説明します。

新しいフィルター

フィルター名 *

Test filter

出力先

- なし -

概要

A description for the current filter

推定出力速度

シート数/時

試し印刷ジョブ

☐ 試し印刷が必須のジョブを含める

バナーシート

☒ バナーシートを印刷しない

集約

☐ ジョブ集約を有効にする

ジョブ属性

自動化

スケジュール

ジョブ シーケンス

ポリリューム見積もり

ポリリューム見積もり

表示するポリリューム見積もりを最大3つまで選択してください。

1

ジョブ

2

シート数

3

実行(時間:分)

プレビュー

Test filter

新しいフィルター

ジョブ シート数 実行(時間:分)

- - -

フィルターを削除

OK

キャンセル

ポリリューム見積もりを選択すると、フィルター情報に表示できます。各メニューに表示される値は、以下のとおりです。

- [ジョブ]
- [シート数]
- [フィート]
- [メートル]
- [実行(時間:分)]
- [総ページ数]
- [ファイルサイズ]

[プレビュー]

フィルターのプレビューが表示されます。この情報は [フィルター] パネルのフィルターリストに表示されます。

↓ 補足

[プレビュー] にポリリューム見積もりが表示されない場合は、[P. 285 「トラブルシューティング」](#)を参照してください。

新しい複合フィルターを作成する

新しい複合フィルターを作成し、このフィルターのプロパティと属性を定義できます。複合フィルターでは、フィルター条件とバッチの複数のセットを作成し、同時に複数の出力フォルダーに送信できます。

「新しい複合フィルター」を作成するには、「フィルター」タブから「フィルターを追加」ボタン（**+** **新規**）をクリックし、「複合フィルター」を選択します。

新しい複合フィルターは、「フィルター」セクションからでも作成できます。「新しいフィルター」をクリックし、「複合フィルター」オプションを選択します。

「新しい複合フィルター」ダイアログが表示されます。

「フィルター名」

複合フィルターの名前を指定します。

「概要」

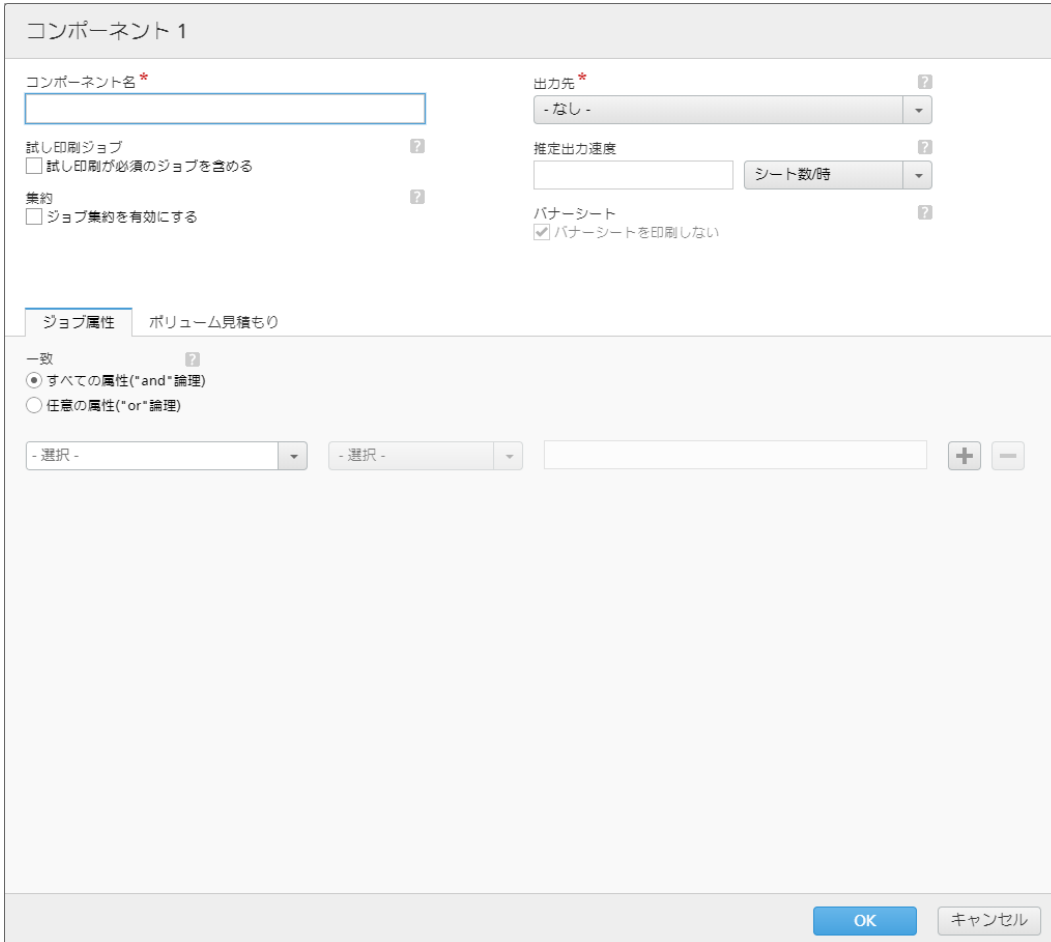
複合フィルターの簡単な概要を追加します。

「コンポーネント」タブ

複合フィルターは2つ以上のコンポーネントから構成されます。コンポーネントを追加または削除できます。新しいコンポーネントを追加するには、コンポーネントの追加ボタン

() をクリックします。リストからコンポーネントを削除するには、コンポーネントの削除ボタン () をクリックします。

「編集」をクリックし、コンポーネントプロパティを設定します。「コンポーネント」詳細ダイアログが表示されます。



「コンポーネント名」

コンポーネント名を指定します。

「試し印刷ジョブ」

「[試し印刷] ジョブプロパティが「[試し印刷が必須]」に設定されたジョブをフィルター選択に含める場合は、チェックを付けます。デフォルトでは「[試し印刷が必須のジョブを含める]」のチェックが外れています。

 補足

チェックを外したときは、フィルター選択は、「[試し印刷] ジョブプロパティが「[試し印刷が必須]」に設定されたジョブを無視します。

「集約」

ジョブ集約を有効にする場合は、「[ジョブ集約を有効にする]」にチェックを付けます。チェックボックスは、「[集約]」ウィンドウの「[管理]」タブから集約が有効になっている場合のみ表示されます。フィルター集約が有効なとき、手動または自動で作成

されるこのフィルターの全てのバッチの集約は有効になります。集約は試し印刷フィルターでは利用できません。

[出力先]

リストからこのコンポーネントのホットフォルダー宛先を選択します。

[推定出力速度]

選択した出力先で生成される推定出力速度です。出力速度を編集し、リストから測定単位を選択します。

[バナーシート]

このフィルターのジョブのバナーシートを印刷しない場合は、チェックを付けます。このオプションはバナーシートが選択した出力先に設定されている場合にのみ有効になります。

各コンポーネントのジョブ属性、ジョブシーケンス、ボリューム見積もりを設定できます。

[ジョブ属性] タブ

[一致]

以下のオプションから1つ選択します。

- [すべての属性("and"論理)]
- [任意の属性("or"論理)]

[すべての属性("and"論理)]を選択する場合は、[ジョブ属性] タブで設定された全ての属性と一致するジョブがコンポーネントによって選択されます。[任意の属性("or"論理)]を選択する場合は、指定された属性のいずれかと一致する全てのジョブがコンポーネントによって選択されます。

新しいフィルターの条件を設定するには、以下の操作を行います。

1. 1番目のリストから属性種類を選択します。
2. 2番目のリストから演算子を1つ選択します。
 - [次の値と等しい]
 - [次の値と等しくない]
 - [間]
 - [次の値より大きい]
 - [次の値より小さい]
 - [次の値以上]
 - [次の値以下]
3. 指定した属性種類の値を入力または選択して条件を完成させます。



[間] 演算子が選択されると、ジョブ属性の開始値と終了値を指定できます。

属性を選択すると、コンポーネントの条件として使用できます。新しい属性を追加するには、[条件を追加] ボタン () をクリックします。コンポーネント条件から属性を削除するには、[条件を削除] ボタン () をクリックします。

特定の日時でジョブをフィルターに掛ける場合は、最初のリストから [納期日] 属性を選択します。2番目のリストから演算子として [次の値と等しい] または [次の値以下] を選択します。

↓ 補足

演算子で [次の値と等しい] を選択した場合は、指定した値の日付のみを設定できます。

特定の日時を設定するには、以下の操作を行います。

1. カレンダーボタン () をクリックします。[納期] ダイアログボックスが表示されます。使用可能なオプションを1つ選択または入力し、ジョブの期限の日時を設定します。



2. [OK] をクリックします。

[ジョブ シーケンス] タブ

このコンポーネントのジョブのシーケンスを設定できます。2次属性で1次並び替え内のジョブのリストを並び替えます。

 と  ボタンを使用し、並び替えの属性を追加または削除します。手動で属性を並び替えると、コンポーネントが実行しません。

↓ 補足

- [ジョブ シーケンス] タブは、TotalFlow Optimizer自動化機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。
- [自動化] タブで [自動化レベル] を [自動化なし] に設定したときは、[ジョブ シーケンス] タブは無効です。

[面付け] タブ

[ギャングアップ]

面付けする全てのジョブをまとめて送信するには、[ジョブをまとめてギャング] をクリックします。このオプションを有効にすると、[部数を含める] オプションが自動的に有効になります。その結果、フィルターのすべてのジョブに対して1つの面付けファイルが作成されます。面付けファイルには各ジョブの指定された部数が含まれ、[部数] 属性値 [1] で出力に送信されます。

[部数を含める]

すべてのコピーに面付けを適用するには、[出力に部数を含める] を選択します。

このオプションが有効な場合、各ジョブに作成された面付けファイルには各ジョブの指定された部数が含まれ、[部数] 属性値 [1] で出力に送信されます。

[出力に部数を含める] オプションが無効のときは、面付けファイルには各ジョブの1部が含まれ、[部数] 属性の実際の値が出力に送信されます。

↓ 補足

[出力に部数を含める] オプションを有効にする場合は、Ultimate Impostrip®のホットホルダーで[出力設定] の[繰り返しを考慮] オプションがオンになっていることも確認してください。

[Ultimate Impostrip®フォルダー]

TotalFlow Optimizerで面付けされるジョブを送信するフォルダー名を指定できます。このフィルターからバッチを作成するときに全てのジョブに面付けが適用されます。個別のジョブには事前定義された面付けが上書きされます。

リストからホットフォルダーを選択するか、ホットフォルダー名を入力します。ホットフォルダーのリストはUltimate Impostrip® ®アプリケーションだけで編集できます。Ultimate Impostrip®を使用してホットフォルダーを追加または削除できます。

↓ 補足

[面付け] タブは[Ultimate Impostrip®] が[管理] → [機能] → [面付け] ウィンドウで有効な場合にのみ使用できます。

[更新] ボタン () をクリックし、ホットフォルダーのリストを更新します。

[面付けレビュー]

面付けレビューを有効または無効にできます。有効または無効の状態に切り替えるには、[有効] または [無効] をクリックします。面付けレビューを有効にすると、ジョブは保留され、出力に送信する前に面付けファイルを表示して承認できます。デフォルト設定は[無効] です。

[ボリューム見積もり] タブ

最大3つまでボリューム見積もりを選択すると、コンポーネント情報に表示できます。各メニューに表示される値は、以下のとおりです。

- [なし]
- [ジョブ]
- [シート数]

- [フィート]
- [メートル]
- [実行(時間:分)]
- [総ページ数]
- [ファイルサイズ]

[プレビュー]

コンポーネントのプレビューが表示されます。この情報は [フィルター] パネルのフィルターリストに表示されます。

↓ 補足

[プレビュー] にボリューム見積もりが表示されない場合は、P.285 「トラブルシューティング」を参照してください。

[OK] をクリックして変更を保存し、[コンポーネント] 詳細ダイアログを閉じます。

[自動化] タブ

↓ 補足

[自動化] タブは、TotalFlow Optimizer自動化機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。

[自動化レベル]

自動化レベルを選択できます。以下のオプションから1つ選択します。

- [自動化なし] : ジョブは自動的にバッチングされません。
- [自動バッチ] : 対象範囲に達したときは、ジョブのバッチが自動的に作成されます。
- [自動バッチと送信] : 対象範囲に達したときは、一致する全てのジョブのバッチが自動的に作成され、関連付けられている出力先に送信されます。

[自動化トリガー]

2つのオプションから1つ選択します。

- [すべての条件("AND"論理):]
- [任意の条件("OR"論理):]

[すべての条件("AND"論理):] を選択した場合は、全ての指定した対象に達したときのみバッチが作成されます。[任意の条件("OR"論理):] を選択した場合は、指定した対象のいずれかに達したときにバッチが作成されます。

リストから条件を追加または削除できます。条件を追加するには、条件の追加ボタン (+) をクリックします。条件を削除するには、条件の削除ボタン (-) をクリックします。行の位置を変更するには、移動ボタン (⇄) をクリックし、選択項目をドラッグします。

トリガー状況を設定するときは、各ボリュームに基づくトリガーにコンポーネントを指定してください。条件を設定するには、以下の操作を行います。

1. リストから対象種類を選択します。

2. リストからコンポーネントを選択します。
3. 行の位置を変更するには、最初のテキストフィールドに値を入力し、対象を設定します。
4. 2番目のフィールドでしきい値を指定します。

選択した対象種類のしきい値範囲がシステムで計算され、表示されます。

↓ 補足

対象種類として「曜日/時刻」を選択する場合は、バッチが作成されるとき特定の曜日（日曜日から土曜日）と時刻を設定できます。

「曜日」 リストから値を選択します。

「時刻」 リストから値を選択します。

「曜日/時刻」自動化にフィルターが設定され、TotalFlow Optimizerサーバーが指定した日時に停止したときは、サーバーが開始したときにフィルターはトリガーされません。

「スケジュール」タブ

フィルターの自動化に適用されるスケジュールを作成し、フィルターを実行できる期間を制限する方法を説明します。

新しいフィルター

フィルター名 *

概要

試し印刷ジョブ
☐ 試し印刷が必須のジョブを含める

出力先
 - なし -

推定出力速度
 シート数/時

パンナシート
☒ パンナシートを印刷しない

ジョブ属性 自動化 **スケジュール** ジョブシーケンス 面付け ポリウム見積もり

自動スケジュール
☒ 有効 表示された期間のみ自動化

曜日 * 開始 * 停止 * 最大バッチ数

- 選択 - hh:mm hh:mm 制限がありません + -

フィルターを削除 OK キャンセル

↓ 補足

- 「スケジュール」タブは、TotalFlow Optimizer自動化機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。
- 「自動化」タブで「自動化レベル」を「自動化なし」に設定したときは、「スケジュール」タブが使用できません。

「有効にする」または「無効にする」ボタンをクリックすると、「自動スケジュール」を有効または無効にできます。

↓ 補足

〔最大バッチ数〕は、選択したコンポーネントによって、このフィルターが期間ごとに自動化される回数を制限します。

〔曜日〕メニューから曜日を選択します。〔開始〕リストから自動化を開始する対象の時間と分を選択します。〔停止〕リストから自動化を停止する時間と分を選択できます。送信する〔最大バッチ数〕を指定します。

↓ 補足

- スケジュールされた期間の〔最大バッチ数〕を設定すると、バッチ数に監視されたコンポーネントフィルターを選択できます。
- スケジュールされた期間に最大バッチ数が指定されている場合は、〔最大バッチ数〕コンポーネントのフィルター選択項目が有効になります。
- 1つのアクティブ期間でコンポーネントの〔最大バッチ数〕を達成していても、他の期間で〔最大バッチ数〕を満たしていない場合は、バッチは送信され続けます。



と ボタンを使用して複数のスケジュールを追加または削除します。

〔自動化トリガーコンポーネント〕

〔最大バッチ数〕が設定されている場合は、リストから〔コンポーネント〕を選択します。〔自動化トリガーコンポーネント〕は〔選択〕です。

新しい複合フィルターを作成するには、〔OK〕をクリックします。

〔新しい複合フィルター〕ウィンドウダイアログを閉じ、入力した情報を破棄するには、〔キャンセル〕をクリックします。

新しい試し印刷フィルターを作成する

試し印刷フィルターを作成する方法を説明します。試し印刷フィルターでは、試し印刷が必要な複数のジョブを特定し、試し印刷するために送信します。試し印刷フィルターは試し印刷ジョブ設定があるジョブのみを選択します。

新しい試し印刷フィルターを作成するには、〔フィルター〕タブから〔フィルターを追加〕ボタン（**+** 新規）をクリックし、〔試し印刷フィルター〕を選択します。

新しい試し印刷フィルターは、〔フィルター〕セクションからでも作成できます。〔新しいフィルター〕をクリックし、〔試し印刷フィルター〕オプションを選択します。〔新しい試し印刷フィルター〕ダイアログが表示されます。

新しいフィルター

フィルター名*
Test filter

出力先
-なし-

概要
A description for the current filter

推定出力速度
シート数/時

試し印刷ジョブ
☐ 試し印刷が必須のジョブを含める

バナーシート
☒ バナーシートを印刷しない

集約
☐ ジョブ集約を有効にする

ジョブ属性 自動化 スケジュール ジョブ シーケンス ボリューム見積もり

一致
☒ すべての属性("and"論理)
☐ 任意の属性("or"論理)

-選択- -選択- + -

フィルターを削除 OK キャンセル

フィルターのプロパティは、以下のとおりです。

[フィルター名]

フィルター名を入力します。

[概要]

フィルターの簡単な概要を入力します。

[出力先]

リストからホットフォルダーを選択できます。

[推定出力速度]

選択した出力先で生成される推定出力速度です。出力速度を編集し、リストから測定単位を選択します。

[ジョブ属性] タブ

[一致]

以下のオプションから1つ選択します。

- [すべての属性("and"論理)]
- [任意の属性("or"論理)]

新しいフィルターの条件を設定するには、以下の操作を行います。

1. 1番目のリストから属性種類を選択します。
2. 2番目のリストから演算子を1つ選択します。
 - [次の値と等しい]
 - [次の値と等しくない]
 - [間]
 - [次の値より大きい]
 - [次の値より小さい]
 - [次の値以上]
 - [次の値以下]
3. 指定した属性種類の値を入力または選択して条件を完成させます。

↓ 補足

[間] 演算子が選択されると、ジョブ属性の開始値と終了値を指定できます。

属性を選択すると、フィルターの条件として使用できます。新しい属性を追加するには、[条件を追加] ボタン () をクリックします。フィルター条件から属性を削除するには、[条件を削除] ボタン () をクリックします。

特定の日時でジョブをフィルターに掛ける場合は、最初のリストから [納期日] 属性を選択します。2番目のリストから演算子として [次の値と等しい] または [次の値以下] を選択します。

↓ 補足

演算子で [次の値と等しい] を選択した場合は、指定した値の日付のみを設定できます。特定の日時を設定するには、以下の操作を行います。

1. カレンダーボタン () をクリックします。[納期] ダイアログボックスが表示されます。使用可能なオプションを1つ選択または入力し、ジョブの期限の日時を設定します。

納期

☒ 今日

☐ 月曜日

☐  2018/05/24

☒ 残り期間:

2. [OK] をクリックします。

[自動化] タブ



[自動化] タブは、TotalFlow Optimizer 自動化機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。

[自動化レベル]

自動化レベルを選択できます。以下のオプションから1つ選択します。

- [自動化なし] : ジョブは自動的にバッチングされません。
- [自動バッチ] : 対象範囲に達したときは、ジョブのバッチが自動的に作成されます。
- [自動バッチと送信] : 対象範囲に達したときは、一致する全てのジョブのバッチが自動的に作成され、関連付けられている出力先に送信されます。

[自動化トリガー]

2つのオプションから1つ選択します。

- [すべての条件("AND"論理):]
- [任意の条件("OR"論理):]

[すべての条件("AND"論理):] を選択した場合は、[自動化] タブで設定された全ての対象に達したときにのみバッチが作成されます。[任意の条件("OR"論理):] を選択した場合は、指定した対象のいずれかに達したときにバッチが作成されます。

リストから条件を追加または削除できます。条件を追加するには、条件の追加ボタン () をクリックします。条件を削除するには、条件の削除ボタン () をクリックします。

条件を設定するには、以下の操作を行います。

1. リストから対象種類を選択します。
2. 最初のテキストフィールドに値を入力し、対象を設定します。
3. 2番目のフィールドでしきい値を指定します。

選択した対象種類のしきい値範囲がシステムで計算され、表示されます。



対象種類として [曜日/時刻] を選択する場合は、バッチが作成されるときに特定の曜日 (日曜日から土曜日) と時刻を設定できます。

[曜日] リストと [時刻] リストから値を選択します。

[曜日/時刻] 自動化にフィルターが設定され、TotalFlow Optimizer サーバーが指定した日時に停止したときは、サーバーが開始したときにフィルターはトリガーされません。

[単一ジョブがボリュームのしきい値を超えた場合]

自動化レベルを選択できます。以下のオプションから1つ選択します。

- [通知し、バッチしない]

- [ジョブを分離してバッチする]

自動化（シート数、フィート、メートル、総ページ数、実行時）のボリューム制限を超えるジョブには、[ジョブを分離してバッチする]を選択できます。[ジョブを分離してバッチする]を選択すると、ジョブが1つのジョブバッチとしてバッチに追加されます。[通知し、バッチしない]を選択すると、フィルターで警告とアラートを発行し続けます。

[スケジュール] タブ

フィルターの自動化に適用されるスケジュールを作成し、フィルターを実行できる期間を制限する方法を説明します。

↓ 補足

- [スケジュール] タブは、TotalFlow Optimizer自動化機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。
- [自動化] タブで[自動化レベル]を[自動化なし]に設定したときは、[スケジュール] タブが使用できません。

[有効にする] または [無効にする] ボタンをクリックすると、[自動スケジュール] を有効または無効にできます。

[曜日] メニューから曜日を選択します。[開始] リストから自動化を開始する対象の時間と分を選択します。[停止] リストから自動化を停止する時間と分を選択できます。送信する[最大バッチ数]を指定します。



と ボタンを使用して複数のスケジュールを追加または削除します。

[ジョブ シーケンス] タブ

このフィルターとバッチに含まれているジョブのシーケンスを設定できます。2次属性で1次並び替え内のジョブのリストを並び替えます。



と ボタンを使用し、並び替えの属性を追加または削除します。手動で属性を並び替えると、フィルターが実行しません。

↓ 補足

- [ジョブ シーケンス] タブは、TotalFlow Optimizer自動化機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。
- [自動化] タブで[自動化レベル]を[自動化なし]に設定したときは、[ジョブ シーケンス] タブは無効です。

[面付け] タブ

[ギャングアップ]

面付けする全てのジョブをまとめて送信するには、[ジョブをまとめてギャング] をクリックします。このオプションを有効にすると、[部数を含める] オプションが自動的に有効になります。その結果、フィルターのすべてのジョブに対して1つの面付けファイルが作成されます。面付けファイルには各ジョブの指定された部数が含まれ、[部数] 属性値 [1] で出力に送信されます。

〔部数を含める〕

すべてのコピーに面付けを適用するには、〔出力に部数を含める〕を選択します。

このオプションが有効な場合、各ジョブに作成された面付けファイルには各ジョブの指定された部数が含まれ、〔部数〕属性値〔1〕で出力に送信されます。

〔出力に部数を含める〕オプションが無効のときは、面付けファイルには各ジョブの1部が含まれ、〔部数〕属性の実際の値が出力に送信されます。

↓ 補足

〔出力に部数を含める〕オプションを有効にする場合は、Ultimate Impostrip®のホットホルダーで〔出力設定〕の〔繰り返しを考慮〕オプションがオンになっていることも確認してください。

〔Ultimate Impostrip®フォルダー〕

TotalFlow Optimizerで面付けされるジョブを送信するフォルダー名を指定できます。このフィルターからバッチを作成するときに全てのジョブに面付けが適用されます。個別のジョブには事前定義された面付けが上書きされます。

リストからホットフォルダーを選択するか、ホットフォルダー名を入力します。ホットフォルダーのリストはUltimate Impostrip®アプリケーションだけで編集できます。Ultimate Impostrip®を使用してホットフォルダーを追加または削除できます。

↓ 補足

〔面付け〕タブは〔Ultimate Impostrip®〕が〔管理〕→〔機能〕→〔面付け〕ウィンドウで有効な場合にのみ使用できます。

ホットフォルダーのリストを更新するには、〔更新〕ボタン () をクリックします。

〔面付けレビュー〕

面付けレビューを有効または無効にできます。有効または無効の状態に切り替えるには、〔有効〕または〔無効〕をクリックします。面付けレビューを有効にすると、ジョブは保留され、出力に送信する前に面付けファイルを表示して承認できます。デフォルト設定は〔無効〕です。

〔ボリューム見積もり〕タブ

ボリューム見積もりを選択すると、フィルター情報に表示できます。各メニューに表示される値は、以下のとおりです。

- 〔なし〕
- 〔ジョブ〕
- 〔シート数〕
- 〔フィート〕
- 〔メートル〕
- 〔実行(時間:分)〕
- 〔総ページ数〕
- 〔ファイルサイズ〕

[プレビュー]

フィルターのプレビューが表示されます。この情報は [フィルター] パネルのフィルターリストに表示されます。

新しい試し印刷フィルターを作成するには、[OK] をクリックします。

[新しい試し印刷フィルター] ウィンドウダイアログを閉じ、入力した情報を破棄するには、[キャンセル] をクリックします。

簡易フィルターを編集する

簡易フィルターのフィルタープロパティを編集する方法を説明します。

簡易フィルターを編集するには、以下の操作を行います。

- [フィルター] パネルを開くには、[展開/折りたたむ] ボタン () をクリックします。
- フィルターのリストから編集する簡易フィルターを選択します。フィルターをダブルクリックするか、フィルターを右クリックして [プロパティ] を選択します。

簡易フィルター編集ダイアログが表示されます。

[フィルター名]

フィルター名を編集できます。

[概要]

フィルターの簡単な概要を編集できます。

[試し印刷ジョブ]

[試し印刷] ジョブプロパティが [試し印刷が必須] に設定されたジョブをフィルター選択に含める場合は、チェックを付けます。デフォルトでは [試し印刷が必須のジョブを含める] のチェックが外れています。

 補足

チェックを外したときは、フィルター選択は、[試し印刷] ジョブプロパティが [試し印刷が必須] に設定されたジョブを無視します。

[集約]

ジョブ集約を有効にする場合は、[ジョブ集約を有効にする] にチェックを付けます。チェックボックスは、[集約] ウィンドウの [管理] タブから集約が有効になっている場合のみ表示されます。フィルター集約が有効なとき、手動または自動で作成されるこのフィルターの全てのバッチの集約は有効になります。集約は試し印刷フィルターでは利用できません。

[出力先]

リストからホットフォルダーを選択できます。

[推定出力速度]

選択した出力先で生成される推定出力速度です。出力速度を編集し、リストから測定単位を選択します。

[バナーシート]

このフィルターのジョブのバナーシートを印刷しない場合は、チェックを付けます。
このオプションはバナーシートが選択した出力先に設定されている場合にのみ有効になります。

[ジョブ属性] タブ

[一致]

以下のオプションから1つ選択します。

- [すべての属性("and"論理)]
- [任意の属性("or"論理)]

新しいフィルターの条件を設定するには、以下の操作を行います。

1. 1番目のリストから属性種類を選択します。
2. 2番目のリストから演算子を1つ選択します。
 - [次の値と等しい]
 - [次の値と等しくない]
 - [間]
 - [次の値より大きい]
 - [次の値より小さい]
 - [次の値以上]
 - [次の値以下]
3. 指定した属性種類の値を入力または選択して条件を完成させます。

↓ 補足

[間] 演算子が選択されると、ジョブ属性の開始値と終了値を指定できます。

属性を選択すると、フィルターの条件として使用できます。新しい属性を追加するには、
[条件を追加] ボタン () をクリックします。フィルター条件から属性を削除するには、
[条件を削除] ボタン () をクリックします。

特定の日時にジョブをフィルターに掛ける場合は、最初のリストから [納期日] 属性を選択します。2番目のリストから演算子として [次の値と等しい] または [次の値以下] を選択します。

↓ 補足

演算子で [次の値と等しい] を選択した場合は、指定した値の日付のみを設定できます。
特定の日時を設定するには、以下の操作を行います。

1. カレンダーボタン () をクリックします。[納期] ダイアログボックスが表示されます。使用可能なオプションを1つ選択または入力し、ジョブの期限の日時を設定します。

納期

☐ 今日

☐ 月曜日

☐ 2018/05/24

☒ 残り期間:

OK キャンセル

2. [OK] をクリックします。

[自動化] タブ

↓ 補足

[自動化] タブは、TotalFlow Optimizer自動化機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。

[自動化レベル]

自動化レベルを選択できます。以下のオプションから1つ選択します。

- [自動化なし] : ジョブは自動的にバッチングされません。
- [自動バッチ] : 対象範囲に達したときは、ジョブのバッチが自動的に作成されます。
- [自動バッチと送信] : 対象範囲に達したときは、一致する全てのジョブのバッチが自動的に作成され、関連付けられている出力先に送信されます。

[自動化トリガー]

2つのオプションから1つ選択します。

- [すべての条件("AND"論理):]
- [任意の条件("OR"論理):]

[すべての条件("AND"論理):] を選択した場合は、[自動化] タブで設定された全ての対象に達したときにのみバッチが作成されます。[任意の条件("OR"論理):] を選択した場合は、指定した対象のいずれかに達したときにバッチが作成されます。

リストから条件を追加または削除できます。条件を追加するには、条件の追加ボタン (+) をクリックします。条件を削除するには、条件の削除ボタン (-) をクリックします。

条件を設定するには、以下の操作を行います。

1. リストから対象種類を選択します。
2. 最初のテキストフィールドに値を入力し、しきい値の数値を設定します。

3. 2番目のフィールドで対象範囲を指定します。

選択した対象種類のしきい値範囲がシステムで計算され、表示されます。



対象種類として「曜日/時刻」を選択する場合は、「毎日」、「平日」、「週末」から1つ選択します。バッチが作成されるとき特定の曜日（月曜日から日曜日）と時刻を設定できます。

「曜日」 リストから値を選択します。

「時刻」 リストから値を選択します。

「曜日/時刻」 自動化にフィルターが設定され、TotalFlow Optimizerサーバーが指定した日時に停止したときは、サーバーが開始したときにフィルターはトリガーされません。

「単一ジョブがボリュームのしきい値を超えた場合」

自動化レベルを選択できます。以下のオプションから1つ選択します。

- 「通知し、バッチしない」
- 「ジョブを分離してバッチする」

自動化（シート数、フィート、メートル、総ページ数、実行時）のボリューム制限を超えるジョブには、「ジョブを分離してバッチする」を選択できます。「ジョブを分離してバッチする」を選択すると、ジョブが1つのジョブバッチとしてバッチに追加されます。「通知し、バッチしない」を選択すると、フィルターで警告とアラートを発行し続けます。

「スケジュール」 タブ

フィルターの自動化に適用されるスケジュールを作成し、フィルターを実行できる期間を制限する方法を説明します。



- 「スケジュール」 タブは、TotalFlow Optimizer自動化機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。
- 「自動化」 タブで「自動化レベル」を「自動化なし」に設定したときは、「スケジュール」 タブが使用できません。

「有効にする」または「無効にする」 ボタンをクリックすると、「自動スケジュール」を有効または無効にできます。

「毎日」、「平日」、「週末」、または「曜日」メニューからオプションを1つ選択します。「開始」リストから自動化を開始する対象の時間と分を選択します。「停止」リストから自動化を停止する時間と分を選択できます。送信する「最大バッチ数」を指定します。



ボタンを使用して複数のスケジュールを追加または削除します。

「ジョブ シーケンス」 タブ

このフィルターとバッチに含まれているジョブのシーケンスを設定できます。2次属性で1次並び替え内のジョブのリストを並び替えます。

とボタンを使用し、並び替えの属性を追加または削除します。手動で属性を並び替えると、フィルターが実行しません。

↓ 補足

- [ジョブ シーケンス] タブは、TotalFlow Optimizer自動化機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。
- [自動化] タブで[自動化レベル]を[自動化なし]に設定したときは、[ジョブ シーケンス] タブは無効です。

「面付け」タブ

「ギャングアップ」

面付けする全てのジョブをまとめて送信するには、[ジョブをまとめてギャング] をクリックします。このオプションを有効にすると、[部数を含める] オプションが自動的に有効になります。その結果、フィルターのすべてのジョブに対して1つの面付けファイルが作成されます。面付けファイルには各ジョブの指定された部数が含まれ、[部数] 属性値 [1] で出力に送信されます。

「部数を含める」

すべてのコピーに面付けを適用するには、[出力に部数を含める] を選択します。

このオプションが有効な場合、各ジョブに作成された面付けファイルには各ジョブの指定された部数が含まれ、[部数] 属性値 [1] で出力に送信されます。

[出力に部数を含める] オプションが無効のときは、面付けファイルには各ジョブの1部が含まれ、[部数] 属性の実際の値が出力に送信されます。

↓ 補足

[出力に部数を含める] オプションを有効にする場合は、Ultimate Impostrip®のホットホルダーで[出力設定]の[繰り返しを考慮] オプションがオンになっていることも確認してください。

「Ultimate Impostrip®フォルダー」

TotalFlow Optimizerで面付けされるジョブを送信するフォルダー名を指定できます。このフィルターからバッチを作成するときに全てのジョブに面付けが適用されます。個別のジョブには事前定義された面付けが上書きされます。

リストからホットフォルダーを選択するか、ホットフォルダー名を入力します。ホットフォルダーのリストはUltimate Impostrip®アプリケーションだけで編集できます。Ultimate Impostrip®を使用してホットフォルダーを追加または削除できます。

↓ 補足

「面付け」タブは「Ultimate Impostrip®」が[管理] → [機能] → 「面付け」ウィンドウで有効な場合にのみ使用できます。

「更新」ボタン () をクリックし、ホットフォルダーのリストを更新します。

「面付けレビュー」

面付けレビューを有効または無効にできます。有効または無効の状態に切り替えるには、[有効] または [無効] をクリックします。面付けレビューを有効にすると、ジョブは保留され、出力に送信する前に面付けファイルを表示して承認できます。デフォルト設定は [無効] です。

[ボリューム見積もり] タブ

ボリューム見積もりを選択すると、フィルター情報に表示できます。各メニューに表示される値は、以下のとおりです。

- [なし]
- [ジョブ]
- [シート数]
- [フィート]
- [メートル]
- [実行(時間:分)]
- [総ページ数]
- [ファイルサイズ]

[プレビュー]

フィルターのプレビューが表示されます。この情報は [フィルター] パネルのフィルターリストに表示されます。

変更したプロパティを保存するには、[OK] をクリックします。フィルター編集ダイアログを閉じて変更を破棄する場合は、[キャンセル] をクリックします。

フィルターを削除するには、[削除] をクリックします。詳しくは、[P.148 「フィルターを削除する」](#) を参照してください。

複合フィルターを編集する

複合フィルターのフィルタープロパティを編集する方法を説明します。

複合フィルターを編集するには、以下の操作を行います。

- [フィルター] パネルを開くには、[展開/折りたたむ] ボタン () をクリックします。
- フィルターのリストから編集する複合フィルターを選択します。フィルターをダブルクリックするか、フィルターを右クリックして [プロパティ] を選択します。

[複合フィルター] ダイアログが表示されます。

フィルター: F-0009 | Combined filter

フィルター名 *

Combined filter

概要

コンポーネント

自動化

スケジュール

コンポーネント (フィルターで注文が認識されるには、すべてのジョブが以下のコンポーネントと一致する必要があります。)

コンポーネント 1

covers

編集

+

-

コンポーネント 2

text

編集

+

-

フィルターを削除

OK

キャンセル

[フィルター名]

複合フィルター名を変更できます。

[概要]

複合フィルターの簡単な概要を編集できます。

[コンポーネント] タブ

複合フィルターは2つ以上のコンポーネントから構成されます。コンポーネントを追加または削除できます。新しいコンポーネントを追加するには、コンポーネントの追加ボタン () をクリックします。リストからコンポーネントを削除するには、コンポーネントの削除ボタン () をクリックします。

[編集] をクリックし、コンポーネントプロパティを設定します。[コンポーネント] 詳細ダイアログが表示されます。

コンポーネント 1

コンポーネント名 *

出力先 *

試し印刷ジョブ

☐ 試し印刷が必須のジョブを含める

集約

☐ ジョブ集約を有効にする

推定出力速度

シート数/時

バナーシート

☒ バナーシートを印刷しない

ジョブ属性 ボリューム見積もり

一致

☒ すべての属性(*and*論理)

☐ 任意の属性(*or*論理)

- 選択 -

- 選択 -

+

-

OK キャンセル

[コンポーネント名]

コンポーネント名を指定します。

[試し印刷ジョブ]

〔試し印刷〕ジョブプロパティが〔試し印刷が必須〕に設定されたジョブをフィルター選択に含める場合は、チェックを付けます。デフォルトでは〔試し印刷が必須のジョブを含める〕のチェックが外れています。

↓ 補足

チェックを外したときは、フィルター選択は、〔試し印刷〕ジョブプロパティが〔試し印刷が必須〕に設定されたジョブを無視します。

[集約]

ジョブ集約を有効にする場合は、〔ジョブ集約を有効にする〕にチェックを付けます。チェックボックスは、〔集約〕ウィンドウの〔管理〕タブから集約が有効になっている場合のみ表示されます。フィルター集約が有効なとき、手動または自動で作成されるこのフィルターの全てのバッチの集約は有効になります。集約は試し印刷フィルターでは利用できません。

[出力先]

リストからこのコンポーネントのホットフォルダー宛先を選択します。

[推定出力速度]

選択した出力先で生成される推定出力速度です。出力速度を編集し、リストから測定単位を選択します。

[バナーシート]

このフィルターのジョブのバナーシートを印刷しない場合は、チェックを付けます。このオプションはバナーシートが選択した出力先に設定されている場合にのみ有効になります。

各コンポーネントのジョブ属性、ジョブシーケンス、ボリューム見積もりを設定できます。

[ジョブ属性] タブ

[一致]

以下のオプションから1つ選択します。

- [すべての属性("and"論理)]
- [任意の属性("or"論理)]

[すべての属性("and"論理)]を選択する場合は、[ジョブ属性] タブで設定された全ての属性と一致するジョブがコンポーネントによって選択されます。[任意の属性("or"論理)]を選択する場合は、指定された属性のいずれかと一致する全てのジョブがコンポーネントによって選択されます。

新しいフィルターの条件を設定するには、以下の操作を行います。

1. 1番目のリストから属性種類を選択します。
2. 2番目のリストから演算子を1つ選択します。
 - [次の値と等しい]
 - [次の値と等しくない]
 - [間]
 - [次の値より大きい]
 - [次の値より小さい]
 - [次の値以上]
 - [次の値以下]
3. 指定した属性種類の値を入力または選択して条件を完成させます。

↓ 補足

[間] 演算子が選択されると、ジョブ属性の開始値と終了値を指定できます。

属性を選択すると、コンポーネントの条件として使用できます。新しい属性を追加するには、[条件を追加] ボタン () をクリックします。コンポーネント条件から属性を削除するには、[条件を削除] ボタン () をクリックします。

特定の日時でジョブをフィルターに掛ける場合は、最初のリストから[納期日] 属性を選択します。2番目のリストから演算子として[次の値と等しい] または[次の値以下] を選択します。

↓ 補足

演算子で「次の値と等しい」を選択した場合は、指定した値の日付のみを設定できます。特定の日時を設定するには、以下の操作を行います。

1. カレンダーボタン () をクリックします。「納期」ダイアログボックスが表示されます。使用可能なオプションを1つ選択または入力し、ジョブの期限の日時を設定します。



2. 「OK」をクリックします。

「ジョブ シーケンス」タブ

このコンポーネントのジョブのシーケンスを設定できます。2次属性で1次並び替え内のジョブのリストを並び替えます。

 と  ボタンを使用し、並び替えの属性を追加または削除します。手動で属性を並び替えると、コンポーネントが実行しません。

↓ 補足

- 「ジョブ シーケンス」タブは、TotalFlow Optimizer自動化機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。
- 「自動化」タブで「自動化レベル」を「自動化なし」に設定したときは、「ジョブ シーケンス」タブは無効です。

「ボリューム見積もり」タブ

最大3つまでボリューム見積もりを選択すると、コンポーネント情報に表示できます。各メニューに表示される値は、以下のとおりです。

- 「なし」
- 「ジョブ」
- 「シート数」
- 「フィート」

- [メートル]
- [実行(時間:分)]
- [総ページ数]
- [ファイルサイズ]

[プレビュー]

コンポーネントのプレビューが表示されます。この情報は [フィルター] パネルのフィルターリストに表示されます。

↓ 補足

[プレビュー] にボリューム見積もりが表示されない場合は、P.285 「[トラブルシューティング](#)」を参照してください。

[OK] をクリックして変更を保存し、[コンポーネント] 詳細ダイアログを閉じます。

[自動化] タブ

↓ 補足

[自動化] タブは、TotalFlow Optimizer自動化機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。

[自動化レベル]

自動化レベルを選択できます。以下のオプションから1つ選択します。

- [自動化なし] : ジョブは自動的にバッチングされません。
- [自動バッチ] : 対象範囲に達したときは、ジョブのバッチが自動的に作成されます。
- [自動バッチと送信] : 対象範囲に達したときは、一致する全てのジョブのバッチが自動的に作成され、関連付けられている出力先に送信されます。

[自動化トリガー]

2つのオプションから1つ選択します。

- [すべての条件("AND"論理):]
- [任意の条件("OR"論理):]

[すべての条件("AND"論理):] を選択した場合は、全ての指定した対象に達したときのみバッチが作成されます。[任意の条件("OR"論理):] を選択した場合は、指定した対象のいずれかに達したときにバッチが作成されます。

リストから条件を追加または削除できます。条件を追加するには、条件の追加ボタン () をクリックします。条件を削除するには、条件の削除ボタン () をクリックします。行の位置を変更するには、移動ボタン () をクリックし、選択項目をドラッグします。

トリガー状況を設定するときは、各ボリュームに基づくトリガーにコンポーネントを指定してください。条件を設定するには、以下の操作を行います。

1. リストから対象種類を選択します。
2. リストからコンポーネントを選択します。

3. 行の位置を変更するには、最初のテキストフィールドに値を入力し、対象を設定します。
4. 2番目のフィールドでしきい値を指定します。
選択した対象種類のしきい値範囲がシステムで計算され、表示されます。

↓ 補足

対象種類として「曜日/時刻」を選択する場合は、バッチが作成されるとき特定の曜日（日曜日から土曜日）と時刻を設定できます。

「曜日」リストから値を選択します。

「時刻」リストから値を選択します。

「曜日/時刻」自動化にフィルターが設定され、TotalFlow Optimizerサーバーが指定した日時に停止したときは、サーバーが開始したときにフィルターはトリガーされません。

「スケジュール」タブ

フィルターの自動化に適用されるスケジュールを作成し、フィルターを実行できる期間を制限する方法を説明します。

新しいフィルター

フィルター名 *

出力先

概要

推定出力速度

テスト印刷ジョブ

バナーシート

ジョブ属性 自動化 スケジュール ジョブシーケンス 面付け ポリウム見積もり

自動スケジュール

有効 表示された期間のみ自動化

曜日 *

開始 *

停止 *

最大バッチ数

フィルターを削除 OK キャンセル

↓ 補足

- 「スケジュール」タブは、TotalFlow Optimizer自動化機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。
- 「自動化」タブで「自動化レベル」を「自動化なし」に設定したときは、「スケジュール」タブが使用できません。

「有効にする」または「無効にする」ボタンをクリックすると、「自動スケジュール」を有効または無効にできます。

↓ 補足

〔最大バッチ数〕は、選択したコンポーネントによって、このフィルターが期間ごとに自動化される回数を制限します。

〔曜日〕メニューから曜日を選択します。〔開始〕リストから自動化を開始する対象の時間と分を選択します。〔停止〕リストから自動化を停止する時間と分を選択できます。送信する〔最大バッチ数〕を指定します。

↓ 補足

- スケジュールされた期間の〔最大バッチ数〕を設定すると、バッチ数に監視されたコンポーネントフィルターを選択できます。
- スケジュールされた期間に最大バッチ数が指定されている場合は、〔最大バッチ数〕コンポーネントのフィルター選択項目が有効になります。
- 1つのアクティブ期間でコンポーネントの〔最大バッチ数〕を達成していても、他の期間で〔最大バッチ数〕を満たしていない場合は、バッチは送信され続けます。



と ボタンを使用して複数のスケジュールを追加または削除します。

〔自動化トリガーコンポーネント〕

〔最大バッチ数〕が設定されている場合は、リストから〔コンポーネント〕を選択します。〔自動化トリガーコンポーネント〕は〔選択〕です。

新しい複合フィルターを作成するには、〔OK〕をクリックします。

〔新しい複合フィルター〕ウィンドウダイアログを閉じ、入力した情報を破棄するには、〔キャンセル〕をクリックします。

変更したプロパティを保存するには、〔OK〕をクリックします。フィルター編集ダイアログを閉じて変更を破棄する場合は、〔キャンセル〕をクリックします。

フィルターを削除するには、〔削除〕をクリックします。詳しくは、[P.148 「フィルターを削除する」](#)を参照してください。

複合フィルターを使用する

複合フィルターの動作と複合フィルターからバッチを作成する方法を説明します。

複合フィルターとは、生成したバッチを異なる出力先に送信するために、2つ以上のコンポーネントフィルターを持つグループのことです。これで、別々の出力デバイスを使用して複数のリンク済みバッチを作成し、印刷用に同時送信できます。

複合フィルターの各個別のコンポーネントには、フィルター条件を設定できます。受信した注文のジョブが複合フィルターのコンポーネントに選択されるのは、以下の場合のみです。

1. ジョブ属性がユーザー定義のコンポーネント条件と一致し、ジョブが〔バッチ待ち〕状態の場合
2. 注文のその他のジョブが複合フィルターのコンポーネントと一致した場合
3. 注文の他のジョブはすべて、〔バッチ待ち〕、〔バッチ済み〕、〔印刷済み〕、〔送信済み〕、〔プリンターでの処理〕、〔プリンターで保留済み〕、〔プリンターで一

時停止]、[プリンターでキャンセル]、[印刷中]、またはカスタム状態のいずれかです。

★重要

- 複合フィルターコンポーネントは他のコンポーネントと別々に使用できません。
- 複合フィルターコンポーネントはいずれのフィルターリストにも個別に表示されず、別の複合フィルターと共有できません。
- 複合フィルターと他の自動化フィルターの条件のいずれかにジョブが一致したときに、アラートを送信します。フィルターはジョブを選択しますが、最初に自動化しきい値に達したフィルターのみがジョブを処理します。

3

複合フィルターからバッチを作成する

1つの複合フィルターから複数のバッチを手動で作成できます。[自動化レベル]で設定すると、バッチを作成するか、処理するバッチを作成および送信できます。

ジョブを含む複合フィルターの各コンポーネントのバッチが作成されます。結果はリンク済みバッチのグループです。このリンクされたバッチ情報は、TotalFlow Optimizer システム全体のバッチIDに表示されます。指定したボリュームしきい値によって複合フィルターの自動化がトリガーされるときは、所属するフィルターコンポーネントに従って、全てのジョブが新しいバッチに追加されます。

複合フィルターからバッチを手動で作成する

複合フィルターをバッチパネルに手動でドラッグ&ドロップすると、リンク済みバッチのグループを作成できます。複合フィルターを右クリックしても、[バッチを作成...]を選択できます。

[フィルター] パネルで複合フィルターからコンポーネントを選択し、コンポーネントを右クリックして[バッチを作成...]を選択します。複合フィルターで選択したコンポーネントからバッチが作成されます。選択したコンポーネントと同一注文のジョブが含まれている各コンポーネントからもバッチが作成されます。

複合フィルターのジョブのリストからジョブを選択し、ジョブをドラッグしてバッチパネルにドロップし、新しいバッチを作成します。選択したジョブと同一注文のジョブも新しいバッチに送信されます。各ジョブは所属するフィルターコンポーネントに従ってバッチに配置されます。これで、全てのジョブを処理するために送信したときに注文との同期を維持できます。

[自動化レベル]で、複合フィルターから既存バッチまたは新しいバッチに単独ジョブも追加できます。ジョブが複合フィルターのパーツではなく、同一注文に含まれている他のジョブがバッチに追加されない警告が表示されます。

他のバッチにリンクしたバッチを削除しようとする、警告が表示されます。続行を選択すると、他のリンク済みバッチを更新して変更を反映できます。

フィルターを削除する

フィルターを削除する方法を説明します。

フィルターを削除するには、以下の操作を行います。

1. [展開/折りたたむ] ボタン () をクリックし、[フィルター] パネルを開きます。

2. フィルターのリストから編集するフィルターを選択します。
3. フィルターをダブルクリックし、フィルター編集ダイアログから「フィルターを削除」を選択するか、フィルターリストのフィルターを右クリックして「削除...」を選択します。
確認メッセージが表示されます。
4. 「はい」をクリックし、フィルターを削除するか、「いいえ」をクリックし、アクションをキャンセルします。

新しいバッチを作成する

新しいジョブのバッチを作成してバッチに異なるプロパティを設定する方法を説明します。

3

新しいバッチを作成するには、さまざまな方法があります。

1. 「バッチ」パネルの「新しいバッチ」ボタン（）をクリックします。
「新しいバッチ」パネルが表示されます。

新しいバッチ

ジョブ

シート数

実行(時間:分)

バッチ名 *

出力先 *

推定出力速度

集約 ☐ ジョブ集約を有効にする

ジョブ

ボリューム見積もり

面付け

パナールシート

バッチチケット

シーケンスを更新

シーケンス ▲	注文番号	パーツ番号	お客様	ジョブ名	状態	状況更新日時

バッチを削除

バッチを送信

OK

キャンセル

「ボリューム見積もり」

ジョブ、シート、実行時の推定値が表示されます。

「バッチ名」

新しいバッチの名前を特定できます。

[出力先]

リストからホットフォルダーを選択できます。

[推定出力速度]

選択した出力先に設定された推定出力速度が表示されます。出力速度を編集し、リストから測定単位を選択します。

[集約]

このバッチにジョブ集約を有効にする場合は、[ジョブ集約を有効にする]にチェックを付けます。[管理] → [プロダクション設定] → [集約] からジョブ集約を有効または無効にします。

↓ 補足

バッチが出力に送信された後は、ジョブ集約設定を変更できなくなります。

[ジョブ] タブ

バッチに含まれているすべてのジョブのリストが表示されます。[集約] が有効な場合は、全ての集約ジョブを表示できます。

- バッチ内のジョブの順番を変更するには、[シーケンス] 列にカーソルを合わせ、移動カーソルである  をドラッグして、ジョブを新しい位置に移動します。ジョブシーケンスとは、ジョブを出力に送信する順序のことです。
- ジョブプロパティーに基づいて昇順または降順に並べ替えるには、使用可能な列見出しのいずれかをクリックします。[シーケンスを更新] をクリックすると、バッチ内のジョブの順番も新しい順序に従って更新されます。
- ジョブのプロパティーを編集するには、ジョブリスト内のジョブをダブルクリックするか、ジョブを右クリックして [プロパティー] を選択します。
- リストからジョブを選択し、右クリックして [注文を開く] を選択し、選択したジョブを含む注文の詳細を表示します。
- ジョブが [承認待ち] 状態のときは、ジョブを右クリックして [面付け] → [面付けを承認] または [面付けを拒否] を選択できます。

[ボリューム見積もり] タブ

新しいバッチ

ジョブ シート数 実行(時間:分)

バッチ名 *

出力先 * -選択-

推定出力速度 -選択-

集約 ☐ ジョブ集約を有効にする

ジョブ ボリューム見積もり 面付け バナーシート バッチチケット

ボリューム見積もり

表示するボリューム見積もりを最大3つまで選択してください。

1 ジョブ

2 シート数

3 実行(時間:分)

プレビュー

新しいバッチ

ジョブ シート数 実行(時間:分)

バッチを削除

バッチを送信

OK

キャンセル

3

ボリューム見積もりを選択すると、バッチ情報に表示できます。各メニューに表示される値は、以下のとおりです。

- [なし]
- [ジョブ]
- [シート数]
- [フィート]
- [メートル]
- [実行(時間:分)]
- [総ページ数]
- [ファイルサイズ]

[プレビュー]

バッチのボリューム見積もりのプレビューが表示されます。この情報は [バッチ] パネルのバッチリストに表示されます。

↓ 補足

[プレビュー] にボリューム見積もりが表示されない場合は、[P. 285 「トラブルシューティング」](#)を参照してください。

[面付け] タブ

↓ 補足

「面付け」タブは「Ultimate Impostrip®」オプションが「管理」→「機能」→「面付け」で有効な場合にのみ使用できます。

「ギャングアップ」

面付けする全てのジョブをまとめて送信するには、「ジョブをまとめてギャング」をクリックします。このオプションを有効にすると、「部数を含める」オプションが自動的に有効になります。その結果、バッチ全体に対して1つの面付けファイルが作成されます。面付けファイルには各ジョブの指定された部数が含まれ、「部数」属性値「1」で出力に送信されます。

「部数を含める」

すべてのコピーに面付けを適用するには、「出力に部数を含める」を選択します。

このオプションが有効な場合、各ジョブに作成された面付けファイルには各ジョブの指定された部数が含まれ、「部数」属性値「1」で出力に送信されます。

「出力に部数を含める」オプションが無効のときは、面付けファイルには各ジョブの1部が含まれ、「部数」属性の実際の値が出力に送信されます。

↓ 補足

「出力に部数を含める」オプションを有効にする場合は、Ultimate Impostrip®のホットホルダーで「出力設定」の「繰り返しを考慮」オプションがオンになっていることも確認してください。

「Ultimate Impostrip® フォルダー」

TotalFlow Optimizerで面付けされるジョブを送信するフォルダー名を指定できます。このバッチに含まれている全てのジョブに面付けが適用されます。個別のジョブには事前定義された面付けが上書きされます。

リストからホットフォルダーを選択するか、ホットフォルダー名を入力します。ホットフォルダーのリストはUltimate Impostripアプリケーションだけで編集できます。Ultimate Impostripを使用してホットフォルダーを追加または削除できます。

[更新] () をクリックし、ホットフォルダーのリストを更新します。

[面付けレビュー]

面付けレビューを有効または無効にできます。[有効] または [無効] の状態に切り替えるには、有効または無効をクリックします。面付けレビューを有効にすると、ジョブは保留され、出力に送信する前に面付けファイルを表示して承認できます。デフォルト設定は [無効] です。

[バナーシート] タブ



出力フォルダーのジョブファイルにバナーシートを含める場合は、[バナーシートを含める] にチェックを付けます。

↓ 補足

このオプションは、[管理] → [出力] で選択した出力先に対してバナーシートの追加が有効になっている場合のみ使用できます。出力先に設定されたバナーシート設定は、バッチのジョブに自動的に適用されますが、異なる用紙プロパティーを設定することもできます。

[用紙]

[バナーシートを含める] にチェックを付けると、[用紙] プリセットが使用できます。ここで設定されたプロパティーはバナーシートのデフォルトになります。

- [ジョブに一致] : メディアの設定ボタンを無効にし、デフォルト設定を使用します。
- [カスタム] : メディアの設定ボタンを有効にします。指定した設定はバナーシートXML/JDF/CSVに含まれます。

〔カスタム〕を選択した場合は、出力〔用紙リスト〕から用紙を入力または選択できます。用紙種類を追加するには、〔用紙を追加〕ボタンをクリックし、使用可能な用紙プロパティを設定します。

〔用紙名〕

使用する用紙名を編集できます。256文字まで文字列を入力できます。このフィールドは必須です。

〔製品ID〕

製品IDを編集できます。256文字まで文字列を入力できます。

〔用紙種類〕

用紙種類を入力またはリストから用紙の種類を選択できます。

- 〔ボンド紙〕
- 〔オフセット用紙〕
- 〔表紙〕
- 〔タグ〕
- 〔インデックス紙〕

〔用紙坪量〕

用紙坪量は用紙種類と用紙サイズによって異なります。用紙坪量は編集できません。

〔用紙カラー〕

用紙カラーを入力またはリストから選択できます。

〔用紙仕上げ〕

用紙の仕上げを入力またはリストから選択できます。

- 〔コートなし〕
- 〔コート〕
- 〔グロス仕上げ〕
- 〔インクジェット仕上げ〕
- 〔ハイグロス仕上げ〕
- 〔マット仕上げ〕
- 〔ポリマー仕上げ〕
- 〔サテン仕上げ〕
- 〔セミグロス仕上げ〕
- 〔シルバー仕上げ〕

〔用紙幅〕

用紙の幅です。

〔用紙高さ〕

用紙の高さです。

[バッチチケット] タブ

新しいバッチ

ジョブ シート数 実行(時間:分)

バッチ名 *

出力先 * - 選択 -

推定出力速度 - 選択 -

集約 ☐ ジョブ集約を有効にする

ジョブ ポリウレーム見積もり 面付け バナーシート **バッチチケット**

バッチチケットプリンター
☐ プリンターにバッチチケットを送信

プリンター * - プリンターを選択 -

部数

☐ 出力デバイスにバッチチケットを送信

用紙
 ここで設定されたプロパティはバッチチケットのデフォルト値になります。
☒ A4
☐ カスタム
 - 選択 - 用紙を追加

バッチを削除 バッチを送信 OK キャンセル

バッチの詳細とバッチチケットの送信先を指定します。バッチ詳細を含むバッチチケットファイルがシステムで生成されます。

[バッチチケットプリンター]

[プリンターにバッチチケットを送信]

プリンターにバッチチケットを送信します。TotalFlow Optimizerサーバーにマップされたプリンターの既存リストからプリンターを選択します。印刷するバッチチケットの部数も指定できます。

[出力デバイスにバッチチケットを送信]

指定した出力デバイスにバッチチケットを送信します。バッチチケットファイルはバッチの最初のジョブとして配置され、バッチチケットのジョブシーケンスの番号は「0」になります。バッチチケットファイルは、バッチ詳細ダイアログと操作画面上にジョブとして表示されません。

[用紙]

バッチチケットメディアで使用するジョブプロパティを指定します。

- ・ [A4] : ジョブプロパティのデフォルトのメディア設定を使用します。
- ・ [カスタム] : ジョブプロパティのメディア設定を指定できます。

↓ 補足

- － [用紙] プロパティの最初の値は、インストール設定に基づいて表示されます。[A4] がメートル法、[レター] がポンド・ヤード法で表示されます。

[用紙名]

使用する用紙名を編集できます。256文字まで文字列を入力できます。

[用紙種類]

リストから使用する用紙の種類を選択できます。

- [ボンド紙]
- [オフセット用紙]
- [表紙]
- [タグ]
- [インデックス紙]

[用紙坪量]

用紙坪量は用紙種類と用紙サイズによって異なります。用紙坪量は編集できます。

[用紙カラー]

用紙カラーを入力またはリストから選択できます。

[用紙仕上げ]

用紙の仕上げを入力またはリストから選択できます。

- [コートなし]
- [コート]
- [グロス仕上げ]
- [インクジェット仕上げ]
- [ハイグロス仕上げ]
- [マット仕上げ]
- [ポリマー仕上げ]
- [サテン仕上げ]
- [セミグロス仕上げ]
- [シルバー仕上げ]

[用紙高さ]

用紙の高さを指定できます。

[用紙幅]

用紙の幅を指定できます。

2. 既存のフィルターを使用し、新しいバッチを作成できます。

[フィルター] パネルからフィルターを選択します。フィルターをドラッグし、
[バッチ] パネルにドロップします。フィルターを右クリックしても、[バッチを作成...] を選択できます。

[フィルター] パネルで複合フィルターからコンポーネントを選択し、コンポーネントを右クリックして [バッチを作成...] を選択します。複合フィルターで選択したコンポーネントからバッチが作成されます。システムでは選択したコンポーネントと同一注文に含まれているジョブを含む各コンポーネントからバッチが作成されます。

選択したフィルターに [出力先] セットがある場合は、新しいバッチが自動的に作成され、フィルターに含まれているジョブが新しいバッチに追加されます。フィルター

に「[出力先] セットがないと、[新しいバッチ] パネルが表示され、必要に応じて「[出力先] フィールドがハイライト表示されます。リストから出力先を選択し、「[OK] をクリックします。

↓ 補足

新しいバッチはフィルターのプロパティを継承します。

1. 新しいバッチ名はフィルター名を使用します。
 2. フィルター「[出力先] / [速度] / [推定出力速度] / [実行時間] は新しいバッチプロパティで使用されます。
 3. 並び替えの条件がフィルターで設定されている場合は、フィルターに含まれているジョブの注文は新しいバッチ内のシーケンスから引き継がれます。並び替えの条件は継承されません。
3. ジョブリストから複数のジョブを選択して新しいバッチに移動できます。
フィルターされたジョブのリストから、新しいバッチに移動するジョブを選択します。ジョブを「[バッチ] パネルにドラッグ&ドロップします。新しいバッチでは、選択したジョブが含まれているフィルターからプロパティを読み込みます。

↓ 補足

1. ジョブを選択したときは、ウィンドウの下に情報バーが表示されます。この情報は、選択したジョブ数、シート数、ftの数、選択したジョブの総ページ数で構成されています。ドラッグ&ドロップ操作を開始するときは、ドラッグアニメーションに情報バーが表示されます。
インストール時の選択項目によって、測定単位は異なります。
2. 選択済みジョブがフィルターに含まれる場合は、表示される情報は「ボリューム見積もり」タブで設定した情報と一致します。

新しいバッチを作成するには、「[OK] をクリックします。

「[新しいバッチ] パネルを閉じて、入力した情報を破棄するには、「[キャンセル] をクリックします。

4. ジョブのリストからジョブを選択できます。
ジョブのリストからジョブを選択し、既存のバッチを選択するか、「[バッチ] → [新しいバッチ]」を選択して新しいバッチを作成します。新しいバッチが正常に作成されたことを確認する確認メッセージが右パネルに表示されます。

↓ 補足

バッチにできないジョブを選択した場合は、右クリックメニューが無効になります。

バッチを編集する

バッチプロパティを編集する方法を説明します。

バッチを編集するには、以下の操作を行います。

1. 「[バッチ] パネルを開くには、「[展開/折りたたむ] ボタン () をクリックするか、メニューバーの「[バッチ] セクションに移動してリストからバッチを選択します。

2. 編集するバッチをダブルクリックするか、バッチを右クリックして [プロパティ] を選択します。

[バッチ] 詳細ウィンドウが表示されます。

バッチ: B-1010 | Not ganged

ジョブ シート数 総ページ数

送信済み: -

バッチ名 * Not ganged

出力先 * out 1

推定出力速度 フィート/時

集約 ☐ ジョブ集約を有効にする

シーケンスを更新

シーケンス ▲ 注文番号	パーツ番号	お客様	シー...	ジョブ名	状態	状況
----------------	-------	-----	-------	------	----	----

バッチを削除 バッチを送信 OK キャンセル

[バッチ] | [バッチ名]

ヘッダーには、システムによって生成されたバッチIDとバッチ名が表示されます。

[ボリューム見積もり]

選択したボリューム見積もりの推定値が表示されます。

[状態]

バッチが送信または印刷された場合は、システムにバッチの状況とバッチを送信または印刷した日時が表示されます。

[バッチ名]

バッチ名を編集できます。

[出力先]

リストからホットフォルダー先を選択できます。

[推定出力速度]

選択した出力先に設定された推定出力速度が表示されます。出力速度を編集し、リストから測定単位を選択します。

[集約]

このバッチにジョブ集約を有効にする場合は、[ジョブ集約を有効にする] にチェックを付けます。[管理] → [プロダクション設定] → [集約] からジョブ集約を有効または無効にします。

↓ 補足

バッチが出力に送信された後は、ジョブ集約設定を変更できなくなります。

「ジョブ」タブ

バッチに含まれているすべてのジョブのリストが表示されます。[集約] が有効な場合は、全ての集約ジョブを表示できます。

バッチ: B-1010 | Not ganged

-

ジョブ

-

シート数

-

総ページ数

✓

送信済み: -

バッチ名 *

Not ganged

出力先 *

out 1

推定出力速度

フィート/時

集約

☐

ジョブ集約を有効にする

ジョブ

ボリューム見積もり

パナーシート

バッチチケット

シーケンスを更新

シーケンス ▲	注文番号	パーツ番号	お客様	シー...	ジョブ名	状態	状況
---------	------	-------	-----	-------	------	----	----

バッチを削除

バッチを送信

OK

キャンセル

- バッチ内のジョブの順番を変更するには、[シーケンス] 列にカーソルを合わせ、移動カーソルである  をドラッグして、ジョブを新しい位置に移動します。ジョブシーケンスとは、ジョブを出力に送信する順序のことです。
- ジョブプロパティーに基づいて昇順または降順に並べ替えるには、使用可能な列見出しのいずれかをクリックします。[シーケンスを更新] をクリックすると、バッチ内のジョブの順番も新しい順序に従って更新されます。
- [バッチ解除] アクションを使用すると、バッチからジョブを解除できます。ジョブは一致フィルターリストに表示され、別のバッチに手動で移動できます。[バッチ解除] アクションは、ジョブが [バッチ済み] 状態かつバッチが [バッチ中] 状

態のときにのみ実行できます。[バッチ解除] アクションを実行したときにバッチ状態が変更された場合は、エラーが表示されます。

ジョブをバッチ解除するには、リストからジョブを選択し、右クリックして[バッチ解除]を選択します。

- ジョブのプロパティを編集するには、ジョブリスト内のジョブをダブルクリックするか、ジョブを右クリックして[プロパティ]を選択します。
- リストからジョブを削除するには、ジョブを選択し、右クリックして[ジョブを削除...]または[ジョブを削除...]を選択します。確認ウィンドウが表示されます。[はい]をクリックし、ジョブを削除するか、[いいえ]をクリックし、アクションをキャンセルします。
- リストからジョブを選択し、右クリックして[注文を開く]を選択し、選択したジョブを含む注文の詳細を表示します。
- ジョブ状態を変更するには、リストからジョブを選択し、右クリックして[状態を設定]にカーソルを合わせます。システムで定義された状態のリストから[送信済み]か[印刷済み]、またはカスタムのジョブの状態を選択します。カスタム状態は[管理]セクションの[カスタム状態]タブで作成できます。

↓ 補足

カスタム状態は、送信されているジョブにのみ選択できます。

- ジョブが[試し印刷送信済み]状態の場合は、試し印刷が承認されるまでジョブをバッチ、送信、印刷できません。リストからジョブの試し印刷を承認するには、ジョブを右クリックして[試し印刷を承認]を選択します。各ジョブの状態は[試し印刷送信済み]から[バッチ待ち]に変更されます。

↓ 補足

リストから[試し印刷送信済み]状態のジョブを選択して、右クリックしてから[試し印刷を承認して送信...]を選択すると、ジョブを直接出力に送信して[試し印刷送信済み]から[送信済み]にジョブの状態を変更できます。

- ジョブが[試し印刷送信済み]状態のときは、ジョブを右クリックして[試し印刷を却下]を選択できます。ジョブ状態は[試し印刷却下済み]に設定され、ジョブは[アクションが必要]タブの[すべてのジョブ]リストに表示されます。
- ジョブが[承認待ち]状態のときは、ジョブを右クリックして[面付け] → [面付けを承認]または[面付けを拒否]を選択できます。

[ボリューム見積もり] タブ

新しいバッチ

ジョブ

シート数

実行(時間:分)

バッチ名 *

出力先 *

推定出力速度

集約 ☐ ジョブ集約を有効にする

ジョブ

ポリリューム見積もり

面付け

バナーシート

バッチチケット

ポリリューム見積もり

表示するポリリューム見積もりを最大3つまで選択してください。

1 ジョブ

2 シート数

3 実行(時間:分)

プレビュー

新しいバッチ

ジョブ シート数 実行(時間:分)

- - -

バッチを削除

バッチを送信

OK

キャンセル

最大3つまでポリリューム見積もりを選択すると、バッチ情報に表示できます。各メニューに表示される値は、以下のとおりです。

- [なし]
- [ジョブ]
- [シート数]
- [フィート]
- [メートル]
- [実行(時間:分)]
- [総ページ数]
- [ファイルサイズ]

[プレビュー]

バッチのポリリューム見積もりのプレビューが表示されます。この情報は [バッチ] パネルのバッチリストに表示されます。

[面付け] タブ

↓ 補足

[面付け] タブは [Ultimate Impostrip®] オプションが [管理] → [機能] → [面付け] で有効な場合にのみ使用できます。

[ギャングアップ]

面付けする全てのジョブをまとめて送信するには、[ジョブをまとめてギャング] をクリックします。このオプションを有効にすると、[部数を含める] オプションが自動的に有効になります。その結果、バッチ全体に対して1つの面付けファイルが作成されます。面付けファイルには各ジョブの指定された部数が含まれ、[部数] 属性値 [1] で出力に送信されます。

[部数を含める]

すべてのコピーに面付けを適用するには、[出力に部数を含める] を選択します。

このオプションが有効な場合、各ジョブに作成された面付けファイルには各ジョブの指定された部数が含まれ、[部数] 属性値 [1] で出力に送信されます。

[出力に部数を含める] オプションが無効のときは、面付けファイルには各ジョブの1部が含まれ、[部数] 属性の実際の値が出力に送信されます。

↓ 補足

[出力に部数を含める] オプションを有効にする場合は、Ultimate Impostrip®のホットホルダーで[出力設定] の[繰り返しを考慮] オプションがオンになっていることも確認してください。

[Ultimate Impostrip®フォルダー]

TotalFlow Optimizerで面付けされるジョブを送信するフォルダー名を指定できます。このバッチに含まれている全てのジョブに面付けが適用されます。個別のジョブには事前定義された面付けが上書きされます。

リストからホットフォルダーを選択するか、ホットフォルダー名を入力します。ホットフォルダーのリストはUltimate Impostripアプリケーションだけで編集できます。Ultimate Impostripを使用してホットフォルダーを追加または削除できます。

[更新] ボタン () をクリックし、ホットフォルダーのリストを更新します。

[面付けレビュー]

面付けレビューを有効または無効にできます。[有効] または [無効] の状態に切り替えるには、有効または無効をクリックします。面付けレビューを有効にすると、ジョブは保留され、出力に送信する前に面付けファイルを表示して承認できます。デフォルト設定は [無効] です。

[バナーシート] タブ

出力フォルダーのジョブファイルにバナーシートを含める場合は、[バナーシートを含める] にチェックを付けます。

↓ 補足

このオプションは、[管理] → [出力] で選択した出力先に対してバナーシートの追加が有効になっている場合のみ使用できます。出力先に設定されたバナーシート設定は、バッチのジョブに自動的に適用されますが、異なる用紙プロパティを設定することもできます。

[用紙]

[バナーシートを含める] にチェックを付けると、[用紙] プリセットが使用できます。ここで設定されたプロパティはバナーシートのデフォルトになります。

- [ジョブに一致] : メディアの設定ボタンを無効にし、デフォルト設定を使用します。
- [カスタム] : メディアの設定ボタンを有効にします。指定した設定はバナーシートXML/JDF/CSVに含まれます。

[カスタム] を選択した場合は、出力 [用紙リスト] から用紙を入力または選択できます。用紙種類を追加するには、[用紙を追加] ボタンをクリックし、使用可能な用紙プロパティを設定します。

[用紙名]

使用する用紙名を編集できます。256文字まで文字列を入力できます。このフィールドは必須です。

[製品ID]

製品IDを編集できます。256文字まで文字列を入力できます。

[用紙種類]

用紙種類を入力またはリストから用紙の種類を選択できます。

- [ボンド紙]
- [オフセット用紙]
- [表紙]
- [タグ]
- [インデックス紙]

[用紙坪量]

用紙坪量は用紙種類と用紙サイズによって異なります。用紙坪量は編集できます。

[用紙カラー]

用紙カラーを入力またはリストから選択できます。

[用紙仕上げ]

用紙の仕上げを入力またはリストから選択できます。

- [コートなし]
- [コート]
- [グロス仕上げ]
- [インクジェット仕上げ]
- [ハイグロス仕上げ]
- [マット仕上げ]
- [ポリマー仕上げ]
- [サテン仕上げ]
- [セミグロス仕上げ]
- [シルバー仕上げ]

[用紙幅]

用紙の幅です。

[用紙高さ]

用紙の高さです。

[バッチチケット] タブ

バッチの詳細とバッチチケットの送信先を指定します。バッチ詳細を含むバッチチケットファイルがシステムで生成されます。

[バッチチケットプリンター]

[プリンターにバッチチケットを送信]

プリンターにバッチチケットを送信します。TotalFlow Optimizerサーバーにマップされたプリンターの既存リストからプリンターを選択します。印刷するバッチチケットの部数も指定できます。

[出力デバイスにバッチチケットを送信]

指定した出力デバイスにバッチチケットを送信します。バッチチケットファイルはバッチの最初のジョブとして配置され、バッチチケットのジョブシーケンスの番号は「0」になります。バッチチケットファイルは、バッチ詳細ダイアログと操作画面上にジョブとして表示されません。

[用紙]

バッチチケットメディアで使用するジョブプロパティを指定します。

- **A4**または**Letter**：ジョブプロパティのデフォルトメディア設定を使用します。
- **[カスタム]**：ジョブプロパティのメディア設定を指定できます。



- [用紙] プロパティの最初の値は、インストール設定に基づいて表示されます。[A4] がメートル法、[レター] がポンド・ヤード法で表示されます。

[用紙名]

使用する用紙名を編集できます。256文字まで文字列を入力できます。

[製品ID]

製品IDを編集できます。256文字まで文字列を入力できます。

[用紙種類]

用紙種類を入力またはリストから用紙の種類を選択できます。

- [ボンド紙]
- [オフセット用紙]
- [表紙]
- [タグ]
- [インデックス紙]

[用紙坪量]

用紙坪量は用紙種類と用紙サイズによって異なります。用紙坪量は編集できません。

[用紙カラー]

用紙カラーを入力またはリストから選択できます。

[用紙仕上げ]

用紙の仕上げを入力またはリストから選択できます。

- [コートなし]

- [コート]
- [グロス仕上げ]
- [インクジェット仕上げ]
- [ハイグロス仕上げ]
- [マット仕上げ]
- [ポリマー仕上げ]
- [サテン仕上げ]
- [セミグロス仕上げ]
- [シルバー仕上げ]

[用紙高さ]

用紙の高さを指定できます。

[用紙幅]

用紙の幅を指定できます。

変更したプロパティを保存するには、[OK] をクリックします。バッチ編集パネルを閉じて変更を破棄する場合は、[キャンセル] をクリックします。

バッチを削除するには、[削除] をクリックします。

バッチを再送信する

バッチがエラー状態になったときは、バッチを同じ出力に再送信するか、別の出力に送信できます。

エラー、送信済み、印刷済みの状態のときにのみバッチを再送信できます。再送信アクションでは、同じ出力にバッチを送信するか、別の出力を選択できます。新しいバッチは処理中に作成されません。

バッチを再送信するには、以下の操作を行います。

1. メニューバーで、[バッチ] をクリックし、システム内の全てのバッチのリストを開きます。
2. バッチのリストから再送信するバッチを選択します。バッチに含まれるジョブの状態は、以下のとおりです。
 - [送信済み] : ジョブは正常に送信されました。
 - [出力エラー] : 送信プロセスが失敗した場所にジョブがあります。
 - [バッチ済み] : ジョブはまだ送信されていません。
 - [印刷済み] : ジョブが印刷されました。
 - [プリンターでの処理] : ジョブは現在印刷準備中です。
 - [プリンターで保留済み] : ジョブはプリンターで保持され、手動リリースまたは条件が満たされるのを待ちます。
 - [プリンターで一時的停止] : エラーや介入によりジョブが一時的停止され、再開前に修正されます。

- [プリンターでキャンセル] : ジョブがプリンター上で中断または削除されたため、印刷を続行できません。
 - [印刷中] : ジョブはアクティブに印刷されています。
3. 右クリックして [バッチを再送信...] を選択します。
[プロパティ] ダイアログが表示されます。

↓ 補足

[出力先] メニューから別の出力先を選択できます。

4. [復旧送信] をクリックし、[出力エラー] と [バッチ済み] にあるジョブのみを再送信します。[すべて再送信] をクリックし、全てのジョブを再送信します。

バッチは出力先によって再度実行待ちになり、バッチ状態は [バッチ中] に変更します。

注文を送信する

入力ホットフォルダーを使用せずに、TotalFlow Optimizerに注文を送信する方法を説明します。

注文を送信するには、以下の操作を行います。

1. メニューバーで、[アクション] をクリックし、メニューから [注文を送信] をクリックします。[注文] セクションに移動し、[新しい注文] をクリックすることもできます。
[注文を送信] ダイアログボックスが表示されます。

3

2. 「注文詳細」セクションに必要な情報を入力します。
使用可能な注文プロパティは、以下のとおりです。

【お客様】

お客様名を入力します。最大256文字まで文字列を入力できます。

【納期日】

日付を設定するには、日、月、年を正しい形式で選択または入力します。

時刻を設定するには、リストから時間と分を選択できます。

【注文が揃ったら処理】

同一注文に含まれる全てのジョブ/パーツが揃ったときに、全てのジョブをバッチ待ちにします。

〔すべてのジョブ/パーツが揃ったらジョブをバッチ可能にする〕オプションを有効にするには、〔注文が揃ったら処理〕をクリックします。〔ファイル待ち〕のジョブがある場合は、印刷ファイルを含む他の全てのジョブは〔ファイル待ち〕状態に設定されます。ジョブは注文に含まれている全てのジョブが完了するまでバッチできません。

〔注文番号〕

注文番号を入力します。

〔概要〕

簡単な概要を入力します。

〔プリフライト〕

〔無効〕ボタン () をクリックし、TotalFlow Optimizerシステムに送信されるジョブのプリフライトを有効にして使用します。〔管理〕→〔機能〕→〔プリフライト〕タブでプリフライトを設定して有効にします。

3. 〔ジョブ〕セクションで、ジョブ（注文のパーツ）を追加します。

ジョブを追加するには、以下の操作を行います。

1.  をクリックし、新しいジョブ/パーツを追加します。
2. 〔参照...〕をクリックし、ジョブファイルを選択します。
3. 〔ジョブ名〕フィールドにジョブ名を入力します。
4. 〔パーツ番号〕フィールドに注文内の固有の識別子として番号を入力します。
5. ジョブプロパティを設定するには、〔すべてのジョブプロパティ〕ボタン () をクリックします。
ジョブ行が展開し、ジョブ詳細タブが表示されます。〔全般〕、〔ジョブ〕、〔用紙〕、〔面付け〕、〔仕上げ〕、〔カスタム〕タブのジョブプロパティを編集できます。
ジョブ行を折りたたむには、〔すべてのジョブプロパティ〕ボタン () をクリックします。

↓ 補足

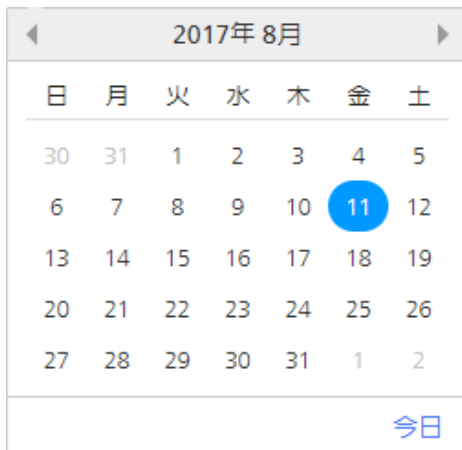
1. 注文に含まれているジョブを削除するには、 をクリックします。
2. 〔ジョブ〕セクションにエラーがある場合は、エラーアイコン () が表示されます。〔すべてのジョブプロパティ〕ボタンをクリックし、ジョブ詳細タブを展開し、入力エラーを修正します。
4. 〔OK〕をクリックして注文を送信します。

注文が作成された確認メッセージが表示されます。

注文納期日を変更する

注文の納期日を変更するには、以下の操作を行います。

1. メインメニューバーから「注文」セクションをクリックします。
2. リストから注文を選択します。
3. 「期限の変更」を右クリックして選択します。
「期限の変更」ウィンドウが表示されます。
4. 日付を設定するには、日、月、年を正しい形式で入力します。日付選択メニューを使用して日付を選択することもできます。日付選択メニューを開くには、テキストフィールドをクリックします。



ナビゲーションボタンを使用し、カレンダーから月と日を選択します。現在のページを選択するには、「今日」をクリックします。

時刻を設定するには、リストから時間と分を選択できます。

5. 変更を保存するには、「OK」をクリックします。変更を破棄するには、「キャンセル」をクリックします。

注文を複製して新規作成する

注文を複製して新規作成する方法を説明します。

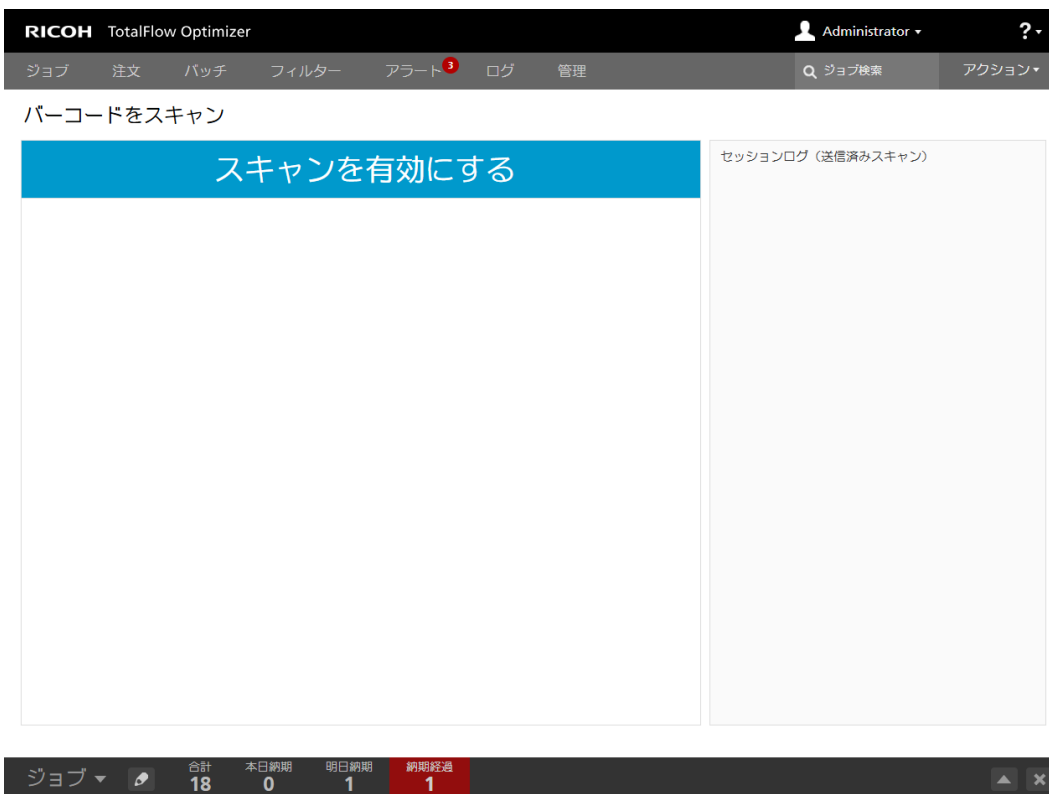
注文を複製して新規作成します。

1. メインメニューバーから「注文」セクションをクリックします。
2. リストから1つの注文を選択します。
3. 注文を右クリックし、メニューから「注文を複製...」を選択します。
注文設定と元のジョブがある新しいダイアログが表示されます。「プロパティ」タブで「注文番号」にカーソルが表示されているダイアログが開きます。
4. 「お客様」と「概要」ダイアログボックスの注文詳細を入力します。
5. 変更を保存するには、「OK」をクリックします。変更を破棄し、ダイアログウィンドウを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。

バーコードをスキャンする

TotalFlow Optimizerでは、USBバーコードスキャナーを使用してバーコードをスキャンできます。バッチバーコードまたはジョブバーコードをスキャンできます。スキャンされたジョブバーコードはジョブが印刷されたことを示します。

「[バーコードをスキャン]」を開くには、「[アクション]」メニューをクリックし、「[バーコードをスキャン]」を選択します。



デフォルトでは、「[スキャンを有効にする]」が表示されます。「[バーコードをスキャン]」ダイアログに表示されたリストに追加された個々のジョブをスキャンするには、「[スキャンを有効にする]」ボタンをクリックします。状態は「[スキャン準備完了]」に変更されます。

「場所」

使用可能なカスタム場所のリストから値を選択します。

↓ 補足

「[管理]」→「[カスタム場所]」ウィンドウでカスタム場所を作成できます。

「状態」

リストからシステムで定義された状態またはカスタムで作成した状態を選択します。

↓ 補足

「[管理]」→「[カスタム状態]」ウィンドウでカスタム状態を作成できます。

「[場所]」を特定の値に設定したときは、「[状態]」リストから「- 変更しない -」を選択できます。「[場所]」と「[状態]」の値を設定したときは、「- 変更しない -」値は選択できません。

「[バーコードをスキャン]」を使用すると、TotalFlow Optimizerシステムから印刷システムにジョブを送信した後にジョブの場所と状況を追跡できます。

スキャンされたジョブは送信準備が整っています。バッチがスキャンされると、バッチに含まれている全てのジョブが「[バーコードをスキャン]」ダイアログに表示されるリストに追加されます。

「送信」をクリックし、「セッションログ（送信済みスキャン）」にスキャンされたジョブを送信して送信済みジョブの状態を選択した状態に変更します。

ジョブから最近スキャンされたジョブを削除するには、右クリックして「スキャンをやり直す」を選択します。

再印刷する

注文をTotalFlow Optimizerに再印刷する方法を説明します。

注文を再印刷するには、以下の操作を行います。

1. メニューバーで、「アクション」をクリックし、メニューから「再印刷」をクリックします。
「再印刷」ダイアログボックスが表示されます。
2. ジョブを検索するには、バーコードをスキャンするか、「ジョブの選択」テキストフィールドにジョブ名を入力します。システムに印刷可能なジョブのリストが表示されます。リストから再印刷するジョブを選択します。
3. ジョブを選択すると、追加されたジョブが表示されます。再印刷アクションの設定や注文全体の表示が選択できます。
4. 「注文を表示」を選択した場合は、「再印刷できるジョブ」と「未送信のジョブ」の2つのカテゴリーで注文のジョブが表示されます。再印刷にチェックをつけたジョブは、青い枠線が表示されます。
5. 「OK」をクリックし、注文を再印刷します。

注文詳細ダイアログ

注文詳細ダイアログを開く方法を説明します。注文のジョブとその状況、注文プロパティの編集方法を表示できます。

注文詳細ダイアログを開きます。

1. 注文行をダブルクリックするか、右クリックして「プロパティ」を選択します。



また、ジョブを右クリックしてから「注文を開く」を選択すると、注文詳細ダイアログを表示できます。これで、選択したジョブを含む注文詳細を確認できます。

注文: 37--ForMultipleUps-35Pages-LetterPortrait.pdf IBM Romania

納期まで
の日数

-- : -- : --
日 時間 分

+ ジョブをこの注文に追加

ジョブ

プロパティ

注文番号	パート番号 ▲	お客様	シー...	ジョブ名	状態	状況タイムスタンプ
37--ForMulti	注文番号 1	IBM Romania	1,750	37--ForMultipleUps-35Pages-Let...	バッチ待ち	-
37--ForMultipleUps-...	04	IBM Romania	1	AEAAA5P3.PDF	バッチ待ち	-

削除

OK

キャンセル

[注文]

タイトルバーに注文番号とお客様が表示されます。

[納期までの日数]

注文納期日まで残された時間が表示されます。

[ジョブをこの注文に追加]

新しいジョブを既存の注文に追加できます。 [ジョブをこの注文に追加] ダイアログが開き、ジョブファイルとジョブプロパティを追加できます。

[ジョブ] タブ

注文に含まれている全てのジョブのリストが表示されます。

↓ 補足

1. [バッチ解除] アクションを使用すると、バッチからジョブを解除できます。ジョブは一致フィルターリストに表示され、別のバッチに手動で移動できます。[バッチ解除] アクションは [バッチ済み] 状態のジョブで、バッチが [バッチ中] 状態のときにのみ実行できます。[バッチ解除] アクションを実行したときにバッチ状態が変更した場合は、エラーが表示されます。
ジョブをバッチ解除するには、ジョブリストのジョブを右クリックして [バッチ解除] を選択します。
2. ジョブがデバイスで印刷され、[送信済み] 状態の場合は、ジョブを右クリックして状態を [印刷済み] に設定します。
3. ジョブのプロパティを編集するには、ジョブリスト内のジョブをダブルクリックするか、ジョブを右クリックして [プロパティ] を選択します。
4. リストからジョブを削除するには、ジョブを右クリックして [ジョブを削除...] を選択します。確認ウィンドウが表示されます。[はい] をクリックし、ジョブを削除するか、[いいえ] をクリックし、アクションをキャンセルします。
5. ジョブ状態を変更するには、リストからジョブを選択し、右クリックして [状態を設定] にカーソルを合わせます。システムで定義された状態のリストから [送信済み] か [印刷済み]、またはカスタムのジョブの状態を選択します。カスタム状態は [管理] セクションの [カスタム状態] タブで作成できます。

↓ 補足

- カスタム状態は、送信されているジョブにのみ選択できます。

6. ジョブが [試し印刷送信済み] 状態の場合は、試し印刷が承認されるまでジョブをバッチ、送信、印刷できません。リストからジョブの試し印刷を承認するには、ジョブを右クリックして [試し印刷を承認] を選択します。各ジョブの状態は [試し印刷送信済み] から [バッチ待ち] に変更されます。

↓ 補足

リストから [試し印刷送信済み] 状態を1つ以上選択して右クリックしてから [試し印刷] → [試し印刷を承認して送信...] を選択すると、ジョブを直接出力に送信して [試し印刷送信済み] から [送信済み] の状態に変更できます。

7. ジョブが [試し印刷送信済み] 状態のときは、ジョブを右クリックして [試し印刷] → [試し印刷を却下] を選択できます。ジョブ状態は [試し印刷却下済み] に設定され、ジョブは [アクションが必要] タブの [すべてのジョブ] リストに表示されます。
8. ジョブを作成するには、リストからジョブを選択し、右クリックして [バッチ] → [新しいバッチ] を選択します。新しいバッチが正常に作成されたことを確認する確認メッセージが右パネルに表示されます。バッチにできないジョブを選択した場合は、右クリックメニューが無効になります。

[プロパティ] タブ

注文: 37--ForMultipleUps-35Pages-LetterPortrait.pdf IBM Romania

納期まで -- : -- : --
の回数 日 時間 分

+ ジョブをこの注文に追加

ジョブ プロパティ

注文番号*
37--ForMultipleUps-35Pages-LetterPortrait.pdf

受信済み
2018年3月22日, 11:29

お客様
IBM Romania

納期
📅 yyyy/mm/dd hh:mm

概要

注文が揃ったら処理
☐ すべてのジョブ/パーツが揃ったらバッチ可能にする

削除 OK キャンセル

注文プロパティが表示されます。

[注文番号]

注文番号を編集できます。

[お客様]

お客様名を編集できます。256文字まで文字列を入力できます。

[概要]

注文に関連した役立つ情報を追加できます。

[受信済み]

注文を受信した日時です。この情報は変更できません。

[納期]

注文期限の日時を編集できます。

[注文が揃ったら処理]

同一注文に含まれる全てのジョブ/パーツが揃ったときに、全てのジョブをバッチ待ちにします。

〔すべてのジョブ/パーツが揃ったらバッチ可能にする〕オプションを有効にするには、〔注文が揃ったら処理〕をクリックします。〔ファイル待ち〕のジョブがある場合は、印刷ファイルを含む他の全てのジョブは〔ファイル待ち〕状態に設定されます。ジョブは注文に含まれている全てのジョブが完了するまでバッチできません。

変更したプロパティを保存するには、〔OK〕をクリックします。注文詳細ダイアログを閉じて変更を破棄する場合は、〔キャンセル〕をクリックします。

注文を削除するには、〔削除〕をクリックします。

新しいアラートトリガーを作成する

新しいアラートトリガーを作成する方法を説明します。

アラートトリガーは、特定の種類のアラートを発行するときの条件を設定するために使用します。

新しいアラートトリガーを作成するには、以下の操作を行います。

1. メニューバーで〔アラート〕をクリックします。
2. 〔アラート〕セクションで、〔アラートトリガー〕タブをクリックします。
3. 〔新しいアラートトリガー〕をクリックします。

「新しいアラートトリガー」ダイアログボックスが表示されます。

4. 「新しいアラートトリガー」ダイアログボックスで、以下の操作を行います。
 1. 新しいトリガーのデフォルトの状態は有効です。トリガーの状態を変更できます。
 2. 「アラート名」フィールドで新しいアラートトリガー名を入力します。
 3. 「種類」リストからアラートトリガーのオブジェクト種類を選択します。
 4. 選択したオブジェクト種類によって、アラートがトリガーされる条件が指定されます。「状況」リストから値を選択します。
 5. 「アラートトリガーまでの時間」で、アラートを遅延させる期間を選択できます。
 6. 「アラート自動解除までの時間(h)」フィールドで、トリガーされたアラートをシステム内で保持する時間を指定します。

7. [メール通知] リストからユーザーを選択します。指定されたユーザーは、アラートがトリガーされるたびにメール通知を受信します。

↓ 補足

[メール通知] リストの選択済みユーザーをクリックすると、選択解除されます。

8. [OK] をクリックします。

デフォルトアラートトリガー

TotalFlow Optimizerシステムで表示されるアラートトリガーは、以下のとおりです。

[入力無効]

[入力無効] アラートトリガーは、TotalFlow Optimizerシステムの入力が無効になるたびに、アラートを送信するために使用します。[現在のアラート] タブに有効なアラートを表示できます。

次の状況では、システムによって入力が無効になります。

- 基本のホットフォルダーがローカルまたはマップされたドライブに存在しなくなった場合
- ホットフォルダーがマップされたドライブにあり、マップされたドライブへの接続が成功しなかった場合

[入力無効] アラートトリガーを編集するには、アラートトリガーをダブルクリックするか、右クリックして [プロパティ] を選択します。

このダイアログが表示されます。

アラートトリガー: Input Disabled

有効

アラート名 *

Input Disabled

種類 ?

入力

状況 ?

無効

アラート自動解除までの時間(h) ?

メール通知 (0) ?

BatchBuilderユーザーのプロファイルのメールアドレスでメール通知を送信できます。

OK

キャンセル

[状態]

2つのオプションで「有効」または「無効」に切り替えることができます。デフォルト状態は「有効」です。有効なトリガーのみがアラートを送信できます。

[アラート名]

アラートトリガー名です。

[種類]

アラートトリガーのオブジェクト種類です。

[状況]

アラートがトリガーされる条件です。「入力無効」アラートトリガーの場合、以下の条件が使用可能です。

【無効】：TotalFlow Optimizerシステムによって入力が無効になったときに、アラートを送信します。

【アラート自動解除までの時間(h)】

アラートが自動的に解除される時間です。アラートは【現在のアラート】タブから手動でも解除できます。

【メール通知】

リストからユーザーを選択します。リストにはTotalFlow Optimizerのユーザープロフィールで指定されたメールアドレスを持つ全てのユーザーが含まれています。選択されたユーザーは、アラートがトリガーされるたびにメール通知を受信します。

メール通知リストで選択されたユーザーをクリックすると、選択が解除されます。

メール通知を受信するには、【管理】→【その他】→【サーバー】の順でウィンドウを開き、その中にある【SMTPサーバー】の設定をしてください。

右クリックメニューを使用すると、トリガーの有効、無効、編集、削除ができます。

【マッピングエラー】

【マッピングエラー】アラートトリガーは、マッピングファイルのエラーが発生するたびに、アラートを送信するために使用します。【現在のアラート】タブに有効なアラートを表示できます。

【マッピングエラー】アラートトリガーを編集するには、アラートトリガーをダブルクリックするか、右クリックして【プロパティ】を選択します。

トリガーアラート編集ダイアログが表示されます。

【状態】

2つのオプションで【有効】または【無効】に切り替えることができます。デフォルト状態は【有効】です。有効なトリガーのみがアラートを送信できます。

【アラート名】

アラートトリガー名です。

【種類】

アラートトリガーのオブジェクト種類です。

【状況】

アラートがトリガーされる条件です。【マッピングエラー】アラートトリガーの場合、以下の条件が使用可能です。

【エラー】：マッピングファイルのエラーが発生したときに、アラートが送信されます。

【アラート自動解除までの時間(h)】

アラートが自動的に解除される時間です。アラートは【現在のアラート】タブから手動でも解除できます。

【メール通知】

リストからユーザーを選択します。リストにはTotalFlow Optimizerのユーザープロフィールで指定されたメールアドレスを持つ全てのユーザーが含まれています。選択されたユーザーは、アラートがトリガーされるたびにメール通知を受信します。

メール通知リストで選択されたユーザーをクリックすると、選択が解除されます。

メール通知を受信するには、[管理] → [その他] → [サーバー] の順でウィンドウを開き、その中にある [SMTPサーバー] の設定をしてください。

右クリックメニューを使用すると、トリガーの有効、無効、編集、削除ができます。

[出力無効]

[出力無効] アラートトリガーは、TotalFlow Optimizerシステムで出力が無効になるたびに、アラートを発行するために使用します。[現在のアラート] タブに有効なアラートを表示できます。

以下の状況では、システムで出力が無効になります。

- バッチが出力に送信され、フォルダーに到達できないとき
- エラーのため、バッチをコピーできなかったとき

[現在のアラート] アラートトリガーを編集するには、アラートトリガーをダブルクリックするか、右クリックして [プロパティ] を選択します。

トリガーアラート編集ダイアログが表示されます。

[状態]

2つのオプションで [有効] または [無効] に切り替えることができます。デフォルト状態は [有効] です。有効なトリガーのみがアラートを送信できます。

[アラート名]

アラートトリガー名です。

[種類]

アラートトリガーのオブジェクト種類です。

[状況]

アラートがトリガーされる条件です。[出力無効] アラートトリガーの場合、以下の条件が使用可能です。

[無効] : TotalFlow Optimizerシステムによって出力が無効になったときに、アラートを送信します。

[アラート自動解除までの時間(h)]

アラートが自動的に解除される時間です。アラートは [現在のアラート] タブから手動でも解除できます。

[メール通知]

リストからユーザーを選択します。リストにはTotalFlow Optimizerのユーザープロフィールで指定されたメールアドレスを持つ全てのユーザーが含まれています。選択されたユーザーは、アラートがトリガーされるたびにメール通知を受信します。

メール通知リストで選択されたユーザーをクリックすると、選択が解除されます。

メール通知を受信するには、[管理] → [その他] → [サーバー] の順でウィンドウを開き、その中にある [SMTPサーバー] の設定をしてください。

右クリックメニューを使用すると、トリガーの有効、無効、編集、削除ができます。

[出力で失敗したバッチ]

[出力で失敗したバッチ] アラートトリガーは、バッチが [エラー] 状態になるたびに、アラートを送信するために使用します。[現在のアラート] タブに有効なアラートを表示できます。

[出力で失敗したバッチ] アラートトリガーを編集するには、アラートトリガーをダブルクリックするか、右クリックして [プロパティ] を選択します。

トリガーアラート編集ダイアログが表示されます。

[状態]

2つのオプションで [有効] または [無効] に切り替えることができます。デフォルト状態は [有効] です。有効なトリガーのみがアラートを送信できます。

[アラート名]

アラートトリガー名です。

[種類]

アラートトリガーのオブジェクト種類です。

[状況]

アラートがトリガーされる条件です。[出力時に失敗したバッチ] アラートトリガーの場合、以下の条件が使用可能です。

[出力失敗] : バッチが [出力エラー] 状態になったときにアラートを送信します。

[アラート自動解除までの時間(h)]

アラートが自動的に解除される時間です。アラートは [現在のアラート] タブから手動でも解除できます。

[メール通知]

リストからユーザーを選択します。リストにはTotalFlow Optimizerのユーザープロファイルで指定されたメールアドレスを持つ全てのユーザーが含まれています。選択されたユーザーは、アラートがトリガーされるたびにメール通知を受信します。

メール通知リストで選択されたユーザーをクリックすると、選択が解除されます。

メール通知を受信するには、[管理] → [その他] → [サーバー] の順でウィンドウを開き、その中にある [SMTPサーバー] の設定をしてください。

右クリックメニューを使用すると、トリガーの有効、無効、編集、削除ができます。

[マップされたネットワークドライブ] が [使用不可]

[マップされたネットワークドライブ] が [使用不可] のアラートトリガーは、マップされたドライブが使用できないときに、アラートを送信するために使用します。[現在のアラート] タブに有効なアラートを表示できます。

「マップされたネットワークドライブ」が「使用不可」のアラートトリガーを編集するには、アラートトリガーをダブルクリックするか、右クリックして「プロパティ」を選択します。

トリガーアラート編集ダイアログが表示されます。

「状態」

2つのオプションで「有効」または「無効」に切り替えることができます。デフォルト状態は「有効」です。有効なトリガーのみがアラートを送信できます。

「アラート名」

アラートトリガー名です。

「種類」

アラートトリガーのオブジェクト種類です。

「状況」

アラートがトリガーされる条件です。「マップされたネットワークドライブ」が「使用不可」のアラートトリガーの場合は、以下の条件のみが使用できます。

「使用不可」：マップされたドライブが使用不可になったときに、アラートを送信します。

「アラート自動解除までの時間(h)」

アラートが自動的に解除される時間です。アラートは「状況」タブから手動でも解除できます。

「メール通知」

リストからユーザーを選択します。リストにはTotalFlow Optimizerのユーザープロファイルで指定されたメールアドレスを持つ全てのユーザーが含まれています。選択されたユーザーは、アラートがトリガーされるたびにメール通知を受信します。

メール通知リストで選択されたユーザーをクリックすると、選択が解除されます。

メール通知を受信するには、「管理」→「その他」→「サーバー」の順でウィンドウを開き、その中にある「SMTPサーバー」の設定をしてください。

右クリックメニューを使用すると、トリガーの有効、無効、編集、削除ができます。

「ディスク領域不足」

「ディスク領域不足」は、使用可能なディスク領域が指定されたしきい値に達したときに、アラートトリガーを送信するために使用します。「現在のアラート」タブに有効なアラートを表示できます。

「ディスク領域不足」アラートトリガーを編集するには、アラートトリガーをダブルクリックまたは右クリックして「プロパティ」を選択します。

トリガーアラート編集ダイアログが表示されます。

「状態」

2つのオプションで「有効」または「無効」に切り替えることができます。デフォルト状態は「有効」です。有効なトリガーのみがアラートを送信できます。

「アラート名」

アラートトリガー名です。

[種類]

アラートトリガーのオブジェクト種類です。

[しきい値]

アラートがトリガーされる [GB] の値を指定します。残りのディスク領域が指定されたしきい値に達したときに、アラートが1回のみ送信されます。デフォルトのしきい値は10 GBです。



使用可能なディスク領域が指定されたしきい値を下回ったときに、アラートが1回のみ送信されます。空きディスク領域が指定値+1 GBを超え、しきい値を再度下回ると、新しいアラートが送信されます。

[アラート自動解除までの時間(h)]

アラートが自動的に解除される時間です。アラートは [状況] タブから手動でも解除できます。

[メール通知]

リストからユーザーを選択します。リストにはTotalFlow Optimizerのユーザープロファイルで指定されたメールアドレスを持つ全てのユーザーが含まれています。選択されたユーザーは、アラートがトリガーされるたびにメール通知を受信します。

メール通知リストで選択されたユーザーをクリックすると、選択が解除されます。

メール通知を受信するには、[管理] → [その他] → [サーバー] の順でウィンドウを開き、その中にある [SMTPサーバー] の設定をしてください。

右クリックメニューを使用すると、トリガーの有効、無効、編集、削除ができます。

ジョブアラートトリガー

ジョブのアラートトリガーを作成と編集する方法を説明します。

新しいジョブアラートトリガーを作成するには、以下の操作を行います。

1. メニューバーで [アラート] をクリックします。
2. [アラート] セクションで、[アラートトリガー] タブをクリックします。
3. [新しいアラートトリガー] をクリックします。
4. [種類] リストからアラートトリガーの種類として [ジョブ] を選択します。

ジョブの様々な種類のアラートトリガーを作成できます。[状況] リストから、アラートがトリガーされるジョブの条件を選択します。

ジョブアラートトリガーの種類は、以下のとおりです。

[フィルターに一致しない]

受信した新しいジョブがバッチ可能かつ既存のフィルターと一致しないときに、アラートが送信されます。

[面付けフィルターと一致しない]

Impostripが有効なときにのみ、入力経由または手動で送信された新しいジョブを受信したときに、このアラートを送信します。除外フィルターを含む面付けフィルターが定義されます。アラートは面付け機能が無効なときには発行されません。

[納期]

ジョブ期限が経過したときに、アラートが送信されます。

↓ 補足

ジョブを含む注文の納期日の変更し、納期を経過した場合は、「ジョブ納期:」アラートが複数回送信されることがあります。

ジョブ納期日が終了する前の特定の時刻にアラートを送信するアラートトリガーを設定できます。アラートが表示される時刻を設定するには、[納期時刻になる前にアラートを表示] テキストフィールドに時間と分を入力します。

[ファイル待ち]

ジョブがシステムに入るとアラートが送信されます。

[自動フィルターに一致するには大き過ぎます]

ジョブが自動フィルターと一致し、フィルターの対象範囲を超えるとときに、アラートが送信されます。

[複合フィルターと自動フィルターに一致]

複合フィルターにジョブを選択し、別の自動化フィルター（複合フィルターまたは簡易フィルター）の条件にも一致するときに、アラートを送信します。

[プリフライトエラー]

[プリフライト] 状態のジョブで、プリフライト処理が失敗したときに、アラートを送信します。プリフライト処理中にエラーが発生すると、TotalFlow Optimizerはプリフライトデータベースからレポートを受信します。[プリフライトエラー] アラートは次の状況で送信されます。

- ジョブがプリフライトにあり、選択したプロファイルまたはアクションリストが削除されるとき
- ジョブプリフライトがプロセスクラッシュで失敗するとき
- エラーがプリフライトジョブファイルで特定されるとき
- ジョブが入力経由で受信され、プリフライトフィルターと一致しないとき

↓ 補足

ジョブ状態は[プリフライトエラー] になり、[アクションが必要] タブの[ジョブ] リストに表示されます。ジョブを右クリックして[プリフライトエラーを無視]を選択してジョブ状態を[バッチ待ち]に変更します。

[試し印刷が必須]

ジョブ属性の[試し印刷] が[試し印刷が必須] に設定されたときに、アラートを送信します。

[ファイル待ち]

ジョブが[ファイル待ち] 状態でシステムに入ったときに、アラートが送信されます。

↓ 補足

特定の経過時間の後にアラートを送信するアラートトリガーを設定できます。[アラートトリガーまでの時間] テキストフィールドで、ジョブ状態が[ファイル待ち]に設定された後にアラートを送信するまで経過させる時間を指定します。

↓ 補足

1. 任意のジョブアラートトリガー種類を設定し、全てのお客様または特定のお客様に送信できます。
2. [アラート自動解除までの時間(h)] テキストフィールドに時間を指定すると、自動的にアラートが解除される時間を設定できます。アラートは[現在のアラート] タブから手動でも解除できます。
3. [メール通知] リストをクリックしてユーザーを手動で選択することで、アラートがトリガーされるたびにメール通知を受信するユーザーを指定できます。メール通知を受信するには、[管理] → [その他] → [サーバー] の順でウィンドウを開き、その中にある [SMTPサーバー] の設定をしてください。

[現在のアラート] タブに有効なアラートを表示できます。アラートをダブルクリックするか、右クリックして[プロパティ]を選択し、アラート詳細を表示します。

アラート詳細ダイアログで、[ジョブを開く...] をクリックし、ジョブプロパティを表示して編集します。

注文アラートトリガー

注文のアラートトリガーを作成と編集する方法を説明します。

新しい注文アラートトリガーを作成するには、以下の操作を行います。

1. メニューバーで[アラート] をクリックします。
2. [アラート] セクションで、[アラートトリガー] タブをクリックします。
3. [新しいアラートトリガー] をクリックします。
4. [種類] リストからアラートトリガーの種類として[注文]を選択します。

注文の様々な種類のアラートトリガーを作成できます。[状況] リストから、アラートがトリガーされる注文の条件を選択します。

注文アラートトリガーの種類は、以下のとおりです。

[納期]

注文の納期が近づくとアラートが送信されます。

↓ 補足

注文の納期日に変更し、納期を経過した場合は、[納期] アラートが複数回送信されることがあります。

注文納期日が終了する前の特定の時刻にアラートを送信するアラートトリガーを設定できます。アラートが表示される時刻を設定するには、[納期時刻になる前にアラートを表示] テキストフィールドに時間と分を入力します。

↓ 補足

〔納期時刻になる前にアラートを表示〕に値が指定されていない場合、システムはジョブが〔納期経過〕になったときにアラートを送信します。

〔注文を複製〕

既存の注文と同じ注文番号を持つ注文が受信されると、アラートが送信されます。

↓ 補足

システムが重複注文を受信したときは、TotalFlow Optimizerは重複する注文番号に数値のサフィックスを追加します。

〔複合フィルターに部分的に一致〕

注文が受信され、ジョブの一部のみが複合フィルターと一致したときに、アラートを送信します。

複合フィルターについては、[P. 147 「複合フィルターを使用する」](#)を参照してください。

↓ 補足

〔アラート自動解除までの時間(h)〕テキストフィールドに時間を指定すると、自動的にアラートが解除される時間を設定できます。アラートは〔現在のアラート〕タブから手動でも解除できます。

〔メール通知〕リストをクリックしてユーザーを手動で選択することで、アラートがトリガーされるたびにメール通知を受信するユーザーを指定できます。メール通知を受信するには、〔管理〕→〔その他〕→〔サーバー〕の順でウィンドウを開き、その中にある〔SMTPサーバー〕の設定をしてください。

〔現在のアラート〕タブに有効なアラートを表示できます。アラートをダブルクリックするか、右クリックして〔プロパティ〕を選択し、アラート詳細を表示します。

アラート詳細ダイアログで、〔注文を開く〕をクリックし、注文プロパティを表示して編集します。

バッチアラートトリガー

面付けエラー種類にバッチアラートトリガーを作成できます。

新しいバッチアラートトリガーを作成するには、以下の操作を行います。

1. メニューバーで〔アラート〕をクリックします。
2. 〔アラート〕セクションで、〔アラートトリガー〕タブをクリックします。
3. 〔新しいアラートトリガー〕をクリックします。
4. 〔種類〕リストからアラートトリガーの種類として〔バッチ〕を選択します。
5. 〔状況〕リストから〔面付けエラー〕を選択します。この条件を満たすとアラートがトリガーされます。

↓ 補足

アラートをトリガーする面付けエラーは、以下のとおりです。

- 面付けホットフォルダー指定済みジョブと面付けホットフォルダー指定なしジョブの両方がある自動化フィルターが「面付けエラー」状態でバッチを作成する。
- TotalFlow OptimizerでUltimate Impostrip XMLホットフォルダーに面付けXMLファイルの送信が失敗する。
- 「管理」→「機能」→「面付け」→「タイマー」タブで指定した時間以内でジョブの面付けが失敗する。
- Ultimate Impostripエラーのため、ジョブの面付けが失敗する。

「アラート自動解除までの時間(h)」テキストフィールドに時間を指定すると、自動的にアラートが解除される時間を設定できます。アラートは「現在のアラート」タブから手動でも解除できます。

「メール通知」リストをクリックしてユーザーを手動で選択することで、アラートがトリガーされるたびにメール通知を受信するユーザーを指定できます。メール通知を受信するには、「管理」→「その他」→「サーバー」の順でウィンドウを開き、その中にある「SMTPサーバー」の設定をしてください。

「現在のアラート」タブで有効なアラートを確認できます。アラートをダブルクリックするか、右クリックして「プロパティ」を選択すると、アラート詳細が表示されます。

アラート詳細ダイアログで、「バッチを開く」をクリックし、ジョブプロパティを表示して編集します。

入力ホットフォルダーを作成する

新しい入力ホットフォルダーを作成するには、「入力」ウィンドウの「新しい入力」ボタンをクリックします。「新しい入力」ウィンドウダイアログが表示されます。

新しい入力

名前*
Test input folder

概要
Test input folder description

状況
有効

入力種類
PDF/PostScript

全般

注文が揃ったら処理
☐ すべてのジョブ/パーツが揃ったらバッチ可能にする

デフォルト納期時刻 (日/時/分)
ジョブの納期日が未設定の場合は、受信した時間に基づき、割り当てることができます。

日 時間 分

入力先 (ディレクトリーパス)*
参照...

受信ファイル名でジョブプロパティーを送信

デフォルトジョブ属性

削除 OK キャンセル

必須情報を入力します。

[状態]

[有効] ボタン (有効) または [無効] ボタン (無効) をクリックすると、2つの状態を切り替えることができます。

[名前]

指定されたフィールドに入力ホットフォルダー名を入力します。

[概要]

新しいホットフォルダーの簡単な概要を入力します。

[注文が揃ったら処理]

同一注文に含まれる全てのジョブ/パーツが揃ったときに、全てのジョブをバッチ待ちにします。

[注文が揃ったら処理] オプションを有効にするには、[すべてのジョブ/パーツが揃ったらバッチ可能にする] をクリックします。[ファイル待ち] のジョブがある場合は、印刷ファイルを含む他の全てのジョブは [ファイル待ち] 状態に設定されます。ジョブは注文に含まれている全てのジョブが完了するまでバッチできません。

[デフォルト納期時刻]

入力ホットフォルダーを通じて受信したすべてのジョブのデフォルト納期時刻を設定するには、日数、時間、分数を指定します。

[入力種類]

リストから入力種類を選択します。表示される値は、以下のとおりです。

- [PDF/PostScript] 入力ホットフォルダーでは、PDF形式のファイルだけを含む注文を受信できます。

↓ 補足

PDF形式の複数のファイルを含む.zip ファイルを [PDF/PostScript] 入力ホットフォルダーに追加できます。.zip パッケージから各.pdf のジョブを含む注文が作成されます。.zip ファイルの名前は注文番号として使用されます。

- [XML/制御ファイル] 入力ホットフォルダーでは、XMLファイルに記載されている注文とジョブの参照先の印刷ファイルを受信できます。XMLファイルは、ジョブを含む注文に関連付けられており、印刷ファイルが参照されています。

受信した注文の印刷ファイルが見つからない場合は、見つからないジョブは [ファイル待ち] 状態に設定されます。

指定された場所に印刷ファイルが存在しない場合は、ジョブは [ファイル待ち] 状態に設定されます。

注文XMLファイルはhttp://形式でのファイル参照を使用できます。このファイル参照は1つのWebサーバーのURLを示します。

★ 重要

受信したXMLファイルには、「.xml」または「.jdf」の拡張子が必要です。「.jdf」ファイル拡張子は、標準XMLファイルとしてTotalFlow Optimizerシステムで処理され、TotalFlow Optimizerの内部スキーマとの一致が必要です。

他のXML種類のファイルをTotalFlow Optimizer内部スキーマに変換するには、XSL マッピングファイルを使用してください。

- [HTTP経由JMF] システム特定の対象URLと生成された対象デバイスを連結したURLを介し、入力フォルダーでMIME形式のジョブを受信します。MIMEパッケージには、JMFメッセージ、JDFファイル、PDFジョブファイルが含まれています。JDFファイルは、提供されたマッピングファイルに基づいてTotalFlow Optimizerジョブ設定に変換されます。

↓ 補足

入力種類が [HTTP経由JMF] のホットフォルダーで受信したジョブの状態が [印刷済み] の場合は、TotalFlow OptimizerシステムはMIS (Management Information System) に状況更新の通知を送信します。

- [CSV] 入力ホットフォルダーで、CSVファイルに記載されている注文を受信できます。TotalFlow Optimizerシステムで、CSVファイルからXMLファイルに変換するように設定できます。
- [PDF/PostScript] 形式に有効な情報が含まれない場合は、TotalFlow Optimizerでページ数とサイズを取得できません。必須情報は手動で入力してください。
- [TotalFlow HTTP経由JMF] システム特定の対象URLと指定した対象デバイスを連結したURLを介し、入力フォルダーでMIME形式のジョブを受信します。MIMEパッケージには、JMFメッセージ、JDFファイル、PDFジョブファイルが含まれていま

す。JDFファイルは、Ricoh JTAPIライブラリーを介してTotalFlow Optimizerジョブ設定に変換されます。

↓ 補足

入力種類が [PDF/PostScript] のときは、TotalFlow Optimizerは“.”ピリオド文字から始まるファイル名の受信ジョブを処理しません。

[入力先 (ディレクトリーパス)]

パスを入力するか、[参照...] をクリックし、フォルダーを選択します。指定したフォルダーが存在しない場合は、新しいフォルダーが作成されます。

既存のフォルダーを手動で選択するか、新しいフォルダーを作成するには、[参照...] をクリックします。[バッチシステムディレクトリー] ダイアログが表示されます。



既存のローカルまたは外部ドライブまで移動し、使用するフォルダーを選択してから、[OK] をクリックします。

新しいフォルダーを作成するには、メニューバーの「新しいフォルダー...」をクリックします。

既存のフォルダー名を修正するには、フォルダーを右クリックして「フォルダー名を編集」を選択します。

既存のフォルダーを削除するには、フォルダーを右クリックして「フォルダーを削除...」を選択します。

↓ 補足

フォルダーをドラッグ&ドロップして並べ替えるか、親フォルダーから別のフォルダーに移動できます。同じネットワークドライブ内の空のフォルダーだけドラッグ&ドロップできます。

新しいネットワーク先を追加するには、メニューバーで「ネットワークドライブのマッピング...」をクリックします。「新しくマップされたネットワークドライブ」ダイアログボックスが表示されます。

新しくマップされたネットワークドライブ

接続するドライブとフォルダーを選択してください。

ドライブ文字: A: フォルダー*: \\marcel.spr\inbox\alex\Test\Share

ユーザー名: パスワード: ●●●●●●●●

OK キャンセル

リストから「ドライブ文字」を選択し、「フォルダー」フィールドにフォルダーパスを入力します。ユーザー名とパスワードを入力するオプションがあります。

★ 重要

新しいネットワークドライブをマップするコンピューターと接続先のフォルダーが異なるドメインにある場合は、「ユーザー名」フィールドでリモートホストを指定してください。

例: <remote_host¥username>

「OK」をクリックします。確認メッセージが表示され、新しいドライブがリストに追加されます。

既存のマッピングされたネットワーク先を編集する場合は、修正するネットワークドライブを右クリックして「マップされたネットワークドライブを編集...」を選択します。ドライブ選択ダイアログボックスが表示されます。

ドライブ: "\\marcel.spr\Inbox\alex\Test\Share"

接続するドライブとフォルダーを選択してください。

ドライブ文字	フォルダー *
A:	\\marcel.spr\Inbox\alex\Test\Share
ユーザー名	パスワード
	●●●●●●●●

ドライブ文字を変更し、フォルダーパスを編集できます。変更を保存するには、パスワードを再度入力し、[OK] をクリックしてください。変更が保存された確認メッセージが表示されます。

マップされたネットワーク先を切断する場合

1. ネットワークドライブを右クリックして [マップされたネットワークドライブを編集...] を選択します。ドライブダイアログボックスが表示されます。
2. [切断] をクリックします。ネットワークドライブを右クリックしても、[切断] を選択できます。
確認ウィンドウが表示されます。
3. [キャンセル] をクリックし、ドライブを切断するか、[OK] をクリックし、アクションをキャンセルします。

[マッピングファイル]

XSLマッピングファイルは、受注の属性をTotalFlow Optimizer注文とジョブ属性に変換します。XSLマッピングファイルを使用すると、受信した注文をTotalFlow Optimizer内部スキーマに変換するために入力ホットフォルダーが設定されます。このオプションは入力種類が [XML/制御ファイル]、[HTTP経由JMF]、または [CSV] のときのみ使用できます。デフォルトのマッピングファイルは、入力形式がHTTP上のJMFのときには [HTTP経由JMF] になります。

[対象URL]

入力システムがJMFメッセージ、JDFファイル、PDFファイルを含むMIME形式ジョブを送信するフォルダーを指定します。指定したURLをコピーしてMISシステムに貼り付けてください。

[対象URL] は読み取り専用で、TotalFlow Optimizerシステムによって生成された固有の入力IDがあります。

[展開/折りたたむ] ボタン () をクリックし、[全般] セクションを開きます。

[注文が揃ったら処理]

同一注文に含まれる全てのジョブ/パーツが揃ったときに、全てのジョブをバッチ待ちにします。

[注文が揃ったら処理] オプションを有効にするには、[すべてのジョブ/パーツが揃ったらバッチ可能にする] をクリックします。[ファイル待ち] のジョブがある場

合は、印刷ファイルを含む他の全てのジョブは [ファイル待ち] 状態に設定されます。ジョブは注文に含まれている全てのジョブが完了するまでバッチできません。

[デフォルト納期時刻]

入力ホットフォルダーを通じて受信したすべてのジョブのデフォルト納期時刻を設定するには、日数、時間、分数を指定します。

[入力先 (ディレクトリーパス)]

パスを編集するか、[参照...] をクリックすると、フォルダーの場所を選択できます。指定したフォルダーが存在しない場合は、新しいフォルダーが作成されます。

★重要

ネットワークドライブを読み取り専用のルートディレクトリーにマップする場合は、選択したネットワークドライブで指定したフォルダーに書き込みアクセス権を持つことを確認してください。

[マッピングファイル]

XSLマッピングファイルは、受注の属性をTotalFlow Optimizer注文とジョブ属性に変換します。XSLマッピングファイルを使用すると、受信した注文をTotalFlow Optimizer内部スキーマに変換するために入力ホットフォルダーが設定されます。このオプションは入力種類が [XML/制御ファイル]、[HTTP経由JMF]、または [CSV] のときのみ使用できます。デフォルトのマッピングファイルは、入力形式がHTTP上のJMFのときには [HTTP経由JMF] になります。

[対象URL]

入力システムがJMFメッセージ、JDFファイル、PDFファイルを含むMIME形式ジョブを送信するフォルダーを指定します。指定したURLをコピーしてMISシステムに貼り付けてください。

[対象URL] は読み取り専用で、TotalFlow Optimizerシステムによって生成された固有の入力IDがあります。

[展開/折りたたむ] ボタン () をクリックし、[ファイル参照 - 受信XMLファイル] セクションを開きます。

受注XMLファイルに別のコンピューターに置かれているジョブファイルの参照があるときは、新しいファイルパスを指定してください。

ファイルパスを置換するには、以下の操作を行います。

1. [XML注文ファイル パス] フィールドで、受信した注文XMLファイルに指定されたファイル先を入力します。
2. [参照...] をクリックし、マップされたネットワークドライブまたは別のドライブからファイルの場所を選択します。
3. [OK] をクリックします。

↓ 補足

注文XMLファイルの複数のファイル参照を置換できます。

- 新しいファイル参照を追加するには、ファイル参照の追加ボタンをクリックします。
- 新しいファイル参照を削除するには、ファイル参照の削除ボタンをクリックします。
- ファイル参照を再編成するには、ドラッグ&ドロップボタンをクリックします。

「展開/折りたたむ」ボタン () をクリックし、「デフォルトジョブ属性」セクションを開きます。

「デフォルトジョブ属性」セクションで、入力ホットフォルダーのデフォルトジョブプロパティを指定できます。

★ 重要

TotalFlow Optimizerシステムでは、受信ジョブのプロパティには、以下のソースを使用します。

1. XML注文ファイル
2. 「デフォルトジョブ属性」セクションまたはデフォルトホットフォルダーのプロパティファイルで指定されたジョブプロパティ
3. PDFジョブファイルから取得されたジョブプロパティ

最初のソースに情報が見つからない場合は、TotalFlow Optimizerは次に使用可能な情報を使用します。

★ 重要

ネットワークドライブを読み取り専用のルートディレクトリーにマップする場合は、選択したネットワークドライブで指定したフォルダーに書き込みアクセス権を持つことを確認してください。

「展開/折りたたむ」ボタン () をクリックし、「受信ファイル名でジョブプロパティを送信」セクションを開きます。

入力種類を「PDF/PostScript」に設定したときは、TotalFlow Optimizerシステムで受信したジョブファイル名から特定のジョブプロパティを読み取るように設定できます。

「ファイル名から抽出」にチェックを付け、「受信ファイル名でジョブプロパティを送信」オプションを使用します。システムでファイル名から値が抽出され、各ジョブのジョブプロパティとして追加されます。

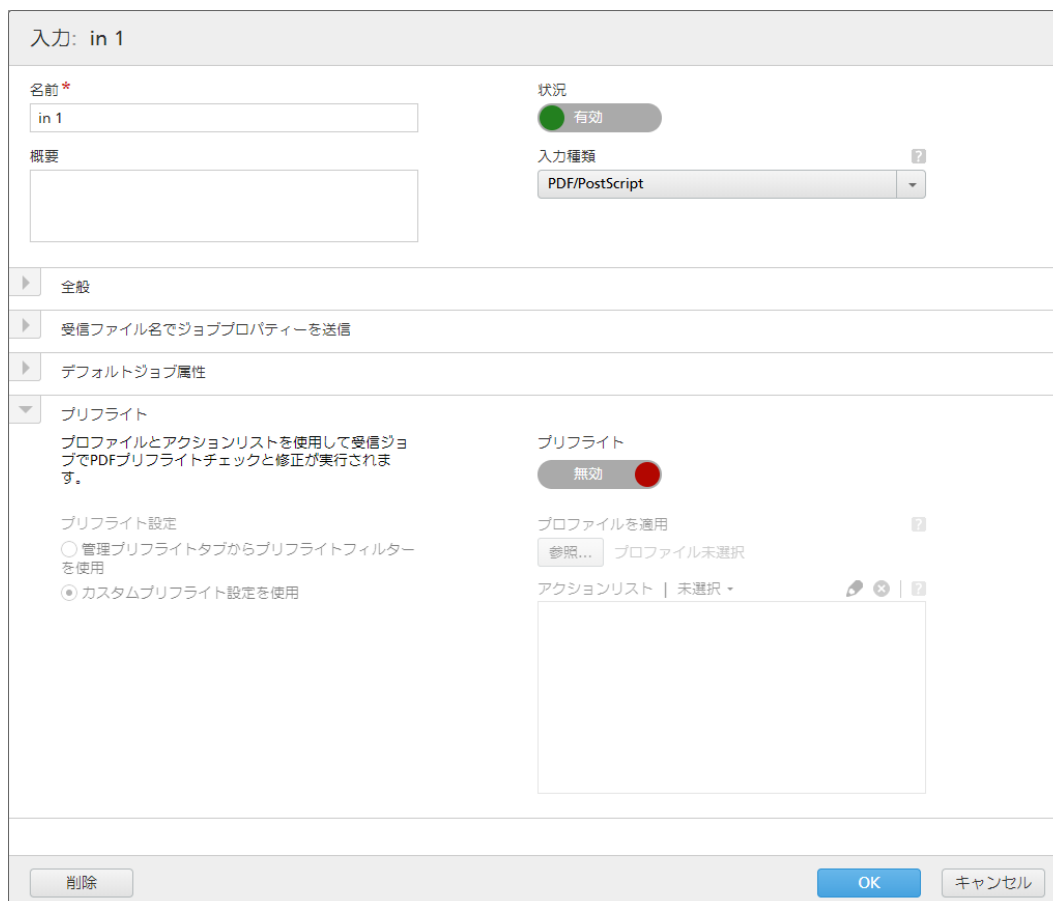
ファイル名の値を区切るには、リストから区切り文字種類を選択してください。使用可能な区切り文字種類は、以下のとおりです。

- [_ アンダースコア] (デフォルト値)
- [- ハイフン]
- [+ プラス]
- [= 等しい]
- [% パーセント]
- [\$ ドル記号]

- [～ チルド]

各行は表示されるファイル名とジョブプロパティからセグメントを指定します。新しい属性を追加するには、「この下に行を追加」ボタン（）をクリックします。ジョブ属性を削除するには、「この行を削除」ボタン（）をクリックします。

[展開/折りたたむ] ボタン（）をクリックし、[プリフライト] セクションを開きます。



[プリフライト] セクションでは、 をクリックするとプリフライトプロセスを有効にできます。プロファイルとアクションリストを使用して受信ジョブでPDFプリフライトチェックと修正が実行されます。

[プリフライト設定]

使用するプリフライト設定の種類を選択します。[管理] → [機能] → [プリフライト] タブで定義されたプリフライトフィルターを使用するか、カスタムプリフライト設定を作成して使用できます。

[プロファイルを適用]

[参照...] をクリックし、[プロファイルを選択] ダイアログを開きます。[プロファイルを選択] ダイアログでは、使用可能なプロファイルのリストからプリフライトプロファイルを選択できます。[更新] ボタン（）をクリックし、プリフライトデータベースから使用可能なプリフライトプロファイルのリストを更新します。

[OK] をクリックし、変更を保存して [プロファイルを選択] ダイアログを閉じます。

現在の選択をクリアするには、[消去] ボタン (✕) をクリックします。

[アクションリスト]

メニューから、受信ジョブに適用するアクションリストを選択します。[アクションリストを選択] ウィンドウを開くには、 をクリックします。

[アクションリストを選択] ウィンドウでは、アクションリストを編集または作成できます。[更新] ボタン () をクリックし、プリフライトデータベースから使用可能なアクションリストのリストを更新します。

指定されていない場合は、アクションリストの新しいセットの固有の [名前] を指定できます。

[OK] をクリックし、変更を保存して [アクションリストを選択] ダイアログを閉じます。

選択したアクションリストを削除するには、[消去] ボタン (✕) をクリックします。

↓ 補足

プリフライト処理を実行するには、プリフライトプロファイルまたはプリフライトアクションリストを指定してください。

新しいホットフォルダーを作成するには、[OK] をクリックします。

[新しい入力] パネルを閉じ、入力した情報を破棄するには、[キャンセル] をクリックします。

↓ 補足

既存の入力ホットフォルダーを複製しても、新しい入力を作成できます。

既存の入力ホットフォルダーのコピーを作成するには、以下の操作を行います。

1. 入力ソースのリストから入力ホットフォルダーを選択します。
2. 右クリックして [複製] を選択します。既存の入力のコピーがある編集ウィンドウが表示されます。マッピング属性、ファイル参照、デフォルトのジョブ属性を含む全ての入力プロパティがコピーされます。
3. 入力プロパティを編集し、[OK] をクリックします。

[PitStopサーバー]

内部プリフライトから外部プリフライトに切り替えると、入力プリフライト設定を再構成できます。

リストからプリフライトホットフォルダーを選択します。全ての受信ジョブは、外部プリフライト処理用に選択したプリフライトホットフォルダーに送信されます。

↓ 補足

プリフライトの入力がTotalFlow Optimizerで現在設定されている場合は、内部TotalFlow Optimizerプリフライトから外部PitStop Serverにスクリプトを実行して切り替えると無効になります。

内部TotalFlow Optimizerプリフライトから外部PitStop Serverへの最初の切り替えには、
 [管理] セクションでプリフライトを再度有効にし、設定とフィルターを調整してください。

入力を再度有効にするには、プリフライト設定を変更してください。

入力ホットフォルダーのホットフォルダープロパティとデフォルトジョブプロパティを編集する

入力ソースに関連付けられたホットフォルダープロパティとデフォルトジョブプロパティを編集する方法を説明します。

入力ホットフォルダーのデフォルトジョブプロパティを編集できます。これで、入力デバイス経由で入る全てのジョブにデフォルトのジョブ属性を継承できます。

[入力] ダイアログを開くには、ホットフォルダー行を右クリックして [プロパティ] を選択するか、 [入力] リストの行をダブルクリックします。

入力: in 1

名前 *

in 1

概要

状況

有効

入力種類

PDF/PostScript

全般

注文が揃ったら処理

☐

すべてのジョブ/パーツが揃ったらバッチ可能にする

デフォルト納期時刻 (日/時/分)

ジョブの納期日が未設定の場合は、受信した時間に基づき、割り当てることができます。

日

時間

分

入力先 (ディレクトリパス) *

C:\in 1

参照...

受信ファイル名でジョブプロパティを送信

デフォルトジョブ属性

削除

OK

キャンセル

[入力]

入力名が表示されます。

[名前]

ホットフォルダー名を編集できます。

[概要]

ホットフォルダーの簡単な概要を編集できます。

[状態]

[有効] ボタン ( 有効) または [無効] ボタン ( 無効) をクリックすると、2つの状態を切り替えることができます。

[入力種類]

リストから入力種類を選択します。4つの入力種類があります。

- [PDF/PostScript] 入力ホットフォルダーでは、PDF/PostScript形式のファイルだけを含む注文を受信できます。

↓ 補足

PDF形式の複数のファイルを含む.zipファイルを [PDF/PostScript] 入力ホットフォルダーに追加できます。.zip パッケージから各.pdf のジョブを含む注文が作成されます。.zip ファイルの名前は注文番号として使用されます。

- [XML/制御ファイル] 入力ホットフォルダーでは、XMLファイルに記載されている注文とジョブの参照先の印刷ファイルを受信できます。XMLファイルは、ジョブを含む注文に関連付けられており、印刷ファイルが参照されています。

受信した注文の印刷ファイルが見つからない場合は、見つからないジョブは [ファイル待ち] 状態に設定されます。

指定された場所に印刷ファイルが存在しない場合は、ジョブは [ファイル待ち] 状態に設定されます。

注文XMLファイルはhttp://形式でのファイル参照を使用できます。このファイル参照は1つのWebサーバーのURLを示します。

★ 重要

受信したXMLファイルには、「.xml」または「.jdf」の拡張子が必要です。「.jdf」ファイル拡張子は、標準XMLファイルとしてTotalFlow Optimizerシステムで処理され、TotalFlow Optimizerの内部スキーマとの一致が必要です。

他のXML種類のファイルをTotalFlow Optimizer内部スキーマに変換するには、XSL マッピングファイルを使用してください。

- [CSV] 入力ホットフォルダーで、CSVファイルに記載されている注文を受信できます。TotalFlow Optimizerシステムで、CSVファイルからXMLファイルに変換するように設定できます。
- [HTTP経由JMF] 入力フォルダーでは、指定したURLにMIMEパッケージでジョブを受信できます。MIMEパッケージには、JMFメッセージ、JDFファイル、PDFジョブファイルが含まれています。

↓ 補足

入力種類が [HTTP経由JMF] のホットフォルダーで受信したジョブの状態が [印刷済み] の場合は、TotalFlow OptimizerシステムはMIS (Management Information System) に状況更新の通知を送信します。

- [TotalFlow HTTP経由JMF] です。システム特定の対象URLと指定した対象デバイスを連結したURLを介し、入力フォルダーでMIME形式のジョブを受信します。MIMEパッケージには、JMFメッセージ、JDFファイル、PDFジョブファイルが含まれています。JDFファイルは、Ricoh JTAPIライブラリーを介してTotalFlow Optimizerジョブ設定に変換されます。

展開ボタン () をクリックし、[全般] セクションを開きます。

3

[注文が揃ったら処理]

同一注文に含まれる全てのジョブ/パーツが揃ったときに、全てのジョブをバッチ待ちにします。

[注文が揃ったら処理] オプションを有効にするには、[すべてのジョブ/パーツが揃ったらバッチ可能にする] をクリックします。[ファイル待ち] のジョブがある場合は、印刷ファイルを含む他の全てのジョブは [ファイル待ち] 状態に設定されます。ジョブは注文に含まれている全てのジョブが完了するまでバッチできません。

[デフォルト納期時刻]

入力ホットフォルダーを通じて受信したすべてのジョブのデフォルト納期時刻を設定するには、日数、時間、分数を指定します。

[入力先 (ディレクトリーパス)]

パスを編集するか、[参照...] をクリックすると、フォルダーの場所を選択できます。指定したフォルダーが存在しない場合は、新しいフォルダーが作成されます。

★ 重要

ネットワークドライブを読み取り専用のルートディレクトリーにマップする場合は、選択したネットワークドライブで指定したフォルダーに書き込みアクセス権を持つことを確認してください。

[マッピングファイル]

XSLマッピングファイルは、受注の属性をTotalFlow Optimizer注文とジョブ属性に変換します。XSLマッピングファイルを使用すると、受信した注文をTotalFlow Optimizer内部スキーマに変換するために入力ホットフォルダーが設定されます。このオプションは入力種類が [XML/制御ファイル]、[HTTP経由JMF]、または [CSV] のときのみ使用できます。デフォルトのマッピングファイルは、入力形式がHTTP上のJMFのときには [HTTP経由JMF] になります。

[対象URL]

入力システムがJMFメッセージ、JDFファイル、PDFファイルを含むMIME形式ジョブを送信するフォルダーを指定します。指定したURLをコピーしてMISシステムに貼り付けてください。

[対象URL] は読み取り専用で、TotalFlow Optimizerシステムによって生成された固有の入力IDがあります。

展開ボタン () をクリックし、[CSVからXML] セクションを開きます。

[サンプルCSVファイル]

[参照...] をクリックしてアップロードするCSVファイルを選択します。

↓ 補足

指定したCSVファイルにフィールド名がある場合は、[最初の行にフィールド名を含む] にチェックを付けます。

[XMLに変換]

[生成] をクリックし、CSVファイルをXMLファイルに変換します。生成されたXMLファイルをダウンロードするには、ファイル名のリンクをクリックします。

入力種類を [CSV] に設定したときは、注文が記載されているCSVファイルをアップロードすると、TotalFlow OptimizerシステムでCSVファイルからXMLファイルに変換するように設定できます。

[ファイル参照 - 受信XMLファイル] セクションを開くには、展開ボタン () をクリックします。

受注XMLまたはCSVファイルに別のコンピューターに置かれているジョブファイルの参照があるときは、新しいファイルパスを指定してください。

ファイルパスを置換するには、以下の操作を行います。

1. [XML注文ファイル パス] フィールドで、受信した注文XMLまたはCSVファイルに指定されたファイル先を入力します。
2. [参照...] をクリックし、マップされたネットワークドライブまたは別のドライブからファイルの場所を選択します。
3. [OK] をクリックします。

↓ 補足

注文XMLまたはCSVファイルの複数のファイル参照を置換できます。

- 新しいファイル参照を追加するには、追加ボタン () をクリックします。
- ファイル参照を削除するには、削除ボタン () をクリックします。
- ファイル参照を再編成するには、移動ボタン () をクリックします。

[デフォルトジョブ属性] セクションを開くには、展開ボタン () をクリックします。

[デフォルトジョブ属性] セクションで、入力ホットフォルダーのデフォルトジョブプロパティを指定できます。

★重要

TotalFlow Optimizerシステムでは、受信ジョブのプロパティには、以下のソースを使用します。

1. XML注文ファイル
2. [デフォルトジョブ属性] セクションまたはデフォルトホットフォルダーのプロパティファイルで指定されたジョブプロパティ
3. PDFジョブファイルから取得されたジョブプロパティ

最初のソースに情報が見つからない場合は、TotalFlow Optimizerは次に使用可能な情報を使用します。

展開ボタン () をクリックし、[受信ファイル名でジョブプロパティを送信] セクションを開きます。

入力種類を [PDF/PostScript] に設定したときは、TotalFlow Optimizerシステムで受信したジョブファイル名から特定のジョブプロパティを読み取るように設定できます。

[ファイル名から抽出] にチェックを付け、[受信ファイル名でジョブプロパティを送信] オプションを使用します。システムでファイル名から値が抽出され、各ジョブのジョブプロパティとして追加されます。

ファイル名の値を区切るには、リストから区切り文字種類を選択してください。使用可能な区切り文字種類は、以下のとおりです。

- [_ アンダースコア] (デフォルト値)
- [- ハイフン]
- [+ プラス]
- [= 等しい]
- [% パーセント]
- [\$ ドル記号]
- [~ チルド]

各行は表示されるファイル名とジョブプロパティからセグメントを指定します。新しい属性を追加するには、**追加** () ボタンをクリックします。属性を削除するには、**削除** () ボタンをクリックします。

展開ボタン () をクリックし、[プリフライト] セクションを開きます。

入力: in 1

名前*
in 1

概要

状況
有効

入力種類
PDF/PostScript

全般

受信ファイル名でジョブプロパティーを送信

デフォルトジョブ属性

プリフライト
プロファイルとアクションリストを使用して受信ジョブでPDFプリフライトチェックと修正が実行されます。

プリフライト
無効

プリフライト設定
☐ 管理プリフライトタブからプリフライトフィルターを使用
☒ カスタムプリフライト設定を使用

プロファイルを適用
 プロファイル未選択

アクションリスト | 未選択

【プリフライト】セクションでは、無効 をクリックするとプリフライトプロファイルを有効にできます。プロファイルとアクションリストを使用して受信ジョブでPDFプリフライトチェックと修正が実行されます。

【プリフライト設定】

使用するプリフライト設定の種類を選択します。【管理】→【機能】→【プリフライト】タブで定義されたプリフライトフィルターを使用するか、カスタムプリフライト設定を作成して使用できます。

【プロファイルを適用】

【参照...】をクリックし、【プロファイルを選択】ダイアログを開きます。【プロファイルを選択】ダイアログでは、使用可能なプロファイルのリストからプリフライトプロファイルを選択できます。【更新】ボタン () をクリックし、プリフライトデータベースから使用可能なプリフライトプロファイルのリストを更新します。

【OK】をクリックし、変更を保存して【プロファイルを選択】ダイアログを閉じます。

現在の選択をクリアするには、クリアボタン () をクリックします。

【アクションリスト】

メニューから、受信ジョブに適用するアクションリストを選択します。【アクションリストを選択】ウィンドウを開くには、 をクリックします。

「アクションリストを選択」ウィンドウでは、アクションリストを編集または作成できます。「更新」ボタン（）をクリックし、プリフライトデータベースから使用可能なアクションリストのリストを更新します。

指定されていない場合は、アクションリストの新しいセットの固有の「名前」を指定できます。

「OK」をクリックし、変更を保存して「アクションリストを選択」ダイアログを閉じます。

選択したアクションリストを削除するには、**クリア**ボタン（）をクリックします。

↓ 補足

プリフライト処理を実行するには、プリフライトプロファイルまたはプリフライトアクションリストを指定してください。

変更したプロパティを保存するには、「OK」をクリックします。「入力」ダイアログを閉じ、変更を破棄する場合は、「キャンセル」をクリックします。

ホットフォルダーを削除するには、「削除」をクリックします。詳しくは、[P. 203 「ホットフォルダーを削除する」](#)を参照してください。

「PitStopサーバー」

内部プリフライトから外部プリフライトに切り替えると、入力プリフライト設定を再構成できます。

リストからプリフライトホットフォルダーを選択します。全ての受信ジョブは、外部プリフライト処理用に選択したプリフライトホットフォルダーに送信されます。

↓ 補足

プリフライトの入力がTotalFlow Optimizerで現在設定されている場合は、内部TotalFlow Optimizerプリフライトから外部PitStop Serverにスクリプトを実行して切り替えると無効になります。

内部TotalFlow Optimizerプリフライトから外部PitStop Serverへの最初の切り替えには、「管理」セクションでプリフライトを再度有効にし、設定とフィルターを調整してください。

入力を再度有効にするには、プリフライト設定を変更してください。

入力ホットフォルダーを削除する

管理者はシステムから入力ホットフォルダーを削除できます。「入力」リストから、削除するホットフォルダーを選択し、右クリックして「削除...」を選択します。また、「入力」をクリックすると、「削除」ウィンドウダイアログからホットフォルダーを削除できます。確認メッセージが表示されます。

デフォルトホットフォルダーのプロパティファイル

ホットフォルダーのプロパティファイルは、新しいホットフォルダーに関連付けられたプロパティを設定するために使用します。

ホットフォルダーを作成すると、プロパティファイルからデフォルトプロパティが読み込まれ、ホットフォルダー定義で保存されます。管理者はホットフォルダーのプロパ

ティーファイルを編集できます。新しいホットフォルダーを保存して有効にした場合は、新しいホットフォルダーで受信した注文のジョブが付属のデフォルトプロパティーを取得します。

出力を作成する

出力フォルダーは、他のアプリケーションで確認できます。

新しい出力フォルダーを作成するには、[出力] ウィンドウの [新しい出力] ボタンをクリックします。[新しい出力] ダイアログが表示されます。

3

新しい出力

名前 *

Test output folder

状況

有効

全般

設定

用紙リスト

コマンド

バーナーシート

パッチチケット

概要

Test output folder description

推定出力速度

☒ フィート/時

☐ シート数/時

最小ジョブ実行時間 (分) *

1

送信前にジョブの用紙を調整

☒ しない

☐ する、用紙リストに基づく

削除

OK

キャンセル

必須情報を入力します。

[状態]

[有効] ボタン ( 有効) または [無効] ボタン ( 無効) をクリックすると、2つの状態を切り替えることができます。

[名前]

指定されたフィールドに出力フォルダー名を入力します。

[全般] タブ

[概要]

新しい出力フォルダーの簡単な概要を入力します。

[推定出力速度]

出力速度は [フィート/時] または [シート数/時] のいずれかで指定できます。

↓ 補足

インストール時の選択項目によって、測定単位は異なります。

[最小ジョブ実行時間]

出力フォルダーに配置された各ジョブのデフォルト最小実行時間として分数を指定します。この [最小ジョブ実行時間] は、指定された出力デバイスとして、この出力フォルダーが設定されたフィルターまたはバッチに含まれている各ジョブの既存の実行時間に追加されます。

バッチ、フィルター、ジョブのグループの合計実行時間を決定するときは、[最小ジョブ実行時間] が各ジョブの実行時間に追加されます。

[送信前にジョブの用紙を調整]

ジョブを出力デバイスに送信する前に、ジョブの用紙プロパティーが用紙リストの入力と一致するかどうか指定します。

以下のオプションから1つ選択します。

[しない]

用紙プロパティーを変更せずにジョブを出力デバイスに送信します。これは、デフォルトのオプションです。

[する、用紙リストに基づく]

ジョブを出力デバイスに送信する前に、用紙リストの入力と一致するようにジョブの用紙プロパティーを調整します。

↓ 補足

推奨される方法として、出力タイプが [HTTP経由JMF] または [TotalFlow HTTP経由JMF] の場合、[する、用紙リストに基づく] を選択してください。

[設定] タブ

[出力種類]

リストから出力種類を選択します。

[PDF/PostScript]

TotalFlow Optimizerでバッチの各ファイルの出力フォルダーにPDF/Postscriptファイルを配置します。ジョブ設定は出力に送信されません。

[PDF/PostScriptおよびXML]

TotalFlow Optimizerでバッチの各ジョブの出力ホットフォルダーにPDF/PostscriptファイルとXMLファイルを配置します。カスタムXSLマッピングファイルが設定されていない場合、XML出力ファイルにはTotalFlow Optimizerスキーマのジョブ設定が含まれます。カスタムXSLマッピングファイルが設定されている場合、XML出力ファイルには、提供されたカスタムXSLマッピングを適用した結果のカスタムスキーマのジョブ設定が含まれます。

備考：

PDF/PostScriptファイルとXMLファイルには、異なる出力ホットフォルダーを指定できます。

[PDF/PostScriptおよびCSV]

TotalFlow Optimizerでバッチの各ファイルの出力フォルダーにPDF/Postscriptファイルと生成されたCSVファイルを配置します。

サンプルXMLファイルは、デフォルトのTotalFlowCSV.xslマッピングファイルまたは指定したカスタムXSLマッピングファイルを使用してCSVファイルに変換される、TotalFlow Optimizer内部で生成されたXMLファイルです。

[CSV出力] から、以下の操作を行います。

- CSVファイルのヘッダー行にフィールド名を含める場合は、[最初の行にフィールド名を含む] にチェックを付けます。
- バッチに含まれているすべてのジョブに対して1つのCSVファイルを生成する場合は、[バッチごとに1CSV] にチェックを付けます。

[TotalFlow MIME]

TotalFlow Optimizerはバッチのそれぞれのジョブを出力ホットフォルダーにMultipurpose Internet Mail Extensions (MIME) 形式で配置します。MIMEパッケージには、ジョブメッセージングフォーマット (JMF) ファイル、JDFファイル、ジョブファイルが含まれています。TotalFlow Optimizerは、デフォルトのTotalFlowJTAPI.xslマッピングファイルまたは指定したカスタムXSLマッピングファイルを使用してジョブ設定をJDFファイルに変換します。

MIME形式ジョブのファイル名はジョブファイル名と同じです。

[PDF/PostScriptおよびRPDリストファイル]

TotalFlow Optimizerはバッチに含まれているジョブのPDF/PostScriptファイルの他に、RICOH ProcessDirectorリストファイルを作成します。Ricoh ProcessDirectorリストファイルはバッチからファイル名の注文されたリストを含むテキストファイルです。Ricoh ProcessDirectorリストファイルは前回使用した出力ホットフォルダーに配置されます。

[HTTP経由JMF]

TotalFlow OptimizerはジョブをMIME形式で仮想プリンターに送信します。MIMEパッケージが出力フォルダーの各ジョブにHTTPプロトコル経由で送信されます。仮想プリンターのURLと名前を指定してください。MIMEパッケージには、JMFメッセージ、JDFファイル、PDFジョブファイルが含まれています。TotalFlow Optimizerは、デフォルトのTotalFlowJTAPI.xslマッピングファイルまたは指定したカスタムXSLマッピングファイルを使用してジョブ設定をJDFファイルに変換します。

↓ 補足

〔HTTP経由JMF〕 出力を介してFieryプリンターに送信されるジョブのFieryプリセットまたはFiery仮想プリンターを指定するには、ジョブのJDFルートノードに次の属性を含める必要があります。

```
name: "NamedFeatures"
value: "FieryJobPresets Name_Of_Requested_Fiery_Job_Preset"
```

または

```
name: "NamedFeatures"
value: "FieryVirtualPrinter Name_Of_Requested_Fiery_Virtual_Printer"
```

Name_Of_Requested_Fiery_Job_PresetとName_Of_Requested_Fiery_Virtual_Printerを実際のジョブプリセットまたは仮想プリンター名に置き換えます。

3

〔TotalFlow HTTP経由JMF〕

TotalFlow OptimizerはジョブをMIME形式で仮想プリンターに送信します。MIMEパッケージが出力フォルダーの各ジョブにHTTPプロトコル経由で送信されます。仮想プリンターのURLと名前を指定してください。MIMEパッケージには、JMFメッセージ、JDFファイル、PDFジョブファイルが含まれています。TotalFlow Optimizerは、Ricoh JTAPIライブラリーを介してジョブ設定をJDFファイルに変換します。

↓ 補足

〔PDF/PostScriptおよびXML〕、〔PDF/PostScriptおよびCSV〕、〔TotalFlow MIME〕、〔PDF/PostScriptおよびRPDリストファイル〕、〔HTTP経由JMF〕、〔TotalFlow HTTP経由JMF〕の各オプションは、TotalFlow Optimizer XML出力機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。

〔マッピングファイル〕

XSLマッピングファイルを使用すると、TotalFlow Optimizerで出力デバイスが構成され、TotalFlow Optimizerスキーマに基づいてさまざまなXMLファイルを生成できます。XSLマッピングファイルを使用すると、カスタム対象スキーマに基づいてXMLファイルが生成されるように出力ホットフォルダーが構成されます。このオプションは出力種類が〔PDF/PostScriptおよびXML〕、〔TotalFlow MIME〕、〔HTTP経由JMF〕または〔PDF/PostScriptおよびCSV〕のときにのみ使用できます。

XSLT変換処理では入力としてTotalFlow Optimizer内部スキーマを使用し、ジョブのXML出力を生成します。

選択した出力種類が〔TotalFlow MIME〕または〔HTTP経由JMF〕のときは、デフォルトのXSLマッピングファイルはTotalFlowJTAPI.xslです。

〔出力XMLファイル拡張子〕

生成された出力XMLファイルの拡張子の種類を指定します。選択した出力種類が〔PDF/PostScriptおよびXML〕のときは、出力XMLファイルに拡張子を設定できます。

★ 重要

指定したXMLファイルと対応ジョブファイルの拡張子異なることを確認してください。

〔MIMEファイル拡張子〕

生成された出力MIME形式ジョブの拡張子の種類を指定します。選択した出力種類が [TotalFlow MIME] のときは、出力MIME形式ジョブの拡張子を設定できます。デフォルトのファイル拡張子は.mjm です。

[出力先 (ディレクトリーパス)]

パスを入力するか、[参照...] をクリックし、フォルダーの場所を選択します。指定したフォルダーが存在しない場合は、新しいフォルダーが作成されます。



選択した出力種類が [PDF/PostScriptおよびXML] の場合は、PDFファイルとXMLファイルで異なる場所を指定できます。

[出力先 (XMLファイル)]

パスを入力するか、[参照...] をクリックし、XMLファイルの出力ホットフォルダーを選択します。

[出力先 (PDFファイル)]

XMLファイルとPDFファイルで同じ出力ホットフォルダーを使用する場合は、[XMLと同じ場所を使用] オプションを選択します。

[出力先]

パスを入力するか、[参照...] をクリックし、PDFファイルの出力ホットフォルダーを選択します。

[XMLファイルで指定するPDFファイル先]

PDFファイルとXMLファイルが別の出力ホットフォルダーに配置されているときは、PDFファイルのパスを指定してください。

指定したパスはXMLファイルに対応するPDFジョブファイルのファイル参照として使用します。



ネットワークドライブを読み取り専用のルートディレクトリーにマップする場合は、選択したネットワークドライブで指定したフォルダーに書き込みアクセス権を持つことを確認してください。

[対象デバイス]

選択した出力種類が [HTTP経由JMF] の場合は、JMFファイルを送信するデバイスの名前を指定するか、使用可能なデバイスのリストから選択してください。デバイスとは、[HTTP経由JMF] プロトコルをサポートするすべての仮想プリンター、JDFデバイスID、ワークフローを意味します。

[対象URL]

選択した出力種類が [HTTP経由JMF] の場合は、HTTPでJMFファイルを送信するサーバーのアドレスを指定してください。

URLはサーバーによって異なります。サーバーの正確なパスを取得するには、各サーバーの [HTTP経由JMF] プロトコルに関する特定の使用説明書をお読みください。

例

1. RICOH ProcessDirectorの場合は、次のURLを使用できます：`http://<ServerHostAddress>:15080/aiwservices/v1/jmf` (対象デバイスは入

力、`<ServerHostAddress>`はRICOH ProcessDirectorのホスト名またはIPアドレスです)。

↓ 補足

ジョブを送信するデバイスがJDF入力をサポートしていることを確認してください。

2. RICOH TotalFlow Production Managerには、次のURLを使用できます：`http://<ServerHostAddress>:15080/aiwservices/v2/jmf` (対象デバイスはワークフロー、`<ServerHostAddress>`はRICOH TotalFlow Production Managerのホスト名またはIPアドレスです)。
3. Ricoh TotalFlow Print Serverプリンターの一部では、次のURLを使用できます：`http://<ServerHostAddress>/webJmf/Device1`(対象デバイスは仮想プリンター、`<ServerHostAddress>`はRicoH TotalFlow Print Serverのホスト名またはIPアドレスです)。
4. EFI Fiery コントローラーを持つ複数のプリンターの場合は、次の URL を使用できます：`Http://<ServerHostAddress>:8010/` (対象デバイスはJDFデバイスID、`<ServerHostAddress>`はEFI Fieryコントローラーのホスト名または IP アドレスです)。

[ジョブ状況]

以下のオプションから1つ選択します。

- [自動返信のみ]：TotalFlow Optimizerシステムは印刷用に送信したジョブの状態をプリンターから自動的に受信します。

↓ 補足

RICOH TotalFlow プリントサーバープリンターとRICOH TotalFlow Production Managerでは、[自動返信のみ] 使用を推奨します。

- [自動返信とジョブ状況のポーリング]：印刷用に送信したジョブの状態をプリンターが自動的に返さない場合は、直接プリンターに [ジョブ状況] 情報を要求できます。受信した [ジョブ状況] 情報に応じて、TotalFlow Optimizer、ジョブの状態をプリンターで処理中、プリンターで保留済み、プリンターで一時停止済み、プリンターでキャンセル済み、印刷中、[印刷済み] に更新します。

↓ 補足

EFI Fieryコントローラーを搭載したプリンターでは、[自動返信とジョブ状況のポーリング] を使用することをお勧めします。

[テスト接続]

選択した出力タイプが [HTTP経由JMF] の場合、[今すぐテスト] をクリックして、JMF ファイルを送信するサーバーが利用可能かどうか、または指定した [対象デバイス] が有効かどうかを確認できます。

↓ 補足

1. [今すぐテスト] をクリックする前に、[対象デバイス] フィールドが空であることを確認します。接続テストが成功すると、[対象デバイス] フィールドに、使用可能な対象デバイスを含むドロップダウンリストが表示されます。そのリストから要求した対象デバイスを選択してください。テスト接続に失敗した場合は、対象URLを調整して再度テストを実行してください。
2. ジョブ状態が正しく更新されるように、プリンターに適切なネットワーク構成（DNS、ゲートウェイ、ネットワークマスクを含む）が設定されていることを確認してください。プリンターによって状況更新が送信されてから、ファイアウォールがプリンターとの通信を遮断していないか確認してください。
3. 接続テストが成功しても、デバイスへのジョブの送信が失敗する場合があります。この結果は、デバイスプロトコルの実装形態によって異なります。デバイス設定を確認し、ジョブを再送信してください。

[用紙リスト] タブ

新しい出力

名前 *
Test output folder

状況
有効

全般 設定 用紙リスト コマンド パナーシート パッチチケット

用紙をインポート... + 用紙を追加

名前 ▲	製品ID	入力種類	サイズ (inch)	坪量 (lbs)	完了	種類	カラ
A4		ローカル用紙	8.268 x 11.693	-	-	なし	-
Letter		ローカル用紙	8.500 x 11.000	-	-	なし	-

削除 OK キャンセル

[用紙リスト] ダイアログで、ある出力から別の出力に手動で用紙リストをインポートできます。用紙リストをインポートするには、[用紙をインポート] ボタンをクリックします。[用紙をインポート] ダイアログが表示されます。

[出力:]

リストを参照し、出力の用紙リストを選択します。出力に表示される用紙はデフォルトで確認され、インポートしない用紙は確認されません。

[OK] をクリックします。インポートした用紙の数と一緒に確認メッセージが表示されます。

ジョブ、バッチチケット、バナーシートで選択可能なTotalFlow Optimizerに用紙リストを手動で入力できます。プロパティを編集し、用紙を複製または削除するには、リストから1つの用紙を選択し、右クリックします。新しい用紙を追加するには、[用紙を追加] ボタンをクリックします。[用紙を追加] ダイアログが表示されます。

[用紙名]

使用する用紙名を編集できます。256文字まで文字列を入力できます。このフィールドは必須です。

[製品ID]

製品IDを編集できます。256文字まで文字列を入力できます。

[用紙種類]

リストから使用する用紙の種類を編集または選択できます。

- [ボンド紙]
- [オフセット用紙]
- [表紙]
- [タグ]
- [インデックス紙]

[用紙坪量]

用紙坪量は用紙種類と用紙サイズによって異なります。用紙坪量は編集できます。

[用紙カラー]

用紙カラーを入力またはリストから選択できます。

[用紙仕上げ]

用紙の仕上げを入力またはリストから選択できます。

- [コートなし]
- [コート]
- [グロス仕上げ]
- [インクジェット仕上げ]
- [ハイグロス仕上げ]
- [マット仕上げ]
- [ポリマー仕上げ]
- [サテン仕上げ]
- [セミグロス仕上げ]
- [シルバー仕上げ]

[用紙幅]

用紙の幅です。

[用紙高さ]

用紙の高さです。

↓ 補足

- [入力種類] 列には、[ローカル用紙] または [用紙リスト] が [HTTP経由JMF] と [TotalFlow HTTP経由JMF] により表示されます。[ローカル用紙] を編集、複製、または削除できます。[HTTP経由JMF] と [TotalFlow HTTP経由JMF] [用紙リスト] 経由で受信された用紙を複製できます。複製された用紙は [ローカル用紙] として作成されます。[HTTP経由JMF] プリンターと [TotalFlow HTTP経由JMF] プリンターでのみ [用紙リスト] タブに [用紙を更新] ボタンが表示されます。
- [用紙リスト] は1日に1回更新されます。TotalFlow Optimizerにより用紙リストが自動で更新されている間プリンターがオフラインの場合、既存リストは変更されません。新しいJMFまたは編集済みJMFが定義されている場合、出力が保存された直後、用紙リストは自動的に更新されます。用紙リストは [用紙をインポート] ボタンをクリックした場合にのみ、自動的に更新されます。

[コマンド] タブ

バッチ、注文、ジョブ属性を使用してカスタムコマンドを作成できます。TotalFlow Optimizerのシステムは特定のコマンドを含む.batファイルを作成します。バッチが出力に送信されると、印刷ファイル、バナーシート、バッチチケット、xmlファイルは出力フォルダーにコピーされ、コマンドが実行されます。

[コマンドタイムアウト]

コマンドがタイムアウトし、プロセスが終了するまでにTotalFlow Optimizerが待機する必要がある分数を指定します。コマンドがタイムアウトしたときは、ジョブ状態は [出力エラー] に設定され、アラートが送信されます。

[コマンドフィールド]

改行区切りでコマンドを入力します。各コマンド構文では、右側の [属性の挿入] パネルから選択して、バッチ、注文、またはジョブの属性を指定できます。

例：

出力先でPDFファイルをページごとに分割したい場合：

1. まず出力を作成し、[出力種類] を [PDF/PostScript] 、 [PDF/PostScriptおよびCSV] 、 [PDF/PostScriptおよびXML] 、 [PDF/PostScriptおよびRPDリストファイル] のいずれかに設定します。
2. [コマンドフィールド] に次のように入力します：`"<install_path>%bin
%splitPdf.bat" ${job.file} 1.%`

ここで、<install_path>は TotalFlow Optimizerのインストールパスです。デフォルトのインストールパスはC:\Program Files\RICOH\TotalFlow Optimizerです。

各ジョブファイルを、JMFまたはホットフォルダーをサポートしていないプリンターに印刷する場合：

1. まず出力を作成し、[出力種類] を [PDF/PostScript] に設定します。
2. [コマンドフィールド] に次のように入力してください：`lpr -S Printer_IP -P
Printer_IP ${job.file}`

送信されたジョブの詳細を含むテキストファイルを作成したい場合：

1. まず出力を作成し、[出力種類] に必要なタイプを設定します。
2. [コマンドフィールド] に次のように入力してください：

```
echo ***** Job ID: ${job.id} >> C:\SentJobs-Summary.txt
echo Output Destination: ${batch.outputDestinationName} >> C:\SentJobs-Summary.txt
echo Customer: ${order.customer} >> C:\SentJobs-Summary.txt
echo Copies: ${job.copies} >> C:\SentJobs-Summary.txt
```

使用上の注意：

- 各行は、個別に実行されるコマンドラインを表します。
- コマンドラインの実行に失敗すると、バッチ全体のステータスが [出力エラー] に切り替わります。エラーが発生した場合、出力先は無効になります。

[属性の挿入]

ジョブ属性、バッチ属性、注文属性をカスタムコマンド構文に追加できます。属性リストから、挿入する値を選択します。

↓ 補足

- [送信済み] 状態のバッチをキャンセルし、実行中のコマンドがある場合は、TotalFlow Optimizerシステムは処理を終了します。
- 指定されたカスタムコマンドの形式が正しいことを確認します。TotalFlow Optimizerシステムはエラーになったときに、アラートを送信します。

[バナーシート] タブ

[バナーシート]

出力フォルダーのジョブファイルにバナーシートを含める場合は、[先頭シート] または [最終シート] にチェックを付けます。

[ファイル処理]

PDFジョブファイルにバナーシートを挿入する場合は、チェックを付けます。

[バナーコンテンツのシート位置]

バナーシートのコンテンツページの場所を指定します。[おもて]、[うら]、または[両面] から1つ選択できます。

[バナーコンテンツオフセット]

ページの左上の角を基準にして、バナーシートコンテンツの上または左の位置を指定します。

[用紙]

[バナーシート] にチェックを付けた場合は、用紙プリセットを使用できます。ここで設定されたプロパティはバナーシートのデフォルトになります。

- [ジョブに一致] : メディアの設定ボタンを無効にし、デフォルト設定を使用します。
- [カスタム] : メディアの設定ボタンを有効にします。指定した設定はバナーシートXML/JDF/CSVに含まれます。

[カスタム] を選択した場合は、出力 [用紙リスト] から用紙を入力または選択できます。用紙種類を追加するには、[用紙を追加] ボタンをクリックします。

[枠線/シートカラー]

文書シートの端にカラーを印刷する場合は、チェックを付けます。

[カラー位置] を選択します。

- [シート全体] : シート全体にカラーを適用します。
- [シート端から] : カラーを適用するシートの端からの距離を指定します。

[カスタムカラー]

ジョブプロパティに応じてカスタム境界線またはシートの色を設定します。任意の色を選択するには、カラー長方形をクリックします。カラーオプションが開きます。カラーオプションを閉じるには、画面の任意の場所をクリックします。

バナーシートの条件を設定するには、以下の操作を行います。

1. 1番目のリストから属性種類を選択します。
2. 2番目のリストから演算子を1つ選択します。
 - [次の値と等しい]
 - [次の値と等しくない]
 - [間]
 - [次の値より大きい]
 - [次の値より小さい]
 - [次の値以上]
 - [次の値以下]
3. 指定した属性種類の値を入力または選択して条件を完成させます。

CMYKカラーモデルから各カラーに0～100の割合値を指定します。

- C : シアン
- M : マゼンタ

- Y：イエロー
- K：キー（ブラック）

〔カラープレビュー〕には、指定されたCMYK値で作成されたカラーが表示されます。属性を選択すると、バナーシートの条件として使用できます。新しい属性を追加するには、〔条件を追加〕ボタン（）をクリックします。属性を削除するには、〔条件を削除〕ボタン（）をクリックします。

カスタムマークタブ

〔バッチチケット〕タブ

バッチの詳細とバッチチケットの送信先を指定します。バッチ詳細を含むバッチチケットファイルがシステムで生成されます。

〔バッチチケットプリンター〕

〔プリンターにバッチチケットを送信〕

プリンターにバッチチケットを送信します。TotalFlow Optimizerサーバーで利用可能な既存のプリンターリストからプリンターを選択します。印刷するバッチチケットの部数も指定できます。

〔出力デバイスにバッチチケットを送信〕

指定した出力デバイスにバッチチケットを送信します。バッチチケットファイルはバッチの最初のジョブとして配置され、バッチチケットのジョブシーケンスの番号は「0」になります。バッチチケットファイルは、バッチ詳細ダイアログと操作画面上にジョブとして表示されません。

〔用紙〕

ここで設定されたプロパティはバッチチケットのデフォルトになります。バッチチケットメディアで使用するジョブプロパティを指定します。

- 〔A4〕または**Letter**：ジョブプロパティのデフォルトメディア設定を使用します。
- 〔カスタム〕：ジョブプロパティのメディア設定を指定できます。

↓ 補足

- 〔用紙〕プロパティの最初の値は、インストール設定に基づいて表示されます。〔A4〕がメートル法、〔レター〕がポンド・ヤード法で表示されます。

〔用紙名〕

使用する用紙名を編集できます。256文字まで文字列を入力できます。

〔製品ID〕

製品IDを編集できます。256文字まで文字列を入力できます。

〔用紙種類〕

リストから使用する用紙の種類を選択できます。

- 〔ボンド紙〕

- [オフセット用紙]
- [表紙]
- [タグ]
- [インデックス紙]

[用紙坪量]

用紙坪量は用紙種類と用紙サイズによって異なります。用紙坪量は編集できません。

[用紙カラー]

用紙カラーを入力またはリストから選択できます。

[用紙仕上げ]

用紙の仕上げを入力またはリストから選択できます。

- [コートなし]
- [コート]
- [グロス仕上げ]
- [インクジェット仕上げ]
- [ハイグロス仕上げ]
- [マット仕上げ]
- [ポリマー仕上げ]
- [サテン仕上げ]
- [セミグロス仕上げ]
- [シルバー仕上げ]

[用紙高さ]

用紙の高さを指定できます。

[用紙幅]

用紙の幅を指定できます。

新しい出力ホットフォルダーを作成するには、[OK] をクリックします。

[新しい出力] パネルを閉じ、入力した情報を破棄するには、[キャンセル] をクリックします。

↓ 補足

既存の出力ホットフォルダーを複製しても、新しい出力を作成できます。

既存の出力ホットフォルダーのコピーを作成するには、以下の操作を行います。

1. 出力ソースのリストから出力ホットフォルダーを選択します。
2. 右クリックして [複製...] を選択します。既存の出力のコピーがある編集ウィンドウが表示されます。マッピング属性を含む全ての出力プロパティがコピーされます。
3. 出力プロパティを編集し、[OK] をクリックします。

出力フォルダープロパティを編集する

出力フォルダーのプロパティを編集するには、出力フォルダー行を右クリックして「プロパティ」を選択するか、ホットフォルダー行をダブルクリックします。「出力:」ウィンドウが表示されます。

次のプロパティを変更できます。

【状態】

「有効」ボタン（）または「無効」ボタン（）をクリックすると、2つの状態を切り替えることができます。

【名前】

出力フォルダー名を編集できます。

【全般】 タブ

【概要】

出力フォルダーの簡単な概要を編集できます。

【推定出力速度】

印刷出力速度を編集できます。「フィート/時」または「シート数/時」を選択し、測定単位を変更します。



インストール時の選択項目によって、測定単位は異なります。

[最小ジョブ実行時間]

出力フォルダーに配置された各ジョブのデフォルト最小実行時間として分数を指定します。この「最小ジョブ実行時間」は、指定された出力デバイスとして、この出力フォルダーが設定されたフィルターまたはバッチに含まれている各ジョブの既存の実行時間に追加されます。

バッチ、フィルター、ジョブのグループの合計実行時間を決定するときは、「最小ジョブ実行時間」が各ジョブの実行時間に追加されます。

[送信前にジョブの用紙を調整]

ジョブを出力デバイスに送信する前に、ジョブの用紙プロパティーが用紙リストの入力と一致するかどうか指定します。

以下のオプションから1つ選択します。

[しない]

用紙プロパティーを変更せずにジョブを出力デバイスに送信します。これは、デフォルトのオプションです。

[する、用紙リストに基づく]

ジョブを出力デバイスに送信する前に、用紙リストの入力と一致するようにジョブの用紙プロパティーを調整します。

[設定] タブ

[出力種類]

リストから出力種類を選択します。

[PDF/PostScript]

TotalFlow Optimizerでバッチの各ファイルの出力フォルダーにPDF/Postscriptファイルを配置します。ジョブ設定は出力に送信されません。

[PDF/PostScriptおよびXML]

TotalFlow Optimizerでバッチの各ジョブの出力ホットフォルダーにPDF/PostscriptファイルとXMLファイルを配置します。カスタムXSLマッピングファイルが設定されていない場合、XML出力ファイルにはTotalFlow Optimizerスキーマのジョブ設定が含まれます。カスタムXSLマッピングファイルが設定されている場合、XML出力ファイルには、提供されたカスタムXSLマッピングを適用した結果のカスタムスキーマのジョブ設定が含まれます。

備考：

PDF/PostScriptファイルとXMLファイルには、異なる出力ホットフォルダーを指定できます。

[PDF/PostScriptおよびCSV]

TotalFlow Optimizerでバッチの各ファイルの出力フォルダーにPDF/Postscriptファイルと生成されたCSVファイルを配置します。

サンプルXMLファイルは、デフォルトのTotalFlowCSV.xslマッピングファイルまたは指定したカスタムXSLマッピングファイルを使用してCSVファイルに変換される、TotalFlow Optimizer内部で生成されたXMLファイルです。

[CSV出力] から、以下の操作を行います。

- CSVファイルのヘッダー行にフィールド名を含める場合は、[最初の行にフィールド名を含む] にチェックを付けます。
- バッチに含まれているすべてのジョブに対して1つのCSVファイルを生成する場合は、[バッチごとに1CSV] にチェックを付けます。

[TotalFlow MIME]

TotalFlow Optimizerはバッチのそれぞれのジョブを出力ホットフォルダーにMultipurpose Internet Mail Extensions (MIME) 形式で配置します。MIMEパッケージには、ジョブメッセージングフォーマット (JMF) ファイル、JDFファイル、ジョブファイルが含まれています。TotalFlow Optimizerは、デフォルトのTotalFlowJTAPI.xslマッピングファイルまたは指定したカスタムXSLマッピングファイルを使用してジョブ設定をJDFファイルに変換します。

MIME形式ジョブのファイル名はジョブファイル名と同じです。

[PDF/PostScriptおよびRPDリストファイル]

TotalFlow Optimizerはバッチに含まれているジョブのPDF/PostScriptファイルの他に、RICOH ProcessDirectorリストファイルを作成します。Ricoh ProcessDirectorリストファイルはバッチからファイル名の注文されたリストを含むテキストファイルです。Ricoh ProcessDirectorリストファイルは前回使用した出力ホットフォルダーに配置されます。

[HTTP経由JMF]

TotalFlow OptimizerはジョブをMIME形式で仮想プリンターに送信します。MIMEパッケージが出力フォルダーの各ジョブにHTTPプロトコル経由で送信されます。仮想プリンターのURLと名前を指定してください。MIMEパッケージには、JMFメッセージ、JDFファイル、PDFジョブファイルが含まれています。TotalFlow Optimizerは、デフォルトのTotalFlowJTAPI.xslマッピングファイルまたは指定したカスタムXSLマッピングファイルを使用してジョブ設定をJDFファイルに変換します。

↓ 補足

[HTTP経由JMF] 出力を介してFieryプリンターに送信されるジョブのFieryプリセットまたはFiery仮想プリンターを指定するには、ジョブのJDFルートノードに次の属性を含める必要があります。

```
name: "NamedFeatures"
value: "FieryJobPresets Name_Of_Requested_Fiery_Job_Preset"
```

または

```
name: "NamedFeatures"
value: "FieryVirtualPrinter Name_Of_Requested_Fiery_Virtual_Printer"
```

Name_Of_Requested_Fiery_Job_PresetとName_Of_Requested_Fiery_Virtual_Printerを実際のジョブプリセットまたは仮想プリンター名に置き換えます。

[TotalFlow HTTP経由JMF]

TotalFlow OptimizerはジョブをMIME形式で仮想プリンターに送信します。MIMEパッケージが出力フォルダーの各ジョブにHTTPプロトコル経由で送信されます。仮想プリンターのURLと名前を指定してください。MIMEパッケージには、JMFメッセージ、JDFファイル、PDFジョブファイルが含まれています。TotalFlow Optimizerは、Ricoh JTAPIライブラリーを介してジョブ設定をJDFファイルに変換します。

↓ 補足

【PDF/PostScriptおよびXML】、【PDF/PostScriptおよびCSV】、【TotalFlow MIME】、【PDF/PostScriptおよびRPDリストファイル】、【HTTP経由JMF】、【TotalFlow HTTP経由JMF】の各オプションは、TotalFlow Optimizer XML出力機能の有効なライセンスがある場合にのみ使用できます。

3

【マッピングファイル】

XSLマッピングファイルを使用すると、TotalFlow Optimizerで出力デバイスが構成され、TotalFlow Optimizerスキーマに基づいてさまざまなXMLファイルを生成できます。XSLマッピングファイルを使用すると、カスタム対象スキーマに基づいてXMLファイルが生成されるように出力ホットフォルダーが構成されます。このオプションは出力種類が【PDF/PostScriptおよびXML】、【TotalFlow MIME】または【HTTP経由JMF】のときにのみ使用できます。

XSLT変換処理では入力としてTotalFlow Optimizer内部スキーマを使用し、ジョブのXML出力を生成します。

選択した出力種類が【TotalFlow MIME】または【HTTP経由JMF】のときは、デフォルトのXSLマッピングファイルはTotalFlowJTAPI.xslです。

【出力XMLファイル拡張子】

生成された出力XMLファイルの拡張子の種類を指定します。選択した出力種類が【PDF/PostScriptおよびXML】のときは、出力XMLファイルに拡張子を設定できます。

★ 重要

指定したXMLファイルと対応ジョブファイルの拡張子が異なることを確認してください。

【MIMEファイル拡張子】

生成された出力MIME形式ジョブの拡張子の種類を指定します。選択した出力種類が【TotalFlow MIME】のときは、出力MIME形式ジョブの拡張子を設定できます。デフォルトのファイル拡張子は.mjmです。

【出力先（ディレクトリーパス）】

パスを入力するか、【参照...】をクリックし、フォルダーを選択します。指定したフォルダーが存在しない場合は、新しいフォルダーが作成されます。

既存のフォルダーを手動で選択するか、新しいフォルダーを作成するには、【参照...】をクリックします。【バッチシステムディレクトリー】ダイアログが表示されます。



既存のローカルまたは外部ドライブまで移動し、使用するフォルダーを選択してから、[選択] をクリックします。

新しいフォルダーを作成するには、メニューバーの [新しいフォルダー...] をクリックします。

既存のフォルダー名を修正するには、フォルダーを右クリックして [フォルダー名を編集] を選択します。

既存のフォルダーを削除するには、フォルダーを右クリックして [削除...] を選択します。

↓ 補足

フォルダーをドラッグ&ドロップして並べ替えるか、親フォルダーから別のフォルダーに移動できます。同じネットワークドライブ内の空のフォルダーだけドラッグ&ドロップできます。

新しいネットワーク先を追加するには、メニューバーで [ネットワークドライブのマッピング...] をクリックします。[新しくマップされたネットワークドライブ] ダイアログボックスが表示されます。

新しくマップされたネットワークドライブ

接続するドライブとフォルダーを選択してください。

ドライブ文字 フォルダー *

A: \\marcel.spr\inbox\alex\Test\Share

ユーザー名 パスワード

●●●●●●●●

OK キャンセル

リストから [ドライブ文字] を選択し、[フォルダー] フィールドにフォルダーパスを入力します。ユーザー名とパスワードを入力するオプションがあります。[OK] をクリックします。確認メッセージが表示され、新しいドライブがリストに追加されます。

既存のマッピングされたネットワーク先を編集する場合は、修正するネットワークドライブを右クリックして [マップされたネットワークドライブを編集...] を選択します。ドライブダイアログボックスが表示されます。

ドライブ: "\\marcel.spr\inbox\alex\Test\Share"

接続するドライブとフォルダーを選択してください。

ドライブ文字 フォルダー *

A: \\marcel.spr\inbox\alex\Test\Share

ユーザー名 パスワード

●●●●●●●●

切断 OK キャンセル

ドライブ文字を変更し、フォルダーパスを編集できます。変更を保存するには、パスワードを再度入力し、[OK] をクリックしてください。変更が保存された確認メッセージが表示されます。

マップされたネットワーク先を切断する場合

1. ネットワークドライブを右クリックして [マップされたネットワークドライブを編集...] を選択します。[ドライブ:"{0}"] ダイアログボックスが表示されます。
2. [切断] をクリックします。ネットワークドライブを右クリックしても、[切断] を選択できます。
確認ウィンドウが表示されます。
3. [はい] をクリックし、ドライブを切断するか、[いいえ] をクリックし、アクションをキャンセルします。

↓ 補足

選択した出力種類が [PDF/PostScriptおよびXML] の場合は、PDFファイルとXMLファイルで異なる場所を指定できます。

[出力先 (XMLファイル)]

パスを入力するか、 [参照...] をクリックし、XMLファイルの出力ホットフォルダーを選択します。

[出力先 (PDFファイル)]

XMLファイルとPDFファイルで同じ出力ホットフォルダーを使用する場合は、 [XMLと同じ場所を使用] オプションを選択します。

[出力先]

パスを入力するか、 [参照...] をクリックし、PDFファイルの出力ホットフォルダーを選択します。

[XMLファイルで指定するPDFファイル先]

PDFファイルとXMLファイルが別の出力ホットフォルダーに配置されているときは、PDFファイルのパスを指定してください。

指定したパスはXMLファイルに対応するPDFジョブファイルのファイル参照として使用します。

★ 重要

ネットワークドライブを読み取り専用のルートディレクトリーにマップする場合は、選択したネットワークドライブで指定したフォルダーに書き込みアクセス権を持つことを確認してください。

[対象デバイス]

選択した出力種類が [HTTP経由JMF] または [TotalFlow HTTP経由JMF] の場合は、JMFファイルを送信するデバイスの名前を指定するか、使用可能なデバイスのリストから選択してください。デバイスとは、 [HTTP経由JMF] と [TotalFlow HTTP経由JMF] プロトコルに対応する各仮想プリンター、プリンター、または入力デバイスを意味します。

[対象URL]

選択した出力種類が [HTTP経由JMF] または [TotalFlow HTTP経由JMF] の場合は、HTTP経由でJMFファイルを送信するサーバーのアドレスを指定してください。

URLはサーバーによって異なります。サーバーの正確なパスを取得するには、各サーバーの [HTTP経由JMF] または [TotalFlow HTTP経由JMF] プロトコルに関する特定の使用説明書をお読みください。

例

1. RICOH ProcessDirectorには、URLに`http://<ServerHostAddress>:15080/aiwservices/v1/jmf`を使用できます。<ServerHostAddress>は仮想プリンターが設定されているコンピューターのホスト名またはIPアドレスです。

↓ 補足

ジョブを送信するデバイスがJDF入力に対応することを確認してください。

2. RICOH TotalFlow Production Managerの場合は、このURLを使用します： `http://<ServerHostAddress>:15080/aiwservices/v2/jmf`、ここで `<ServerHostAddress>`は仮想プリンターがあるコンピュータのホスト名またはIPアドレスです。
3. RICOH TotalFlow プリントサーバープリンターの一部では、URLに `http://<ServerHostAddress>/webJmf/Device1`を使用できます。対象デバイスは仮想プリンターであり、`<ServerHostAddress>`は仮想プリンターが設定されているコンピュータのホスト名またはIPアドレスです。
4. EFI Fieryコントローラーを搭載したプリンターの一部では、URLに `Http://<ServerHostAddress>:8010/`を使用できます。対象デバイスは仮想プリンターであり、`<ServerHostAddress>`は仮想プリンターが設定されているコンピュータのホスト名またはIPアドレスです。

[ジョブ状況]

以下のオプションから1つ選択します。

- [自動返信のみ]：TotalFlow Optimizerシステムは印刷用に送信したジョブの状態をプリンターから自動的に受信します。
- [自動返信とジョブ状況のポーリング]：印刷用に送信したジョブの状態をプリンターが自動的に返さない場合は、直接プリンターに [ジョブ状況] 情報を要求できます。受信した [ジョブ状況] 情報に応じて、TotalFlow Optimizer、ジョブの状態を [印刷済み]、[プリンターでの処理]、[プリンターで保留済み]、[プリンターで一時的停止]、[プリンターでキャンセル]、[印刷中] に更新します。

★ 重要

ジョブがプリンターまたは複数のプリンターに複数回送信された場合、TotalFlow Optimizerで自動的に更新されるステータスには、最後に送信されたジョブのみが反映されます。

[テスト接続]

選択した出力種類が [HTTP経由JMF] または [TotalFlow HTTP経由JMF] の場合は、[今すぐテスト] をクリックし、JMFファイルを送信するサーバーが使用可能かどうか、または指定された仮想プリンターが有効かどうかを確認します。

↓ 補足

接続テストが成功しても、デバイスへのジョブの送信が失敗する場合があります。この結果は、デバイスプロトコルの実装形態によって異なります。デバイス設定を確認し、ジョブを再送信してください。

[用紙リスト] タブ

[用紙リスト] ダイアログで、ある出力から別の出力に手動で用紙リストをインポートできます。用紙リストをインポートするには、[用紙をインポート] ボタンをクリックします。[用紙をインポート] ダイアログが表示されます。

[出力:]

リストを参照し、出力の用紙リストを選択します。出力に表示される用紙は、デフォルトで選択されています。インポートしたくない用紙を消去します。

[OK] をクリックします。インポートした用紙の数と一緒に確認メッセージが表示されます。

ジョブ、バッチチケット、バナーシートで選択可能なTotalFlow Optimizerに用紙リストを手動で入力できます。プロパティを編集し、用紙を複製または削除するには、リストから1つの用紙を選択し、右クリックします。新しい用紙を追加するには、[用紙を追加] ボタンをクリックします。[用紙を追加] ダイアログに次のオプションが表示されます。

[用紙名]

使用する用紙名を編集できます。256文字まで文字列を入力できます。このフィールドは必須です。

[製品ID]

製品IDを編集できます。256文字まで文字列を入力できます。

[用紙種類]

リストから使用する用紙の種類を編集または選択できます。

- [ボンド紙]
- [オフセット用紙]
- [表紙]
- [タグ]
- [インデックス紙]

[用紙坪量]

用紙坪量は用紙種類と用紙サイズによって異なります。用紙坪量は編集できます。

[用紙カラー]

用紙カラーを入力またはリストから選択できます。

[用紙仕上げ]

用紙の仕上げを入力またはリストから選択できます。

- [コートなし]
- [コート]
- [グロス仕上げ]
- [インクジェット仕上げ]
- [ハイグロス仕上げ]
- [マット仕上げ]
- [ポリマー仕上げ]
- [サテン仕上げ]
- [セミグロス仕上げ]
- [シルバー仕上げ]

[用紙幅]

用紙の幅です。

[用紙高さ]

用紙の高さです。

↓ 補足

- 「入力種類」列には、「ローカル用紙」または「用紙リスト」が「HTTP経由JMF」と「TotalFlow HTTP経由JMF」により表示されます。「ローカル用紙」を編集、複製、または削除できます。「HTTP経由JMF」と「TotalFlow HTTP経由JMF」「用紙リスト」経由で受信された用紙を複製できます。複製された用紙は「ローカル用紙」として作成されます。「HTTP経由JMF」プリンターと「TotalFlow HTTP経由JMF」プリンターでのみ「用紙リスト」タブに「用紙を更新」ボタンが表示されます。
- 「用紙リスト」は1日に1回更新されます。TotalFlow Optimizerにより用紙リストが自動で更新されている間プリンターがオフラインの場合、既存リストは変更されません。新しいJMFまたは編集済みJMFが定義されている場合、出力が保存された直後、用紙リストは自動的に更新されます。用紙リストは「用紙をインポート」ボタンをクリックした場合にのみ、自動的に更新されます。

「コマンド」タブ

バッチ、注文、ジョブ属性を使用してカスタムコマンドを作成できます。TotalFlow Optimizerのシステムは特定のコマンドを含む.batファイルを作成します。バッチが出力に送信されると、印刷ファイル、バナーシート、バッチチケット、xmlファイルは出力フォルダーにコピーされ、コマンドが実行されます。

「コマンドタイムアウト」

コマンドがタイムアウトし、プロセスが終了するまでにTotalFlow Optimizerが待機する必要がある分数を指定します。コマンドがタイムアウトしたときは、ジョブ状態は「出力エラー」に設定され、アラートが送信されます。

「コマンドフィールド」

改行区切りでコマンドを入力します。各コマンド構文で、`${batch.[propName]}`、`${order.[propName]}`、`${job.[propName]}`を使用してバッチ、注文、ジョブプロパティを指定できます。

「属性の挿入」

ジョブ属性、バッチ属性、注文属性をカスタムコマンド構文に追加できます。属性リストから、挿入する値を選択します。

↓ 補足

- 「送信済み」状態のバッチをキャンセルし、実行中のコマンドがある場合は、TotalFlow Optimizerシステムは処理を終了します。
- 指定されたカスタムコマンドの形式が正しいことを確認します。TotalFlow Optimizerシステムはエラーになったときに、アラートを送信します。

「バナーシート」タブ

「バナーシート」

出力フォルダーのジョブファイルにバナーシートを含める場合は、「先頭シート」または「最終シート」、または両方にチェックを付けます。

「ファイル処理」

PDFジョブファイルにバナーシートを挿入する場合は、チェックを付けます。

「バナーコンテンツのシート位置」

バナーシートのコンテンツページの場所を指定します。[おもて]、[うら]、または[両面]から1つ選択できます。

[バナーコンテンツページ]

バナーコンテンツページの場所を指定します。[先頭シート]または[最終シート]から1つ選択できます。

[用紙]

[バナーシート]にチェックを付けた場合は、[用紙]プリセットを使用できます。ここで設定されたプロパティはバナーシートのデフォルトになります。

- [ジョブに一致]：メディアの設定ボタンを無効にし、デフォルト設定を使用します。
- [カスタム]：メディアの設定ボタンを有効にします。指定した設定はバナーシートXML/JDF/CSVに含まれます。

[カスタム]を選択した場合は、出力[用紙リスト]から用紙を入力または選択できます。用紙種類を追加するには、[用紙を追加]ボタンをクリックします。

[枠線/シートカラー]

文書シートの端にカラーを印刷する場合は、チェックを付けます。

[カラー位置]を選択します。

- [シート全体]：シート全体にカラーを適用します。
- [シート端から]：カラーを適用するシートの端からの距離を指定します。

[カスタムカラー]

ジョブプロパティに応じてカスタム境界線またはシートの色を設定します。任意の色を選択するには、カラー長方形をクリックします。カラーオプションが開きます。カラーオプションを閉じるには、画面の任意の場所をクリックします。

バナーシートの条件を設定するには、以下の操作を行います。

1. 1番目のリストから属性種類を選択します。
2. 2番目のリストから演算子を1つ選択します。
 - [次の値と等しい]
 - [次の値と等しくない]
 - [間]
 - [次の値より大きい]
 - [次の値より小さい]
 - [次の値以上]
 - [次の値以下]
3. 指定した属性種類の値を入力または選択して条件を完成させます。

CMYKカラーモデルから各カラーに0～100の割合値を指定します。

- C：シアン
- M：マゼンタ

- Y：イエロー
- K：キー（ブラック）

〔カラープレビュー〕には、指定されたCMYK値で作成されたカラーが表示されます。

カスタムマーク表示

〔バッチチケット〕タブ

バッチの詳細とバッチチケットの送信先を指定します。バッチ詳細を含むバッチチケットファイルがシステムで生成されます。

〔バッチチケットプリンター〕

〔プリンターにバッチチケットを送信〕

プリンターにバッチチケットを送信します。TotalFlow Optimizerサーバーで利用可能な既存のプリンターリストからプリンターを選択します。印刷するバッチチケットの部数も指定できます。

〔出力デバイスにバッチチケットを送信〕

指定した出力デバイスにバッチチケットを送信します。バッチチケットファイルはバッチの最初のジョブとして配置され、バッチチケットのジョブシーケンスの番号は「0」になります。バッチチケットファイルは、バッチ詳細ダイアログと操作画面上にジョブとして表示されません。

〔用紙〕

バッチチケットメディアで使用するジョブプロパティを指定します。

- 〔A4〕または**Letter**：ジョブプロパティのデフォルトメディア設定を使用します。
- 〔カスタム〕：ジョブプロパティのメディア設定を指定できます。



- 〔用紙〕プロパティの最初の値は、インストール設定に基づいて表示されます。〔A4〕がメートル法、〔レター〕がポンド・ヤード法で表示されます。

〔用紙名〕

使用する用紙名を編集できます。256文字まで文字列を入力できます。

〔製品ID〕

製品IDを編集できます。256文字まで文字列を入力できます。

〔用紙種類〕

リストから使用する用紙の種類を編集または選択できます。

- 〔ボンド紙〕
- 〔オフセット用紙〕
- 〔表紙〕
- 〔タグ〕
- 〔インデックス紙〕

[用紙坪量]

用紙坪量は用紙種類と用紙サイズによって異なります。用紙坪量は編集できません。

[用紙カラー]

用紙カラーを入力またはリストから選択できます。

[用紙仕上げ]

用紙の仕上げを入力またはリストから選択できます。

- [コートなし]
- [コート]
- [グロス仕上げ]
- [インクジェット仕上げ]
- [ハイグロス仕上げ]
- [マット仕上げ]
- [ポリマー仕上げ]
- [サテン仕上げ]
- [セミグロス仕上げ]
- [シルバー仕上げ]

[用紙高さ]

用紙の高さを指定できます。

[用紙幅]

用紙の幅を指定できます。

変更したプロパティを保存するには、[OK] をクリックします。[出力:] ウィンドウを閉じて変更を破棄する場合は、[キャンセル] をクリックします。

ホットフォルダーを削除するには、[削除] をクリックします。詳しくは、[P.229 「出力フォルダーを削除」](#)を参照してください。

出力フォルダーを削除する方法

管理者はシステムから出力ホットフォルダーを削除できます。[出力] リストから、削除する出力フォルダーを選択し、右クリックして[削除...]を選択します。また、[出力] をクリックすると、[削除] ウィンドウダイアログから出力フォルダーを削除できます。

RICOH ProcessDirectorのリストファイルを作成する

RICOH ProcessDirectorで使用するバッチのリストファイルを作成できます。リストファイルはバッチと同じ配列でバッチの全てのファイルの名前を含むテキストファイルです。

RPDリストファイルを作成するには、以下の操作を行います。

1. [管理] → [出力] に移動します。

2. [新しい出力] ボタンをクリックします。
3. [新しい出力] ダイアログで [設定] タブに移動します。
4. [出力種類] をクリックし、[PDF/PostScriptおよびRPDリストファイル] を選択します。
5. 有効な [出力先 (ディレクトリーパス)] を指定します。
6. [OK] をクリックします。

出力ホットフォルダーを使用したときは、TotalFlow Optimizerはホットフォルダーの全てのジョブ名を含むリストファイルを生成します。リストファイルはホットフォルダーの下に配置されます。

4. ジョブを管理する

- ジョブのリストを表示する
- ジョブプレビュー
- ファイルビューア
- ジョブ詳細を表示/編集する
- Ultimate Impostrip®®を使用してジョブを面付けする
- 手動でジョブの面付け
- ジョブを注文に追加する
- 保持されたジョブを再印刷する
- 有効なジョブのバッチを解除する
- ジョブファイルをアップロードする
- ジョブを検索する
- ジョブを削除する
- ジョブ列を管理する
- バッチチケットを印刷する
- ジョブをクイック印刷する
- 1つ以上のジョブの試し印刷を作成する
- 印刷ファイルを表示する
- 面付けファイルを表示する
- 面付け済みファイルの保持を設定する
- ジョブを保留またはリリースする

ジョブのリストを表示する

ジョブの異なるリストを表示する方法を説明します。

システム内の全てのジョブのリストを表示するには、以下の操作を行います。

1. メニューバーで [ジョブ] をクリックします。
2. [フィルター] パネルで [ジョブ] タブをクリックします。

↓ 補足

「ジョブ検索」オプションを使用すると、システムでジョブを検索できます。詳しくは、[P.258 「ジョブを検索する」](#)を参照してください。

バッチに含まれている全てのジョブを表示するには、以下の操作を行います。

1. メニューバーで [ジョブ] をクリックします。
2. [バッチ] パネルで、バッチをダブルクリックするか、バッチを右クリックして [プロパティ] を選択します。
3. バッチ詳細ダイアログで、[ジョブ] タブをクリックします。

バッチに含まれているジョブは、[バッチ] セクションからでも表示できます。

1. メニューバーで [バッチ] をクリックします。
2. 注文のリストで、注文をダブルクリックするか、右クリックして [プロパティ] を選択し、バッチ詳細ダイアログを開きます。
3. バッチ詳細ダイアログで、[ジョブ] タブをクリックします。

注文に含まれている全てのジョブを表示するには、以下の操作を行います。

1. メニューバーで [注文] をクリックします。

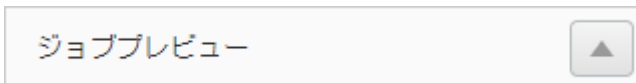
2. 注文のリストで、注文をダブルクリックするか、右クリックして [プロパティ] を選択し、注文詳細ダイアログを開きます。
3. 注文詳細ダイアログで、 [ジョブ] タブをクリックします。

ジョブプレビュー

システム内のジョブのサムネイルをジョブグリッドから表示する方法を説明します。
`conf.properties`の`thumbnail.method`パラメーターがOFFに設定されている場合、ジョブプレビューは利用できません。

ジョブをプレビューするには、以下の操作を行います。

1. ジョブリストから表示するジョブを個別に選択します。
2. [ジョブプレビュー] フレームが折りたたまれている場合、右下にある [ジョブプレビュー] 拡張ボタンを押します。



3. P. 232 「ファイルビューア」でジョブファイルを開くには、 [ジョブプレビュー] フレームに表示されるリンクをクリックします。

↓ 補足

- [ジョブプレビュー] は対応していないファイル種類では使用できません。ジョブを複数選択している場合は、最後に選択したジョブのプレビューが表示されます。
- -ジョブプレビューのサムネイル生成を設定するため、インストールフォルダーにある `conf.properties` ファイルには、以下の値を受け入れる `thumbnail.method` という名のパラメーターがあります。
 1. OFF - 機能をオフにします。
 2. WHEN_RECEIVED - ジョブがシステムに入るときサムネイルを生成します。これはデフォルト値です。
 3. WHEN_SELECTED - 画面でジョブが初めて選択されたときサムネイルを生成します。

↓ 補足

- [ジョブプレビュー] サムネイル設定で変更した設定を適用するには、TotalFlow Optimizerサービスを再起動してください。
- ジョブプレビューサムネイルが生成される際、ジョブファイルによって異なる追加のストレージ容量が必要になる場合があります。追加で使用されたストレージ領域は、ジョブが削除されたとき、またはジョブファイルが変更されたときに解放されます。

ファイルビューア

ファイルビューアツールを使用するには、 [ジョブプレビュー] からジョブを開くか、ジョブを右クリックして [ファイルを表示...] を選択するか、面付け済みファイルの [面付けファイルを表示...] を選択します。

拡大または縮小するには、以下の操作を行います。

1. ツールバーからズームツール () を選択します。
2. 使用可能なズーム率のいずれかを選択します。
3. 特定のエリアを拡大するには、画像でカーソルをクリックしてドラッグします。クリックすると、ビューアが拡大し、クリックした場所の中心にフォーカスします。
ズームを増減するには、拡大ツール () と縮小ツール () を選択します。
4. Ctrlキーを押し続けると、カーソルが拡大します。
5. 画像をウィンドウに合わせるには、展開ボタン () をクリックします。
6. 元のジョブファイルと面付けされたジョブファイルを切り替えるには、ツールバーから面付けツール () を選択します。ジョブが面付けされない場合、面付けツールは無効になります。
7. 画像が拡大されると、ナビゲーターツール () を選択し、画像のズームセクションを表示できます。ナビゲーターダイアログは、ページの任意の場所に移動できます。
パンツール () を選択し、拡大縮小された画像を移動します。

ルーラーを使用するには、以下の操作を行います。

1. ツールバーからルーラーツール () を選択し、水平/垂直ルーラーを表示します。
2. 再度ボタンをクリックすると、ルーラーが非表示になります。
3. ルーラーはインストール中に選択した測定単位で表示されます。
4. ルーラーをリセットするには、画像の0コーナーをクリックします。

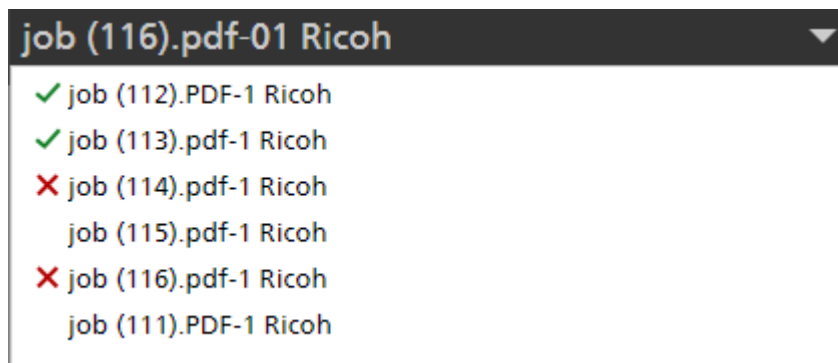
ジョブの距離またはマークを測定するには、以下の操作を行います。

1. ツールバーから距離ツール () を選択します。カーソルが十字線に変更し、距離ツール用作業ウィンドウが表示されます。
2. 2つの点の距離を測定するには、2つの点をクリックしてドラッグするか、1つの点をクリックしてから2番目の点をクリックします。
3. 距離ツールの値はジョブをクリックすると更新されます。最初の点を設定すると、XとYが作業ウィンドウで更新されます。2番目の点を設定すると、幅、高さ、距離、角度が作業ウィンドウで更新されます。
4. 最後の測定を表示するには、距離ツールを再選択します。
5. 異なる画面の部分で距離ツールを移動するには、ツールの上にカーソルを置き、作業ウィンドウをクリックしてドラッグします。
6. 距離ツールを閉じるか非表示にするには、ボタンを再クリックします。
7. 距離ツールをリセットするには、画像の0コーナーをクリックします。

ジョブの情報を表示するには、ツールバーの情報ツール () をクリックします。

job (116).pdf-01 Ricoh (ジョブ情報グリッド) で、バッチ内のジョブリストから、ジョブまたはギャングされた面付けファイルを表示できます。原稿ファイルを開覧している場合、ジョブのリストが表示されます。面付け済みファイルを開覧している場合、表が表示されます。最初の列は面付け承認状態を示し、2番目の列は面付け済みジョ

ブのリストを示します。承認済みジョブには緑のチェックマークアイコンが付き、却下されたジョブには赤いxアイコンが付きますが、[承認待ち] ジョブにはアイコンはありません。



4

↓ 補足

- バッチのギャングが有効の場合は、バッチ内のジョブに手動面付けは行えません。このアクションはバッチ詳細と全てのジョブの表示に適用します。
- ギャング済みバッチの1つまたは複数のジョブがバッチされない場合、面付けは維持されず、表示できません。
- 審査中に編集されたジョブがある場合は、再度面付けすることができます。
- ギャングされた面付けでジョブが承認または却下される場合、すべてのジョブはその状態を継承します。

ファイルをダウンロードするには、ツールバーでダウンロードアイコン (📄) をクリックします。

ジョブ詳細を表示/編集する

[ジョブ] ウィンドウでは特定のジョブの詳細と情報を表示して編集できます。[ジョブ] ウィンドウを開くには、[ジョブ] セクションに表示されるジョブのリストからジョブを選択し、ジョブをダブルクリックするか右クリックして[プロパティ] を選択します。

ジョブ: 08--Calendar2011-NotColor-Letter-Landscape.pdf-01 IBM Romania

バッチ

-|-

シート数: 600 | フィート: 925 | メートル: 282

注文

08--Calendar2011-NotColor-Letter-Landscape.pdf IBM Romania

納期

-

全般

ジョブ

用紙

仕上げ

カスタム

状態

バッチ待ち

ジョブ名

08--Calendar2011-NotColor-Letter-Landscape.pdf

ジョブ受信元

C:\Nin 1

ジョブファイル

参照... 08--Calendar2011-NotColor-Letter-Landscape... (13.1 KB)

概要

Default order description

場所

-

ファイルサイズ

13.1 KB

お客様

IBM Romania

送信日時

2018年3月22日, 11:29

パーツ番号*

01

ISBN

ISBN-12345678-F3

SKU

SKU-000-111-2222

商品種類

✓ ジョブ "08--Calendar2011-NotColor-Letter-Landscape.pdf-01 IBM Romania" はバッチ可...

OK

キャンセル

一般ジョブ情報

[バッチ]

ジョブが属するバッチ名とバッチ番号です。

[注文]

ジョブを含む注文の注文名です。

[納期]

ジョブが処理される日時です。

[シート数:] | [フィート:] [メートル:]

システムで決定されたシート枚数とftとメートル単位のロール紙の長さです。

↓ 補足

1. 変更を保存するには、[OK] ボタンをクリックします。[ジョブ] ウィンドウを閉じて変更を破棄する場合は、[キャンセル] をクリックします。
2. [バッチ解除] アクションを使用すると、バッチからジョブを解除できます。ジョブは一致フィルターリストに表示され、別のバッチに手動で移動できます。[バッチ解除] アクションは [バッチ済み] 状態のジョブで、バッチが [バッチ中] 状態のときにのみ実行できます。[バッチ解除] アクションを実行したときにバッチ状態が変更した場合は、エラーが表示されます。
ジョブをバッチ解除するには、右クリックして [バッチ解除] を選択します。

[全般] タブ

ジョブ: 08--Calendar2011-NotColor-Letter-Landscape.pdf-01 IBM Romania

バッチ -|- シート数: 600 | フィート: 925 | メートル: 282 

注文 08--Calendar2011-NotColor-Letter-Landscape.pdf IBM Romania

納期 -

全般 ジョブ 用紙 仕上げ カスタム

状態 バッチ待ち ジョブ名 08--Calendar2011-NotColor-Letter-Landscape.pdf ジョブ受信元 C:\In 1 ジョブファイル  08--Calendar2011-NotColor-Letter-Landscape... (13.1 KB) 概要 Default order description 場所 - ファイルサイズ 13.1 KB	お客様 IBM Romania 送信日時 2018年3月22日, 11:29 パーツ番号* 01 ISBN ISBN-12345678-F3 SKU SKU-000-111-2222 商品種類
---	---

✓ ジョブ "08--Calendar2011-NotColor-Letter-Landscape.pdf-01 IBM Romania" はバッチ可...

OK キャンセル

[状態] :

ジョブの現在の状態です。システム定義のジョブ状態は、以下のとおりです。

- ・ [バッチ待ち] : ジョブはバッチの構成要素ではありません。
- ・ [バッチ済み] : ジョブはバッチの構成要素です。
- ・ [保留] : ジョブは一時停止され、ユーザーからのアクションを待っています。リリースされるまで、フィルタやバッチは使用できません。
- ・ [面付けが不明] 面付けフィルターが定義され、受信ジョブがどの面付けフィルターにも一致しない場合、ジョブは [面付けが不明] 状態に設定されます。

 補足

ジョブは出力に送られる前に面付けされず、元のジョブファイルは出力場所に生成されたファイルを生成するために使用されます。

- ・ [送信済み] : ジョブは処理するために送信されました。
- ・ [印刷済み] : ジョブがデバイスで印刷されました。
- ・ [面付け中] : ジョブは面付け処理中です。
- ・ [面付け済み] : ジョブの面付けに成功しました。

- ・ [面付けエラー] : ジョブの面付け中にエラーが起こったか、指定した時間内に面付けが完了しなかったため、ジョブはエラーとなりました。
- ・ [ファイル待ち] : ジョブファイルが指定された場所に見つからないか、ジョブファイルが指定されていません。
- ・ [出力エラー] : ジョブが [バッチ済み] 状態でバッチが無効な出力先に送信されたときや出力先に到達できないときは、ジョブ状態が [出力エラー] に変更されます。
- ・ [試し印刷送信済み] : ジョブの試し印刷サンプルが印刷用に送信され、承認または拒否を待っている状態です。
- ・ [試し印刷却下済み] : ジョブの試し印刷が却下されました。
- ・ [プリフライト中] : ジョブがプリフライト処理中で、フィルターまたはバッチができない状態です。
- ・ [プリフライトエラー] : プリフライト中にエラーが発生したか、ジョブがプリフライトフィルターと一致しません。

↓ 補足

この状態は、プリフライト機能が有効になっている場合にのみ有効です。

- ・ [関連ジョブ待ち] : 別のジョブが同じ注文で受信され、かつそのジョブが [ファイル待ち] 状態にある場合、かつそのジョブを含む注文に対して [注文が揃ったら処理] 設定が有効になっている場合、そのジョブは [関連ジョブ待ち] 状態になります。
- ・ [プリンターでの処理] : ジョブは現在印刷準備中です。
- ・ [プリンターで保留済み] : ジョブはプリンターで保持され、手動リリースまたは条件が満たされるのを待っています。
- ・ [プリンターで一時停止] : ジョブがエラーまたは介入により印刷を一時停止し、手動で再開する必要があります。
- ・ [プリンターでキャンセル] : ジョブはプリンターで中断または削除されたため、印刷は続行されません。
- ・ [印刷中] : ジョブがプリンターで印刷されています。

↓ 補足

利用可能な場合、この値には完了率も含まれます。

↓ 補足

[管理] → [カスタム状態] ウィンドウでジョブ状態を作成できます。

[ジョブ名]

ジョブ名は、ジョブを識別するために使用します。デフォルトは入力ファイル名です。ジョブ名を編集できます。256文字まで文字列を入力できます。

[受信済みジョブ発信元]

ジョブ元のファイルパスが表示されます。

[ジョブファイル]

ジョブに関連付けられたファイルのファイル名です。ファイルが見つからない場合は、新しいファイルをアップロードできます。[参照...] をクリックし、システムディレクトリーからアップロードするファイルを選択します。

↓ 補足

ジョブが[ファイル待ち]、[保留]、[バッチ待ち]、[面付けエラー]、[試し印刷却下済み]、[プリフライトエラー]、または[関連ジョブ待ち]状態のときのみ、ジョブファイルをアップロードできます

アップロードされたファイルの文書サイズが異なる場合は、警告メッセージが表示されます。新しいPDFまたはPostScriptファイルが既存のジョブにアップロードされると、ドキュメント幅、ドキュメント高さ、ページ数は元の値に一致しないため、既存の値または新しい値を選択できます。[文書サイズ]と[ページ]には、[前の設定]を使用します。] または [新しい設定を使用します。] アクションから1つ選択します。

ファイル名をクリックし、原稿ジョブファイルをコンピューターにダウンロードします。

[概要]

ジョブの簡単な概要を編集できます。

[場所]

ジョブが印刷用に送信された後に配置される場所を指定します。

↓ 補足

[管理] → [カスタム場所] ウィンドウでカスタム場所を作成できます。

[ファイルサイズ]

GB、MB、またはKBのファイルのサイズです。

[お客様]

お客様名を編集できます。256文字まで文字列を入力できます。

[送信日時]

ジョブの送信日時です。

[パーツ番号]

注文内で固有のジョブID番号を指定してください。

[ISBN]

ISBNコードです。（存在する場合）

[SKU]

製造元、商品、概要、サイズなどの製品属性を含む番号です。

[商品種類]

商品の種類です。

[ジョブ] タブ

4

ジョブ: 123452-01 National Bank

バッチ

-

シート数: 2 | フィート: 0

注文

123452 National Bank

納期

2026年2月02日, 17:00

全般

ジョブ

用紙

仕上げ

試し印刷

☐ 試し印刷が必須

☒ 試し印刷は不要

試し印刷承認

承認待ち

お客様の数量

部数 *

2

ページ *

2

シート数

2

再印刷の数量

0

印刷済みインプレッション

-

印刷済み部数

-

ドキュメントページ幅 (inch)

8.268

ドキュメントページ高さ (inch)

11.693

面当たりのページ数 *

2

面付け

出力デバイス

片面/両面

☒ 片面

☐ 両面

両面印刷モード

左とじ

排紙トレイ

値を入力または選択

排紙方法

デフォルトの使用

OK

キャンセル

[試し印刷]

試し印刷が必要な場合は、[試し印刷が必須] を選択し、不要な場合は [試し印刷は不要] を選択します。

[試し印刷承認] プロセスを通過するジョブは以下の状態になります。

- [承認待ち] : ジョブが試し印刷の承認を待機しています。
- [試し印刷承認済み] : ジョブの試し印刷が承認されました。
- [試し印刷却下済み] : ジョブの試し印刷が却下されました。

↓ 補足

- [試し印刷] が [試し印刷は不要] に設定されている場合は、試し印刷に関する状態は表示されません。
- 表示される情報は読み取り専用です。ジョブの試し印刷に関する状態を手動で変更するには、ジョブのリストからジョブを右クリックして試し印刷の状態を選択します。ジョブを編集し、[試し印刷] 属性を修正できます。

[部数]

印刷する部数を編集できます。

239

↓ 補足

InfoPrint 5000プリンターモデルで印刷するジョブが送信されたときは、印刷部数が最大32767部までに制限されます。

[ページ]

ページ数を編集できます。

[シート数]

シート数は編集できず、システムによって判断されます。

[再印刷の数量]

再印刷の数量は編集できません。試し印刷部数を除く、ジョブに送信された累積印刷部数を示します。

[ドキュメントページ幅]

ページの幅です。

印刷済みインプレッション

印刷部数の合計を指定します。この値は累積されません。

印刷済み部数

印刷ジョブの総部数を指定します。この値は累積されません。

[ドキュメントページ高さ]

ページの高さです。

[カラー]

カラーを入力またはドロップダウンリストから選択できます。

[面当たりのページ数]

用紙の片面のページ数です。片面当たりのページ数を指定してください。このフィールドは必須です。

[面付け]

プリンターの用紙のページ配列の概要です。[面当たりのページ数] フィールドで指定された値の説明を入力できます。値の例は、以下のとおりです。

- 1ページ
- 2ページ
- 3ページ
- 4ページ
- 8ページ
- Z折りで6ページ

[出力デバイス]

ジョブに使用するデジタル印刷機を指定します。

[片面/両面]

次の2つのプロパティから1つ選択できます。

- [片面]
片面印刷では、用紙の片面のみに印刷できます。
- [両面]
両面印刷では、用紙の両面に印刷できます。

[両面印刷モード]

次のオプションから1つ選択できます。

- [左とじ]
- [上とじ]
- [右とじ]
- [下とじ]

[排紙トレイ]

[排紙トレイ] では、JDFオプションを構成できます。リストから対応するJDF値を入力または選択します。デフォルト値を選択する場合は、[排紙トレイ] のJDFファイルのエントリーを作成しないでください。[排紙トレイ] は製本設定と一致します。要求されたデバイスがプリンターで使えることを確認します。

[排紙方法]

おもて面を下またはおもて面を上にして [排紙トレイ] に出力するかを指定します。

[デフォルトの使用]

プリンターのデフォルト設定を使用します。

[おもて面を下]

おもて面が下で先頭ページを一番下にしてシートを排紙します。

[おもて面を上]

おもて面が上で先頭ページを一番下にしてシートを排紙します。

[おもて面を下、逆順]

おもて面が下で先頭ページを一番上にしてシートを排紙します。

[おもて面を上、逆順]

おもて面が上で先頭ページを一番上にしてシートを排紙します。

[用紙] タブ

ジョブ: 08--Calendar2011-NotColor-Letter-Landscape.pdf-01 IBM Romania

バッチ -|- シート数: 600 | フィート: 925 | メートル: 282 

注文 08--Calendar2011-NotColor-Letter-Landscape.pdf IBM Romania

納期 -

全般 ジョブ **用紙** 仕上げ カスタム

用紙名 Utopia	用紙カラー ターコイズ
製品ID	用紙仕上げ コートなし
用紙種類 オフセット用紙	用紙幅 (inch) 20.000
用紙坪量 (lbs) 50	用紙高さ (inch) 18.500

OK キャンセル

[用紙名]

使用する用紙名を編集できます。256文字まで文字列を入力できます。

[製品ID]

製品IDを編集できます。256文字まで文字列を入力できます。

[用紙種類]

リストから使用する用紙の種類を編集または選択できます。

- [ボンド紙]
- [オフセット用紙]
- [表紙]
- [タグ]
- [インデックス紙]

[用紙坪量]

用紙坪量は用紙種類と用紙サイズによって異なります。用紙坪量は編集できます。

[用紙カラー]

用紙カラーを入力またはリストから選択できます。

[用紙仕上げ]

用紙の仕上げを入力またはリストから選択できます。

- [コートなし]
- [コート]
- [グロス仕上げ]
- [インクジェット仕上げ]
- [ハイグロス仕上げ]
- [マット仕上げ]
- [ポリマー仕上げ]
- [サテン仕上げ]
- [セミグロス仕上げ]
- [シルバー仕上げ]

[用紙高さ]

用紙の高さです。

[用紙幅]

用紙の幅です。

[プリフライト] タブ

このタブにはジョブプリフライト結果が表示されます。手動でジョブプリフライトを適用できます。

ジョブ: BaseRun-v4_MOD-01pgs.pdf-01

バッチ B-1003 | All Jobs Sample Filter シート数: 1 | フィート: 0 | メートル: 0

注文 BaseRun-v4_MOD-01pgs.pdf

納期 -

全般 ジョブ 用紙 プリフライト 面付け 仕上げ

状態 送信済み

ジョブ名 BaseRun-v4_MOD-01pgs.pdf

ジョブ受信元 C:\BbTest\inputs\in pdf 01

ジョブファイル 参照... BaseRun-v4_MOD-01pgs.pdf (19.7 KB)

概要

場所 - なし -

ファイルサイズ 19.7 KB

お客様 -

送信日時 2023年10月24日, 17:16

パーツ番号* 01

ISBN

SKU

商品種類

OK キャンセル

[結果]

プリフライト処理後の [エラー]、[警告]、[修正] の数が表示されます。

↓ 補足

エラーが表示される場合は、[プリフライトエラーを無視] をクリックしてプリフライトエラーをキャンセルし、[手動プリフライト] を有効にできます。[プリフライトエラー] ジョブ状態が削除されます。[プリフライトエラー] 状態のジョブをアップロードできます。

[入力ソース]

入力ソースの種類が表示されます。

[適用済みプリフライトプロファイル]

ジョブに適用されたプリフライトプロファイル名が表示されます。

[適用済みアクションリスト]

適用されたアクションの数とリストを示します。

[プリフライトレポート]

適用されたプリフライトのレポートを含むPDFファイルをダウンロードするには、表示されたリンクをクリックします。

[手動プリフライトを実行] をクリックし、ジョブのプリフライトを手動で適用します。

[プロファイルを適用]

[参照...] をクリックし、[プロファイルを選択] ダイアログを開きます。[プロファイルを選択] ダイアログでは、使用可能なプロファイルのリストからプリフライト

トプロファイルを選択できます。[更新] ボタン () をクリックし、プリフライトデータベースから使用可能なプリフライトプロファイルのリストを更新します。

[OK] をクリックして変更を保存し、プロファイルの選択ダイアログを閉じます。

選択したプロファイルを削除するには、[消去] ボタン () をクリックします。

[アクションリスト]

メニューから、受信ジョブに適用するアクションリストを選択します。、[アクションリストを選択] ウィンドウを開くには、 をクリックします。

[アクションリストを選択] ウィンドウでは、アクションリストを編集または作成できます。[更新] ボタン () をクリックし、プリフライトデータベースから使用可能なアクションリストのリストを更新します。

アクションリストの新しいセットの固有の[名前]を指定できます。アクションリストに指定されていない場合は、[未選択]を選択します。

[OK] をクリックし、変更を保存して [アクションリストを選択] ダイアログを閉じます。

現在の選択をクリアするには、[消去] ボタン () をクリックします。

↓ 補足

プリフライト処理を実行するには、プリフライトプロファイルまたはプリフライトアクションリストを指定してください。

[PitStopサーバー]

内部プリフライトから外部プリフライトに切り替えると、ジョブプリフライト設定を再構成できます。

TotalFlow Optimizerがプリフライト用にジョブを送信するリストから、プリフライトホットフォルダーを選択します。

[OK] をクリックして変更を保存し、[手動プリフライトを実行] ダイアログを閉じます。

[面付け] タブ

ジョブ: 62pages-6.1Mb.pdf-01 IBM Romania

バッチ - シート数 3,100 | フィート 4,780 | メートル 1,457

注文 62pages-6.1Mb.pdf IBM Romania

納期 -

全般 ジョブ 用紙 **面付け** 仕上げ カスタム

Ultimate Impostrip®フォルダー

- 選択 -

面付け

OK キャンセル

[Ultimate Impostrip®フォルダー]

TotalFlow Optimizerが面付けするジョブを送信するUltimate Impostrip®ホットフォルダー名を指定できます。リストからホットフォルダーを選択するか、ホットフォルダー名を入力します。ホットフォルダーのリストはUltimate Impostrip®アプリケーションだけで編集できます。Ultimate Impostrip®を使用してホットフォルダーを追加または削除できます。

[更新] ボタン () をクリックし、ホットフォルダーのリストを更新します。

[仕上げ] タブ

ジョブ: 08--Calendar2011-NotColor-Letter-Landscape.pdf-01 IBM Romania

バッチ

-|-

シート数: 600 | フィート: 925 | メートル: 282

🔄

注文

08--Calendar2011-NotColor-Letter-Landscape.pdf IBM Romania

納期

-

全般

ジョブ

用紙

仕上げ

カスタム

製本

スパイラル

▼

背表紙サイズ (inch)

.148

コーティング

C_NO_COATING

▼

コーティング種類

グロス

▼

コーティング面

両面

▼

ミシン目

☐ ミシン目あり
 ☒ ミシン目なし

穿孔

☐ 穿孔あり
 ☒ 穿孔なし

丁合い

☐ 丁合する
 ☒ 丁合しない

フィニッシャー

?

OK

キャンセル

4

[製本]

製本スタイルを入力またはリストから選択できます。

- [製本なし]
- [断裁のみ]
- [断裁/折り]
- [無線とじ/くるみ製本]
- [上製本]
- [コイル]
- [スパイラル]
- [3穴]
- [中とじ]

[背表紙サイズ]

inchまたはmmで指定した背表紙サイズの値です。背表紙サイズの値は編集できます。

[コーティング]

247

メニューから [ラミネート]、[UV]（紫外線）、[コーティングなし] を入力または選択できます。[コーティングなし] が選択された場合は、[コーティング種類] と [コーティング面] メニューが無効になります。

[コーティング種類]

メニューからコーティング種類を入力または選択できます。

[コーティング面]

メニューからジョブで使用するコーティング面を入力または選択できます。

[ミシン目]

ミシン目が必要な場合は、[ミシン目あり] を選択し、不要な場合は [ミシン目なし] を選択します。

[穿孔]

穿孔が必要な場合は、[穿孔あり] を選択し、不要な場合は [穿孔なし] を選択します。

[丁合い]

ミシン目が必要な場合は、[丁合する] を選択し、不要な場合は [丁合しない] を選択します。

[フィニッシャー]

ジョブのフィニッシャー名です。

[カスタム] タブ

全てのカスタム属性のリストが表示されます。

ジョブ: 08--Calendar2011-NotColor-Letter-Landscape.pdf-01 IBM Romania

バッチ: -|- シート数: 600 | フィート: 925 | メートル: 282 

注文: 08--Calendar2011-NotColor-Letter-Landscape.pdf IBM Romania

納期: -

全般 ジョブ 用紙 仕上げ カスタム

custom 1
custom 1 def

custom 2
custom 2 def

custom 3
custom 3 def

OK キャンセル

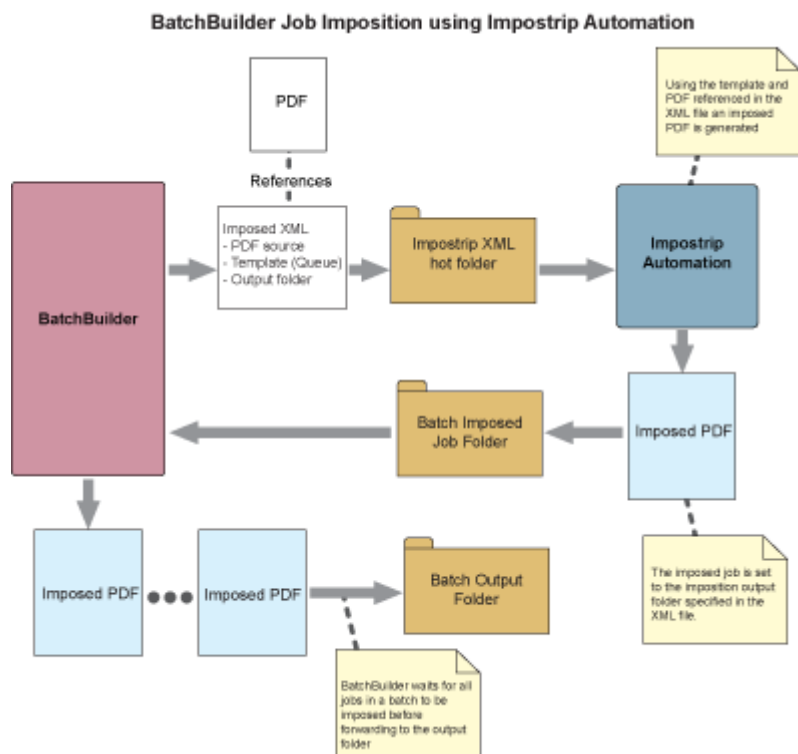
Ultimate Impostrip®を使用してジョブを面付けする

TotalFlow Optimizerでは、Ultimate Impostrip®を使用してジョブに面付けを適用できます。ジョブに面付けすると、プリンターのシートにページ配列を指定できます。

面付け値の例は、以下のとおりです。

- 1ページ
- 2ページ
- 3ページ
- 4ページ
- 8ページ
- Z折りで6ページ

Ultimate Impostrip®をTotalFlow Optimizerジョブで使用するには、Impostrip®をTotalFlow Optimizerシステムと同じマシンまたはリモートサーバーにインストールする必要があります。



TotalFlow Optimizerで面付けが有効な場合は、面付けするジョブを指定できます。特定のバッチからも、全てのジョブに面付けを適用できます。処理するバッチを送信し、面付けが有効なときは、TotalFlow OptimizerはImposrip XMLホットフォルダーにジョブを送信して面付けを適用します。Ultimate ImposripアプリケーションはTotalFlow Optimizerホットフォルダーに面付け済みジョブを返します。

★重要

管理者ユーザーのみがTotalFlow Optimizerジョブの面付けを有効または無効にできます。

ジョブの面付けを使用するには、以下の操作を行います。

1. [管理] → [機能] → [面付け] に移動します。
2. [Ultimate Imposrip®] が無効の場合、[有効にする] ボタンをクリックします。
3. 使用するUltimate Imposrip®のバージョンを選択してください：
 - 2019 1.0以降（新世代）
 - 10以前（レガシーバージョン）
4.
 1. 2019 1.0以降（新世代）を選択した場合は、[サーバーアドレス] と [ポート] に、Ultimate Imposrip®がインストールされているサーバーのホスト名またはIPアドレスと、Ultimate Imposrip®サーバーのポートを入力してください。
 2. 10以前（レガシーバージョン）を選択した場合は、[Ultimate Imposrip®フォルダー] を選択してください。

↓ 補足

- コロケーションチェックボックスを有効にすると、TotalFlow OptimizerとUltimate Impostrip®は同じファイルの場所を共有します。
 - コロケーションが有効になっていない場合は、Ultimate Impostrip®とTotalFlow Optimizerの間のマッピングを設定する必要があります。
5. 面付けタイマーを指定します。[タイマー] タブで、時間と分の数字を指定することで面付けに送信されたバッチのタイマーを設定できます。面付けが完了する前にタイマーが切れた場合は、バッチは[面付けエラー] 状態になります。面付け処理は続行されます。

TotalFlow Optimizerではジョブが面付けに送信される場所のフォルダー名を指定できます。個々のジョブまたはフィルター、バッチ、注文に含まれている全てのジョブにホットフォルダーの既存リストからロケーションを選択できます。

↓ 補足

4

- 面付けするためにジョブが送信された場合は、ジョブ状態とバッチ状態が[面付け中] に変更されます。ジョブの面付けが正常に完了したときは、ジョブ状態は[面付け済み] に設定されます。
- バッチが印刷用に送信され、面付けが必要なジョブがある場合は、全てのジョブで正常に面付けされるまでバッチは処理されません。

ジョブの面付け中にエラーが発生した場合、指定した面付けタイマーが切れた場合、または面付けXMLファイルがUltimate Impostrip®ホットフォルダーに送信されなかった場合は、ジョブとバッチ状態が[面付けエラー] に変更されます。

ジョブが[面付けエラー] 状態の場合は、バッチは送信されません。面付けが必要なジョブが正常に面付けされるまでジョブは保留になります。

★ 重要

- Ultimate Impostrip®で面付け済みジョブファイルを複数のパートに分割するように設定している場合、TotalFlow Optimizerは単一のジョブに対し、1つのジョブファイルのみ対応しているため、TotalFlow Optimizerは分割パートを単一の面付け済みジョブファイルにします。
- ジョブが[面付け済み] または[面付けエラー] 状態の場合は、TotalFlow Optimizerでは面付けのジョブを再送信できます。リストからジョブを選択し、右クリックして[面付け] → [ジョブを再面付け] を選択します。
- バッチが[面付け中]、[面付けエラー]、[送信中]、または[出力待ち] 状態の場合は、バッチ送信を停止できます。指定した状態のバッチを選択し、右クリックして[送信をキャンセル] を選択します。

手動でジョブの面付け

ジョブに手動で面付けを適用できます。ジョブに面付けすると、プリンターのシートにページ配列を指定できます。

ジョブ詳細から手動でジョブの面付けを実行

ジョブビューのいずれかから手動で面付けをトリガーするには、ジョブリストからジョブを右クリックします。面付けが実行されていない場合は、[面付け] → [面付け] または

「面付け」→「再面付け」を選択します。面付けが完了すると、ジョブは面付け状態から元の状態に戻ります。

↓ 補足

エラーが発生する場合は、ジョブが「面付けエラー」状態になります。バッチに含まれているジョブの場合は、ジョブのエラーがバッチに反映されます。全ての注文がジョブのエラーを受信します。

バッチから手動でジョブの面付けを実行

「承認待ち」の状態のときに、バッチを右クリックし、全てのジョブで再面付けします。バッチ詳細を開くには、ジョブを選択し、「面付け」→「再面付け」を右クリックします。ジョブまたはバッチを再面付けするときは、初回に「面付け中」→「面付け済み」→「承認待ち」で面付けしたときと同じ状態になります。

↓ 補足

面付けまたは再面付けするジョブまたはバッチを右クリックすると、ダイアログが開き、面付けホットフォルダーを変更できます。選択項目またはテキストフィールドを変更しない場合は、ジョブごとに既存の面付けホットフォルダー保持されます。再面付けが完了すると、バッチは「面付け中」状態に戻ります。すべてのジョブの面付けが完了すると、バッチは「承認待ち」状態に戻ります。

ジョブに面付けする

面付け中は、全てのジョブに次の要件があります。

1. ジョブ属性とジョブファイルは修正できません。
2. ジョブのプリフライト中と同様に、ジョブは面付け中にフィルターから削除されません。
3. バッチされていないジョブは、バッチできません。
4. 面付けはキャンセルでき、該当ジョブは初期状態に戻ります。
5. バッチに含まれているジョブを手動で面付けする場合は、バッチを送信する前に、バッチに含まれているすべてのジョブに面付けしてください。

面付けする

右クリックメニューの「面付け」とオプションの「面付け」は、次の場合に使用できません。

1. 面付けが単一ジョブで使用できないとき
2. 面付けが選択したジョブのグループで使用できないとき
3. 使用可能な面付けがある/ないグループ内のジョブ
4. 面付けに送信されていないバッチ全体を面付けするとき

再面付けする

右クリックメニューの「再面付け」とオプションの「再面付け」は次の場合に使用できません。

1. 面付けが単一ジョブで使用できるとき

2. 面付けが選択したジョブのグループで使用できるとき
3. 面付けされたバッチ全体を面付けするとき

ジョブを注文に追加する

1. メニューバーから [注文] セクションをクリックします。
2. 注文をダブルクリックして [注文詳細] ダイアログを開き、[ジョブをこの注文に追加] をクリックし、新しいジョブを選択した注文に追加します。
また、リストからジョブを選択して、ジョブを右クリックして [ジョブを追加] を選択することもできます。
[ジョブをこの注文に追加] ダイアログが開きます。
3. [ジョブをこの注文に追加] ダイアログで、以下の操作を行います。
[ジョブファイル]
[参照...] をクリックし、システムディレクトリーからアップロードするファイルを選択します。
[名前]
ジョブ名を指定します。
[パーツ番号]
ジョブの固有のパーツ番号を指定します。
[全般] タブ、[ジョブ] タブ、[用紙] タブ、[仕上げ] タブ、[カスタム] タブで、必須または任意のジョブプロパティを指定します。ジョブプロパティについては、[P.234 「ジョブ詳細を表示/編集する」](#) を参照してください。
4. 指定した情報を保存するには、[OK] をクリックします。[ジョブをこの注文に追加] ダイアログを閉じて情報を破棄する場合は、[キャンセル] をクリックします。

確認メッセージが表示され、システムで選択した注文にジョブが追加されます。

保持されたジョブを再印刷する

別のエラーが発生し、一部のジョブ部数が印刷されない場合は、[再印刷...] アクションを使用し、保持されたジョブを再印刷できます。

再印刷できるのは、[送信済み]、[プリンターでの処理]、[プリンターで保留済み]、[プリンターで一時停止]、[プリンターでキャンセル]、[印刷中]、[印刷済み]、[カスタム] の状態にあるジョブのみです。

ジョブを再印刷するには、以下の操作を行います。

1. 以下のダイアログから1つ開き、使用可能なジョブのリストを表示します。
 - [ジョブ] セクションで、[フィルター] パネルを開き、[ジョブ] タブをクリックし、システム内の全てのジョブを表示します。
 - [ジョブ] セクションで、[バッチ] パネルを開きます。編集するバッチをダブルクリックするか、バッチを右クリックして [プロパティ] を選択します。

「ジョブ」タブをクリックし、バッチに含まれている全てのジョブのリストを表示します。

- 「注文」セクションで、注文行を右クリックして「プロパティ」を選択します。注文詳細ダイアログで、「ジョブ」タブをクリックし、注文に含まれている全てのジョブのリストを表示します。
 - 「バッチ」セクションで、バッチ行を右クリックして「プロパティ」を選択します。バッチ詳細ダイアログで、「ジョブ」タブをクリックし、バッチに含まれている全てのジョブのリストを表示します。
2. ジョブのリストから再印刷するジョブを選択します。
 3. ジョブを右クリックして「再印刷...」を選択します。
「再印刷」ダイアログが表示されます。

再印刷
選択済みジョブのオプションを選択してください:
ジョブを"バッチ可能"に移動 ジョブは分離し、フィルターで識別できます。
ジョブをバッチ 選択済みジョブをバッチしますが、出力先に送信しません。
直接出力先にジョブを送信 出力先と部数を設定してから、すぐにバッチとしてジョブを出力に送信します。
再印刷をキャンセル

4. 「再印刷」ダイアログで、使用可能なアクションのいずれかを選択します。

「ジョブを"バッチ可能"に移動」

各ジョブの状態は、「送信済み」、「プリンターでの処理」、「プリンターで保留済み」、「プリンターで一時停止」、「プリンターでキャンセル」、「印刷中」、「印刷済み」、またはカスタム状態から「バッチ待ち」変更され、ジョブはフィルターによってピックアップされます。

「ジョブをバッチ」

選択したジョブはバッチされますが、出力先に送信されません。

「新しいバッチ」パネルが表示されます。

新しいバッチ

ジョブ

シート数

実行(時間:分)

バッチ名 *

出力先 *

推定出力速度

集約 ☐ ジョブ集約を有効にする

ジョブ

ボリューム見積もり

面付け

バナーシート

バッチチケット

シーケンスを更新

シーケンス ▲	注文番号	パーツ番号	お客様	ジョブ名	状態	状況更新日時
---------	------	-------	-----	------	----	--------

バッチを削除

バッチを送信

OK

キャンセル

[バッチ名] を修正し、メニューから [出力先] を選択できます。

[OK] をクリックし、新しいバッチを作成します。

[直接出力先にジョブを送信]

出力先を設定して部数を入力し、バッチとしてジョブを直接出力先に送信します。

[再印刷] パネルが表示されます。

「バッチ名」を入力し、メニューから「出力先」を選択してから、各ジョブの部数を入力します。

↓ 補足

InfoPrint 5000プリンターモデルで印刷するジョブが送信されたときは、印刷部数が最大32767部までに制限されます。

「ギャングアップ」

面付けする全てのジョブをまとめて送信するには、「ジョブをまとめてギャング」をクリックします。このオプションを有効にすると、「部数を含める」オプションが自動的に有効になります。その結果、バッチ全体に対して1つの面付けファイルが作成されます。面付けファイルには各ジョブの指定された部数が含まれ、「部数」属性値「1」で出力に送信されます。

「部数を含める」

すべてのコピーに面付けを適用するには、「出力に部数を含める」を選択します。

このオプションが有効な場合、各ジョブに作成された面付けファイルには各ジョブの指定された部数が含まれ、「部数」属性値「1」で出力に送信されます。

「出力に部数を含める」オプションが無効のときは、面付けファイルには各ジョブの1部が含まれ、「部数」属性の実際の値が出力に送信されます。

↓ 補足

「出力に部数を含める」オプションを有効にする場合は、Ultimate Impostrip®のホットホルダーで「出力設定」の「繰り返しを考慮」オプションがオンになっていることも確認してください。

「Ultimate Impostrip®フォルダー」

【Ultimate Impostrip®フォルダー】メニューから、TotalFlow Optimizerで面付けされるジョブを送信するフォルダー名を指定します。再印刷するジョブにのみ面付けが適用され、それぞれのジョブに事前定義された面付けが上書きされます。

【Ultimate Impostrip®フォルダー】リストからホットフォルダーを選択しない場合は、各ジョブの既存の面付け設定が適用されます。

ホットフォルダーのリストはUltimate Impostrip®アプリケーションだけで編集できます。Ultimate Impostrip®を使用してホットフォルダーを追加または削除できます。

【更新】ボタン () をクリックし、ホットフォルダーのリストを更新します。

↓ 補足

【ギャングアップ】、【部数を含める】、【Ultimate Impostrip®フォルダー】の各オプションは、【Ultimate Impostrip®】オプションが【管理】→【機能】→【面付け】で有効な場合にのみ使用できます。

このバッチに含まれているジョブのバナーシートを印刷しない場合は、【バナーシート】の【バナーシートを印刷しない】にチェックを付けます。選択した出力先からのバナーシート有効設定に上書きします。このバッチに含まれている全てのジョブのバナーシートの印刷は無効になります。

【集約】で、このバッチに含まれているジョブ集約を有効にする場合は、チェックを付けます。【管理】→【プロダクション設定】→【集約】からジョブ集約を有効または無効にします。

【ジョブ】名の後ろに【部数】を入力します。各ジョブには【ページ範囲】も入力できます。

↓ 補足

【PDF/Postscript】出力のページ範囲値を入力した場合、指定されたページまたは範囲が抽出され、新しいPDFジョブとなります。

【OK】をクリックします。

確認メッセージが表示されます。

有効なジョブのバッチを解除する

【バッチ解除】アクションを使用すると、バッチからジョブを解除できます。ジョブは一致フィルターリストに表示され、別のバッチに手動で移動できます。

【バッチ解除】アクションは、ジョブが【バッチ済み】状態かつバッチが【バッチ中】状態のときにのみ実行できます。【バッチ解除】アクションを実行したときにバッチ状態が変更された場合は、エラーが表示されます。

ジョブをバッチ解除するには、以下の操作を行います。

1. 以下のダイアログから1つ開き、使用可能なジョブのリストを表示します。
 - 【ジョブ】セクションで、【フィルター】パネルを開き、【ジョブ】タブをクリックし、システム内の全てのジョブを表示します。
 - 【ジョブ】セクションで、【バッチ】パネルを開きます。編集するバッチをダブルクリックするか、バッチを右クリックして【プロパティ】を選択します。

[ジョブ] タブをクリックし、バッチに含まれている全てのジョブのリストを表示します。

- [注文] セクションで、注文行を右クリックして [プロパティ] を選択し、[注文詳細] ダイアログを開きます。[注文詳細] ダイアログで、[ジョブ] タブをクリックし、注文に含まれている全てのジョブのリストを表示します。

2. ジョブのリストからバッチ解除するジョブを選択します。

3. ジョブを右クリックして [バッチ解除] を選択します。

確認メッセージが表示されます。

ジョブファイルをアップロードする

ジョブファイルをアップロードする方法を説明します。

4

ジョブが [ファイル待ち]、[保留]、[バッチ待ち]、[面付けエラー]、[試し印刷却下済み]、[プリフライトエラー]、または [関連ジョブ待ち] 状態のときにのみ、ジョブファイルをアップロードできます

ジョブファイルをアップロードするには、以下の操作を行います。

1. [ジョブ] セクションで、使用可能なジョブのリストからジョブを選択し、ダブルクリックし、[ジョブ] ウィンドウを開きます。
ジョブを右クリックしても、[プロパティ] を選択できます。
2. [ジョブ] ウィンドウの [全般] タブで、[ジョブファイル] フィールドに移動し、[参照...] をクリックします。
3. システムディレクトリーからアップロードするファイルを選択します。
4. アップロードが完了したときは、[OK] をクリックして変更を保存するか、[キャンセル] をクリックして変更を無視します。

ジョブに関連付けられたファイルが更新されます。

↓ 補足

- ジョブファイルが置換された場合は、ジョブは前の状態に戻ります。
- 新しいPDFまたはPostScriptファイルが既存のジョブにアップロードされると、ドキュメント幅、ドキュメント高さ、ページ数は元の値に一致しないため、既存の値または新しい値を使用するかを選択できます。

ジョブを検索する

システムの特定のジョブを検索する方法を説明します。

ジョブを検索するには、以下の操作を行います。

1. メニューバーで「ジョブ検索」テキストフィールドをクリックします。
2. テキストフィールドに値を入力します。
指定した値と一致する属性のジョブのドロップダウンリストが表示されます。ジョブ検索で使用するジョブ属性は、**ジョブ**、**状態**、**SKU**、**ISBN**です。これらの属性は、**期限**とともに検索結果リストの列として表示されます。

RICOH TotalFlow Optimizer Administrator ?

ジョブ 注文 バッチ フィルター アラート 3 ログ 管理 test × アクション

ジョブ検索

ジョブ	状態	SKU	ISBN	納期日
testdoc.pdf-1	バッチ待ち			-
testdoc10.pdf-1	バッチ待ち			-
testdoc11.pdf-1	バッチ待ち			-
testdoc2.pdf-1	バッチ待ち			-
testdoc3.pdf-1	バッチ待ち			-
testdoc4.pdf-1	バッチ待ち			-
testdoc5.pdf-01	バッチ待ち			-
testdoc6.pdf-1	バッチ待ち			-
testdoc7.pdf-1	バッチ待ち			-
testdoc8.pdf-1	バッチ待ち			-
testdoc9.pdf-1	バッチ待ち			-

印刷済み 0

ジョブ	状態	SKU	ISBN	納期日
testdoc11.pdf	01	testdoc11.pdf	バッチ待ち	-
testdoc2.pdf	01	testdoc2.pdf	バッチ待ち	-
testdoc3.pdf	01	testdoc3.pdf	バッチ待ち	-
testdoc4.pdf	01	testdoc4.pdf	バッチ待ち	-
testdoc5.pdf	01	testdoc5.pdf	バッチ待ち	-
testdoc6.pdf	01	testdoc6.pdf	バッチ待ち	-
testdoc7.pdf	01	testdoc7.pdf	バッチ待ち	-
testdoc8.pdf	01	testdoc8.pdf	バッチ待ち	-
testdoc9.pdf	01	testdoc9.pdf	バッチ待ち	-

1 シート数: 1 | フィート: - | 総ページ数: 1

ジョブプレビュー

ジョブ 合計 18 本日納期 0 明日納期 1 納期経過 1

↓ 補足

検索結果リストから、ジョブを右クリックしてオプションを選択できます。選択したジョブの状態によって、以下を実行できます。

- [ファイルを表示...]
- [面付けファイルを表示...]
- [プロパティ]
- [注文を開く]
- [バッチ]
- [新しいバッチ]
- [バッチ解除]
- [クイック印刷]
- [再印刷]
- [試し印刷]
- [試し印刷...]
- [試し印刷を承認]
- [試し印刷を承認して送信...]
- [試し印刷を却下]
- [面付け]
- [面付けを承認]
- [面付けを拒否]
- [面付けエラーを無視]
- [ジョブを保留]
- [状態を設定]
- [場所を設定]
- [ジョブを削除...]

3. 表示するジョブをクリックします。

[ジョブ] ウィンドウが表示されます。ジョブプロパティを表示または編集できます。

ジョブを削除する

[ジョブを削除...] アクションを使用すると、システムからジョブを削除できます。

[送信中] 状態のジョブは削除できません。出力デバイスに送信中でジョブを削除できないという警告が表示されます。

ジョブを削除するには、以下の操作を行います。

1. 以下のダイアログから1つ開き、使用可能なジョブのリストを表示します。

- [ジョブ] セクションで、[フィルター] パネルを開き、[ジョブ] タブをクリックし、システム内の全てのジョブを表示します。

- [ジョブ] セクションで、[バッチ] パネルを開きます。編集するバッチをダブルクリックするか、バッチを右クリックして [プロパティ] を選択します。[ジョブ] タブをクリックし、バッチに含まれている全てのジョブのリストを表示します。
 - [注文] セクションで、注文行を右クリックして [プロパティ] をクリックし、[注文詳細] ダイアログを開きます。[注文詳細] ダイアログで、[ジョブ] タブをクリックし、注文に含まれている全てのジョブのリストを表示します。
2. ジョブのリストから削除するジョブを選択します。
 3. ジョブを右クリックして [ジョブを削除...] を選択します。確認ウィンドウが表示されます。
 4. [はい] をクリックし、ジョブを削除するか、[いいえ] をクリックし、アクションをキャンセルします。

システムからジョブが削除され、バッチと注文から参照は削除されます。

↓ 補足

[ファイル待ち] 状態の全てのジョブが注文から削除される場合は、注文状態が [ファイル待ち] から [バッチ中] に変更されます。

ジョブ列を管理する

順番に表示されるジョブ列を選択する方法を説明します。

ジョブリスト列を管理するには、以下の操作を行います。

1. ユーザーのドロップダウンメニューボタン () をクリックします。
2. メニューから [ジョブ列を管理...] を選択します。
[ジョブリスト列] ウィンドウが表示されます。

ジョブリスト列

ジョブリストの左から右に表示する列を選択してください。

先頭/最終に移動

☐ 列を表示/非表示

1			☒ 注文番号
2			☒ パーツ番号
3			☒ お客様
4			☒ シート数
5			☒ ジョブ名
6			☒ 状態
7			☒ 状況タイムスタンプ
8			☒ バッチ番号
9			☒ ジョブファイル
10			☒ ファイルサイズ
11			☒ 納期日
12			☒ 概要
13			☒ ページ
14			☒ 面当たりのページ数
15			☒ 作成日時

OK

キャンセル

3. [ジョブリスト列] ウィンドウで、以下の操作を行います。

- ジョブのリストの列の順序を変更するには、列名のシーケンスを再配置します。行の位置を変更するには、**移動ボタン** () をクリックし、選択項目をドラッグします。行を再配置したときは、順番が更新されます。
- 「先頭に移動」ボタン () をクリックし、リストの上に選択した列名を移動します。
- 「最終に移動」ボタン () をクリックし、リストの下に選択した列名を移動します。
- [列を表示/非表示] にチェックを付け、全ての列を表示または非表示にします。各列名にチェックを付けると、個別に列を表示または非表示にできます。

4. [OK] をクリックし、変更を保存します。

バッチチケットを印刷する

バッチの詳細（バッチチケット）を印刷する方法を説明します。

バッチチケットを印刷するには、以下の操作を行います。

1. [ジョブ] セクションで、[バッチ] パネルを開き、リストからバッチを選択します。
2. 右クリックして [バッチチケットを印刷...] を選択します。
使用するブラウザの種類によって、バッチチケットが新しい印刷ダイアログに表示されます。
3. 印刷ボタンをクリックします。

★重要

システムで生成されたPDFバッチチケットファイルの優先言語を設定するには、以下の操作を行います。

1. [管理] → [その他] セクションに移動します。
2. [ファイルネーミング] ウィンドウの [言語] のリストから言語を選択します。

選択した言語がシステムで使用され、ローカライゼーションを適用し、PDFバッチチケットファイルを生成します。

印刷ファイルがあるバッチチケットを送信する

バッチまたはフィルターのオプションを設定すると、印刷ファイルとバッチ詳細を送信できます。

- 新しいバッチまたは既存のバッチで [印刷ファイルとバッチチケットを送信] オプションを設定するには、以下の操作を行います。
 1. [新しいバッチ] ダイアログボックスまたは既存のバッチのバッチ詳細ダイアログボックスを開きます。
 2. [印刷ファイルとバッチチケットを送信] チェックボックスを選択する。
バッチ詳細を含むバッチチケットファイルがシステムで生成されます。バッチチケットファイルは印刷ファイルとともに出力フォルダーに配置されます。バッチチケットファイル名には [バッチ] とバッチのシーケンスの後に [出力ファイルネーミング] パネルの [管理] セクションで設定された属性が続いて含まれます。バッチチケットファイルは、バッチ詳細ダイアログと操作画面上にジョブとして表示されません。
- 新しいフィルターまたは既存のフィルターで [印刷ファイルとバッチチケットを送信] オプションを設定するには、以下の操作を行います。
 1. [新しいフィルター] ダイアログボックスまたは既存のフィルターの編集ダイアログボックスを開きます。
 2. [印刷ファイルとバッチチケットを送信] チェックボックスを選択する。

バッチが作成され、出力デバイスに送信されたときは、バッチ詳細を含むバッチチケットファイルが生成されます。バッチチケットファイルは印刷ファイルとともに出力フォルダーに配置されます。バッチチケットファイル名には「バッチ」とバッチのシーケンスの後に「出力ファイルネーミング」パネルの「管理」セクションで設定された属性が続いて含まれます。バッチチケットファイルは、バッチ詳細ダイアログと操作画面上にジョブとして表示されません。

ジョブをクイック印刷する

ジョブの印刷がすぐに必要な場合は、「クイック印刷...」アクションを使用できます。

「バッチ待ち」状態のバッチに含まれている「バッチ済み」ジョブまたは「バッチ中」ジョブにのみクイック印刷を使用できます。

ジョブをクイック印刷するには、以下の操作を行います。

4

- 以下のダイアログから1つ開き、使用可能なジョブのリストを表示します。
 - 「ジョブ」セクションで、「フィルター」パネルを開き、「ジョブ」タブをクリックし、システム内の全てのジョブを表示します。
 - 「ジョブ」セクションで、「バッチ」パネルを開きます。編集するバッチをダブルクリックするか、バッチを右クリックして「プロパティ」を選択します。「ジョブ」タブをクリックし、バッチに含まれている全てのジョブのリストを表示します。
 - 「注文」セクションで、注文行を右クリックして「プロパティ」を選択します。注文詳細ダイアログで、「ジョブ」タブをクリックし、注文に含まれている全てのジョブのリストを表示します。
 - 「バッチ」セクションで、バッチ行を右クリックして「プロパティ」を選択します。バッチ詳細ダイアログで、「ジョブ」タブをクリックし、バッチに含まれている全てのジョブのリストを表示します。
- ジョブのリストからクイック印刷するジョブを選択します。
- ジョブを右クリックして「クイック印刷...」を選択します。
「クイック印刷」パネルが表示されます。

4. [バッチ名] を入力し、メニューから [出力先] を選択し、各ジョブの部数を入力します。

↓ 補足

InfoPrint 5000プリンターモデルで印刷するジョブが送信されたときは、印刷部数が最大32767部までに制限されます。

[ギャングアップ]

面付けする全てのジョブをまとめて送信するには、[ジョブをまとめてギャング] をクリックします。このオプションを有効にすると、[部数を含める] オプションが自動的に有効になります。その結果、バッチ全体に対して1つの面付けファイルが作成されます。面付けファイルには各ジョブの指定された部数が含まれ、[部数] 属性値 [1] で出力に送信されます。

[部数を含める]

すべてのコピーに面付けを適用するには、[出力に部数を含める] を選択します。

このオプションが有効な場合、各ジョブに作成された面付けファイルには各ジョブの指定された部数が含まれ、[部数] 属性値 [1] で出力に送信されます。

[出力に部数を含める] オプションが無効のときは、面付けファイルには各ジョブの1部が含まれ、[部数] 属性の実際の値が出力に送信されます。

↓ 補足

[出力に部数を含める] オプションを有効にする場合は、Ultimate Impostrip®のホットホルダーで[出力設定] の[繰り返しを考慮] オプションがオンになっていることも確認してください。

[Ultimate Impostrip®フォルダー]

【Ultimate Impostrip®フォルダー】メニューから、TotalFlow Optimizerで面付けされるジョブを送信するフォルダー名を指定します。クイック印刷するジョブにのみ面付けが適用され、それぞれのジョブに事前定義された面付けは上書きされます。

【Ultimate Impostrip®フォルダー】リストからホットフォルダーを選択しない場合は、各ジョブの既存の面付け設定が適用されます。

ホットフォルダーのリストはUltimate Impostrip®アプリケーションだけで編集できます。Ultimate Impostrip®を使用してホットフォルダーを追加または削除できます。

【更新】ボタン () をクリックし、ホットフォルダーのリストを更新します。

↓ 補足

【ギャングアップ】、【部数を含める】、【Ultimate Impostrip®フォルダー】の各オプションは、【Ultimate Impostrip®】オプションが【管理】→【機能】→【面付け】で有効な場合にのみ使用できます。

このバッチに含まれているジョブのバナーシートを印刷しない場合は、【バナーシート】の【バナーシートを印刷しない】にチェックを付けます。選択した出力先からのバナーシート有効設定に上書きします。このバッチに含まれている全てのジョブのバナーシートの印刷は無効になります。

【集約】で、このバッチに含まれているジョブ集約を有効にする場合は、チェックを付けます。【管理】→【プロダクション設定】→【集約】からジョブ集約を有効または無効にします。

5. 【部数】名の後ろに【ジョブ】を入力します。各ジョブには【ページ範囲】も入力できます。

↓ 補足

【PDF/PostScript】出力のページ範囲値を入力した場合、指定されたページまたは範囲が抽出され、新しいPDFジョブとなります。

6. 【OK】をクリックします。
確認メッセージが表示されます。

1つ以上のジョブの試し印刷を作成する

ジョブの試し印刷の作成が必要な場合は、【試し印刷...】アクションを使用できます。

試し印刷は、【保留】中のジョブ、【ファイル待ち】ジョブ、【プリフライトエラー】、【送信済み】、【プリンターで処理中】ジョブ、【プリンターで保留済み】ジョブ、【プリンターで一時停止済み】ジョブ、【プリンターでキャンセル済み】ジョブ、【印刷中】ジョブ、【印刷済み】、またはカスタム状態のジョブ以外のジョブに対して使用できます。

ジョブの試し印刷を作成するには、以下の操作を行います。

1. 以下のダイアログから1つ開き、使用可能なジョブのリストを表示します。
 - 【ジョブ】セクションで、【フィルター】パネルを開き、【ジョブ】タブをクリックし、システム内の全てのジョブを表示します。
 - 【ジョブ】セクションで、【バッチ】パネルを開きます。編集するバッチをダブルクリックするか、バッチを右クリックして【プロパティ】を選択します。

「[ジョブ]」タブをクリックし、バッチに含まれている全てのジョブのリストを表示します。

- 「[注文]」セクションで、注文行を右クリックして「[プロパティ]」を選択します。注文詳細ダイアログで、「[ジョブ]」タブをクリックし、注文に含まれている全てのジョブのリストを表示します。
 - 「[バッチ]」セクションで、バッチ行を右クリックして「[プロパティ]」を選択します。バッチ詳細ダイアログで、「[ジョブ]」タブをクリックし、バッチに含まれている全てのジョブのリストを表示します。
2. ジョブのリストから試し印刷を印刷するジョブを選択します。
 3. ジョブを右クリックして「[試し印刷...]」を選択します。

「[試し印刷]」パネルが表示されます。

4. 「[バッチ名]」を入力し、メニューから「[出力先]」を選択し、各ジョブの部数を入力します。

↓ 補足

InfoPrint 5000 プリンターモデルで印刷するジョブが送信されたときは、印刷部数が最大32767部までに制限されます。

「ギャングアップ」

面付けする全てのジョブをまとめて送信するには、「[ジョブをまとめてギャング]」をクリックします。このオプションを有効にすると、「[部数を含める]」オプションが自動的に有効になります。その結果、バッチ全体に対して1つの面付けファイルが作成されます。面付けファイルには各ジョブの指定された部数が含まれ、「[部数]」属性値「1」で出力に送信されます。

〔部数を含める〕

すべてのコピーに面付けを適用するには、〔出力に部数を含める〕を選択します。

このオプションが有効な場合、各ジョブに作成された面付けファイルには各ジョブの指定された部数が含まれ、〔部数〕属性値〔1〕で出力に送信されます。

〔出力に部数を含める〕オプションが無効のときは、面付けファイルには各ジョブの1部が含まれ、〔部数〕属性の実際の値が出力に送信されます。

↓ 補足

〔出力に部数を含める〕オプションを有効にする場合は、Ultimate Impostrip®のホットホルダーで〔出力設定〕の〔繰り返しを考慮〕オプションがオンになっていることも確認してください。

〔Ultimate Impostrip®フォルダー〕

〔Ultimate Impostrip®フォルダー〕メニューから、TotalFlow Optimizerで面付けされるジョブを送信するフォルダー名を指定します。試し印刷するジョブにのみ面付けが適用され、それぞれのジョブで事前に定義された面付けが上書きされます。

〔Ultimate Impostrip®フォルダー〕リストからホットフォルダーを選択しない場合は、各ジョブの既存の面付け設定が適用されます。

ホットフォルダーのリストはUltimate Impostrip®アプリケーションだけで編集できます。Ultimate Impostrip®を使用してホットフォルダーを追加または削除できます。

〔更新〕 () をクリックし、ホットフォルダーのリストを更新します。

↓ 補足

〔ギャングアップ〕、〔部数を含める〕、〔Ultimate Impostrip®フォルダー〕の各オプションは、〔Ultimate Impostrip®〕オプションが〔管理〕→〔機能〕→〔面付け〕で有効な場合にのみ使用できます。

5. 〔部数〕名の後ろに〔ジョブ〕を入力します。各ジョブには〔ページ範囲〕も入力できます。

↓ 補足

〔PDF/PostScript〕出力のページ範囲値を入力した場合、指定されたページまたは範囲が抽出され、新しいPDFジョブとなります。

6. 〔OK〕をクリックします。
確認メッセージが表示されます。

印刷ファイルを表示する

〔ファイルを表示...〕アクションを使用し、ジョブに関連付けられたファイルを表示できます。

印刷ジョブを表示するには、以下の操作を行います。

1. 以下のダイアログから1つ開き、使用可能なジョブのリストを表示します。
 - 〔ジョブ〕セクションで、〔フィルター〕パネルを開き、〔ジョブ〕タブをクリックし、システム内の全てのジョブを表示します。

- [ジョブ] セクションで、[バッチ] パネルを開きます。編集するバッチをダブルクリックするか、バッチを右クリックして [プロパティ] を選択します。[ジョブ] タブをクリックし、バッチに含まれている全てのジョブのリストを表示します。
 - [注文] セクションで、注文行を右クリックして、メニューから [プロパティ] をクリックし、注文詳細ダイアログを開きます。注文詳細ダイアログで、[ジョブ] タブをクリックし、注文に含まれている全てのジョブのリストを表示します。
 - [バッチ] セクションで、注文行を右クリックして、メニューから [プロパティ] をクリックし、バッチ詳細ダイアログを開きます。バッチ詳細ダイアログで、[ジョブ] タブをクリックし、バッチに含まれているジョブのリストを表示します。
2. ジョブのリストから、ジョブを選択し、関連付けられたファイルを表示します。
 3. ジョブを右クリックして [ファイルを表示...] を選択します。新しいタブでファイルビューアが開きます。

★重要

ファイルが無効なPDFファイルの場合は、エラーメッセージが表示されます。

面付けファイルを表示する

[面付け] アクションを使用し、ジョブに関連付けられた面付けファイルを表示できます。

面付けファイルを表示するには、以下の操作を行います。

1. 以下のダイアログから1つ開き、使用可能なジョブのリストを表示します。
 - [ジョブ] セクションで、[フィルター] パネルを開き、[ジョブ] タブをクリックし、システム内の全てのジョブを表示します。
 - [ジョブ] セクションで、[バッチ] パネルを開きます。編集するバッチをダブルクリックするか、バッチを右クリックして [プロパティ] を選択します。[ジョブ] タブをクリックし、バッチに含まれている全てのジョブのリストを表示します。
 - [注文] セクションで、注文行を右クリックして、メニューから [プロパティ] をクリックし、注文詳細ダイアログを開きます。注文詳細ダイアログで、[ジョブ] タブをクリックし、注文に含まれている全てのジョブのリストを表示します。
 - [バッチ] セクションで、注文行を右クリックして、メニューから [プロパティ] をクリックし、バッチ詳細ダイアログを開きます。注文詳細ダイアログで、[ジョブ] タブをクリックし、注文に含まれている全てのジョブのリストを表示します。
2. ジョブのリストから、ジョブを選択し、関連付けられたファイルを表示します。
3. ジョブを右クリックして [面付けファイルを表示...] を選択します。

[面付けファイルを表示...] オプションは、[管理] → [機能] → [面付け] で面付け機能が有効になっており、PDFファイルが正常に面付けされている場合にのみ使用できます。

新しいタブでファイルビューアが開きます。

★ 重要

ファイルが無効なPDFファイルの場合は、エラーメッセージが表示されます。

面付け済みファイルの保持を設定する

conf.propertiesファイルのdiscardImposedFileパラメーターを使用して、面付け済みファイルの保持を設定できます。

面付け済みファイルの保持を設定するには、以下の操作を行います。

1. TotalFlow Optimizerのインストールフォルダーに移動し、管理者としてconf.propertiesファイルを編集します。
デフォルトのインストールフォルダーはC:\Program Files\RICOH\TotalFlow Optimizerです。
2. discardImposedFileパラメーターの値を設定します。
 - false：機能を有効にします。これはデフォルト値です。
 - true：機能を無効にします。

このパラメーターをtrueに設定すると、バッチが送信された後、アプリケーションは面付け済みファイルを削除します。このパラメーターがconf.propertiesファイルから完全に欠落しているか、falseに設定されている場合、面付け済みファイルはジョブが削除されるか再面付けされるまで保持されます。

面付け済みファイルの保持が有効になっている場合、ジョブの数、ジョブファイル、面付けの頻度、面付けの設定、ジョブの保持期間に応じて、追加の保存領域が必要になる場合があります。

3. TotalFlow Optimizerサービスを再起動します。

ジョブを保留またはリリースする

ジョブの送信準備ができていない場合は、ジョブを保留できます。ジョブが保留され、送信準備ができていない場合は、ジョブをリリースできます。

「[バッチ待ち]」、「[バッチ済み]」、「[関連ジョブ待ち]」、「[ファイル待ち]」、「[面付けが不明]」、「[プリフライト中]」、「[プリフライト待ち]」の状況のいずれかのジョブのみを保留またはリリースできます。

↓ 補足

ジョブが「[保留]」の状態のときは、ファイルの追加や変更を含め、すべてのジョブプロパティを変更できます。

ジョブを保留にするには、以下の操作を行います。

1. 以下のダイアログから1つ開き、使用可能なジョブのリストを表示します。
 - 「[ジョブ]」セクションで、「[フィルター]」パネルを開き、「[ジョブ]」タブをクリックし、システム内の全てのジョブを表示します。
 - 「[ジョブ]」セクションで、「[バッチ]」パネルを開きます。編集するバッチをダブルクリックするか、バッチを右クリックして「[プロパティ]」を選択します。

「ジョブ」タブをクリックし、バッチに含まれている全てのジョブのリストを表示します。

- 「注文」セクションで、注文行を右クリックして「プロパティ」をクリックし、「注文詳細」ダイアログを開きます。「注文詳細」ダイアログで、「ジョブ」タブをクリックし、注文に含まれている全てのジョブのリストを表示します。
- 「バッチ」セクションで、注文行を右クリックして「プロパティ」をクリックし、バッチ詳細ダイアログを開きます。バッチ詳細ダイアログで、「ジョブ」タブをクリックし、バッチに含まれているジョブのリストを表示します。

2. ジョブのリストから、保留にするジョブを選択します。

3. ジョブを右クリックして「ジョブを保留」を選択します。

選択したジョブの状態が「保留」に変更されると、ジョブを送信できません。

ジョブをリリースする

ジョブをリリースするには、以下の操作を行います。

1. 以下のダイアログから1つ開き、使用可能なジョブのリストを表示します。

- 「ジョブ」セクションで、「フィルター」パネルを開き、「ジョブ」タブをクリックし、システム内の全てのジョブを表示します。
- 「ジョブ」セクションで、「バッチ」パネルを開きます。編集するバッチをダブルクリックするか、バッチを右クリックして「プロパティ」を選択します。「ジョブ」タブをクリックし、バッチに含まれている全てのジョブのリストを表示します。
- 「注文」セクションで、注文行を右クリックして「プロパティ」をクリックし、「注文詳細」ダイアログを開きます。「注文詳細」ダイアログで、「ジョブ」タブをクリックし、注文に含まれている全てのジョブのリストを表示します。
- 「バッチ」セクションで、注文行を右クリックして「プロパティ」をクリックし、バッチ詳細ダイアログを開きます。バッチ詳細ダイアログで、「ジョブ」タブをクリックし、バッチに含まれているジョブのリストを表示します。

2. ジョブのリストから、リリースする「保留」状態のジョブを選択します。

3. ジョブを右クリックして「ジョブをリリース」または「ジョブをリリース」を選択します。

選択したジョブの状態が「保留」から「バッチ待ち」、「バッチ済み」、「ファイル待ち」、または「関連ジョブ待ち」に変更されると、ジョブを送信できません。

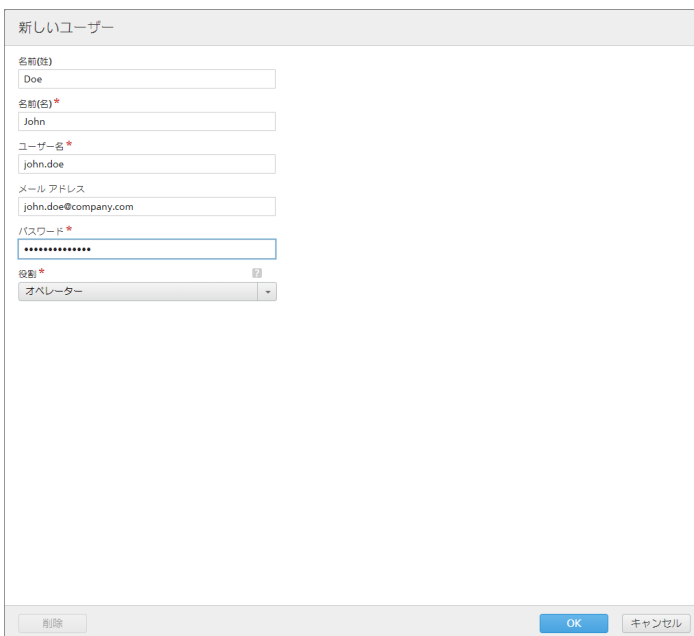
5. セキュリティー

- 新しいユーザーを作成する
- ユーザープロパティを編集する
- ユーザーを削除する
- ユーザー役割
- パスワードを変更する
- HTTPSプロトコルを使用するためにTotalFlow Optimizerを設定する

TotalFlow OptimizerシステムのセキュリティーはTotalFlow Optimizerシステムにアクセスできるユーザーと操作できる機能を決定します。TotalFlow Optimizerユーザー名、グループ、アクセス権を使用し、セキュリティーを制御します。

新しいユーザーを作成する

新しいユーザーを作成するには、[ユーザー] ウィンドウの[新しいユーザー] ボタンをクリックします。[新しいユーザー] ウィンドウダイアログが表示されます。



必須情報を入力します。

[名前(名)]

ユーザーの名前(名)。

[名前(姓)]

ユーザーの名前(姓)。

[ユーザー名]

[ユーザー名] は一意である必要があり、アプリケーションにログインするための認証情報として使用されます。[ユーザー名] をすでに使用している場合は、[OK] ボタンをクリックして設定を保存しようとするときにエラーメッセージが表示されます。

[メールアドレス]

[メールアドレス] を指定できます。

[役割]

リストからユーザーの種類を選択します。使用可能なオプションは3つあります。

- [オペレーター]
- [閲覧者]
- [管理者]
- [カスタム]

[パスワード]

入力したパスワードはアプリケーションにログインするための認証情報として使用します。

新しいユーザーを作成するには、[OK] をクリックします。指定した情報が不正な場合は、ハイライトされたフィールドの左側にエラーメッセージが表示されます。

[新しいユーザー] ウィンドウダイアログを閉じ、入力した情報を破棄するには、[キャンセル] をクリックします。

5

ユーザープロパティを編集する

ユーザーのプロパティを編集するには、ユーザー行を右クリックして [プロパティ] を選択するか、ユーザー行をダブルクリックします。[ユーザー] ウィンドウダイアログが表示されます。

The screenshot shows a dialog box titled 'ユーザー: admin'. It contains several input fields and a dropdown menu. The fields are: '名前(姓)' (Last Name) with an empty text box; '名前(名)' (First Name) with the text 'Administrator'; 'ユーザー名' (Username) with the text 'admin'; 'メール アドレス' (Email Address) with an empty text box; 'パスワード' (Password) with a masked text box (dots); and '役割' (Role) with a dropdown menu showing '管理者' (Administrator). At the bottom, there are three buttons: '削除' (Delete), 'OK', and 'キャンセル' (Cancel).

次のプロパティを変更できます。

[名前(名)]

ユーザーの名前(名)。

[名前(姓)]

ユーザーの名前(姓)。

[メールアドレス]

[メールアドレス] を指定できます。

[役割]

リストからユーザーの種類を選択します。使用可能なオプションは3つあります。

- [オペレーター]
- [閲覧者]
- [管理者]
- [カスタム]

[パスワード]

入力したパスワードはアプリケーションにログインするための認証情報として使用します。

変更したプロパティを保存するには、[OK] をクリックします。[ユーザー] ウィンドウを閉じて変更を破棄する場合は、[キャンセル] をクリックします。

ユーザーを削除するには、[削除] をクリックします。詳しくは、[P. 275 「ユーザーを削除」](#)を参照してください。

5

ユーザーを削除する

管理者はシステムからユーザーを削除できます。[ユーザー] リストから、削除するユーザーを選択し、[削除...] を右クリックして選択します。[ユーザー] ウィンドウダイアログから [削除] をクリックしても、ユーザーを削除できます。



1. 自分のアカウントは削除できません。
2. 削除されたユーザーがすでにログインしていた場合は、そのユーザーのセッションは終了します。

ユーザー役割

TotalFlow Optimizerシステムにはユーザーが制御できるアクセス制御があります。ユーザーアカウントを定義または編集するときは、ユーザーの役割を指定できます。

使用可能なユーザーの種類は、以下のとおりです。

[管理者]

管理者の役割はTotalFlow Optimizerシステムのフルアクセス権を持ちます。管理者はアクションを実行でき、別のユーザーに役割を割り当てることができます。

[オペレーター]

[オペレーター] は許可されたアクションのセットを実行できます。

- [管理] タブで入力と出力のみ表示できますが、定義と編集はできません。[オペレーター] は [管理] タブから入力と出力も有効または無効にできます。
- 既存のアラートの表示や終了ができますが、定義と編集はできません。

- 注文、ジョブ、バッチを作成、定義、編集できます。
- フィルターを表示できます。
- 処理するバッチを送信できます。

[閲覧者]

[閲覧者] はシステムオブジェクトを編集できず、TotalFlow Optimizerシステムに読み取り専用アクセス権を持ちます。[閲覧者] の役割の権限と制限は、以下のとおりです。

- [注文]、[ジョブ]、[フィルター]、[バッチ] のみで表示可能なため、これらのセクション以外のアクションは実行できません。
- ジョブプロパティダイアログを開くことができます。[閲覧者] ユーザーはジョブを右クリックして [プロパティ] を選択し、ジョブプロパティを表示できますが、編集はできません。
- 注文プロパティダイアログを開くことができます。[閲覧者] ユーザーはジョブを右クリックして [プロパティ] を選択し、注文プロパティを表示できますが、編集はできません。
- アラートを表示できますが、破棄できません。
- ジョブの状態を [印刷済み] に設定できます。
- [管理] タブで、セクションの表示、定義、編集はできません。
- アラートトリガーの表示、定義、編集はできません。

[カスタム]

[カスタム] の役割の権限と制限は、以下のとおりです。

- フィルターへのアクセス：[カスタム] ユーザーにフィルターへのアクセスがある場合、フィルターを編集、削除、複製ができ、新しいフィルターも作成できます。[カスタム] ユーザーにフィルターへのアクセスがない場合、ダブルクリックしてフィルタープロパティを開き表示できますが、フィルタープロパティの編集はできません。
- アラートトリガーへのアクセス権限がある場合とない場合があります。[カスタム] ユーザーにアラートトリガーへのアクセス権限がある場合、アラートトリガーを有効/無効にし、削除でき、また新しいトリガーを作成できます。[カスタム] ユーザーにアラートトリガーへのアクセス権限がない場合、アラートトリガーは表示されません。
- [管理] により [カスタム] ユーザーが作成された場合、いずれかの [管理] サブタブを選択して新しいユーザーのアクセスを許可できます。
- [カスタム] ユーザーを選択すると、権限は管理レベルから始まり、全ての権限が [編集] に設定されます。
- 各 [カスタム] アカントは、アプリケーションのセクションを表示する設定とオプションに関して固有です。

↓ 補足

既存の各ユーザー役割の権限と制限は編集できず、TotalFlow Optimizerがインストールされるときに事前定義されます。

パスワードを変更する

TotalFlow Optimizerユーザーパスワードを変更できます。

パスワードを変更するには、以下の操作を行います。

1. TotalFlow Optimizerにログインします。
2. 管理者メニューボタン () をクリックし、[パスワードを変更...] を選択します。
[パスワードを変更] ダイアログボックスが表示されます。
3. [パスワードを変更] ダイアログボックスで、以下の操作を行います。
 1. 現在のパスワードを入力します。
 2. 新規のパスワードを入力します。
パスワードは最大50文字まで入力できます。
 3. 新しいパスワードを確認のために再度入力します。
 4. [OK] をクリックします。

HTTPSプロトコルを使用するためにTotalFlow Optimizerを設定する

TotalFlow Optimizerは、HTTPSセキュリティープロトコルの使用をサポートしています。HTTPSプロトコルは、サーバーとWebブラウザのユーザーインターフェイス間に暗号化されたリンクを確立することで、保護されたネットワーク通信を容易にし、すべての送信データのプライバシーと整合性を保証します。

Windows 10でHTTPSを有効にする手順は、以下のとおりです。Windowsの他のバージョンでは多少異なります。

HTTPSを有効にするには、デジタル証明書が必要です。CA（証明機関）または自己署名証明書で署名された証明書が使用できます。

★ 重要

- この手順では、Javakeytoolコマンドを使用します。keytoolの使用については、Javaのドキュメントまたは認証局が提供するドキュメントを参照してください。
- デフォルトのインストールパスを変更した場合は、C:¥Program Files¥RICOH¥TotalFlow Optimizer¥を、この手順でTotalFlow Optimizerをインストールしたパスに置き換えます。
- 後でリストアする場合に備えて、これらのファイルのコピーを安全な場所に保存します。
 - C:¥Program Files¥RICOH¥TotalFlow Optimizer¥apache-tomcat¥conf¥server.xml
 - C:¥Program Files¥RICOH¥TotalFlow Optimizer¥apache-tomcat¥conf¥web.xml
 - C:¥Program Files¥RICOH¥TotalFlow Optimizer¥conf.properties

1. デジタル証明書を取得して、TotalFlow Optimizerがインストールされているコンピューターに保存します。

- 証明機関によって署名された証明書を使用するには、証明機関が提供する指示に従い署名済み証明書入手し、キーストアファイル内にインポートします。
- 自己署名証明書を作成するには、以下の操作を行います。

1. TotalFlow Optimizerがインストールされているコンピューターで、管理者としてコマンドプロンプトウィンドウを開きます。
2. 次のコマンドを使用して、ローカルキーストアファイルと自己署名証明書を生成します。

```
"C:\Program Files\RI\COH\TotalFlow Optimizer\jre\bin\keytool" -genkey
-keyalg RSA -alias selfsigned -keystore "C:\Program Files\RI\COH
\TotalFlow Optimizer\keystore.jks" -storepass password -validity
certificate_validity -keysize 2048 -ext san=dns:localhost
```

*password*をキーストアファイルに設定したパスワードに置き換えます。

*certificate_validity*を証明書の有効日数に置き換えます。たとえば、90日なら90と入力します。

Java証明書が非HTTPSコンポーネントを確認するために、"-ext san: ..." パラメーターに必要な情報を追加します。たとえば、以下の情報を追加します。

- IPv4 and IPv6のホームアドレスを含んでいるローカルホストの変数：
ip:127.0.0.1、ip:::1
- ホスト名の変数：dns:USER
- IPフォーマットを使用するコンピューターのIPv4および/またはIPv6アドレス：ip:User_IPv4、User_IPv6

3. 生成したキーストアファイルをJavaセキュリティー証明書にエクスポートおよびインポートするには、次の2つのコマンドを実行します。

```
"C:\Program Files\RI\COH\TotalFlow Optimizer\jre\bin\keytool" -export
-alias selfsigned -keystore "C:\Program Files\RI\COH\TotalFlow
Optimizer\keystore.jks" -storepass password -file "C:\Program Files
\RI\COH\TotalFlow Optimizer\selfsigned.crt"
```

*password*をキーストアファイルに設定したパスワードに置き換えます。

```
"C:\Program Files\RI\COH\TotalFlow Optimizer\jre\bin\keytool" -import
-alias selfsigned -keystore "C:\Program Files\RI\COH\TotalFlow
Optimizer\jre\lib\security\cacerts" -storepass changeit -file "C:
\Program Files\RI\COH\TotalFlow Optimizer\selfsigned.crt"
```

2. XMLと.propertiesファイルを設定します。

1. C:\Program Files\RI\COH\TotalFlow Optimizer\apache-tomcat\conf\server.xml ファイルを以下のとおり修正します。

- 1.

```
<Connector port="19080"
URIEncoding="UTF-8"
protocol="HTTP/1.1"
connectionTimeout="20000"
redirectPort="8443"
```

```
maxParameterCount="1000"/>
```

行を

```
<Connector port="19080"
URIEncoding="UTF-8"
protocol="HTTP/1.1"
connectionTimeout="20000"
redirectPort="19443"/>
```

に変更します。

2. 前の手順

```
<Connector port="19443"
protocol="HTTP/1.1"
SSLEnabled="true"
enableLookups="true"
maxThreads="150"
scheme="https"
secure="true"
keystoreFile="LOCATION_OF_KEYSTORE_FILE"
keystorePass="KEYSTORE_PASSWORD"
clientAuth="false"
sslProtocol="TLS"
sslEnabledProtocols="TLSv1.2"/>
```

で修正したパラグラフの後に次のセクションを追加します。

LOCATION_OF_KEYSTORE_FILEをキーストアファイルのパスに、KEYSTORE_PASSWORDをキーストアファイルに設定したパスワードに置き換えます。

2. C:\Program Files\RICOH\TotalFlow Optimizer\apache-tomcat\conf\web.xmlファイルを以下のとおり修正します。

</web-app>（ファイルの一番最後）の前に次のセクションを追加します。

```
<security-constraint>
<web-resource-collection>
<web-resource-name>Secured</web-resource-name>
<url-pattern>/*</url-pattern>
</web-resource-collection>

<user-data-constraint>
<transport-guarantee>CONFIDENTIAL</transport-guarantee>
</user-data-constraint>
</security-constraint>
```

3. C:\Program Files\RICOH\TotalFlow Optimizer\conf.propertiesファイルを以下のとおり修正します。

1. httpをhttpsに置き換えます

2. 19080を19443に置き換える

3. TotalFlow Optimizerサービスを再起動します。

4. 要求がセキュア接続に転送されることを確認します。

1. 対応Webブラウザウィンドウを開きます。
2. Webブラウザのキャッシュをクリアします。
3. アドレスバーに次のURLを入力します。

`http://server_address:port_number/Optimizer`

`server_address`は、TotalFlow Optimizerがインストールされているコンピューターのホスト名またはIPアドレスで、`port_number`は、Webサービスポートです。

ページが読み込まれると、アドレスは`https://server_address:19443/Optimizer`に変更します。

ユーザーがシステムにアクセスする場合、ユーザー自身がアクションを起こすことなく、セキュアプロトコルにリダイレクトされます。

しかし、自己署名証明書を使用するかまたは証明書がサーバーと明確に関連付けられていない場合、Webブラウザは、証明書は信頼されていないと警告を表示します。この問題を解決するには、証明書をWindowsの信頼された証明書ストレージにインポートします。

1. TotalFlow Optimizerのインストールフォルダーに移動します。
2. 証明書を右クリックし、[証明書のインストール] を選択します。
証明書のインポートウィザードが起動します。
3. [証明書のインポートウィザードへようこそ] 画面で、[次へ] をクリックします。
4. [証明書ストア] 画面で、[証明書をすべて次のストアに配置] オプションを選択し、[参照] をクリックします。
5. [証明書ストアの選択] ダイアログで、[信頼できるルート証明機関] ストアを選択し、[OK] をクリックします。
6. [次へ] をクリックします。
7. [証明書のインポートウィザードの完了] 画面で、[終了] をクリックします。

証明書が有効期限切れになりそうな時は、HTTPSを有効にする手順を繰り返してください。

TotalFlow Optimizerを修復した後でHTTPSを有効にしない場合、内部サーバーアドレスをHTTPに戻す必要があります。

1. `C:\Program Files\RI\COH\TotalFlow Optimizer`に移動して、管理者として`conf.properties`ファイルを修正します。
2. `"web.address": "https://server_address:19443/Optimizer"`の行を`"webAddress": "http://server_address:19080/Optimizer"`に置き換えます。
3. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
4. TotalFlow Optimizerサービスを再起動します。
5. Webブラウザのキャッシュをクリアします。

↓ 補足

他の製品とTotalFlow Optimizerを併用する場合は、状態の追跡などの一部の機能は動作せず、両方の製品の有効なCA承認証明書があるか、両方がHTTPSを使用する場合は、それぞれの「cacerts」ファイル内の製品の証明書ファイルをインポートする必要があります。

6. データをバックアップ/リストアする

- データをバックアップする
- データをリストアする

システム障害によるデータの損失防止またはデータを回復するには、全てのTotalFlow Optimizerシステムオブジェクトと設定をバックアップしてリストアできます。

以下のデータをバックアップまたはリストアできます。

- 入力
- 出力
- フィルター
- ユーザー
- グループ
- システム設定
 - %APP_HOME%\dbengine\storage.properties
 - %APP_HOME%\apache-tomcat\conf*.*
 - %APP_HOME%\fop\fop_cfg.xml
 - %APP_HOME%\conf.properties
 - %APP_HOME%\default_hot_folder.properties
 - %APP_HOME%\ski.properties
- 通知トリガー
- マウントされたドライブ
- 注文
- バッチ
- 印刷ファイルを含むジョブ
- 参照XSLTファイル
- ユーザー環境設定

データのバックアップとリストアについては、[P. 69 「 \[バックアップ/リストア\] ウィンドウ」](#)を参照してください。

データをバックアップする

現在の全てのTotalFlow Optimizerシステムのオブジェクトと設定をバックアップできます。

TotalFlow Optimizerのデータをバックアップするには、以下の操作を行います。

1. デスクトップ上の [TotalFlow Optimizerのバックアップ] ショートカットをクリックします。
2. 指示されたときは、コマンドラインインターフェースにYを入力し、バックアップ処理を続行します。

コマンド構文は、以下のとおりです。

```
backup [-Y] [-?] [sirectory]
```

Y

今後全ての確認画面のデフォルト回答には**はい**を指定します。必要なアクションはありません。この引数はオプションです。

↓ 補足

-Yを指定しない場合は、TotalFlow Optimizerサーバーがシャットダウンしてユーザーがログオフされることが通知されます。Yを入力し、バックアッププログラムを続行します。

?

ヘルプテキストが表示され、プログラムが終了することを指定します。この引数はオプションです。

directry

バックアップデータディレクトリーが作成されるディレクトリーを指定します。このディレクトリーは最初に指定ドライブにある必要があります。デフォルトパスは<インストールパス>\Backupディレクトリーです。この引数はオプションです。

↓ 補足

ディレクトリー名を指定しても指定したディレクトリー名が存在しない場合は、指定されたディレクトリが存在せず、プログラムが終了することが通知されます。

↓ 補足

バックアップまたはリストア中は、システムからログアウトされ、処理が終了するまでログインできません。バックアップまたはリストア処理が完了したときに、進行状況と通知メッセージが表示されます。

3. [バックアップ/リストア] ウィンドウを使用しても、全てのTotalFlow Optimizerオブジェクト、ジョブファイル、システム設定をバックアップできます。詳しくは、[バックアップ/リストア] でP. 69 「[バックアップ/リストア] ウィンドウ」 ウィンドウを参照してください。

データをリストアする

バックアップとして保存した以前の状態にシステムをリストアできます。ジョブを含む、保存した全てのシステム設定をリストアできます。

TotalFlow Optimizerデータをリストアするには、以下の操作を行います。

1. コマンドラインインターフェースを開き、コマンドを入力し、リストアユーティリティーがあるフォルダーに切り替えます。

```
cd <install_path>%bin
```

<install_path>はTotalFlow Optimizerのインストールディレクトリーです。

2. [バックアップ/リストア] ウィンドウを使用しても、全てのTotalFlow Optimizerオブジェクト、ジョブファイル、システム設定をバックアップできます。詳しくは、[バックアップ/リストア] でP. 69 「[バックアップ/リストア] ウィンドウ」 ウィンドウを参照してください。

3. restoreコマンドの後に、使用する引数を入力します。コマンド構文は、以下のとおりです。

```
restore [-Y] [-?] backup_directory
```

Y

今後全ての確認画面のデフォルト回答に**はい**を指定します。必要なアクションはありません。この引数はオプションです。

↓ 補足

-Yを指定しない場合は、TotalFlow Optimizerシステムのアプリケーションデータが完全に削除され、サーバーがシャットダウンしていることが通知されます。リストア処理中は全てのユーザーがログアウトします。Yを入力し、リストアを続行します。

?

ヘルプテキストが表示され、プログラムが終了することを指定します。この引数はオプションです。

backup_directory

既存のバックアップディレクトリーがバックアップ処理中に作成されるかどうかを指定します。この引数は必須です。

↓ 補足

1. [すべて - ジョブデータとメタデータ] のバックアップまたはリストアを選択したときは、システムからログアウトされ、処理が終了するまでログインできません。バックアップまたはリストア処理が完了したときに、進行状況と通知メッセージが表示されます。
2. インストールされたTotalFlow Optimizerシステムバージョンと同じ製品バージョンのバックアップの場合にのみ、システムを以前の設定にリストアできます。
3. [管理] → [バックアップ/リストア] からシステムサービスがオフのときにシステムをリストアします。

★ 重要

- [設定とメタデータのみ] をリストアするときは、以下の状況でのみ実施するように注意してください。
 - クリーンインストールの後
 - バッチがないとき
 - 選択したメタデータが現在のメタデータの拡張であるとき（例：全ての現在の入力と出力がリストアの必要なバックアップに含まれているとき）

7. トラブルシューティング

TotalFlow Optimizerを使用中に問題が発生したときの対処方法を説明します。

ページが正しく表示されない

ページが正しくロードされていません。ブラウザキャッシュをクリアし、ページのリロードを行います。キャッシュのクリアとページのリロード方法については、ブラウザのマニュアルを参照してください。

アプリケーションにアクセスできない

考えられる原因と対処方法

- IPアドレスにアクセスできていません。シェルコマンドインターフェースを使用し、IPアドレスにPingを実行します。結果が返されない場合は、システム管理者に連絡し、IPアドレスがブロックされていないかどうかを確認してください。
- ポート番号がブロックされています。ファイアウォール設定でポート権限を確認するか、システム管理者に連絡します。
- TotalFlow Optimizerサービスを再起動し、実際に実行しているかどうかを確認します。

アプリケーションを起動できない

システムの再起動後に、TotalFlow Optimizerシステムアプリケーションを起動できません。TotalFlow Optimizerアプリケーションを再インストールし、再起動してください。

印刷バッチチケットダイアログが起動していない

ブラウザがポップアップウィンドウをブロックしています。ポップアップブロック設定については、ブラウザのマニュアルを参照してください。

PDFファイルを表示できない

考えられる原因と対処方法

- Adobe Acrobat Readerがシステムにインストールされていません。Adobe社のWebサイトに移動し、最新バージョンのAdobe Acrobat Readerをダウンロードします。画面の手順に従い、システムにインストールしてください。
- Adobe Acrobat Readerブラウザプラグインが有効ではありません。ブラウザ設定を確認し、PDFビューアを有効にします。

マップされたネットワークドライブにアクセスできない

考えられる原因と対処方法

- ネットワークリソースにアクセスする権限がない可能性があります。システム管理者に連絡し、ネットワークドライブにアクセスする権限があるかどうかを確認します。
- ドライブのマッピングを手動で実行できるかどうかを確認します。

getLogsコマンドでトレースコレクターにアクセスできない

考えられる原因と対処方法

- コマンドシェルインターフェースは管理者権限では実行されません。[管理者として実行する] オプションを使用し、コマンドシェルインターフェースを起動します。

- クライアントコンピューターからコマンドを実行します。ホストコンピューターに接続し、コマンドを実行します。

アプリケーションサービスを再起動できない

考えられる原因と対処方法

- サービスを再起動するには、管理者権限が必要です。
 1. [開始] → [すべてのアプリ] → [<プログラムグループ>] に移動します。



TotalFlow Optimizerアプリケーションのデフォルトのプログラムグループは RICOH TotalFlow Optimizer です。インストール処理中に別のプログラムグループを設定できます。

2. [サービスの再起動] を右クリックして [管理者として実行] を選択します。
- クライアントコンピューターからサービスを再起動します。ホストコンピューターに接続し、管理者権限で [サービスの再起動] を選択します。

オンラインリストアが失敗し、アプリケーションを起動できない

オンラインリストアを試行した後は、TotalFlow Optimizerアプリケーションを起動できません。コマンドラインインターフェースを開き、システムを手動でリストアし、TotalFlow Optimizerシステムアプリケーションを再起動します。

7

アプリケーションをサーバーに接続できない

オンラインリストアの試行後に、TotalFlow Optimizerアプリケーションはサーバーに接続できず、エラーが表示されます。TotalFlow Optimizerサービスが実行中かどうかを確認します。コマンドラインインターフェースを開き、[管理者として実行] オプションを使用し、<インストールパス>\%binからサービスを手動で再起動します。

パスワードを忘れてしまった

管理者パスワードをリセットするには、ホストコンピューターでアプリケーションを再インストールします。ファイルの更新を開始する前に、デフォルトユーザー名とパスワードを入力するために指示されます。この段階で、パスワードをリセットできます。

TotalFlow Optimizerが体験版期間に戻る

TotalFlow Optimizerホスト名が登録後に変更された。<https://dl.ricohsoftware.com/>にアクセスし、アカウントにログインして新しいライセンスファイルを取得します。新しいライセンスファイルをダウンロードした後に、ソフトウェアキーの管理アプリケーションを使用し、ライセンスを追加します。

TotalFlow Optimizerが入力ホットフォルダーのファイルのページ数を決定できない

ホットフォルダー名には2バイト文字が含まれており、オペレーティングシステム言語はDBCSに対応していません。DBCS対応の言語でオペレーティングシステムがインストールされていない場合は、DBCS以外の文字を使用してフォルダー名を変更します。

TotalFlow Optimizerにマップされたネットワークドライブがマイコンピュータに表示されない

初期のネットワークドライブのマッピングに使用したアカウントとは別のユーザーアカウントでログインしています。ネットワークドライブをマップしたときに使用したユーザーアカウントでログインしてください。一部のオペレーティングシステムでは別のユーザーに同じサービスが開始されません。デフォルトでは、他のユーザーアカウントとは別のシステム認証ですべてのサービスが実行されています。マッピングドライブを管理するサービスはオペレーティングシステムによって、別のユーザーに表示/非表示になるマッピングを作成します。

【ボリューム見積もり】セクションにボリューム見積もりが表示されない

TotalFlow Optimizerジョブ属性の一部が正しく指定されていないか、見つかりません。バッチ内の各ジョブでは、次の属性に値が必要です。

フィート/時間またはメートル/時間で速度を計算する

- [用紙高さ]
- [ページ]
- [部数]
- [面当たりのページ数]
- [片面/両面]

↓ 補足

インストール時の選択項目によって、測定単位は異なります。

ページ/時間で速度を計算する

- [ページ]
- [部数]
- [面当たりのページ数]
- [片面/両面]

合計実行時間を計算する

- [シート数]
- [用紙高さ]
- select.filter/batch [推定出力速度] から

プリフライトオプションの実行時に不明なエラーが受信された

現在のプリフライト処理をキャンセルし、別のプロファイルを使用してプリフライトオプションを再実行します。

プリンターの状況更新が表示されない

TotalFlow Optimizerがネットワークからアクセスできることを確認します。config.propertiesのURLを確認し、無効または応答しない場合は更新してWindowsサービスを再起動してください。ジョブ状態が正しく更新されるように、プリンターに適切なネットワーク構成（DNS、ゲートウェイ、ネットワークマスクを含む）が設定されていることを確認

してください。プリンターによって状況更新が送信されてから、ファイアウォールがプリンターとの通信を遮断していないか確認してください。

フルバックアップを実行中、システムの実行は停止し、[却下] ボタンは使用できません。

1. TotalFlow Optimizerがインストールされているフォルダーを開いて、TotalFlow Optimizer サービス (TotalFlow Optimizer - Apache Tomcat Web Server および RICOHTotalFlow Optimizer - Storage) を停止します。**bin**フォルダーに移動し、**stop.bat**ファイルを右クリックし [管理者として実行] を選択します。
2. 以下のファイルを削除します。**backup.pid**, **backup_progress.txt**および **backup_persistence.txt**。
3. **start.bat**ファイルを右クリックして [管理者として実行] を選択します。
4. **start.bat**ファイルを実行後、TotalFlow Optimizerにアクセスできない場合は、オペレーティングシステムを再開します。

[HTTP経由JMF] 出力を使用すると、ジョブ状況はFieryプリンターから受信されません。

[印刷済み] で、[プリンターで処理中]、[プリンターで保留済み]、[プリンターで一時停止済み]、[プリンターでキャンセル済み]、[印刷中]、または[エラー] のジョブ状況が Fiery プリンターから [HTTP経由JMF] 出力を通じて受信されない場合は、次の手順に従います：

1. FieryプリンターとTotalFlow Optimizer間の接続に問題がないことを確認します。
2. 問題が解決しない場合は、TotalFlow Optimizerで [管理] → [出力] に移動し、Fieryプリンターに関連付けられている [HTTP経由JMF] 出力のプロパティダイアログを開きます。[設定] タブで、[ジョブ状況] オプションを [自動返信とジョブ状況のポーリング] に設定します。
3. それでも問題が解決しない場合は、Fiery プリンターで [サーバー] → [構成] → [ジョブ送信] → [JDF設定] に移動します。[JDF設定] ダイアログで、[ジョブ終了] オプションが [手動で閉じる] に設定されていることを確認してください。

8. 参照情報

- アイコンとボタン
- Optimizerスキーマ

TotalFlow Optimizerの設定と管理に使用できる追加情報を説明します。

アイコンとボタン

TotalFlow Optimizer操作画面に表示される重要なアイコンとボタンについて説明します。

	ヘルプ/バージョン情報
	ユーザー（ドロップダウンメニュー）
	展開する
	折りたたむ
	新規
	有効
	無効
	エラー、[プリンターでキャンセル]、[面付けエラー]、[出力エラー]、[プリフライトエラー] 状態、または無効な入力/出力/APIキー。
	送信中、[プリンターでの処理]、[印刷中]、[面付け中]、[プリフライト中]
	キュー状態/アクションを待機中
	[送信済み]、[印刷済み] 状態、および任意のカスタム状態。
	保留済み、[プリンターで保留済み]、[ファイル待ち]
	上に移動
	下に移動
	ドラッグ&ドロップ
	自動バッチ
	自動バッチ/送信
	スケジュール付き自動バッチ
	スケジュール付き自動バッチ/送信

	試し印刷フィルター
	複合フィルター
	更新
	編集
	フィールドヘルプ
	カレンダー

Optimizerスキーマ

OptimizerスキーマはTotalFlow Optimizer注文を記述するXSDファイルです。

XSLマッピングファイルを使用すると、入力デバイスを設定し、全ての受信済み注文をTotalFlow OptimizerスキーマからTotalFlow Optimizerスキーマに変換できます。注文XMLファイル構造がTotalFlow Optimizer内部スキーマと一致しない場合は、注文は承認されず、アラートが表示されます。

さまざまな注文XML形式はXMLマッパーを使用してTotalFlow Optimizerスキーマに変換できます。

TotalFlow Optimizerスキーマの構造は、内部TotalFlow Optimizer属性に基づきます。

XMLファイルでは、次のフィールドが必要です。

number

注文番号です。

version

注文のバージョンです。

<file>

これは最小限の有効なXMLファイルの例です。

```
<order xmlns="http://www.ricoh.com/BatchBuilder"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:schemaLocation="http://www.ricoh.com/BatchBuilder
C:\temp\hotFolderSchema.xsd"
name="Custom" number="1234" version="1.0">
<jobList>
<job>
<file/>
</job>
</jobList>
</order>
```

これは有効なXMLファイルの例で、複数のジョブ詳細が含まれています。

```
<order xmlns="http://www.ricoh.com/BatchBuilder"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
```

```

xsi:schemaLocation="http://www.ricoh.com/BatchBuilder
C:\temp\hotFolderSchema.xsd"
name="Custom" number="1234" receiveDate="2014-01-01"
receiveTime="14:20:00-05:00" jobNumber="0611" version="1.0">
<customer name="CustomerOne"/>
<jobList>
<job name="Job1" copies="50" simplexDuplex="Simplex"
plex="Normal" perforation="1" drilling="1" collation="1"
proofing="1" color="C_PROCESS" productType="Book"
isbn="980-2-17-158510-1" sku="F256" subPartNo="43"
finisher="Binder" press="PrinterCX">
<file ref="C:\temp\test\file1.pdf"
dataStream="DS_PDF"/><description>Sample file</description>
<document pages="1"><size units="in" width="0" height="0"/>
</document>
<media name="A4" type="MT_BOND" color="MC_WHITE"
finish="MF_NONE"><size units="in" width="3.14159265358979"
height="3.14159265358979"/><weight value="3.14159265358979"
units="gr"/>
</media>
<imposition name="Front" positionsPerSide="1"/>
<binding style="BS_NONE"><spine size="3.14159265358979"
unit="in"/>
</binding>
<coating name="CN_UV" side="LS_FRONT" type="LT_ANTIQUE"/>
</job>
</jobList>
</order>

```

オプションフィールドの全リストについては、P. 292 「TotalFlow Optimizerホットフォルダースキーマ」を参照してください。

XML注文を送信する際には、XMLファイルの構造をTotalFlow Optimizerスキーマに照らして検証してください。

★重要

hotFolderSchema.xsdスキーマファイル、サンプル.xmlファイル、その他のサポートされた.xsdファイルは、マッピングフォルダー（TotalFlow Optimizerがインストールされているディレクトリー配下）にあります。

XSLマッピングファイルを使用する

XSLマッピングファイルを使用すると、TotalFlow Optimizerの入力または出力デバイスを構成し、TotalFlow Optimizerスキーマに基づいてさまざまなXMLファイルを生成できます。

〔PDF/PostScriptおよびXML〕出力種類を出力デバイスプロパティーから選択したときは、XSLマッピングファイルを使用し、XMLファイルを生成できます。XSLT変換処理では入力としてTotalFlow Optimizer内部スキーマが使用され、カスタム対象スキーマに基づいてXML出力が生成されます。

XMLファイルを変換するには、XML変換ツールを使用してください。XML変換ツールを使用すると、TotalFlow Optimizerスキーマに基づいてXMLファイルを生成できます。TotalFlow Optimizer対応XMLファイルが生成された後は、TotalFlow Optimizerで開き、ジョブを処理できます。

TotalFlow Optimizerホットフォルダースキーマ

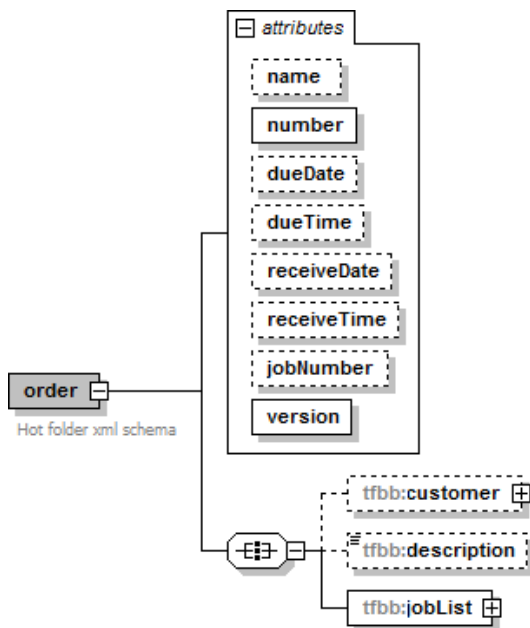
XML注文ファイルがTotalFlow Optimizerスキーマと一致するために必要な全てのジョブ属性について説明します。

概要

以下の図では、XML値のマッピングに使用できるノードと属性を視覚的に表現しています。点線はノードのオプションの属性を表し、連続線は必須の属性を表します。

Orderノード属性

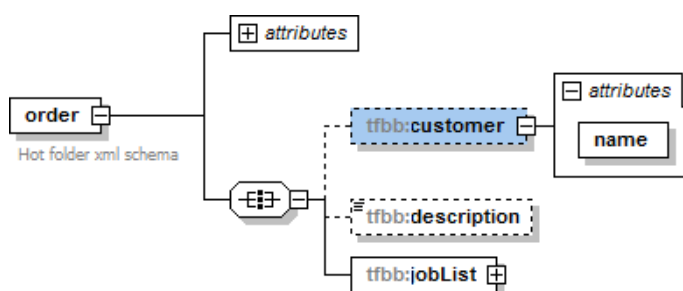
以下の表には、XMLファイルに挿入できる注文ノード属性が記載されています。



属性	オブジェクト種類	許可された値	概要
name	Character	1～32文字で入力します。	入力ファイル名です。
number	Character	1～256文字で入力します。	注文番号です。
dueDate	Character	YYYY-MM-DD 例: 2014-04-21	注文の有効期限です。
dueTime	Character	hh:min:ss +/- hh:mm 例: 18:26:59 + 03:00	注文の有効期限時刻です。

		最初の時刻値はGMT時刻を表し、最後の値はタイムゾーンオフセットを表します。	
receieveDate	Character	YYYY-MM-DD 例: 2014-04-21	注文を受信した日付です。
receiveTime	Character	hh:min:ss +/- hh:mm 例: 18:26:59 + 03:00 最初の時刻値はGMT時刻を表し、最後の値はタイムゾーンオフセットを表します。	注文が受信された日時です。
jobNumber	Character	1～32文字で入力します。	ジョブに割り当てた番号です。
version	Character	1.0	これは固定値のため、指定どおりに入力してください。

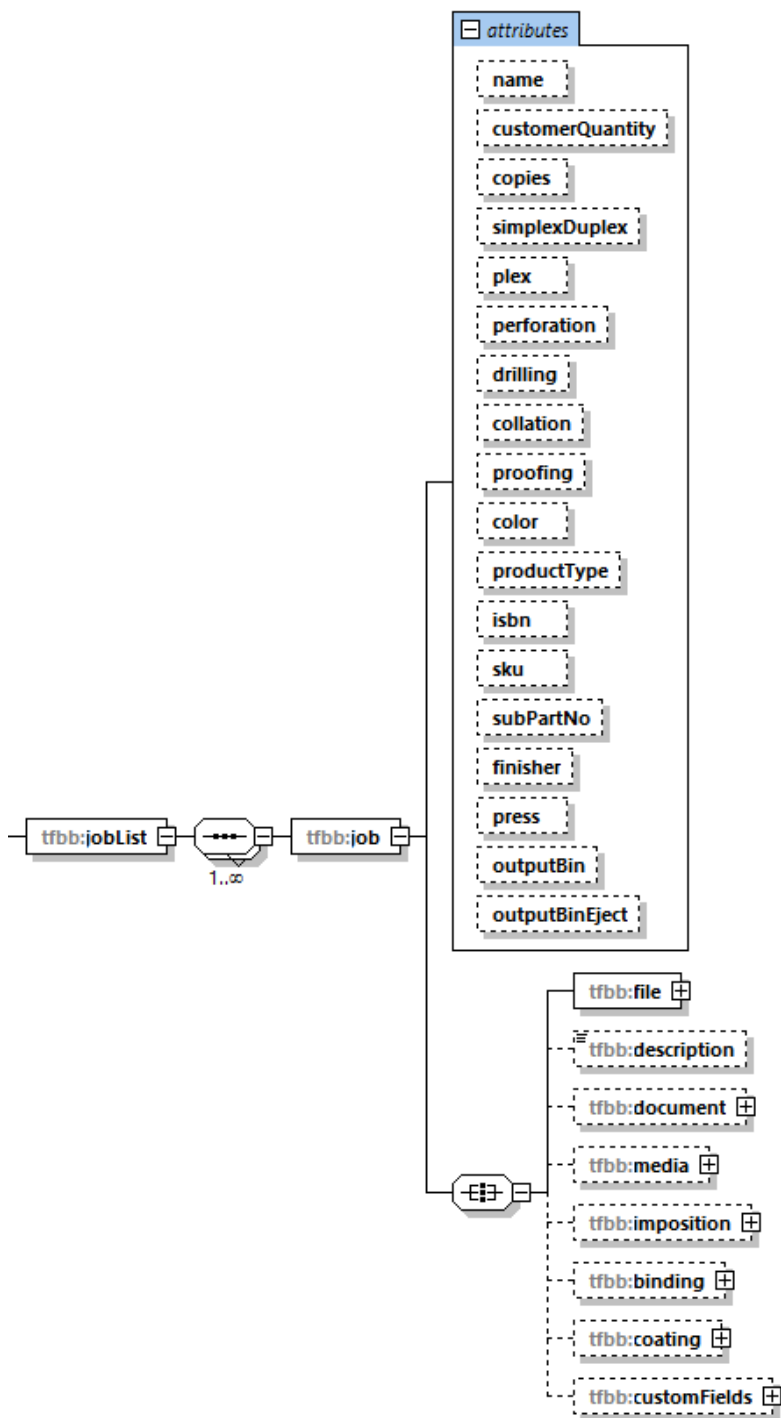
Customerノード属性



属性	オブジェクト種類	許可された値	概要
name	Character	1～256文字で入力します。	お客様名です。

Jobノード属性

以下の表には、XMLファイルに挿入できるジョブ属性（オプション）が記載されています。

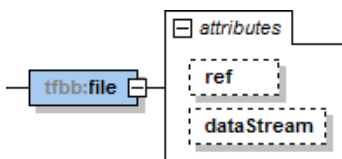


属性	オブジェクト種類	許可された値	概要
name	Character	1～256文字で入力します。	入力ファイル名です。
copies	Unsigned long	1～5,000,000部を入力します。	部数です。
simplexDuplex	SimplexDuplexEnumerator	- Simplex - Duplex	ジョブを片面または両面のどちらで印刷するか指定します。

plex	PlexEnum	• BE_LEFT • BE_TOP • BE_RIGHT • BE_BOTTOM	両面モードでどちらの端で印刷するかを指定します。
perforation	Boolean	• 1 • 0 • true • false	ジョブがマシン目入りかどうかを指定します。
drilling	Boolean	• 1 • 0 • true • false	ジョブが穴あけされるかどうかを指定します。
collation	Boolean	• 1 • 0 • true • false	ジョブが丁合いされるかどうかを指定します。
proofing	Boolean	• 1 • 0 • true • false	サンプルが必要かどうかを指定します。
color	Character	• C_NONE • C_PROCESS • C_BW • C_PROCESS_PLUS.SPOT  補足 事前定義済み値以外に1から32文字のカスタム値を入力できます。	カラー印刷方式を指定します。
productType	Character	1～32文字で入力します。	商品の種類です。
description	Character	1～128文字で入力します。	商品の概要です。
isbn	Character	1～20文字で入力します。	ISBNコードです。（存在する場合）
sku	Character	1～32文字で入力します。	製造元、商品、概要、サイズなどの製品属性を含む番号です。
subPartNumber	Character	1～32文字で入力します。	項目を識別するコードです。
finisher	Character	1～32文字で入力します。	取り付けられているフィニッシャーの名前です。
press	Character	1～32文字で入力します。	出力デバイスの名前です。
description	Character	1～128文字で入力します。	ファイルの概要です。

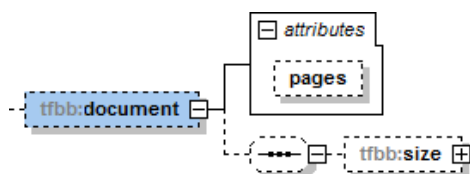
outputBin	Character	• OB_TRIMMER • OB_FOLDING • OB_PERFECT_BINDER • OB_RING_BINDER • OB_EWIRE_BINDER • OB_BOOKLET • OB_SHIFT • OB_COPY • OB_MAILBOX_1 • OB_MAILBOX_2 • OB_MAILBOX_3 • OB_MAILBOX_4 • OB_MAILBOX_5 • OB_MAILBOX_6 • OB_MAILBOX_7 • OB_MAILBOX_8 • OB_MAILBOX_9 • OB_FINISHER • OB_STACKER • OB_SECOND_STACKER • OB_UPPER • OB_ROLL • OB_LEFT_EXIT • OB_EXTENDED_OPTIONS • OB_ANY_STACKER • OB_BANNER_STACKER ↓ 補足 事前定義済み値以外に1から32文字のカスタム値を入力できます。	印刷時に排紙トレイを指定します。
outputBinEject	Enumeration	• OE_NONE • OE_FACE_DOWN • OE_FACE_UP • OE_FACE_DOWN_REVERSE • OE_FACE_UP_REVERSE	おもて面を下またはおもて面を上にして排紙トレイに出力するかを指定します。

Fileノード属性



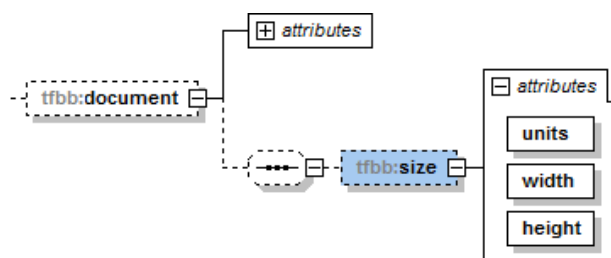
属性	オブジェクト種類	許可された値	概要
ref	Character	1～1024文字で入力します。	ファイルパスと名前です。
dataStream	DataStreamEnum	• DS_PDF • DS_PS • DS_AFP • DS_UNKNOWN ↓ 補足 TotalFlow OptimizerシステムにPDFジョブのページ数や文書サイズを識別させる場合は、PS_PDF値を指定し、dataStream属性をXMLファイルに挿入してください。	データストリームの種類です。

Documentノード属性



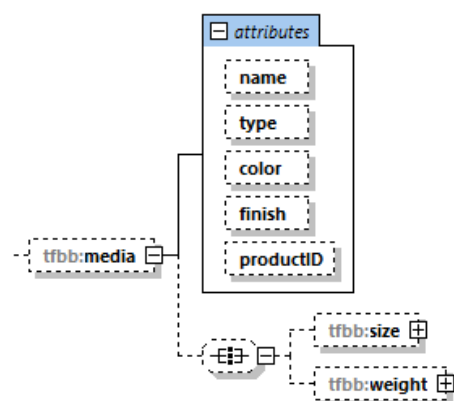
属性	オブジェクト種類	許可された値	概要
pages	Unsigned long	0～1,000,000の値を入力します。	ドキュメントのページ数です。

Document sizeノード属性



属性	オブジェクト種類	許可された値	概要
units	Enumeration	- in - mm	ドキュメントサイズの測定単位です。
width	Double	0.1～200 inchまたは1～6,000 mm	ドキュメントの幅です。
height	Double	0.1～200 inchまたは1～6,000 mm	用紙の高さです。

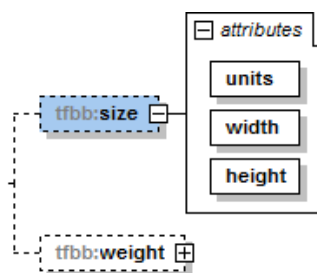
Mediaノード属性



属性	オブジェクト種類	許可された値	概要
----	----------	--------	----

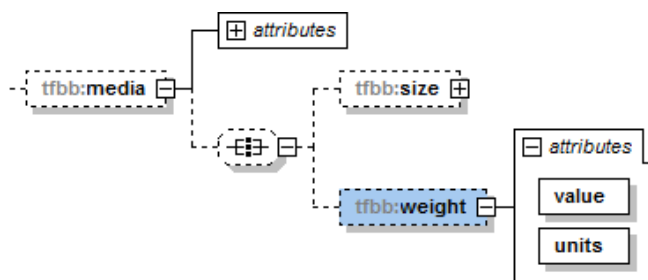
name	Character	1～256文字で入力します。	用紙名です。
type	Enumeration + Character	• MT_NONE • MT_BOND • MT_OFFSET • MT_COVER • MT_TAG • MT_INDEX ↓ 補足 事前定義済み値以外に1から32文字のカスタム値を入力できます。	用紙の種類です。
color	Enumeration + Character	• MC_BLACK • MC_BLUE • MC_BROWN • MC_BUFF • MC_GOLD • MC_GOLDENROD • MC_GRAY • MC_GREEN • MC_IVORY • MC_MAGENTA • MC_MULTICOLOR • MC_MUSTARD • MC_NO_COLOR • MC_ORANGE • MC_PINK • MC_RED • MC_SILVER • MC_TURQUOISE • MC_VIOLET • MC_WHITE • MC_YELLOW ↓ 補足 事前定義済み値以外に1から32文字のカスタム値を入力できます。	用紙のカラーです。
finish	Enumeration + Character	• MF_NONE • MF_COATED • MF_GLOSSY • MF_INKJET • MF_HIGHGLOSS • MF_MATTE • MF_POLYMER • MF_SATIN • MF_SEMIGLOSS • MF_SILVER ↓ 補足 事前定義済み値以外に1から32文字のカスタム値を入力できます。	用紙の仕上げ方法です。
productID	Character	1～256文字で入力します。	製品のIDです。

Media sizeノード属性



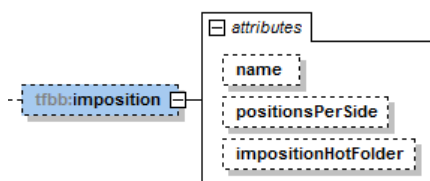
属性	オブジェクト種類	許可された値	概要
units	PaperSizeUnitsEnum	- in - mm	用紙のサイズです。
width	Unsigned long	0.1～200 inchまたは1～6,000 mm	用紙の幅です。
height	Unsigned long	0.1～200 inchまたは1～6,000 mm	用紙の高さです。

Media weightノード属性



属性	オブジェクト種類	許可された値	概要
value	Double	1～133 lbまたは1～500 gr	紙厚名です。
units	PaperWeightUnitsEnum	- gr - lb	用紙坪量の測定単位です。

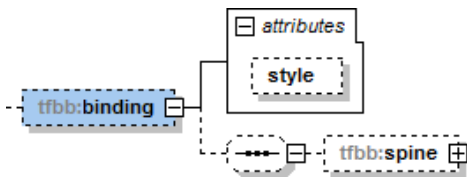
Impositionノード属性



属性	オブジェクト種類	許可された値	概要
----	----------	--------	----

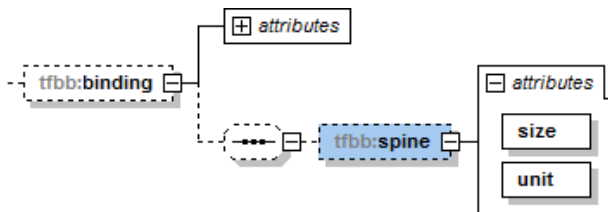
name	Character	1～256文字で入力します。	面付けの概要を指定します。
positionsPerSide	Integer	1～1,000の値を入力します。	面当たりのページ数です。
impositionHotFolder	Character	1～32文字で入力します。	ジョブが面付けに送信される場所のフォルダー名を指定します。

Bindingノード属性



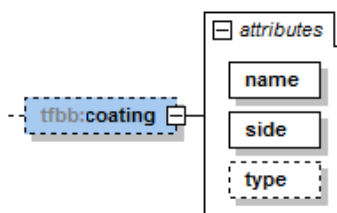
属性	オブジェクト種類	許可された値	概要
binding	Enumeration + Character	• BS_NONE • BS_CUTONLY • BS_CUTFOLD • BS_PERFECTBIND • BS_CASEBOUND • BS_COIL • BS_SPIRAL • BS_3HOLEDRILL • BS_SADDLESTITCH ↓ 補足 事前定義済み値以外に1から32文字のカスタム値を入力できます。	ジョブの製本スタイルです。

Spineノード属性



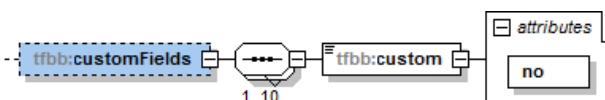
属性	オブジェクト種類	許可された値	概要
size	Float	0～12 inchまたは0～300 mm	背表紙サイズはジョブのページ数に基づきます。
unit	PaperSizeUnitsEnum	• in • mm	背表紙の測定単位です。

Coatingノード属性



属性	オブジェクト種類	許可された値	概要
name	Enumeration + Character	• CN_LAMINATION • CN_UV ↓ 補足 事前定義済み値以外に1から32文字のカスタム値を入力できます。	コーティングの名前を入力します。
side	Enumeration	• LS_FRONT • LS_BACK • LS_BOTH	コーティングが適用される面です。
type	Enumeration + Character	• LT_ANTIQUE • LT_CALENDARED • LT_GRAIN • LT_LINEN • LT_MATTE • LT_SMOOTH • LT_STIPPLE • LT_VELLUM ↓ 補足 事前定義済み値以外に1から32文字のカスタム値を入力できます。	使用するコーティングの種類です。

Custom fieldsノード属性



属性	オブジェクト種類	許可された値	概要
no	Unsigned integer	1～50の値を入力します。	カスタムフィールドの標準番号です。

索引

G

Google Chrome	103
Google Chromeを設定する	103

H

HTMLユーザーガイド	
表示する	2
HTTPS	
有効にする	277

M

Microsoft Edge	102
Microsoft Edgeを設定する	102
Mozilla Firefox	103
Mozilla Firefoxを設定する	103

P

PDFフォーマット	197
-----------------	-----

あ

アイコン	289
アクションをキャンセル	260
新しいバッチ	149
新しいフィルターの作成	111, 122
新しいフォルダーを作成する	187
アラート	43
アラートセクション	43
アラートトリガー	43, 175
Ultimate Impostrip	249
印刷バッチチケット	263
XSL	291
XSLファイルのマッピング	290
XSLマッピングファイル	291
XML	290
XSLマッピングファイル	197
エラーアイコン	166
オブジェクト	
のリスト	13

か

ガイド	
概要	1
確認メッセージ	166
カスタム	248
カスタムジョブ属性	72

片面	239
管理者	47
管理者セクション	47
ギアメニュー	157
既存ファイルの交換	236
機能	
XML出力	11
自動化	11
プリフライト	11
無制限出力	11
機能ライセンス	95
基本サーバー	11
基本ライセンス	95
クイック印刷	264
クライアントコンピューター	102
グラフィカルユーザーインターフェース	15
現在のアラート	43
恒久ライセンス	95
こんなときには	285
コンポーネント	11

さ

再送信	165
バッチ	165
削除フィルター	148
時間数	113
しきい値数	115
しきい値範囲	115
システムオブジェクト	
のリスト	13
システム設定のバックアップ	281
重要事項	1
受注とジョブの属性	197
出力	
出力	
プロパティ	48
のリスト	48
ファイルネーミング	79
出力先	253
出力が無効です	177
条件を設定	135, 140
商標	4

情報の破棄.....	273	トレース.....	82
書体.....	3	な	
ショップボリュームチャート.....	83	に日時.....	171
ジョブ		日数.....	113
面付け.....	249	入力	
ジョブ属性.....	258	のリスト.....	47
ジョブタブ.....	23	プロパティ.....	47
ジョブの検索.....	258	入力ホットフォルダー.....	187
ジョブの状態.....	258	ネットワークバーコードスキャナー.....	63
ジョブの特定.....	236	は	
ジョブファイルのアップロード.....	258	パスワード.....	102
ジョブプロパティ.....	270	変更.....	277
ジョブ列の管理.....	261	パスワードを変更.....	274, 277
ジョブを削除.....	157, 260	バックアップ.....	281
ジョブを表示.....	231	バッチ.....	30, 32
シンプル		状態.....	30
フィルター.....	111	属性.....	30
推定フッター.....	149	タブ.....	32
スキーマ.....	290	プロパティ.....	32
セットアップガイド		バッチ解除.....	157, 257
表示する.....	2	バッチからジョブを削除.....	234
穿孔あり.....	247	バッチからのジョブ.....	270
属性を削除.....	135, 140	バッチ詳細ダイアログ.....	149
た		バッチ詳細ダイアログ.....	263
体験版ライセンス.....	95	バッチ状態.....	171
ダッシュボード.....	82-83	バッチジョブ.....	253
注意.....	1	バッチの編集.....	257
注意事項.....	1	バッチのリスト.....	231
注文.....	35	バッチパネル.....	30
タブ.....	35	バッチを編集.....	270
プロパティ.....	35	ファイルのアップロード.....	236
注文セクション.....	35	ファイルの印刷.....	268
注文中ジョブ.....	269	ファイルの追加.....	270
注文中のジョブ.....	268	フィルター.....	23, 40, 46
追加		フィルターセクション.....	40
絞り込み.....	86	フィルターのリスト.....	120
データのバックアップ.....	281	フィルターパネル.....	23
デフォルト納期時刻.....	76	フィルターリストのマッチング.....	234
デフォルトプロパティ.....	203	フィルターを削除.....	148
ドライブを切断.....	217	フィルターを編集.....	135, 140
トリガーの状態.....	175	フォルダー 場所の選択.....	204
トリガーを有効にする.....	177	フォルダーパスを編集.....	217

複合フィルター.....	122, 140
フッター.....	82
プリンター出力速度.....	204
プロキシ	
設定.....	78
プロパティを編集.....	171
変換.....	3
変更の破棄.....	197
保持.....	270
期間.....	76
保守ライセンス.....	95
ボタン.....	289
ホットフォルダーの削除.....	197
ホットフォルダーを削除する.....	203, 229
ホットフォルダーを作成.....	203

ま

マーク.....	3
マッピングファイル.....	291
マップされたネットワークドライブを 利用できません.....	177
マニュアル	
概要.....	1
ミシン目あり.....	247
メニューバー	
ユーザーインターフェース.....	15
面付け.....	269
面付け済みファイル.....	269–270

や

URL.....	102
ユーザー	
のリスト.....	75
ユーザー	
プロパティ.....	75
ユーザーインターフェース.....	11, 15, 82
ユーザーガイド	
表示する.....	2
ユーザーの削除.....	275
ユーザーの作成.....	273
ユーザーの種類.....	273
ユーザープロパティの編集.....	274
ユーザーを削除.....	274
用紙カラー.....	242

用紙サイズ.....	242
用紙仕上げ.....	242
用紙種類.....	242

ら

ライセンス.....	100–101
ライセンスのインストール.....	96
ライセンスの削除.....	101
ライセンスの取り消し.....	100
ラミネートあり.....	247
リストアシステム設定.....	282
データをリストア.....	282
リストファイルを作成.....	229
略称.....	3
利用可能なジョブ.....	260
利用できるじょぶ.....	264
両面.....	239
列 名順序.....	261
ログ.....	46, 63
ログイン名.....	102
ログエントリー.....	46

株式会社リコー

東京都大田区中馬込1-3-6 〒143-8555
<http://www.ricoh.co.jp/>



お問い合わせ

お買い上げいただきました弊社製品についての操作方法に関するお問い合わせは、お買い上げの販売店にご連絡ください。

転居の際は、販売店にご相談ください。転居先の最寄りの販売店をご紹介します。